

小林市文化財調査報告書 第18集

永久津地区運動広場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

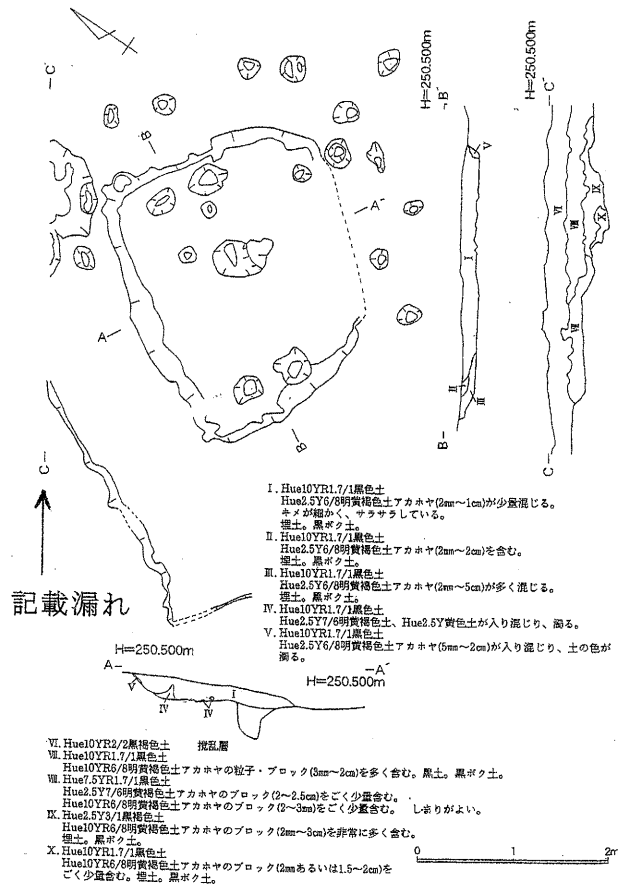
# 黒 仁 田 遺 跡

2004年3月

宮崎県小林市教育委員会

黒仁田遺跡正誤表

頁	訂正箇所	誤	正
4	第2図番号4	下の平地式横穴墓	下の平地下式横穴墓
9	6行目	しまりかよい。	しまりがよい。
42	※別紙参照		



第34図 SA-8、SX-3平面図および土層断面図

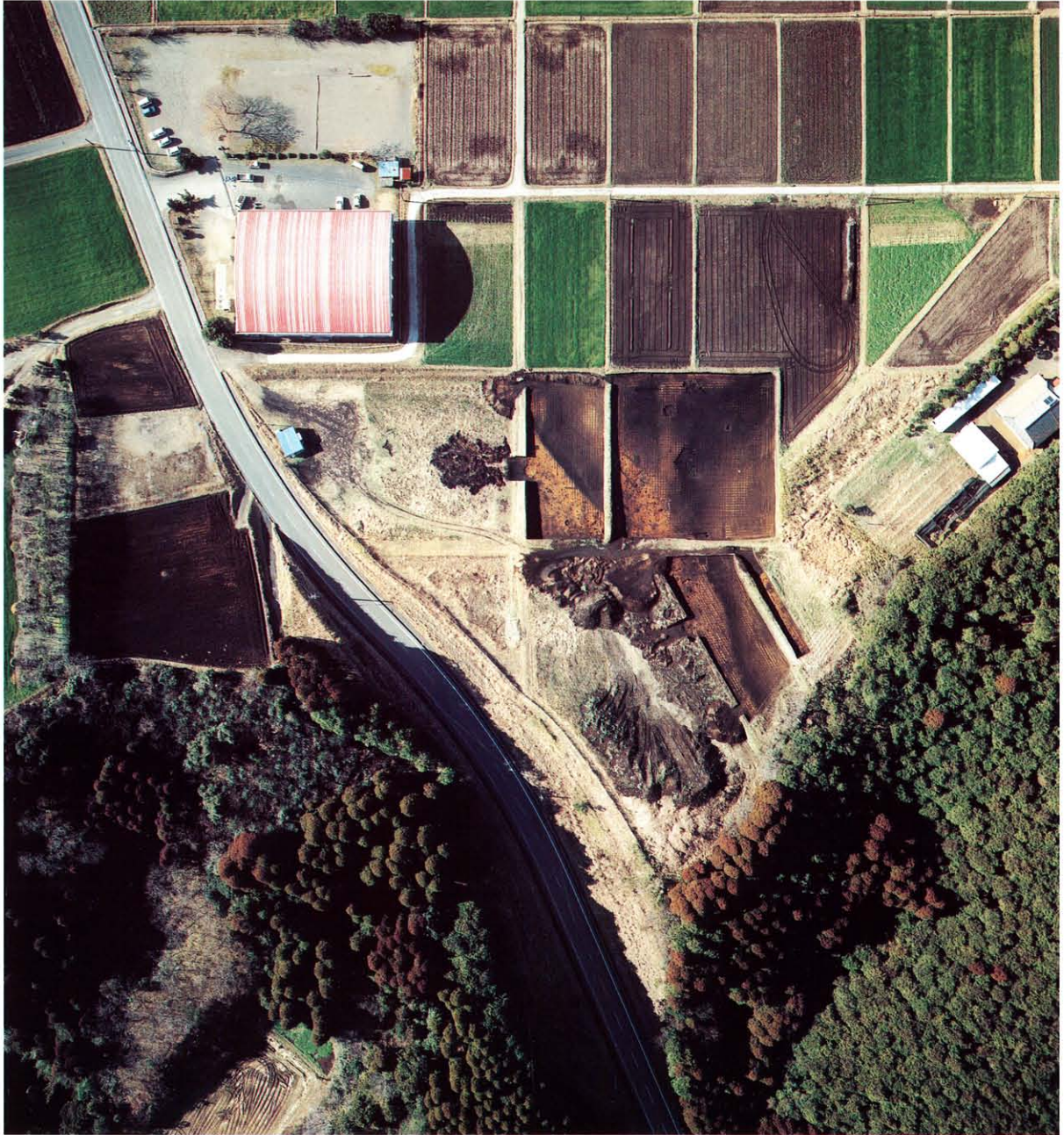
小林市文化財調査報告書 第18集

永久津地区運動広場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

# 黒 仁 田 遺 跡

2004年3月

宮崎県小林市教育委員会



黒仁田遺跡 全景



黒仁田遺跡 全景



3区 SA-9

# 序 文

この報告書は、永久津地区運動広場建設に伴い、平成13年度に小林市教育委員会が発掘調査を実施した、黒仁田遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書です。

今回の発掘調査により、縄文時代後期から古墳時代初頭にかけての大量の土器片や石器、住居跡などが出土しました。この発見は今後、小林市の歴史を解明していく上で貴重な資料の一つになることと思います。

本書が今後の研究資料として、また学校教育や社会教育の一つとして活用していただければ幸いです。さらに、この発掘調査の成果により皆様の文化財保護へのご理解が深まることを心より願っております。

最後になりましたが、調査・報告書作成にあたり御指導・御協力いただきました宮崎県教育委員会文化課、宮崎県埋蔵文化財センター、諸先生方をはじめ、遺跡の記録保存に御理解を示していただいた諸機関、また発掘調査・整理作業に従事していただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成16年3月

小林市教育委員会

教育長 山 口 寅一郎

# 例 言

- 1 本書は平成13年度に実施した、永久津地区運動広場建設に伴う永久井野地区発掘調査事業の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 黒仁田遺跡の埋蔵文化財発掘調査は、平成13年6月11日から平成14年1月29日まで実施した。
- 3 調査組織は以下のとおりである。

調査主体	小林市教育委員会
教育長	山口寅一郎
課長	上原守義(～平成14年3月) 鷓木義幸(平成14年4月～)
係長	上別府優
庶務	切畑勝博(～平成15年3月) 山口恭史(平成15年4月～)
調査担当	大久津理絵
発掘作業員	
- 4 現場での実測は大久津が行い、相場、池之上、鎌田、奥呂木、小畠、大部藪(カ)、大部藪(ム)、永久井、餅原が補助した。
- 5 本書に掲載した遺物の整理・実測等は、  
が行った。
- 6 遺構実測図の方位は真北を、レベルは海拔標高で示す。
- 7 本書の執筆及び編集は大久津理絵が行った。

- 8 遺物の写真撮影は松田が行った。
- 9 本書に使用する航空写真撮影は九州航空株式会社に委託した。
- 10 本遺跡の自然科学分析は株式会社古環境研究所に委託した。
- 11 本遺跡出土の黒曜石産地分析は有限会社遺物分析研究所に委託した。
- 12 本遺跡の基準点測量は有限会社脇元測量に委託した。
- 13 本遺跡の出土遺構・遺物については、菅付和樹氏(宮崎県埋蔵文化財センター)、谷口武範氏(宮崎県埋蔵文化財センター)、本田道輝氏(鹿児島大学法文学部助教授)、渡辺芳郎氏(鹿児島大学法文学部助教授)に御指導いただいた。
- 14 本書に利用する位置図は建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものを使用している。
- 15 本書に使用する遺構の略号は次のとおりである。  
S A・・・竪穴住居跡 S C・・・竪穴状土坑 S X・・・不明遺構
- 16 遺物は小林市教育委員会で保管している。



# 本文目次

第1章	調査に至る経緯	1
第2章	遺跡の立地と歴史的環境	1
第3章	1区調査の記録	
第1節	概要	5
第2節	基本土層	8
第3節	遺構・遺物	
1	SA-1	8
第4章	2区調査の記録	
第1節	概要	14
第2節	基本土層	14
第3節	遺構・遺物	
1	SA-2	16
2	SA-3	17
3	SA-4	17
4	SA-5	25
5	SA-6	29
6	SA-7	31
7	SX-1	31
8	SX-2	35
9	SC-1	38
第5章	3区調査の記録	
第1節	概要	39
第2節	基本土層	39
第3節	遺構・遺物	
1	SA-8、SX-3	41
2	SA-9	45
3	SC-2	52
4	SC-3	52
第6章	包含層出土遺物	
第1節	縄文時代の土器	55
第2節	弥生時代以降の土器	64
第3節	出土石器	80
第7章	まとめ	89
付論	自然科学分析報告書	143
	黒曜石製遺物の原材産地分析	150

# 挿図目次

第1図	小林市の位置	1
第2図	遺跡の位置および周辺史跡分布図	4
第3図	黒仁田遺跡 調査区	5
第4図	1-A区地形図	6
第5図	1-B区地形図	7

第6図	1区基本土層図	8
第7図	S A - 1 平面図および土層断面図	9
第8図	S A - 1 出土遺物(1)	11
第9図	S A - 1 出土遺物(2)	12
第10図	S A - 1 出土遺物(3)	13
第11図	2区基本土層図	14
第12図	2区地形図	15
第13図	S A - 2 平面図および土層断面図	16
第14図	S A - 3 平面図および土層断面図	18
第15図	S A - 3 出土遺物	19
第16図	S A - 4 平面図および土層断面図	20
第17図	S A - 4 出土遺物(1)	22
第18図	S A - 4 出土遺物(2)	23
第19図	S A - 4 出土遺物(3)	24
第20図	S A - 5 出土状況平面図および土層断面図	26
第21図	S A - 5 出土遺物(1)	27
第22図	S A - 5 出土遺物(2)	28
第23図	S A - 6 出土遺物	29
第24図	S A - 6 平面図および土層断面図	30
第25図	S A - 7 出土遺物	31
第26図	S A - 7 平面図および土層断面図	32
第27図	S X - 1 平面図および土層断面図	33
第28図	S X - 1 出土遺物	34
第29図	S X - 2 平面図および土層断面図	36
第30図	S X - 2 出土遺物	37
第31図	S C - 1 平面図および土層断面図	38
第32図	3区基本土層図	39
第33図	3区地形図	40
第34図	S A - 8, S X - 3 平面図および土層断面図	42
第35図	S A - 8 出土遺物(1)	43
第36図	S A - 8 出土遺物(2)	44
第37図	S A - 9 平面図および土層断面図	46
第38図	S A - 9 出土遺物(1)	47
第39図	S A - 9 出土遺物(2)	48
第40図	S A - 9 出土遺物(3)	49
第41図	S A - 9 出土遺物(4)	50
第42図	S A - 9 出土遺物(5)	51
第43図	S C - 2 平面図および土層断面図	53
第44図	S C - 2 出土遺物	54
第45図	S C - 3 平面図および土層断面図	54
第46図	包含層出土遺物 縄文土器(1)	57
第47図	包含層出土遺物 縄文土器(2)	58
第48図	包含層出土遺物 縄文土器(3)	59
第49図	包含層出土遺物 縄文土器(4)	60
第50図	包含層出土遺物 縄文土器(5)	62
第51図	包含層出土遺物 縄文土器(6)	63

第52图	包含層出土遺物	甕(1)	66
第53图	包含層出土遺物	甕(2)	67
第54图	包含層出土遺物	甕(3)	68
第55图	包含層出土遺物	甕(4)	69
第56图	包含層出土遺物	甕(5)	70
第57图	包含層出土遺物	甕(6)	71
第58图	包含層出土遺物	底部(1)	74
第59图	包含層出土遺物	底部(2)	75
第60图	包含層出土遺物	底部(3)	76
第61图	包含層出土遺物	壺	78
第62图	包含層出土遺物	鉢	79
第63图	包含層出土遺物	高杯他	81
第64图	包含層出土遺物	石器(1)	82
第65图	包含層出土遺物	石器(2)	83
第66图	包含層出土遺物	石器(3)	84
第67图	包含層出土遺物	石器(4)	85
第68图	包含層出土遺物	石器(5)	86
第69图	包含層出土遺物	石器(6)	87
第70图	包含層出土遺物	石器(7)	88

## 表 目 次

第1表	SA-1 出土土器觀察表	92
第2表	SA-3 出土土器觀察表	92
第3表	SA-4 出土土器觀察表	93
第4表	SA-5 出土土器觀察表	93
第5表	SA-6 出土土器觀察表	93
第6表	SX-1 出土土器觀察表	94
第7表	SX-2 出土土器觀察表	94
第8表	SA-8 出土土器觀察表	94
第9表	SA-9 出土土器觀察表	95
第10表	SC-2 出土土器觀察表	95
第11表	包含層出土土器觀察表(1)	96
第11表	包含層出土土器觀察表(2)	97
第11表	包含層出土土器觀察表(3)	98
第11表	包含層出土土器觀察表(4)	99
第11表	包含層出土土器觀察表(5)	100
第11表	包含層出土土器觀察表(6)	101
第12表	石器觀察表(1)	102
第12表	石器觀察表(2)	103
第12表	石器觀察表(3)	104

## 図 版 目 次

図版 1	黒仁田遺跡全景 1区全景	105
図版 2	2区全景 3区全景	106
図版 3	1区SA-1 検出状況 SA-1 調査状況 SA-1 完掘状況	107
図版 4	2区作業風景 測量風景 SA-2 検出状況	108
図版 5	2区SA-2 遺物出土状況 SA-3 検出状況 SA-3 遺物出土状況	109
図版 6	2区SA-4 遺物出土状況 SA-4 完掘状況	110
図版 7	2区SA-5 検出状況 SA-5 出土状況 SA-5 完掘状況	111
図版 8	2区SA-5 炭化物出土状況 SA-5 遺物出土状況 SA-6 調査状況 他	112
図版 9	2区SA-7 出土状況 SA-7 完掘状況 SX-1 調査状況	113
図版10	2区SX-2 検出状況 SX-2 遺物出土状況 SX-2 土器出土状況	114
図版11	2区SC-1 遺物出土状況 SC-1 完掘状況	115
図版12	3区遺物出土状況 土器出土状況 SA-8, SX-3 検出状況	116
図版13	3区SA-8, SX-3 遺物出土状況 SA-8 中央土坑 SA-8, SX-3 完掘状況	117
図版14	3区SA-9 調査状況 SA-9 遺物出土状況 SA-9 土器出土状況	118
図版15	3区SA-9 作業風景 SA-9 完掘状況 SC-2 検出状況	119
図版16	3区SC-3 検出状況 SC-3 調査状況 SC-3 完掘状況	120
図版17	SA-1 出土遺物	121
図版18	SA-3 出土遺物	122
図版19	SA-4 出土遺物(1)	123
図版20	SA-4 出土遺物(2) SA-6、7 出土遺物	124
図版21	SA-5 出土遺物	125
図版22	SX-1 出土遺物 SX-2 出土遺物	126
図版23	SA-8 出土遺物	127
図版24	SA-9 出土遺物(1)	128
図版25	SA-9 出土遺物(2) SC-2 出土遺物	129
図版26	包含層出土遺物 縄文土器(1)	130
図版27	包含層出土遺物 縄文土器(2)	131
図版28	包含層出土遺物 縄文土器(3)	132
図版29	包含層出土遺物 縄文土器(4)	133
図版30	包含層出土遺物 縄文土器(5)	134
図版31	包含層出土遺物 甕(1)	135
図版32	包含層出土遺物 甕(2)	136
図版33	包含層出土遺物 甕(3)	137
図版34	包含層出土遺物 底部(1)	138
図版35	包含層出土遺物 底部(2) 包含層出土遺物 壺	139
図版36	包含層出土遺物 鉢 包含層出土遺物 高杯他	140
図版37	包含層出土遺物 石器(1)	141
図版38	包含層出土遺物 石器(2)	142

## 第1章 調査に至る経緯

永久津地区運動広場は総面積8,719㎡で、ソフトボールやゲートボール、グラウンドゴルフなどの競技、または多目的広場として利用される。平成7年度に運動広場建設の陳情が出され、その後用地交渉や事業認定の協議を行い、平成13年度をもって用地取得を完了した。

今回の広場建設は小林市教育委員会社会教育課社会体育係(現在は小林市教育委員会スポーツ振興課)の事業の一つである。埋蔵文化財の保護担当課も同社会教育課であるため、課内で埋蔵文化財保護の協議を行ってきた。

まず、事業予定地内は周知の埋蔵文化財包蔵地、縄文・弥生時代の遺物散布地として認識されていたため、平成12年度に社会教育課で確認調査を行った。約1.5m×1.5mのトレンチを設定して調査したところ、多数の遺物が出土し、縄文時代後期～古墳時代の土器や石器、花卉形住居跡等の遺構を確認することができた。この結果から、本調査を行うことで多くの遺構・遺物が出土するであろうことが予想された。

この結果を受け、広場を建設するにあたり遺跡の破壊は免れることができないため、小林市教育委員会では工事着手前に本調査を実施し、遺跡の記録保存の措置を取ることとした。調査は平成13年6月より平成14年1月までの8ヶ月間実施し、約3,600㎡の発掘調査を行った。

## 第2章 遺跡の立地と歴史的環境(第1・2図)

黒仁田遺跡<sup>(1)</sup>は宮崎県小林市大字北西方字黒仁田に所在する。

小林市は宮崎県南西部に位置する内陸盆地である。北は須木村、西はえびの市、東は野尻町、南は高原町と接し、また県境に所在しているため、北部は熊本県、南部は鹿児島県とも接している。現在もこのように多くの市町村と接するが、古代には日向16駅の一つである夷守駅も置かれ、古代においてもその立地から日向国・肥後国・大隅国・薩摩国の4国を結ぶ交通の要所であったことがうかがえる。

小林市は北は九州山地へ連なる山岳地帯、南を霧島山系に囲まれ、東から西に渡って



第1図 小林市の位置

開けている。北部山岳地帯は新生代古第三紀の四万十層群、霧島山系は新生代第四紀の霧島火山溶岩で形成されている。霧島山は北西から南東方向に合計二十三の火山が並ぶ複合火山群で、標高千メートル以上に及ぶ山々が連なっている。土壌は火山灰を基盤とし、市内のほとんどが始良カルデラの噴出物であるが、盆地北部には加久藤火山砕屑流もみられる。低平地は大部分が河川の流れによって形成されたもので、砂礫台地・三角州低地から成る。この低地周辺を取り囲んでいるのが火山灰などの火山砕屑流が堆積して形成されたシラス台地であり、市内各地でシラスが露出している崖が見られ、非常に厚く堆積している。

また、シラス台地・沖積地ともに牛の脛火山灰・アカホヤ火山灰・黒ボクなどの土壌が見られる。黒ボクはその起源を霧島火山の噴出物とし、アカホヤ火山灰は薩摩半島南方約五十キロメートル、屋久島の北部海底の位置する鬼界カルデラ噴出物である。

市内を流れる河川のほとんどが大淀川の支流で、浜の瀬川・石氷川・辻之堂川などが主流としてあげられる。黒仁田遺跡の近辺には北を流れる岡原川と北東を流れる永久井野川があり、二つの川は合流して真方川となる。これらはさらに下流で石氷川と合流する。

小林市で現在までに確認されている最も古い時代の遺跡は、小林市大字北西方に所在する横峯迫遺跡である。後期旧石器時代の遺跡で、黒曜石製の打製石器が採集されている。旧石器時代は寒冷で乾燥した気候で、陸地一帯は針葉樹に覆われ、ナウマン象やオオツノシカなどの大型動物が生息していた時代である。

今から一万二千年前より縄文時代へと移行し、気候は温暖・湿潤化して現代と同じ気候へと変化した。それに合わせて植生も針葉樹から落葉樹・照葉樹へと変わり、サル・シカ・イノシシなどの中・小型の動物が生息するようになった。

環境の変化は食料の変化へとつながり、木の実や山菜などを調理するために土器製作が始まった。また中小動物を捕らえるために、弓矢も発明された。小林市においても多くの縄文時代の遺跡が確認されており、石鏃や打製石斧、様々な型式の縄文土器が出土している。特に東方の本田遺跡<sup>(2)</sup>は早期～後期の遺跡で、押型文・塞ノ神式・轟式・曾畑式などの土器や、竪穴住居跡などの遺構も確認されている。県内では当初明らかでなかった押型文→轟式→曾畑式の層位関係が確認された遺跡として、昭和51年に県指定史跡とされている。

約一万年間続いた縄文時代が終わり、本格的な水稻農耕が開始される弥生時代に入る。小林市各地の遺跡内において石庖丁が発見されており、当時市内にも稲作が普及していたことを裏付けている。また弥生後期が出現時期とされている花卉形住居跡も市内南西方に所在する広庭遺跡<sup>(3)</sup>で発見されており、今回報告にいたる黒仁田遺跡でも検出されている。

三世紀後半になり、古墳時代となる。全国各地で小国家が形成され、大和朝廷が国内統一を果たした時代である。この時代、各地の有力者たちは、自らの権力を誇示するために古墳を形成したといわれる。小林市において見られるのは、南九州独特の墓制である地下式横穴墓である。小林古墳6基(下の平<sup>(4)</sup>・城山<sup>(5)</sup>・新田場<sup>(6)</sup>)は昭和14年に県指定となっている。また、現在遺跡公園として整備されている東二原地下式横穴墓群<sup>(7)</sup>では地下式横穴墓16基、円墳1基が

発見され、墓内より人骨21体、直刀、鉄鏃、骨鏃、鏡などが出土している。近隣ではえびの市島内や高原町立切でも地下式横穴墓が確認されており、この地域一帯に有力者層が存在していたことを示唆している。

古代において、小林市は「夷守<sup>ひなもり</sup>」と呼ばれていた。醍醐天皇期の『延喜式』によると、日向国の駅は16駅存在し、その中の夷守駅<sup>(8)</sup>は小林市大字細野夷守に比定されている。(藤岡 1979) 小林市には景行天皇の熊襲親征の際、諸県君泉媛が景行天皇を歓迎して出迎えたという伝説も残っており、小林市大字細野水落(夷守駅推定地近く)には景行天皇が腰掛けた石であるという伝承のある景行天皇御腰掛石<sup>(9)</sup>も残っている。このようなことから、夷守駅は古くから日向国・肥後国・薩摩国・大隅国を結ぶ交通の要所として当地方の中心的役割を果たしていたと考えられる。駅の所在地は確定はされていないが、細野夷守がその所在地として推定されている。

中世になり、北原氏の居城であった三山城<sup>(10)</sup>(小林市大字細野水落)が小林の中心地であった頃には当地は三ツ山あるいは三之山と呼ばれていたが、小林城<sup>(11)</sup>(小林市大字真方下の馬場)が政治の中心となってからは、「小林」という呼び名が定着するようになった。他に中世の山城には内木場城<sup>(12)</sup>・野首城<sup>(13)</sup>・宇賀城・岩牟礼城があった。中世以来、三ツ山は日下部氏や北原氏を領主としていた真幸院の五ヶ郷のうちの一つであった。その後、伊東氏が小林を支配するようになってからは伊東氏と島津氏が勢力争いを続けたが、元龜三年(1572年)の木崎原の戦いにおいて伊東軍は大敗した。その後、伊東軍は急速に衰退し、天正4年(1576年)に高原城が陥落すると、伊東氏の治めていた内木場城や岩牟礼城など7城が戦を交えず島津氏の領有となった。それ以降、小林は明治維新に至るまで島津氏の統治する薩摩藩に属することとなる。

戦国時代の末期より、薩摩藩では一向宗禁制となる。小林市もその影響を受け一向宗禁制となるが、人々の信仰は厚く、信仰を止めなかった。役人に見つからないよう人目につきにくい洞穴で、夜目にまぎれて集まり、念仏を唱え講話を聴いたり信仰を深めていった。この時使用された洞穴を「かくれ念仏洞」と呼ぶが、黒仁田遺跡の東方にも市指定史跡「永久井野かくれ念仏洞<sup>(14)</sup>」が現存しており、当時の歴史的背景を知る上での重要な史跡となっている。

元和元年(1615年)に一国一城令が出され小林城が廃城となると、小林市の治所は小林城より南西方向に所在する地頭仮屋<sup>(15)</sup>へと移った。その後、明治初めまで小林の政治の中枢として機能していたが、明治10年(1877年)の西南戦争によって焼失した。

小林市に現在も残る郷土芸能には薩摩藩の特色が色濃く残る。「輪太鼓踊」は昭和37年に県指定無形民俗文化財に指定されており、市内の東方地区・細野1区に伝承されている。太鼓踊の起源は豊臣秀吉の朝鮮出兵から始まったといわれ、士気を高めるために鐘や太鼓を打ち鳴らし、またあるいは薩摩藩では表面的には踊りと思わせて実際には武技の訓練としていたとも伝えられる。その他にも同様に市内真方1区・南西方孝の子地区に伝承される「兵児踊」も武技訓練のために始まったといわれている。

以上、小林市の歴史の概略を述べてきた。各時代、まだ十分な歴史研究は行われていない。今後の発掘調査における出土資料の増加が望まれる。



番号	名称	所在地	番号	名称	所在地
1	黒仁田遺跡	小林市大字北西方字黒仁田	9	景行天皇御腰掛石	小林市大字細野字水落
2	本田遺跡	小林市大字東方6125番地	10	三山城跡	小林市大字細野字水落
3	広庭遺跡	小林市大字南西方字広庭	11	小林城跡	小林市大字真方字下の馬場
4	下の平地式横穴墓	小林市大字水流迫下の平	12	内木場城跡	小林市大字東方字内木場
5	三山地下式横穴墓群	小林市大字細野字城山	13	野首城跡	小林市大字東方字野首
6	新田場地下式横穴墓群	小林市大字真方字新田場	14	永久井野かくれ念仏洞	小林市大字北西方
7	東二原地下式横穴墓群	小林市大字真方東二原	15	地頭仮屋跡	小林市大字真方字上の馬場
8	夷守駅跡	小林市大字細野字夷守			

第2図 遺跡の位置及び周辺史跡分布図



### 第3章 1区調査の記録

#### 第1節 概要(第4・5図、図版1)

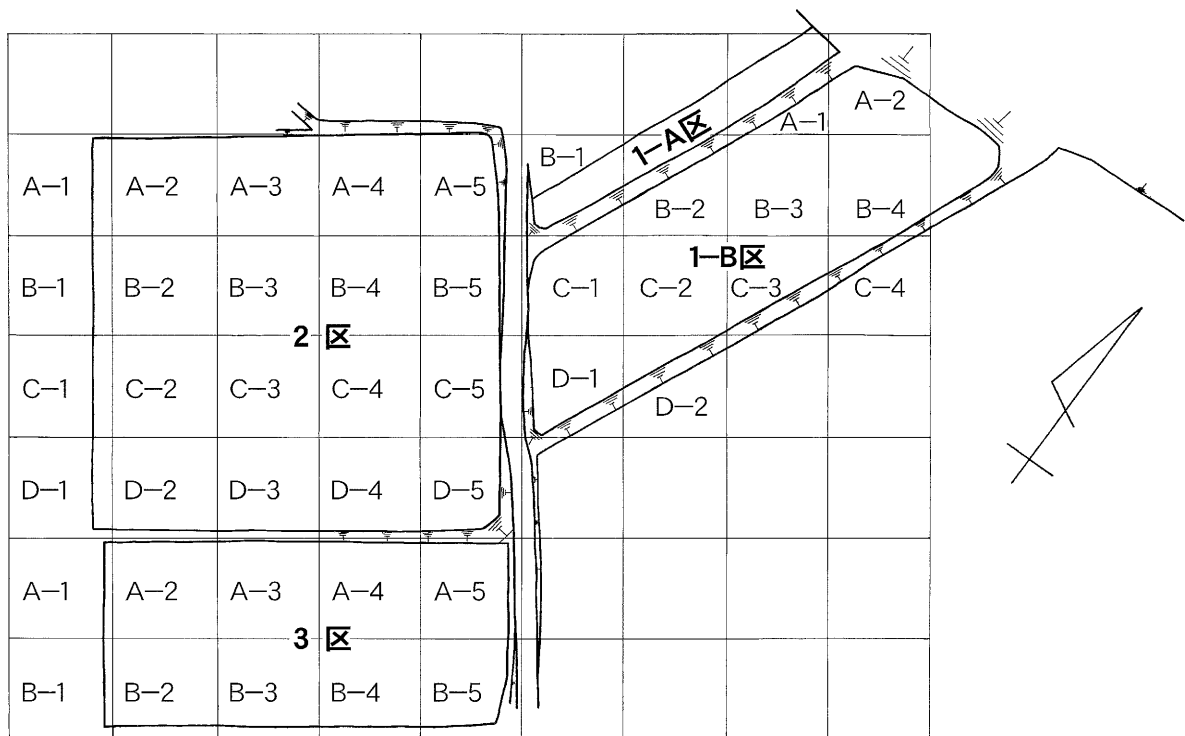
1区の調査面積は約750㎡である。1区調査は1-A区と1-B区の二区に分割して行った。

1-A区は調査区の中で最も標高の高い位置にある。調査前は竹やぶになっており、まずは竹の伐採から開始した。重機で表土を剥いだ後、人力で掘削し、黒ボク土を主体として調査した。他区と比較すると遺物の出土密度は低く、また遺構も検出されなかった。

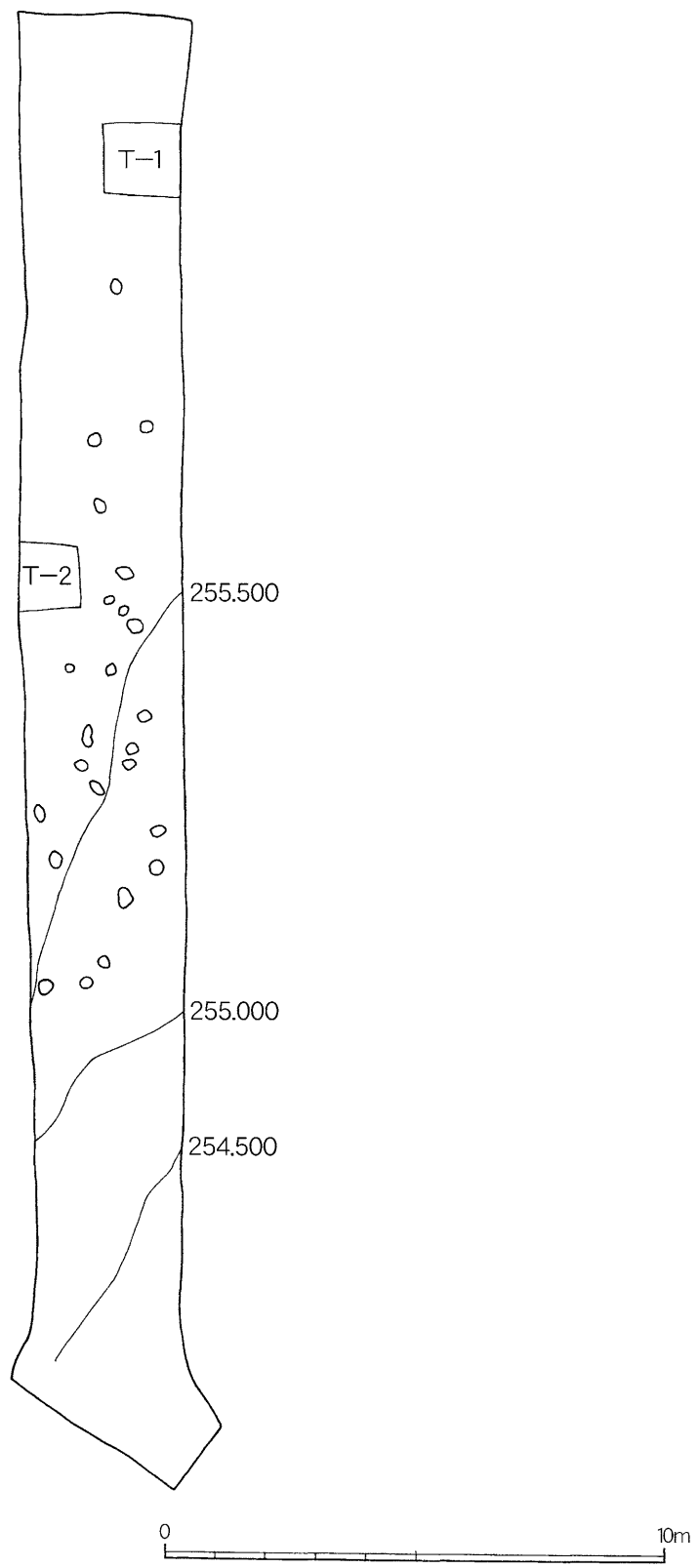
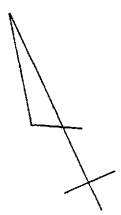
黒ボク土の残存状態はよいとはいえず、所々にゴボウのトレンチャーによる攪乱がみられ、またそれに加えて竹の根による攪乱も多く見られた。西側・南側には盛土も見られた。

アカホヤ層上面を検出した段階で、トレンチを二箇所設定し、アカホヤ層以下の土層確認を行った。その結果、アカホヤ上面は削平され、牛の脛火山灰層にも根痕が残っていた。牛の脛火山灰層以下の土層の状態は良好であったが、トレンチからは遺物の出土はなく、地形測量を行って1-A区の調査を終了した。

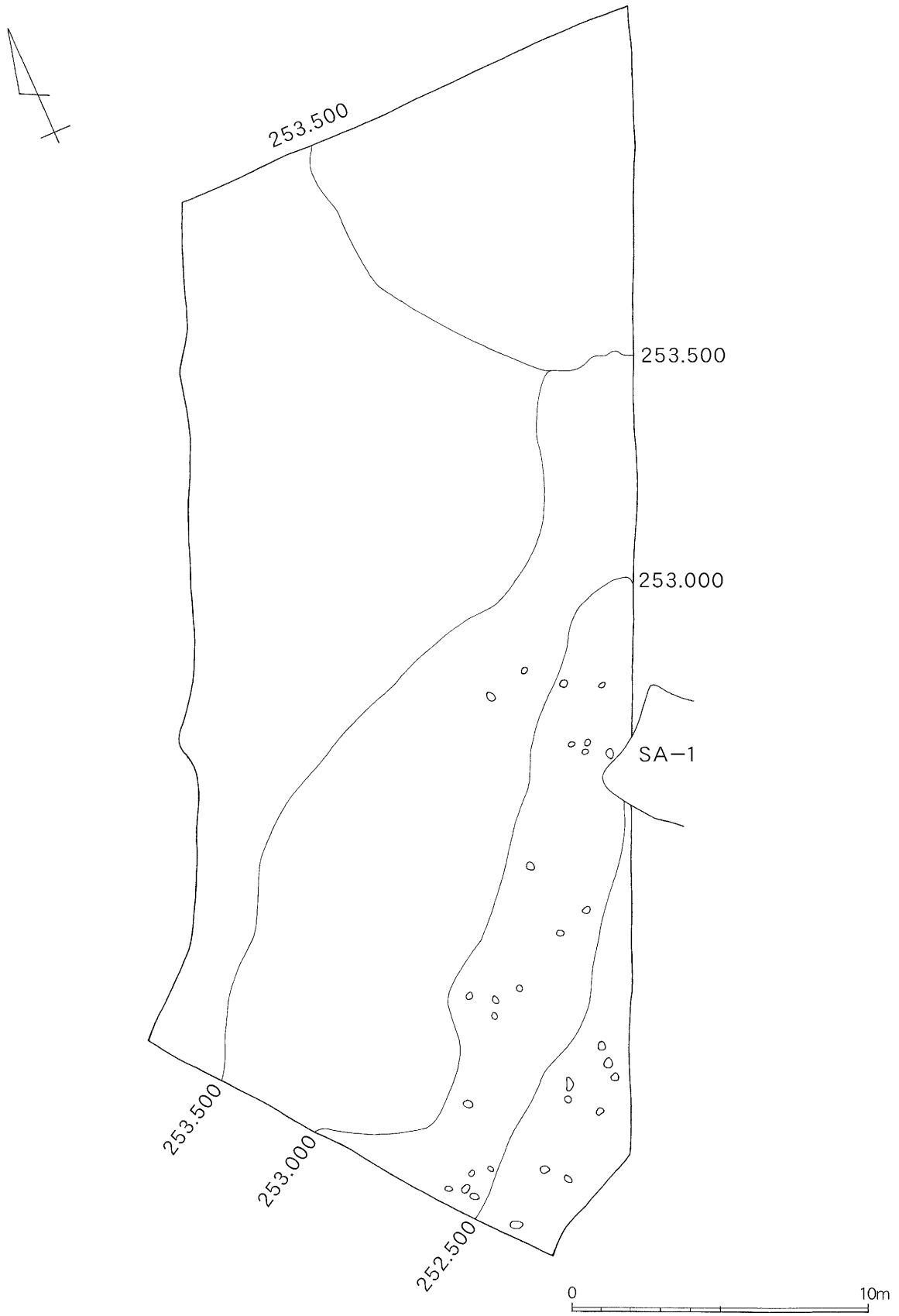
1-B区は1-A区の東側に位置する。畑地として使用されていたため、ゴボウのトレンチャーによって攪乱されている。調査区北側は攪乱土を除去すると小林軽石層が露出しており、北側約1/2からは遺物は出土しなかった。調査区南側1/2は黒ボク土も割とよく残り、多数の遺物が出土した。また、調査区南東部より隅丸方形プランの住居跡が検出されている。



第3図 黒仁田遺跡 調査区



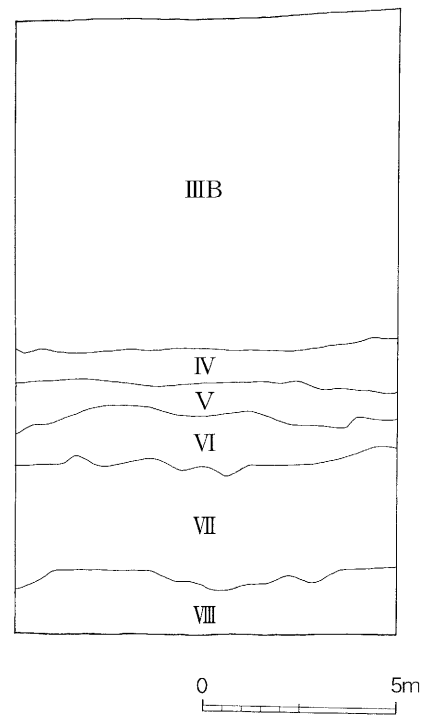
第4图 1-A区地形图



第5图 1-B区地形图

## 第2節 基本土層(第6図)

ⅢB層は黒ボク土(Hue10YR3/1黒色)で、直径3～5mm程度のアカホヤの塊が含まれている。しっかりとっていて、粒はキメが細かく、また直径2mm程度のパミスの混入を確認できる。Ⅳ層はアカホヤ火山灰層(Hue2.5Y7/8黄色)で、約20cm程度の堆積が見られる。雑木や竹の根による攪乱、あるいは畑の耕作により、土層の残存状態は良くない。Ⅴ層は牛の脛火山灰層(HueGY2/1緑黒)で非常に硬質である。Ⅵ層は黒色土(Hue10YR1.7/1)で、土のしまりは良く粒子は細かい。Ⅶ層は暗オリーブ褐色土(Hue2.5Y3/3)で非常に硬くしまる。Ⅵ・Ⅶ層はいずれも直径2mm程度のパミスを含む。Ⅷ層は暗褐色土(Hue10YR3/3)で、土はよくしまり粒子は細かい。遺物はⅢB層から出土し、遺構はアカホヤ面で検出した。アカホヤ火山灰層以下の層からは遺物は全く出土しなかった。

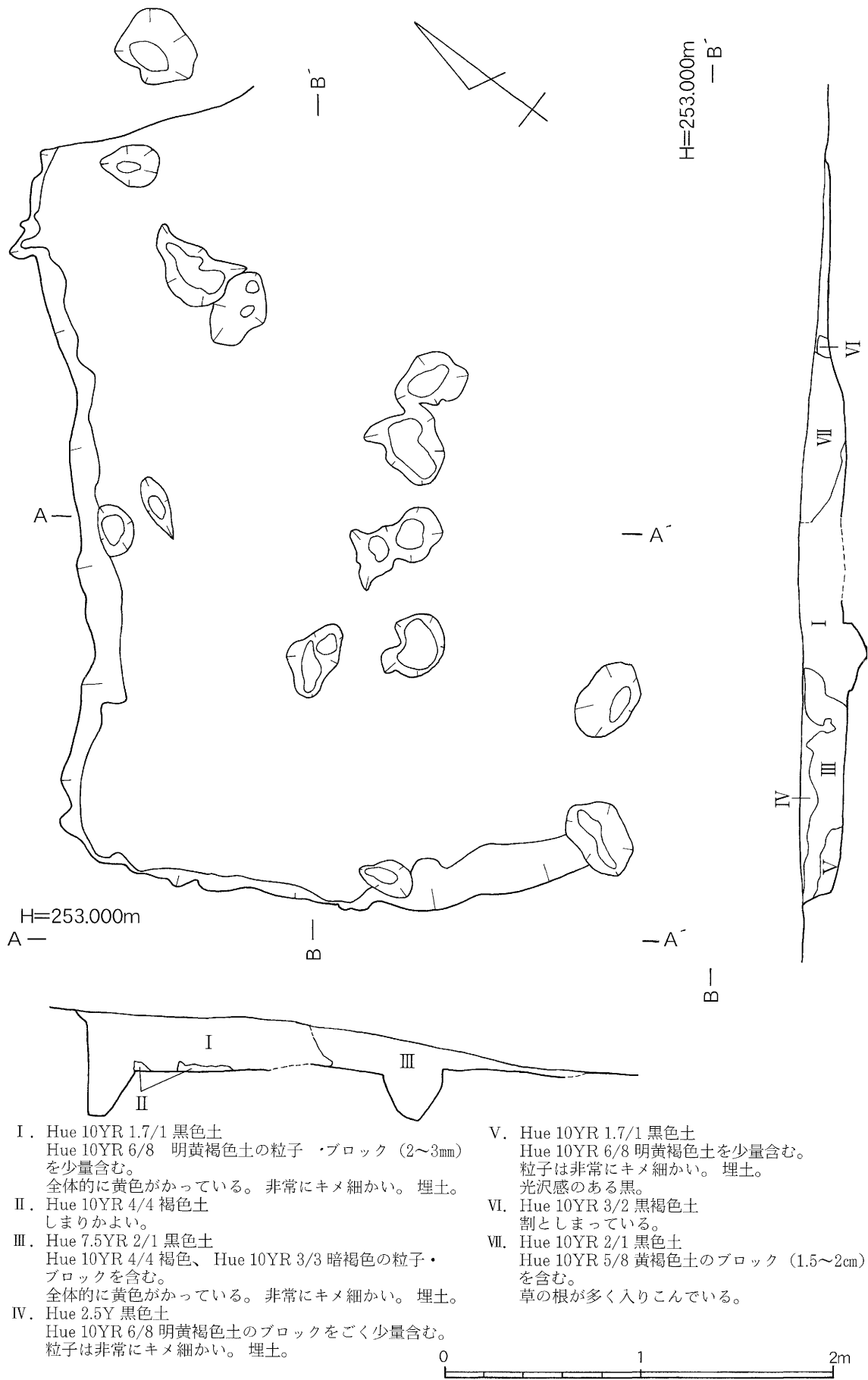


第6図 1区基本土層図

## 第3節 遺構・遺物

### 1 SA-1(第7図、図版3)

1-B区の南東部壁沿いより出土している。遺構の約1/2は調査区壁に入り込んでいたため、壁を取り除き、再びアカホヤ面での遺構検出を行ったが既に削り取られていて、住居跡全形を把握することはできなかった。隅丸方形プランを呈し、ピットも確認された。出土総数は224点で、主に住居跡中央部に密集して出土した。



- I. Hue 10YR 1.7/1 黒色土  
Hue 10YR 6/8 明黄褐色土の粒子・ブロック (2~3mm) を少量含む。  
全体的に黄色がかっている。非常にキメ細かい。埋土。
- II. Hue 10YR 4/4 褐色土  
しまりかよい。
- III. Hue 7.5YR 2/1 黒色土  
Hue 10YR 4/4 褐色、Hue 10YR 3/3 暗褐色の粒子・ブロックを含む。  
全体的に黄色がかっている。非常にキメ細かい。埋土。
- IV. Hue 2.5Y 黒色土  
Hue 10YR 6/8 明黄褐色土のブロックをごく少量含む。  
粒子は非常にキメ細かい。埋土。
- V. Hue 10YR 1.7/1 黒色土  
Hue 10YR 6/8 明黄褐色土を少量含む。  
粒子は非常にキメ細かい。埋土。  
光沢感のある黒。
- VI. Hue 10YR 3/2 黒褐色土  
割としまっている。
- VII. Hue 10YR 2/1 黒色土  
Hue 10YR 5/8 黄褐色土のブロック (1.5~2cm) を含む。  
草の根が多く入りこんでいる。

第7図 SA-1 平面図および土層断面図

《出土遺物》(第8・9・10図、図版17)

すべて黒ボク土を基調とする住居跡埋土から出土した。

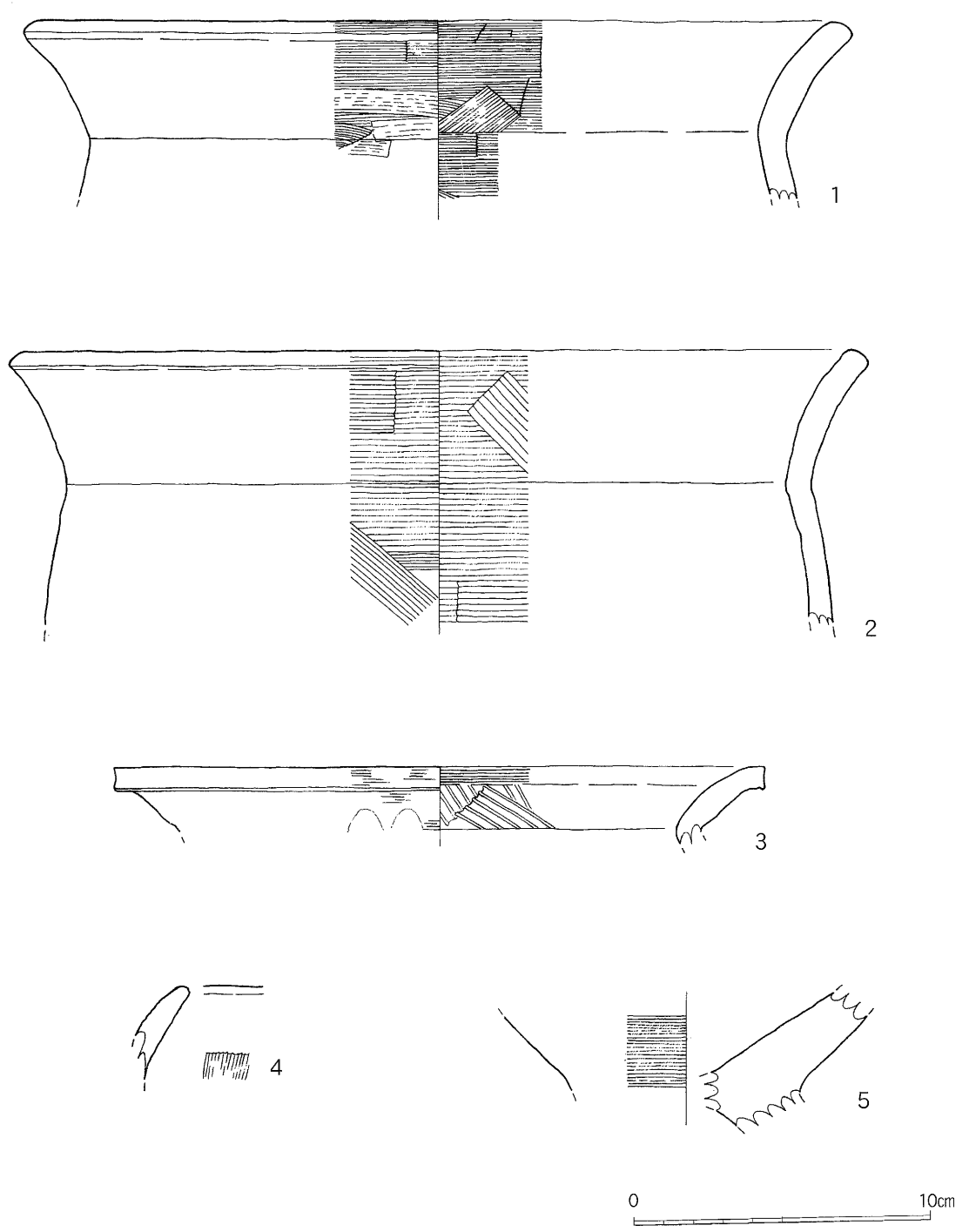
1は口径26.6cmの甕の口縁部である。内外面ともに明瞭にハケ目が残る。口唇部は平坦に仕上げられるがシャープではなく、わずかに丸みを帯びている。2は口径28.0cmの甕の口縁～肩部である。肩部はさほど張らず、頸部は緩く屈曲して口縁部は外反する。口唇部は平坦に仕上げられるが少し丸みを帯び、1と同じタイプのものである。内外面にハケによる調整痕が残る。3は口径22.0cmの甕の口縁部である。口縁部中位はわずかに肥厚し、端部は大きく外反してつまみ出すように成形している。口唇端部は平坦に仕上げ、中央部分を若干くぼませている。内外面は太目のハケ、細目のハケによる器面調整を確認できる。4は甕の口縁部である。口縁部はわずかに肥厚し、口唇端部は平坦に仕上げている。外面には縦方向のハケ目残り、ススが付着している。5は台付甕の胴下部である。外面はハケ、内面はハケ後ナデ調整が施される。

6は壺の肩～胴部であると思われる。胴部最大径は34cmを測る。両面に多方向のハケ調整痕残り、外面は丁寧な調整だが、内面は非常に粗雑な部分も見られる。肩部内面には成形時の粘土の継ぎ目が明瞭に残る。7は重弧文長頸壺の肩部である。器形は判然としないものの、外面に重弧文がはっきりと描かれている。内面にはハケ後のナデ調整、指押さえの痕が見られる。

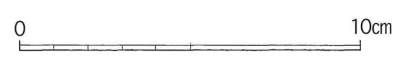
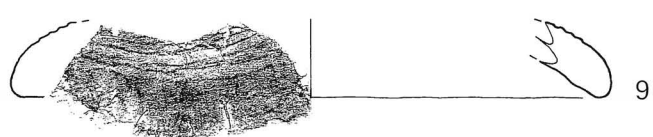
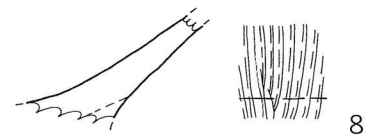
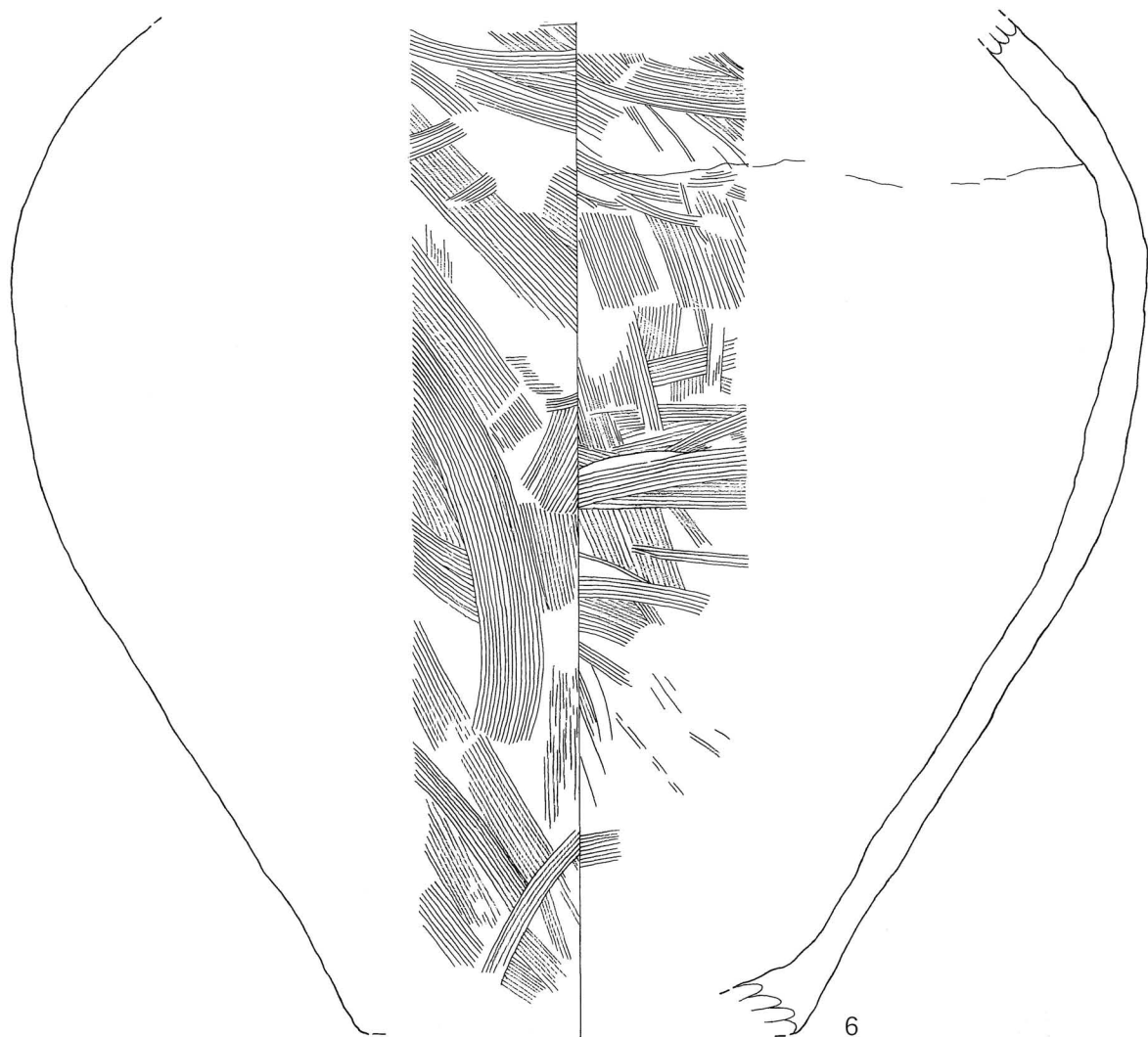
8は高杯の杯部である。外面には太い縦方向のハケ目が見られるが、内面の調整は摩滅のため不明瞭である。また外面には丹が塗られていたようである。

9は縄文後期の台付皿形土器の台部で、底径は16.9cmを測る。外面には太い沈線が数本平行に描かれる。内面にはナデ調整が施されている。他の遺構内出土遺物との年代の相違から考えて、流れ込んだものとみてよいのではなかろうか。

石器は磨製石斧1点と敲石1点の合計2点が出土している。10は磨製石斧で半分を欠損している。11の敲石は2ヵ所に敲痕が見られ、表面は変色している。

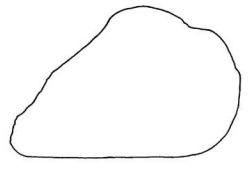
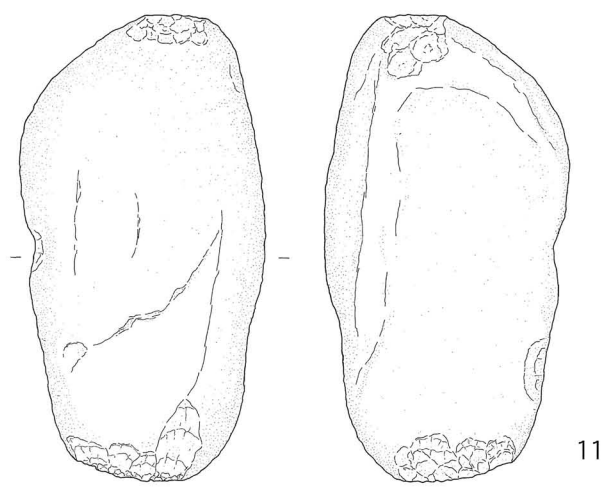
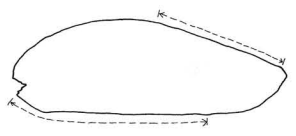
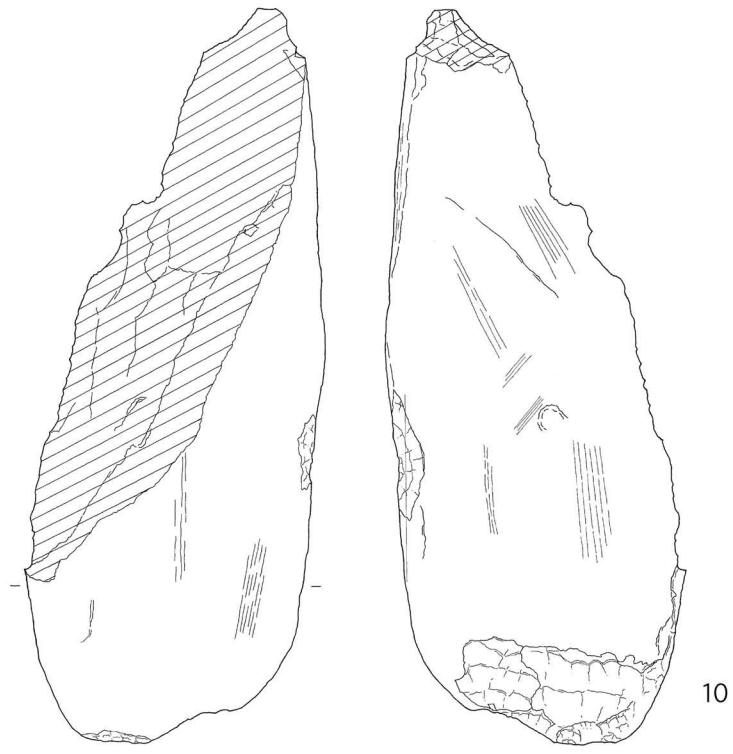


第8図 SA-1出土遺物(1)



第9图 SA-1 出土遺物(2)





第10図 SA-1 出土遺物(3)

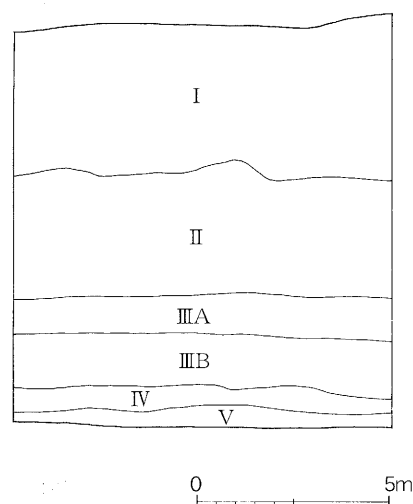
## 第4章 2区調査の記録

### 第1節 概要(第11・12図、図版2)

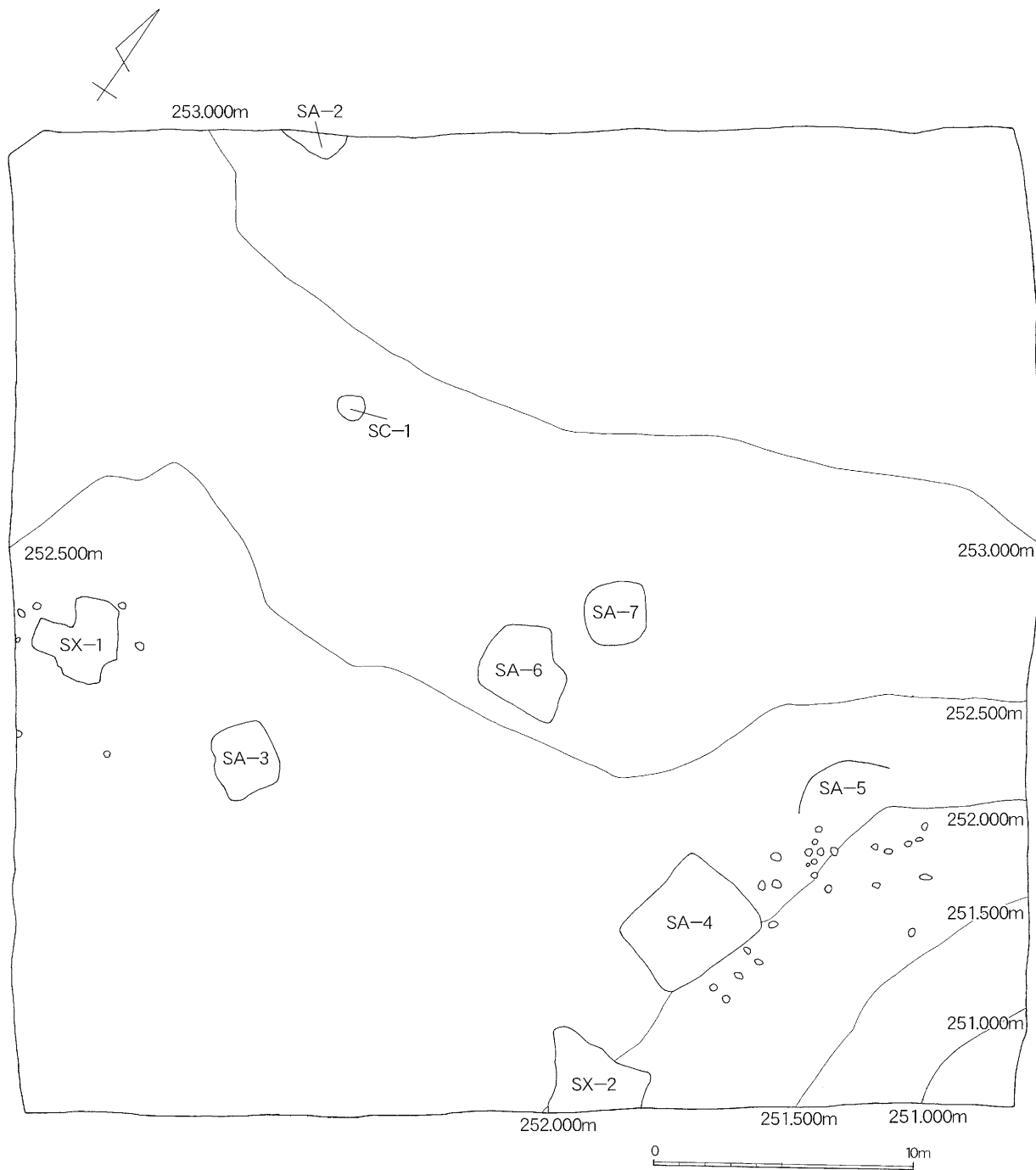
2区の調査面積は約1,600㎡である。畑地で、ゴボウのトレンチャーが縦横無尽にはしている。そのため、攪乱層からの出土遺物が非常に多く、また遺構検出は大変困難であった。さらに元々は丘陵地であった箇所であるため、初めに畑を作る段階で大きく削平を受けていた。表土剥ぎの段階から遺物を多数採集することができ、遺跡がかなり破壊されている状況であることが予想された。特に調査区の北側は小林軽石層が露出しており、黒仁田遺跡の遺物包含層である黒ボク土、遺構検出面であるアカホヤ火山灰層は削平を受けており、遺物も全く確認できなかった。2区調査区内では北側以外でもアカホヤ上面まで削平を受けている箇所も見られ、黒ボク土の残存が良好であったのは東側のみである。遺物は東側の黒ボク土からの出土が目立ち、遺構は住居跡6基、不明遺構2基、土坑1基が検出された。

### 第2節 基本土層(第11図)

2区は調査区の中で最も土層の残りが悪く、トレンチャーによる攪乱、畑を造成した際の削平、盛土等が見られる。I層は黒褐色土(Hue10YR3/1)で、表土である。褐色土やアカホヤのブロックをやや多く含んだ攪乱層である。II層は黒色土(Hue10YR2/1)で、褐色土、黄橙色土、アカホヤのブロックを多く含んでいる。III A層は黒ボク土(Hue10YR3/1黒褐色)で、直径2mm程度のパミスを含んでいる。III B層もまた黒ボク土(Hue10YR3/1黒褐色)で、直径2～5mmのパミスを含む。III A層、III B層はアカホヤのブロック・粒子の混入が見られるが、下層へいくほどアカホヤの混じりは減少する。IV層は黒褐色土(Hue10YR3/1黒褐色)、V層はアカホヤ火山灰層(Hue10YR6/8明黄褐色)で、上面を削平されている部分も見られる。



第11図 2区基本土層図

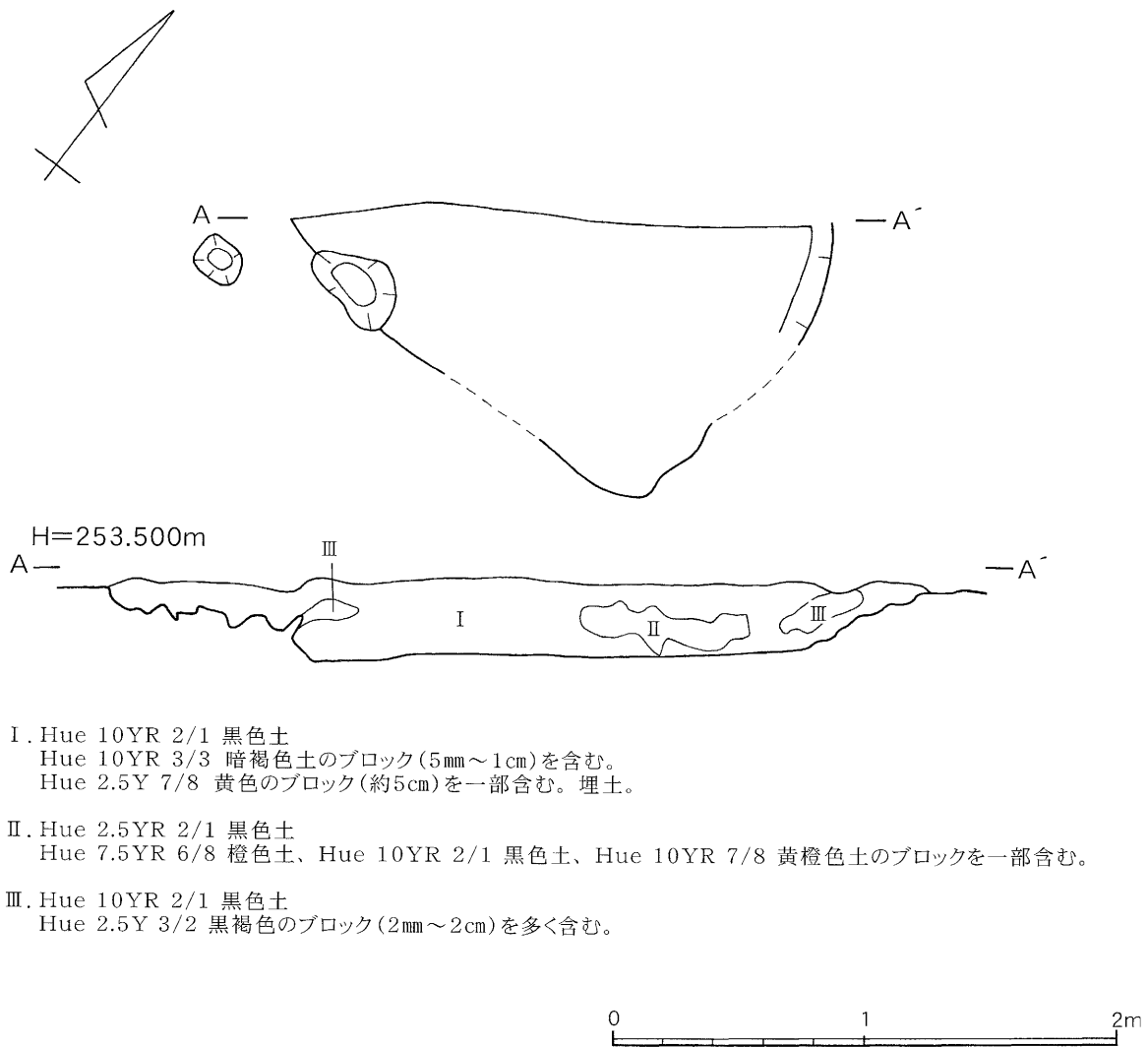


第12图 2区地形图

### 第3節 遺構・遺物

#### 1 SA-2 (第13図、図版4・5)

2区調査区の北西壁側で検出された。遺構の大部分が削平を受けており、攪乱土を除去すると2区調査区壁には遺構の断面がはっきりと残っていた。遺構のごく一部しか調査できなかったが、隅丸方形プランを呈する住居跡であろうことが予想される。掘り込み面は、畑の耕作による攪乱のため、どの面であるのかは確認できなかった。遺構床面付近からは石がかたまって出土し、西側に偏って出土した。これらの石がどのように使用されていたのか、何らかの特徴を見出すことはできなかった。遺物のごく少量出土したが、小片であり、特に情報は得られなかった。



第13図 SA-2 平面図および土層断面図

## 2 SA-3 (第14図、図版5)

2.4m×2.7mの隅丸方形プランで、深さは20cm弱である。遺構はゴボウのトレンチャーによりメッシュ状に切られていた。トレンチャー部分の耕作土は非常に軟らかく、遺構を掘り進めるうちに崩落してしまうため、完掘時には不整形の方形となってしまった。遺構埋土である黒ボク土からは土器や石、炭化物が多数出土している。遺物はすべて床面より浮いて出土した。出土分布には特に偏りは見られなかった。

### 《出土遺物》(第15図、図版18)

12は甕の口縁～胴部である。肩部が少し張るが、胴部は膨らみをもたないタイプのようなものである。頸部には明瞭な稜線を残し、口縁は外反して、口唇端部は中央をわずかにくぼませている。内外面ともハケによる調整が見られ、全体的に丁寧なつくりである。13は甕の胴下部である。若干粗雑なハケ、ナデによる器面調整がなされている。14・15は甕の口縁部である。いずれも胎土に砂礫を多く含み、内外面ともハケにより調整されている。14の口唇端部は平坦に仕上げ、口唇部外側をわずかにつまんでいる。口径は19.7cmを測る。15の口唇部も平坦であるが、口唇上部に加えてさらに口唇部外側を平坦に仕上げており、14とは若干様相が異なる。16は小型甕の頸部であると思われる。14と同様に胎土に砂礫を多く含み、両面ともハケにより調整される。17は甕の頸部で刻み目突帯が付され、刻み部分には布目圧痕を確認することができる。外面は丁寧なハケによる器面調整が見られる。内面にはナデ調整がなされている。

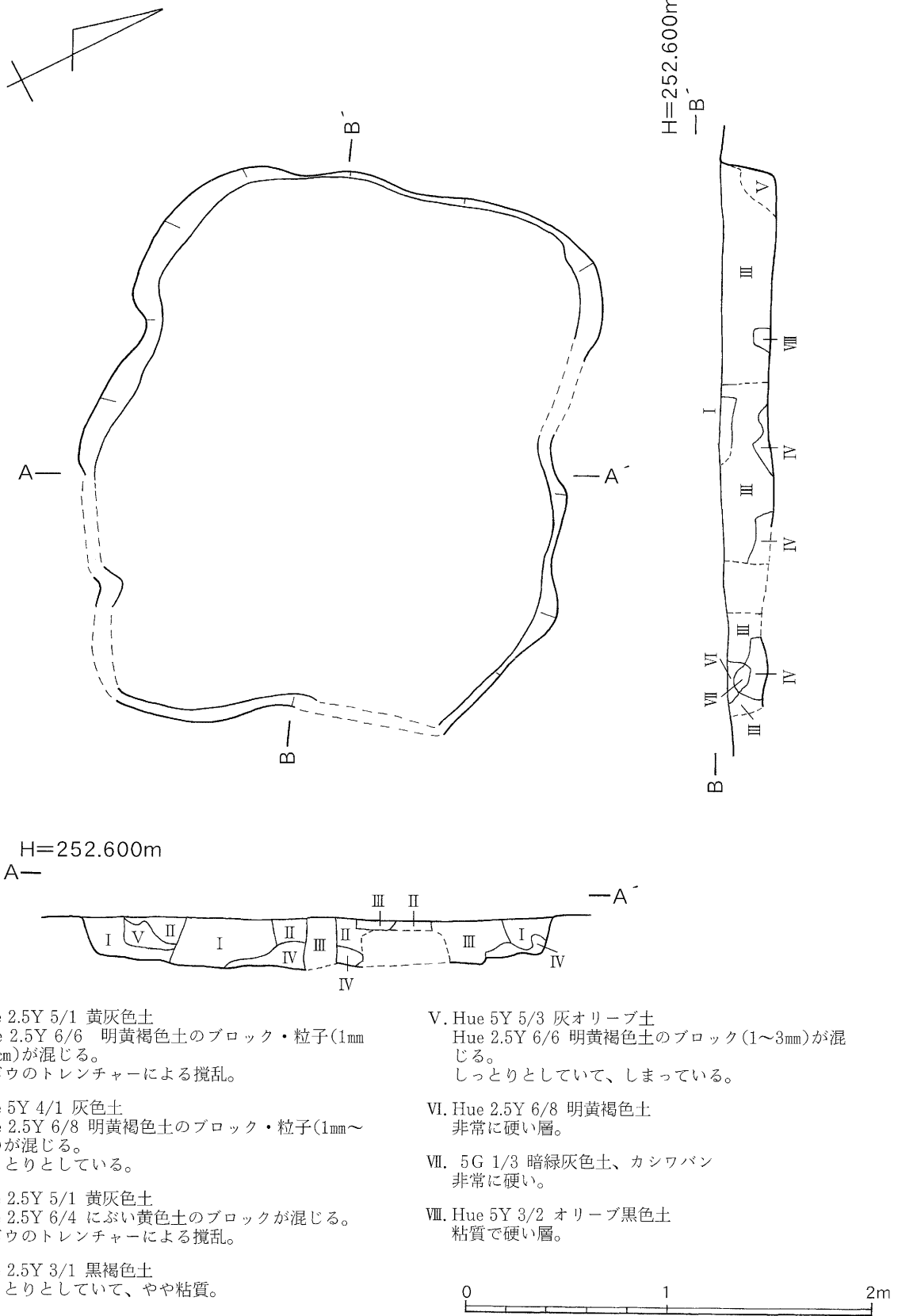
18は口径8.8cmの壺口縁部である。外面にははっきりとやや太めのハケ目残り、内面はハケ、ナデ調整が施されている。端部にはやや丸みがある。19は二重口縁壺の口縁部であると思われる。小片であるため、全体の器形等は不明であるが、外面に櫛描波状文を確認できる。20は壺の底部で平底を基調とするものの若干丸みを帯び、胴部へと立ち上がる。摩滅のため調整は不明瞭だが、外面に一部明瞭なハケ目が残る。外面には丹が塗られていたようである。

21は高杯の杯部である。住居跡床面からは高い位置で出土した。口縁部は口径27.3cmで、外側に大きく開く。口唇端部は平坦に仕上げられ、口唇部外側部分をわずかにつまんだような形態を成す。口唇部の成形の仕方としては14に類似している。外面は横方向にハケで調整され、内面は非常に丁寧に磨かれている。

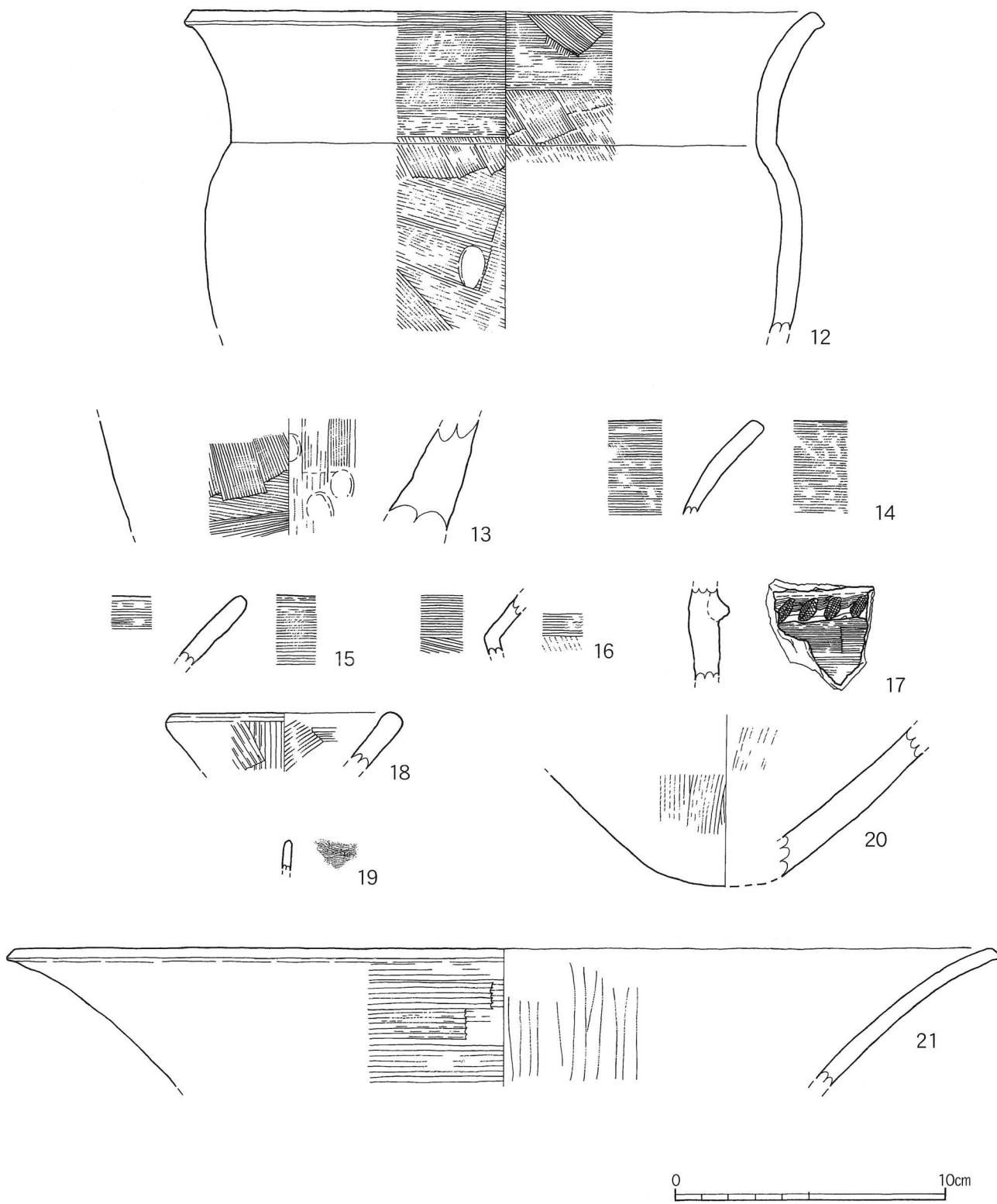
## 3 SA-4 (第16図、図版6)

3.9m×4.5mの隅丸方形プランを呈する。アカホヤ面で遺構検出を行った。ピットが多く検出され、その分布は住居跡東側に偏っている。

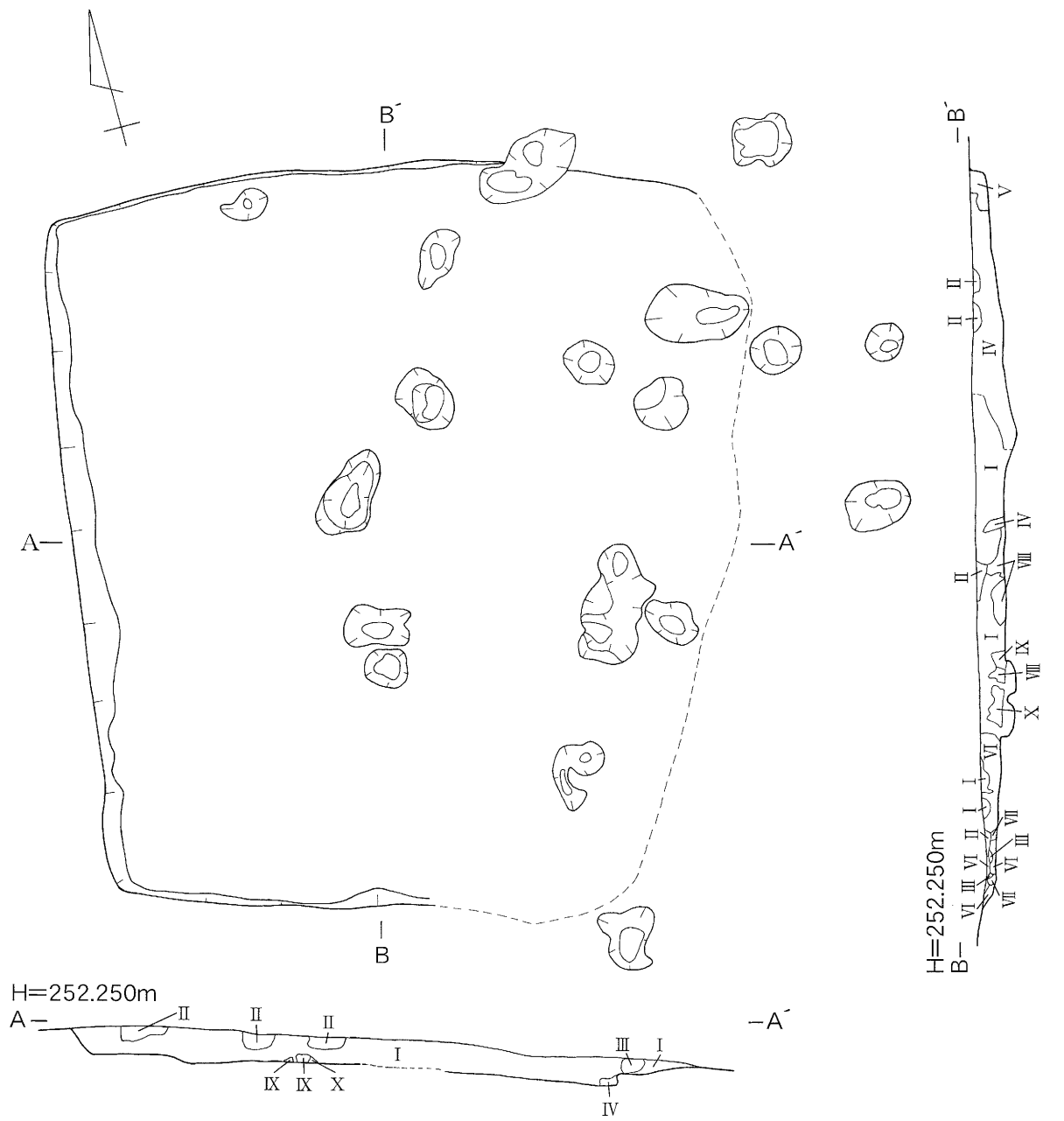
遺物の出土量が多く、また復元可能な遺物も多かった。遺物はすべて床面より浮いた状態で出土した。生活に使用されていたものなのか、石が東側に集中して出土した。その中には砥石と思われる石器も含まれていた。土器も東側から多く出土した。遺物はすべて黒ボク土を基調



第14図 SA-3 平面図および土層断面図



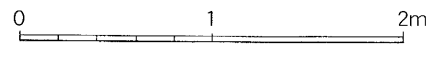
第15図 SA-3 出土遺物



H=252.250m

H=252.250m

- |   |   |
|---|---|
| <p>I. Hue5Y3/1オリーブ黒色土<br/>Hue2.5Y6/8明黄褐色アカホヤのブロック(1~5mm)が入り混じる。<br/>キメが細かい。<br/>埋土。黒ボク土。</p> <p>II. Hue5Y3/1オリーブ黒色土<br/>ゴボウのトレンチャーによる攪乱</p> <p>III. Hue2.5Y6/8明黄褐色土アカホヤ</p> <p>IV. Hue5Y2/4灰オリーブ<br/>Hue2.5Y6/6~8明黄褐色土アカホヤの大小ブロックを含む。<br/>様々な色調の土が入り混じり、濁っている。</p> <p>V. Hue2.5Y4/1黄灰色土<br/>Hue2.5Y6/6明黄褐色土アカホヤが多く入り混じる。<br/>ゴボウのトレンチャーによる攪乱。</p> <p>VI. Hue5Y4/4暗オリーブ色土<br/>Hue2.5Y6/6~8明黄褐色土アカホヤの大小ブロックを含み、濁っている。</p> | <p>VII. Hue2.5Y6/6明黄褐色土アカホヤ</p> <p>VIII. Hue7.5Y4/2灰オリーブ色土<br/>Hue2.5Y6/8明黄褐色土アカホヤのブロック(1~5mm)を含む。<br/>アカホヤの粒子を多く含む。</p> <p>IX. Hue7.5Y4/2灰オリーブ色土<br/>Hue5Y6/6オリーブ土の混じりが多い。</p> <p>X. Hue7.5Y4/2灰オリーブ色土<br/>Hue2.5Y6/8明黄褐色土アカホヤとHue5Y3/1オリーブ黒色土のブロックが多く混じる。</p> |
|---|---|



第16図 SA-4平面図および土層断面図



とする埋土から出土している。

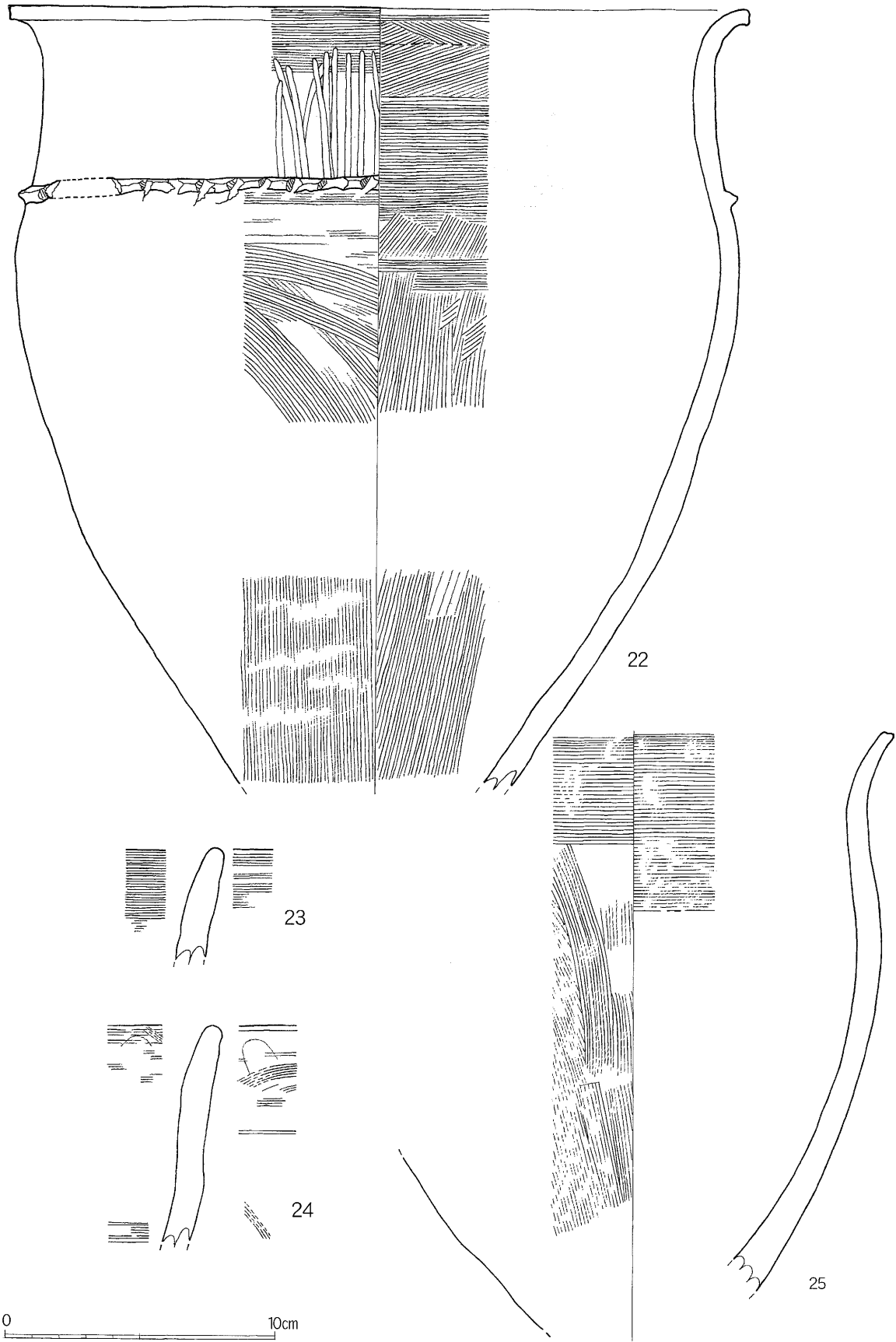
#### 《出土遺物》(第17・18・19図、図版19・20)

22は口径27.2cmの突帯付の甕である。突帯は幅約7mmと細めで、約6～7mm間隔で刻まれている。胴部は直線的に上へのび、突帯下に最大径をもった後、わずかに内傾して口縁端部は強く外側に曲げられている。口唇端部は平坦に仕上げられている。外面にはハケ、あるいはハケ後にミガキによる調整が施され、器面に光沢感のある部分もある。外面の胴部最大径部にはススが付着している。23・24は甕の口縁部である。24は頸部と胴部の境がはっきりせず、口縁部から胴部へと滑らかにつながる。どちらも口縁部は丸みをもって成形されるが、端部は歪みが目に付き、ごくわずかに波打っている。また調整はハケによる調整である。調整方法や色調、胎土から判断してこの二点は同一個体ではなかろうか。25の残存部は甕の口縁～胴部で、底部を欠く。胴部はさほど広がりをもたず、肩部が少し張り、頸部はくびれをあまりもたないまま口縁部は外反する。内外面にはハケ、ハケ後のナデ調整が認められ、外面には口縁～頸部にススが付着している。口唇端部は平坦に仕上げられている。26は台付甕の胴下部である。内外面はナデ調整で仕上げられている。27は甕の胴下部である。おそらく脚台が付されていたものであろうが欠損している。内外面ともハケで調整され、その後ナデられている。28は台付甕の底部で、底径は9.9cmである。中空の脚台で、やや不整形である。外面は横方向に調整した後、縦方向にハケ調整が施されている。脚部内面はハケとミガキによって器面調整されている。台部の中位をやや肥厚させている。29は台付甕の底部であると思われる。内外両面ともハケによって調整されるが、内面は外面と比較して粗雑である。

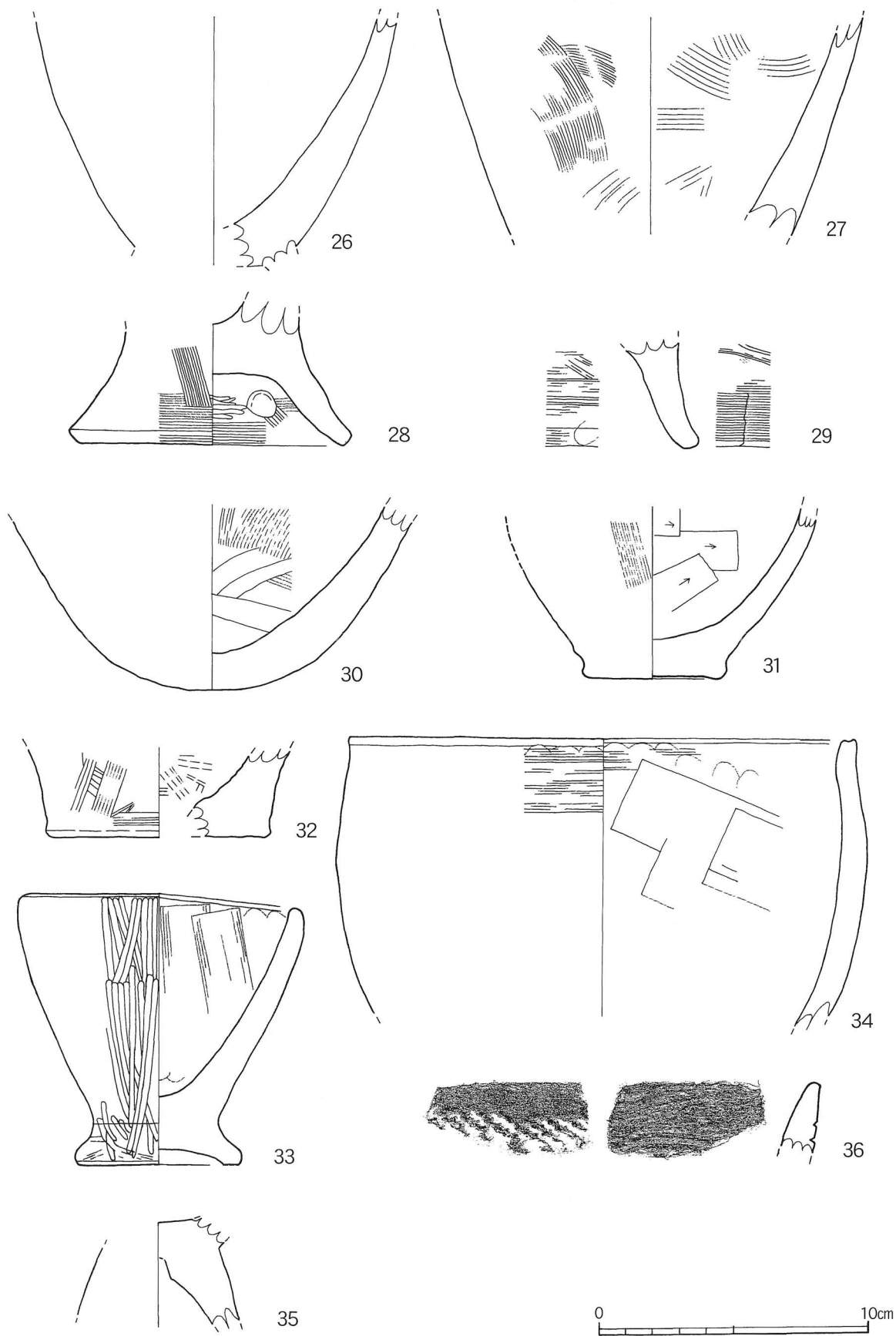
30の残存部は底部で、丸底の壺である。外面は胴部にハケ目・ミガキが認められるが、ほとんどが摩滅によって見えない。内面はハケ・ナデによる調整がなされている。31は壺の底部～胴部で、底径4.4cmである。底部は平底を基調とするがわずかに上げ底で、少し外側につまみ出され、緩やかに湾曲する胴部へとつながる。内外面はハケ後ナデ調整で、うっすらとハケ目が残る。32は壺の底部で、底径8.0cmの平底の底部である。器形は底部をわずかにつまみ出した後、さほど胴部は広がらず立ち上がる。内外面にハケ目が認められるが、外面については器面調整が若干粗雑である。

33は口径9.95cm、器高10.4cmの鉢である。ほぼ完形の姿に復元することができた。底部は約1cmほど中空の脚台となっている。底部からすぼまり、ほぼ直線的に外側へと広がり、口縁部付近で丸味を帯びて端部へとつながる。口唇端部はやや丸みを帯びてはいるが、平坦に仕上げられる。外面はミガキによる調整、内面はハケ・ナデ調整が認められる。34は口径19.0cmの鉢の口縁部である。あるいは甕としたほうが適切であるかもしれない。内外面にハケやヘラ状工具による器面調整が施され、口縁内外には横方向のハケ調整を確認できる。口唇端部は凹状に仕上げられている。

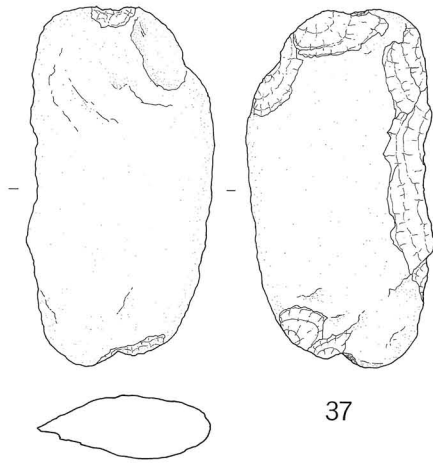
35は高杯の脚部である。外面はハケ後ナデ調整、内面はナデによる調整で仕上げられている。



第17图 SA-4 出土遺物(1)



第18图 SA-4 出土遺物(2)



37



38



第19図 SA-4 出土遺物(3)

脚部内面の中央に丸い刺突痕が見られ、製作時に使用した工具痕かとも思われるが、実際どのように使用されたのか詳細不明である。土器焼成前に付けられた刺突痕である。

36は縄文後期の深鉢口縁部である。平口縁で、貝殻条痕文ののちナデ調整が見られ、外面には貝殻腹縁刺突文が施されている。口唇端部はやや丸みをもつものの、平坦を基調としている。

石器は2点出土しており、37は石錘、38は砥石と思われる石器である。38は住居跡内東側から出土し、両面に擦痕が見られる。

#### 4 SA-5 (第20図、図版7)

直径3.8mの円形プランの住居跡である。アカホヤ面で検出を行ったが、実際に遺構の形をとらえることができたのは住居跡全体の約1/2である。住居跡中央部には不整形の土坑も検出され、またピットも多く確認できた。ピットは住居跡南東側に多く見られた。しかし、ピットはどれまでが住居跡に伴うものなのか判断はつけがたい。遺物は土器片や台石が床面から出土した。また、炭化物が住居跡内西側に南北方向に渡って直線状に出土した。出土した炭化物は放射性炭素年代測定を行い、西暦220～350年の結果が得られた。(付論参照)

#### 《出土遺物》(第21・22図、図版21)

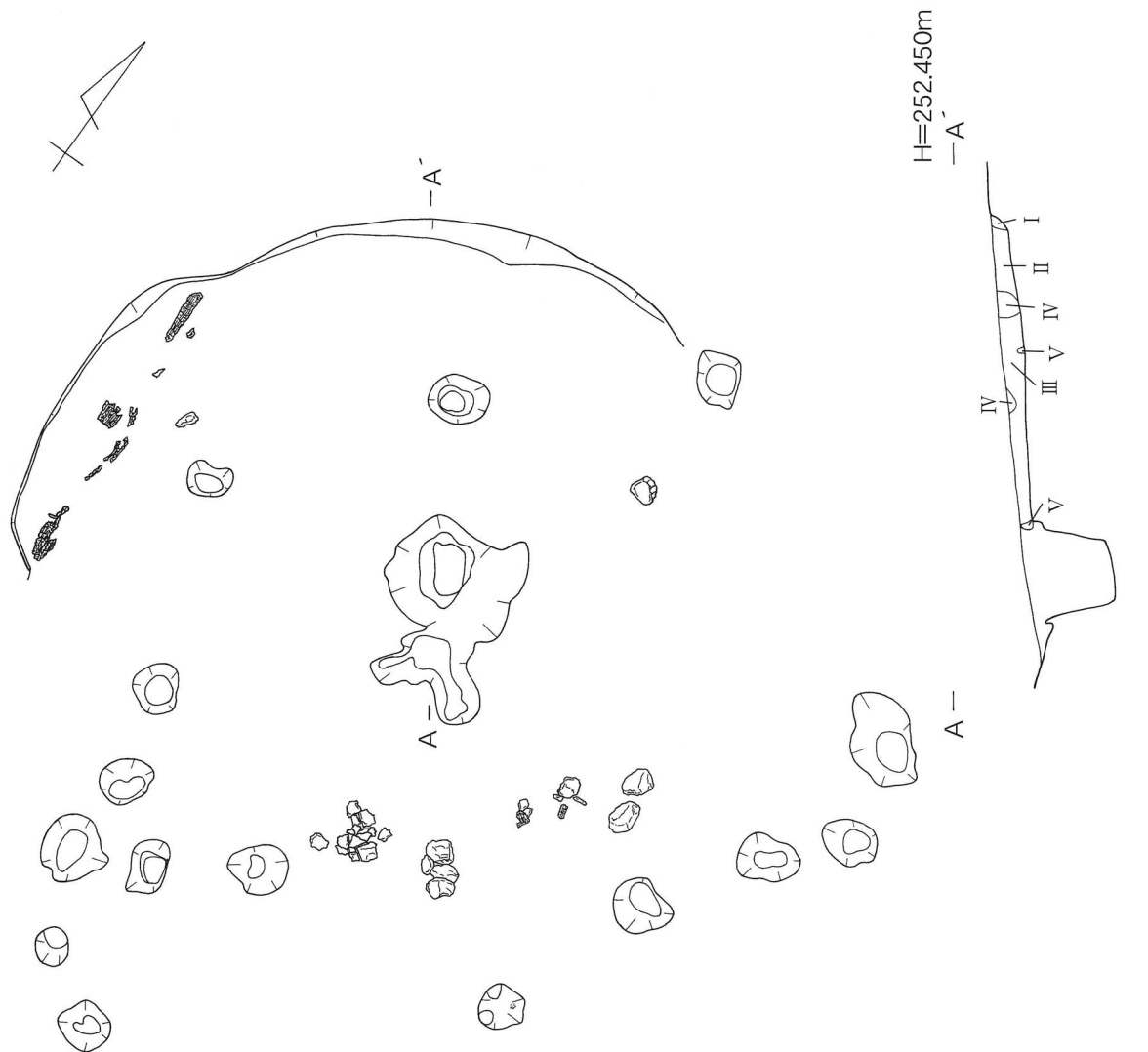
39は口径30.6cmの甕の口縁～胴部である。やや丸みの強い胴部は頸部で屈曲して外反する口縁部へとつながる。口縁端部で外反度が一層強くなる。口唇端部は平坦に仕上げられている。器面調整は胴部には太目のハケが横方向・斜方向に使用され、口縁部には細目のハケで横方向に調整されている。また、頸部には斜方向の太目のハケ調整が施されている。40は口径23.8cmの甕の口縁部である。頸部は強い屈曲を呈し、口縁部は大きく外反する。口唇端部は平坦に仕上げられ、口縁部内外面には横方向のハケ調整が認められる。また、口縁部外面にはススが付着している。丁寧なつくりであり、シャープな印象を受ける。41もまた甕の口縁部である。内外面には横方向のハケ目が明瞭に残る。口唇端部は平坦に仕上げられるが、口唇端部と口縁部内面との境目がやや不明瞭である。胎土に直径1～5mm程度の大きめの砂礫を多く含んでいる。

42は壺の胴部で、胴部最大径は24.2cmを測る。住居跡床面より出土し、口縁部・底部を欠き完形ではないものの、上から押しつぶされたような状態で破片が出土した。外面は多方向のハケによって調整され、内面は指押えの痕は見られるが全体的に摩滅して不明瞭である。

43は壺の胴下部であると思われるが、底部を欠く。外面にはハケによる調整、ハケ後のナデ調整が認められるが、内面は摩滅・剥離のため不明である。

44・45は縄文後期の深鉢で丸尾式土器である。器面には貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文が見られる。44は残存は口縁部で、口縁部はくの字状に屈折して外面には貝殻押引文が施されている。

46は縄文後期の台付皿形土器の台部である。外面には沈線による施文が見られ、内面はナデによる調整である。胎土には砂礫を多く含む。



I. Hue2.5Y4/3オリーブ褐色土

II. Hue2.5Y2/1黒色土  
Hue2.5Y6/6明黄褐色土のブロック(約5mm)が少量含まれる。  
しっとりしている。  
埋土。黒ボク土。

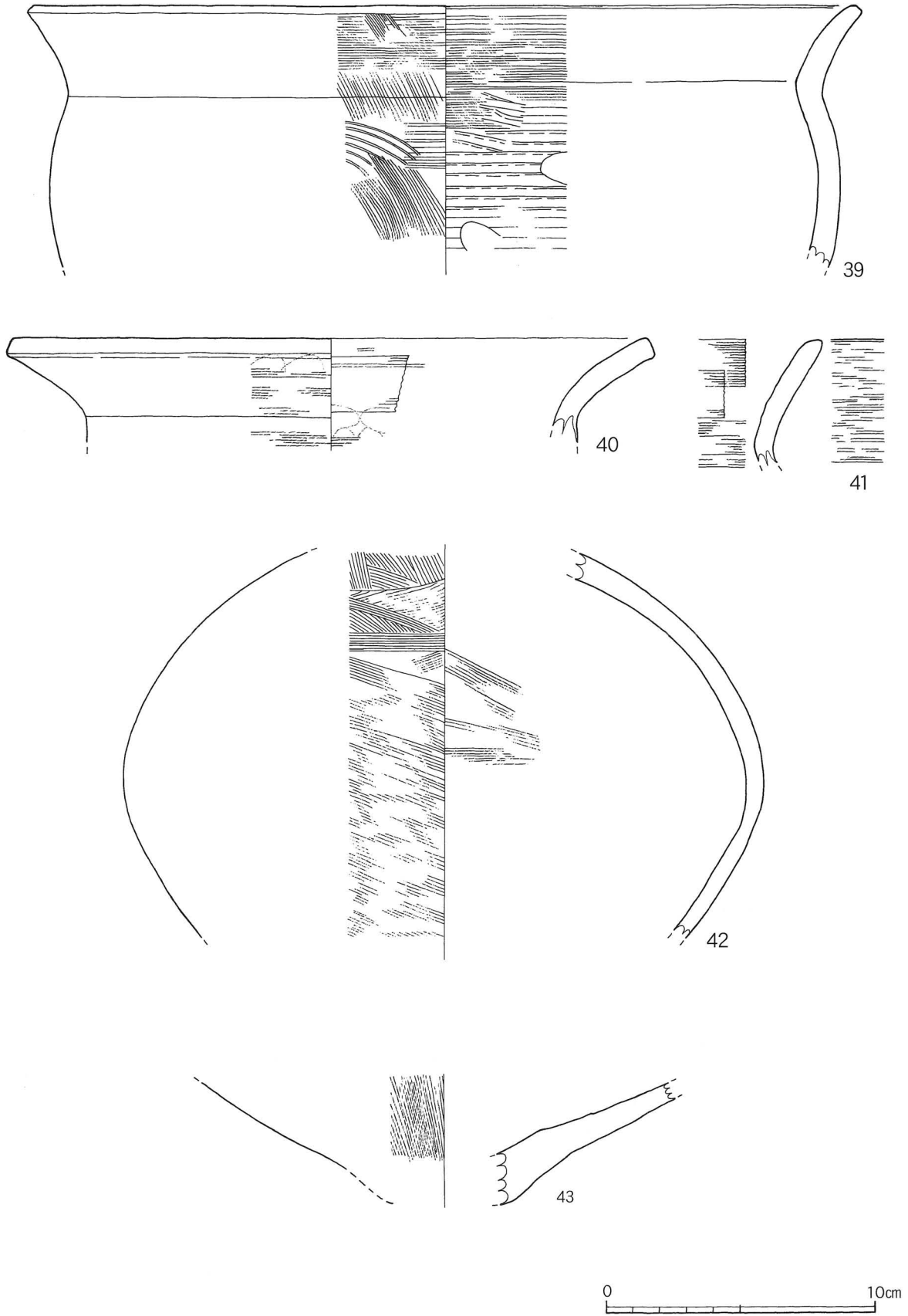
III. Hue2.5Y2/1黒色土  
Hue2.5Y6/6~6/8の明黄褐色土のブロック(1mm~8mm)がやや多く含まれる。  
しっとりしている。  
黒土。黒ボク土。

IV. Hue2.5Y3/2黒褐色土  
Hue2.5Y6/8明黄褐色土のブロック(1mm~2cm)が多く含まれる。  
ゴボウのトレンチャーによる攪乱。

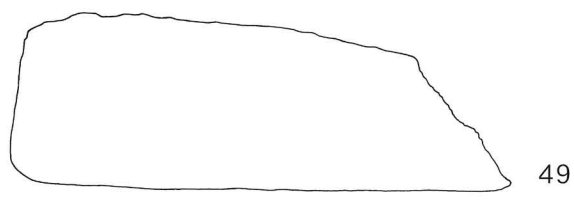
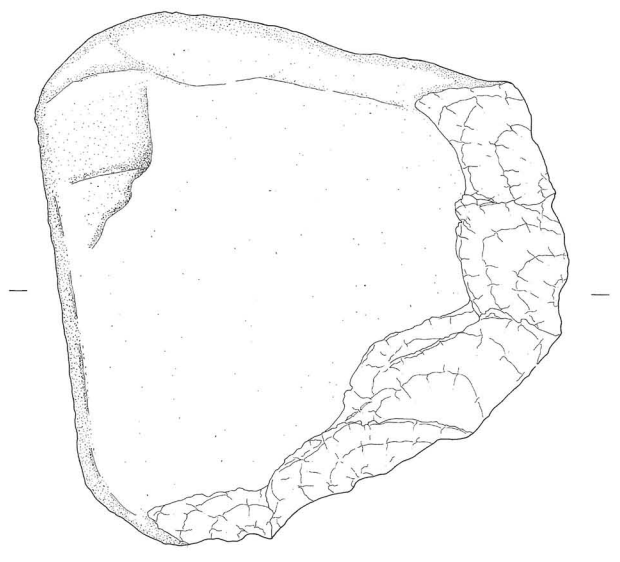
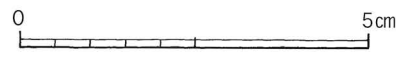
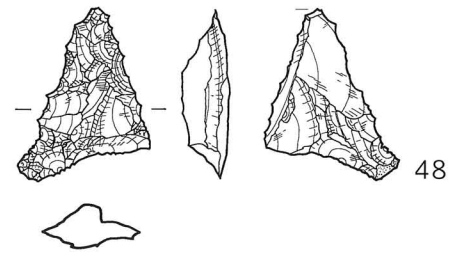
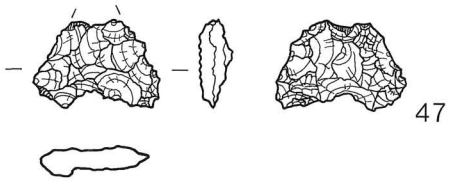
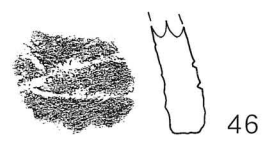
V. Hue5Y7/6黄色土  
Hue2.5Y2/1黒色の砂粒、目の粗い白い砂粒が混じる。

0 1 2m

第20図 SA-5 出土状況平面図および土層断面図



第21図 SA-5 出土遺物(1)



第22図 SA-5 出土遺物(2)



47は黒曜石製石鏃、48は黒曜石製の石鏃未製品である。49は台石で、住居跡内東側の床面より出土している。

### 5 SA-6 (第24図、図版8)

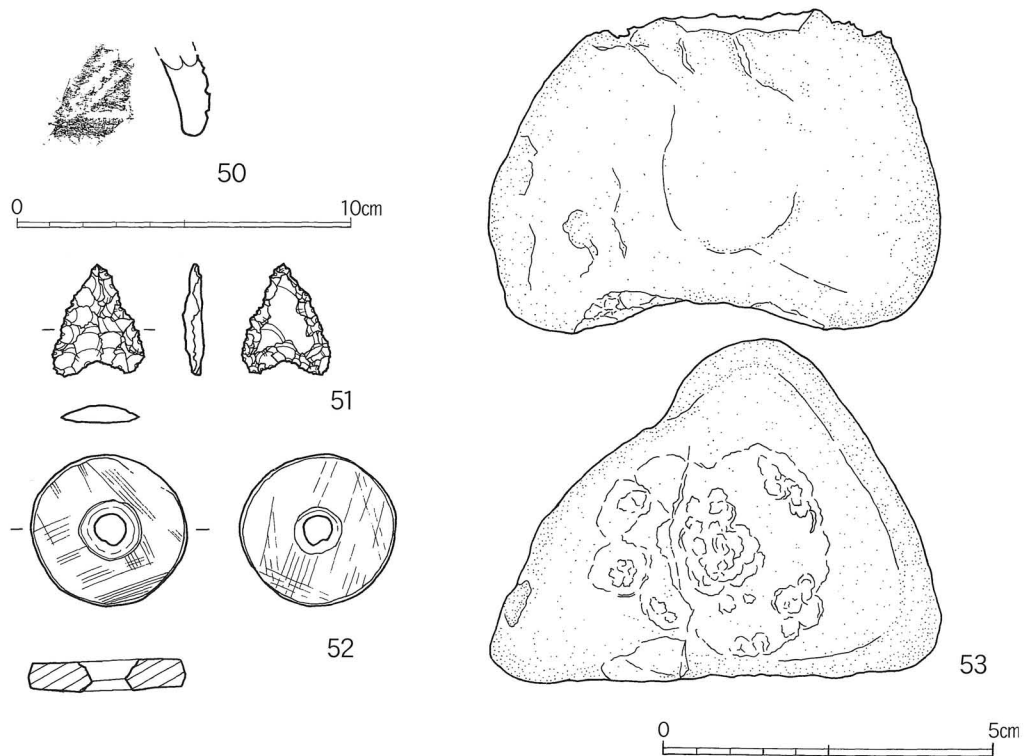
約2.4m×3.0mの不整形方形プランの住居跡と思われる。ゴボウのトレンチャーによる攪乱に加え、遺構北西部が大きく削平を受けているため、ほとんど形が残っておらず、遺構の輪郭を判断するのが非常に難しかった。何箇所もサブトレンチを入れ、その断面で遺構掘り込みの確認を試みた。

遺物は土器・石器、炭化物が出土した。床面より浮いている状態での出土であったが、床面付近より穿孔をもつ円形石器が出土している。

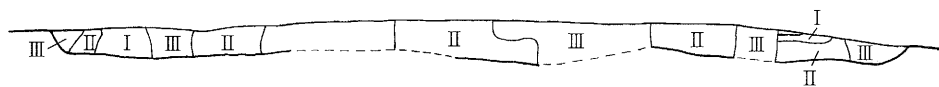
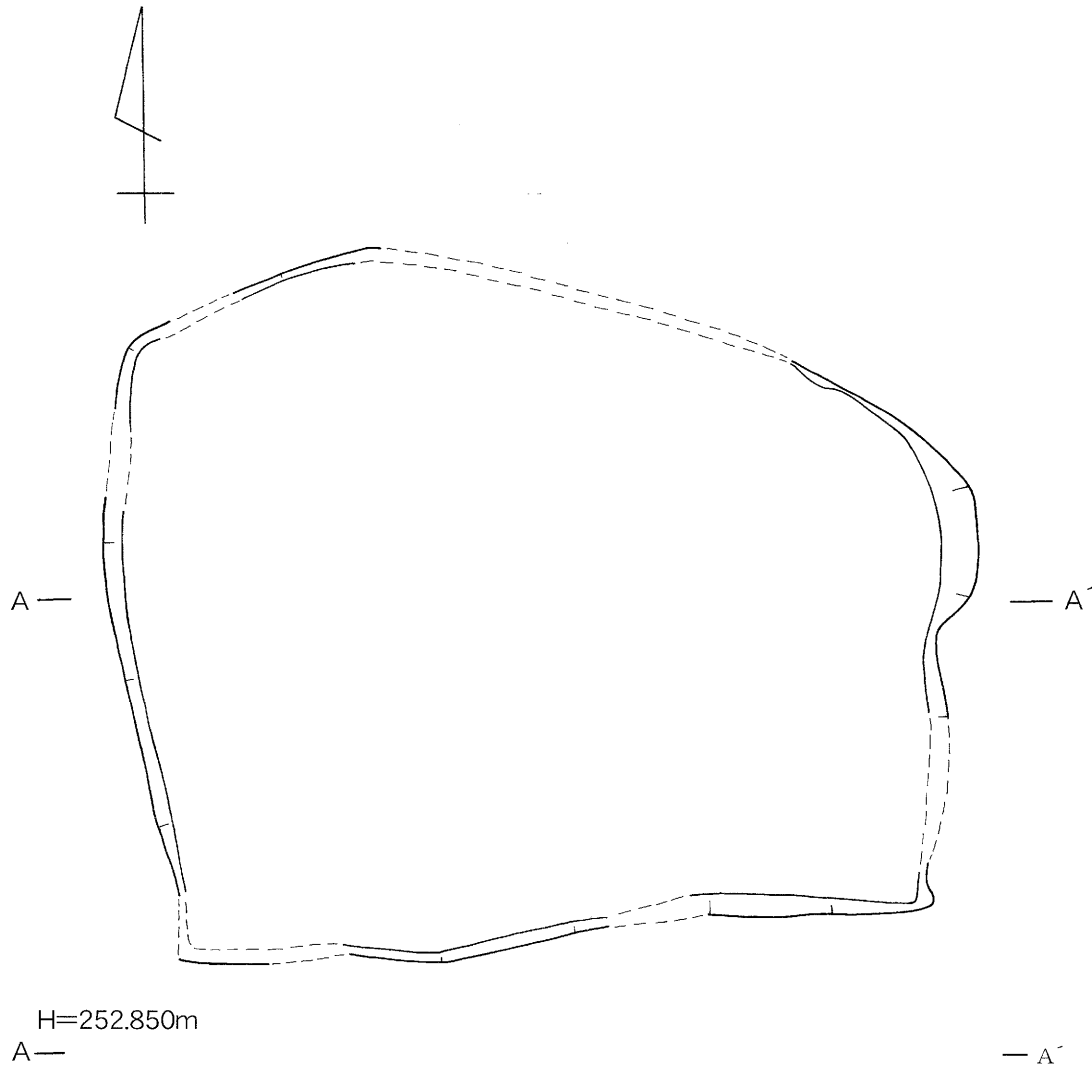
### 《出土遺物》(第23図、図版20)

50は台付皿形土器の台部で住居跡周辺から出土した。外面には沈線が見られる。

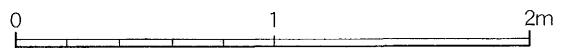
51はチャート製の石鏃である。52は丸玉で、住居跡床面に近い高さで出土した。中心には両面から穿孔された孔があり、両面には多方向の擦痕が見られる。53は敲石と思われる。



第23図 SA-6 出土遺物



- I. Hue2.5Y4/2暗灰黄色土  
Hue2.5Y6/6~6/8明黄褐色土アカホヤのブロックが混じる。  
ややしまっている。  
炭化物が混じっている。
- II. Hue2.5Y3/1黒褐色土  
Hue2.5Y6/6~6/8明黄褐色土アカホヤのブロック(1mm~1cm)を含む。  
カシワバンのブロックを含む。
- III. ゴボウのトレンチャーによる攪乱。



第24図 SA-6 平面図および土層断面図

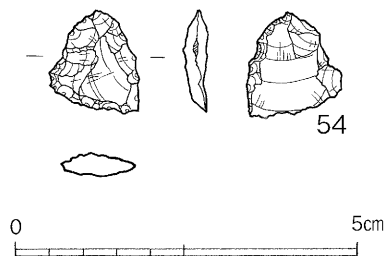
## 6 SA-7 (第26図、図版9)

直径2.4mの円形プランの住居跡である。遺構の上面はかなり削平を受けていると思われ、また他の遺構と同じくゴボウのトレンチャーがメッシュ状に入っていた。

出土した遺物は少量で、10点ほど土器片や石器等が出土したが、出土したほとんどは石である。畑の耕作により石の位置が変わってしまっていることが予想され、石がどのように使用されていたのかについては不明である。

### 《出土遺物》(第25図、図版20)

54は使用痕剥片で、黒曜石製である。他にも甕の脚部や貝殻腹縁刺突文のある土器片も見られたが、小片で器形的特徴を捉えられるものはなかった。また、出土した石には加工や使用された痕跡も見られず、住居跡内でどのように使用されていたのかその用途は不明である。



第25図 SA-7 出土遺物

## 7 SX-1 (第27図、図版9)

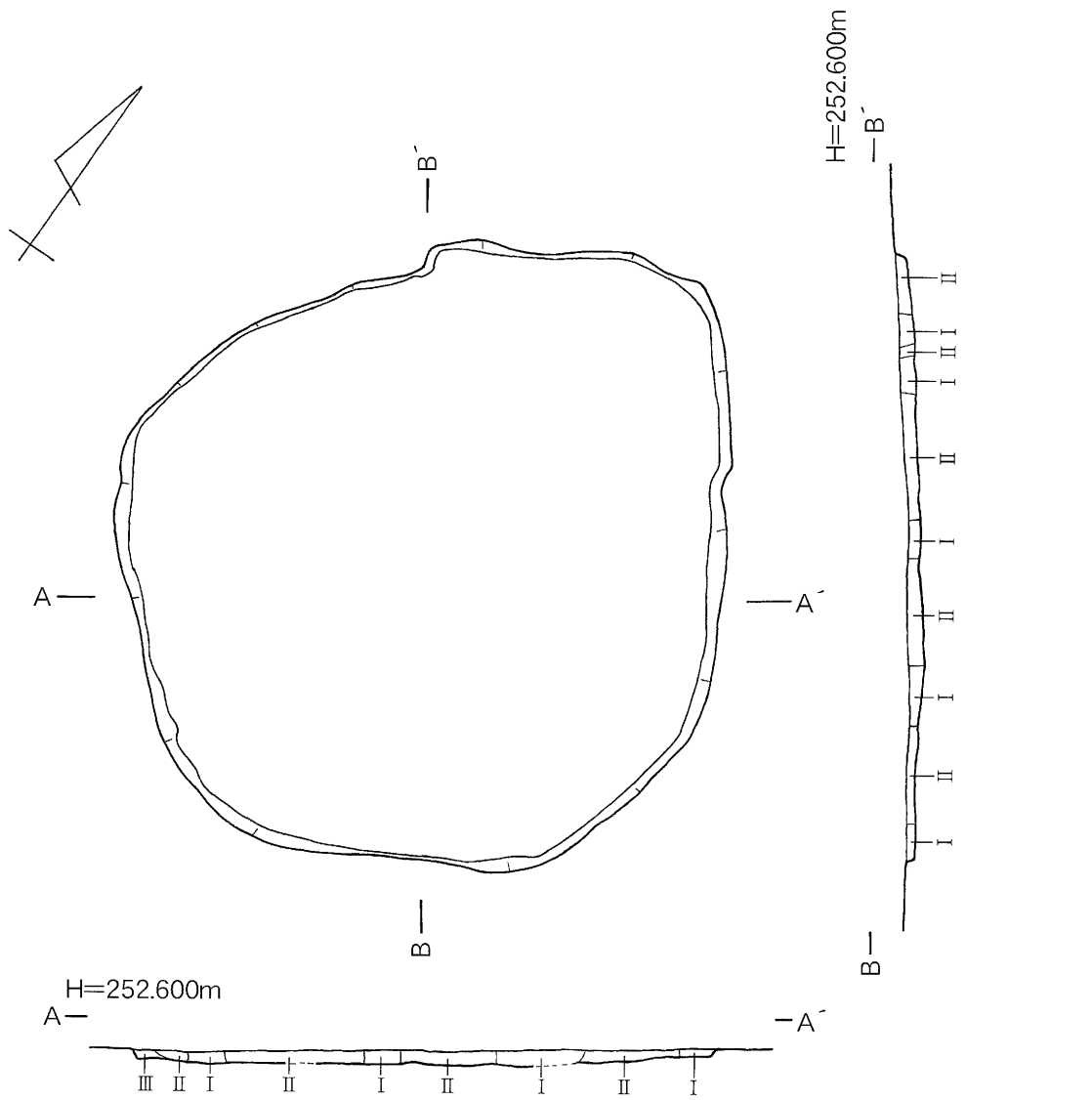
不整形の不明遺構である。アカホヤ面で検出を試みたが、西側はアカホヤがとんでいることもあって遺構輪郭が不明瞭であったため、サブトレンチを入れて掘り込みの確認を行った。柱穴をもち、南西側のみ非常に浅く、ベッド状になっている。遺構内および外側にはピットが数基確認されている。遺構埋土は黒ボク土で、遺物はすべて床面から浮いた状態で出土し、出土分布に特に特徴は見られなかった。

### 《出土遺物》(第28図、図版22)

55は刻み目突帯付の壺の胴部である。突帯は胴部の最大径部分に付けられており、幅は、1.2cm程度である。突帯の中心には1本の沈線が横方向に走り、さらに5mm間隔で斜方向に刻まれている。外面はタタキ後にハケによる調整がなされ、内面は風化のため不明瞭である。56は壺で残存部は底部である。丸底で非常に丁寧に成形、器面調整されている。外面にハケあるいはミガキによる調整が見られる。一方、内面は摩滅がひどく、調整を確認できない。

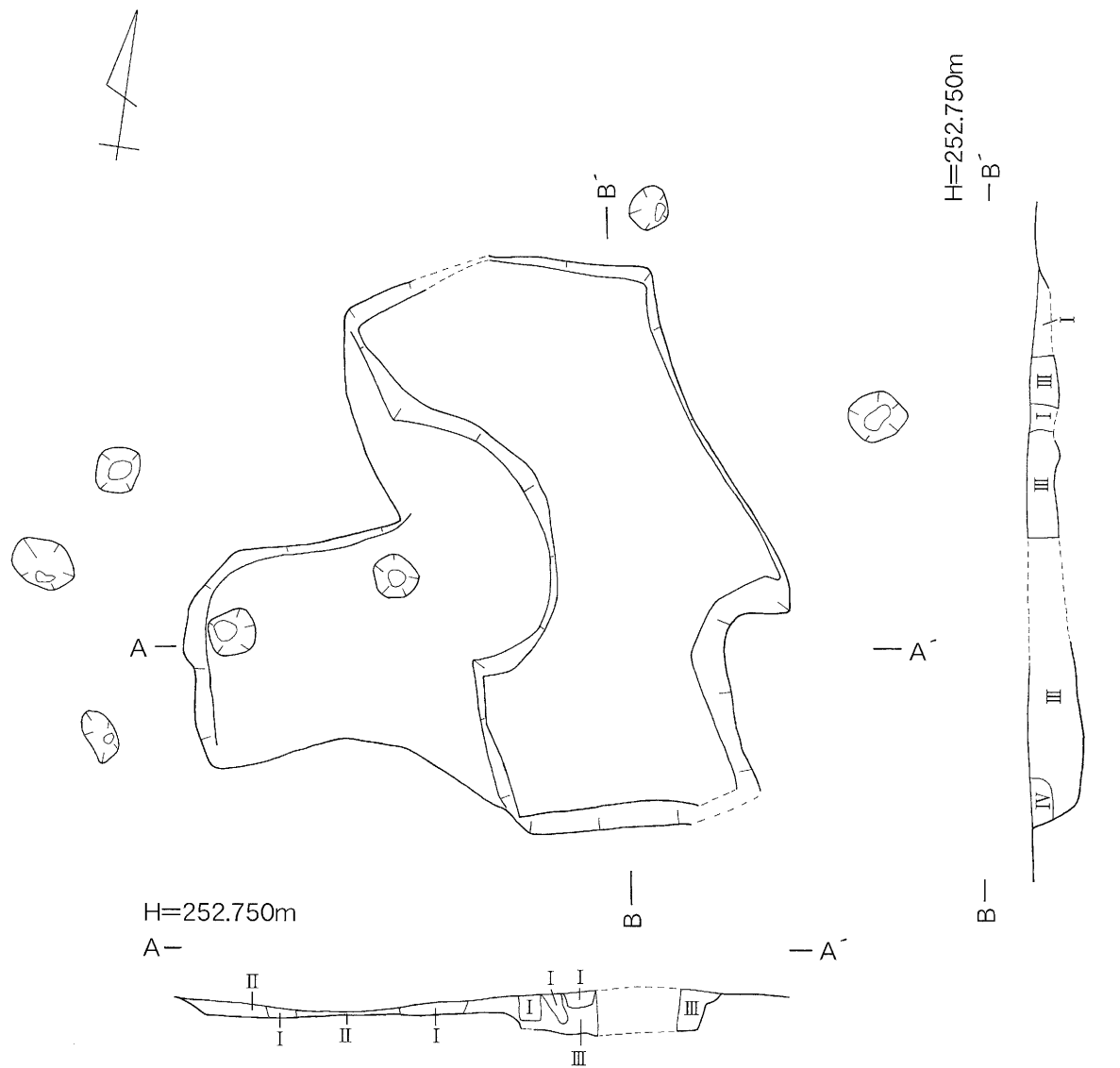
57・58・59は縄文後期のものと思われる。57は鉢の口縁部で、外面に斜位の刺突文が見られる。丸尾式と施文の仕方は似ているが、貝殻による刺突文ではないようである。58もまた鉢の口縁部で、山形口縁である。口縁部外面はくの字状に肥厚し、その周辺に貝殻刺突文が施される。また、口唇部にも刺突文が見られる。59は鉢の口縁部である。口縁部は肥厚させており、口唇端部は平坦に作られている。無文の土器である。

60は台付皿形土器の台部である。外面には沈線が描かれ、器面はミガキによる調整が施され

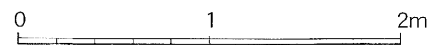


- I. Hue5Y2/2オリーブ黒色土  
ゴボウのトレンチャーによる攪乱。
- II. Hue5Y2/2オリーブ黒色土  
Hue2.5Y6/6明黄褐色土、Hue7.5YR褐色土、Hue2.5Y4/3オリーブ褐色土のブロックを含む。  
直径1mm程度のパミスを含む。
- III. Hue2.5Y4/3オリーブ褐色土

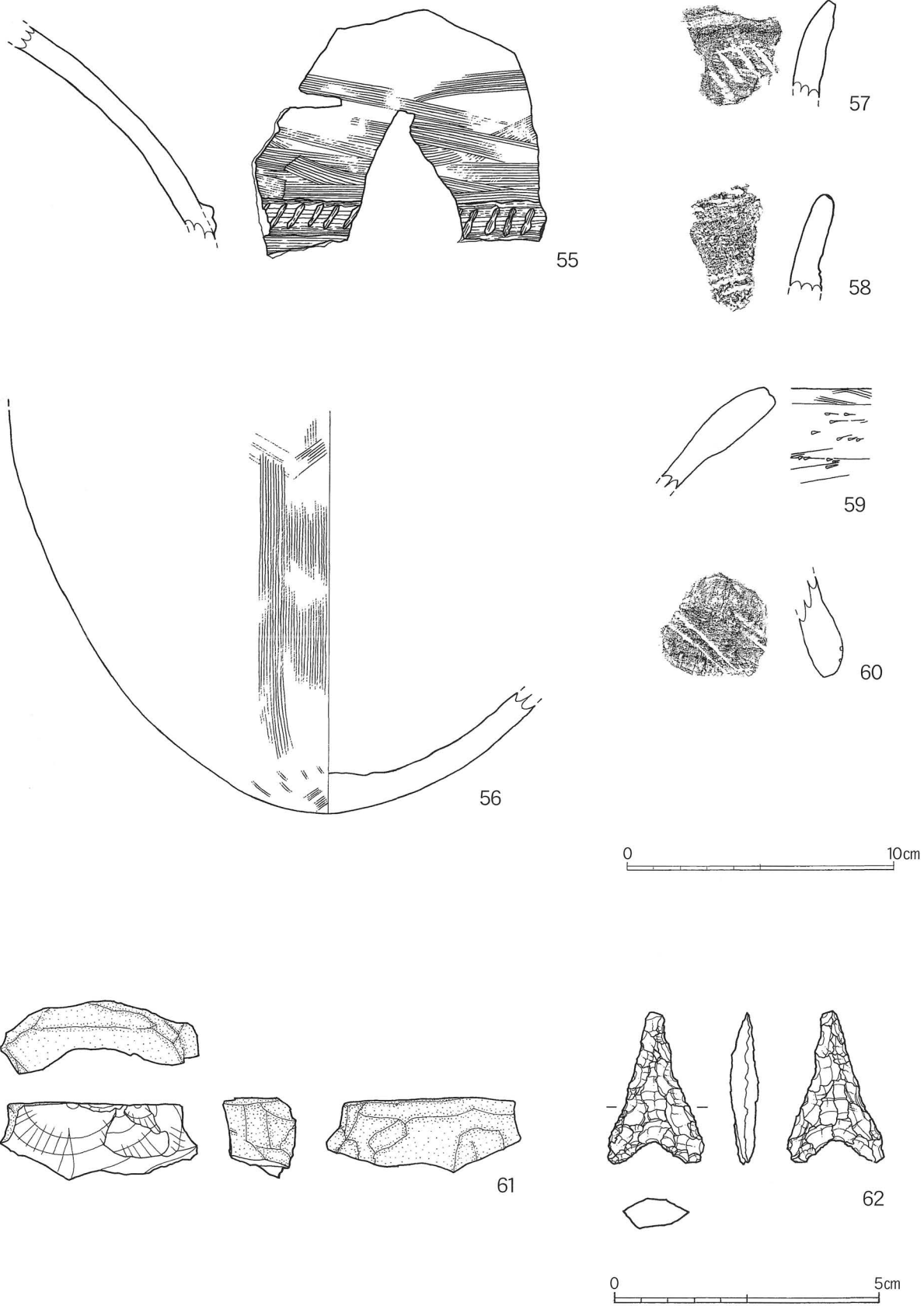
第26図 SA-7 平面図および土層断面図



- I. Hue2.5Y5/1黄灰色土  
ゴボウのトレンチャーによる攪乱。
- II. Hue2.5Y4/2暗灰黄色土  
Hue2.5Y6/8明黄褐色土アカホヤ(1mm~2cm)を含む。  
キメが細かく、サラサラしている。
- III. Hue5Y4/2灰オリーブ土  
Hue2.5Y6/6明黄褐色土アカホヤ(1~3mm)を含む。  
やや粘質
- IV. Hue2.5Y4/3オリーブ褐色土  
ゴボウのトレンチャーによる攪乱。



第27図 SX-1 平面図および土層断面図



第28図 SX-1 出土遺物

ている。内面もまた横方向に磨かれているのを確認することができる。

61は黒曜石石核、62はチャート製の石鏃である。62の石鏃は住居跡内床面から出土している。

## 8 SX-2 (第29図、図版10)

不整形の不明遺構である。2区南東側の壁沿いに位置し、アカホヤ面で検出された。一部、イモツボによって切られている。土が溜まっただけの窪みかとも思われたが、明らかに周囲とは土が異なり、アカホヤのブロックを含んだ埋土であることがわかる。遺構内外にピットも多数確認され、住居跡内中央部には東西方向に一列に並んで出土している。遺物は総数40点ほど出土したが、特徴あるものはごく数点に留まる。

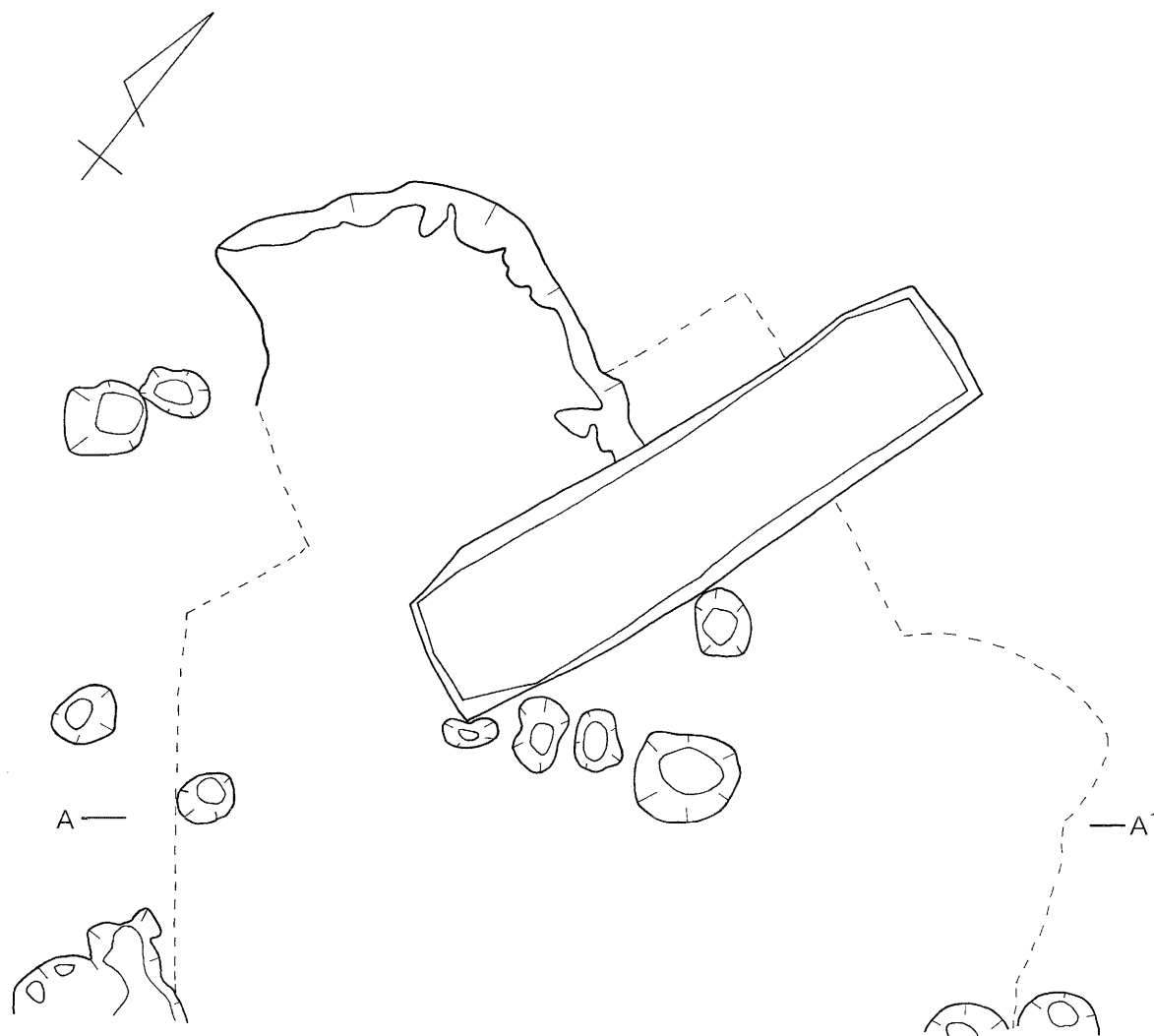
### 《出土遺物》(第30図、図版22)

63は鉢だと思われ、口径24.1cm、底径7.4cmである。器形は平底で胴部は丸みを帯び、頸部でわずかな段差を形成して口縁部は外反する。口縁部は端部に近づくにつれて薄くなり、口唇端部は丸く仕上げられている。内外面にハケによる調整痕が見られ、外面はハケ後のナデ調整も見られる。また、外面には布目の圧痕らしきものも見られるが明瞭ではなく、意識的に付けられたものではないと思われる。外面にはススの付着も見られる。

64は甕の口縁部で、口縁直下に刻み目突帯をもつ。小片であるため器形は判然としない。65は台付甕の底部で底径は12.2cmである。内外面ともハケ後ナデによる調整が認められる。66は甕の底部で、底径5.8cmを測る。わずかに上げ底の底部で、底部から一旦直立して立ち上がり、胴部は大きく外側へと広がる。胎土に砂礫を非常に多く含み、外面には縦方向・横方向のハケ目を確認できる。胎土に多く含まれている砂礫で器面がざらついていることもあり、内面調整は不明瞭であるが、おそらくナデ調整が施されている。

67は縄文後期の鉢の口縁部である。口縁部は波状口縁で、口縁部外面には斜位の貝殻腹縁刺突文が施され、その直下に横位の貝殻腹縁刺突文が見られる。内面はナデによる調整である。

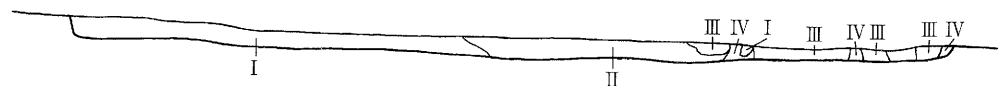
68は黒曜石石核である。他にも黒曜石やチャート剥片が出土したが、ごく少量にすぎない。



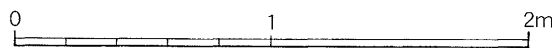
H=252.250m

A—

—A'

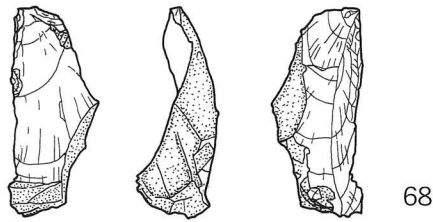
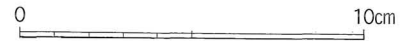
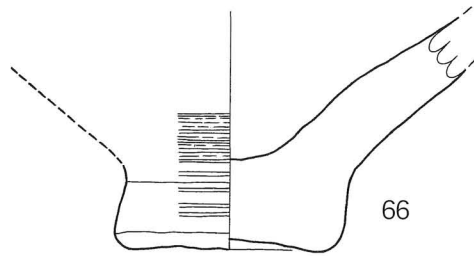
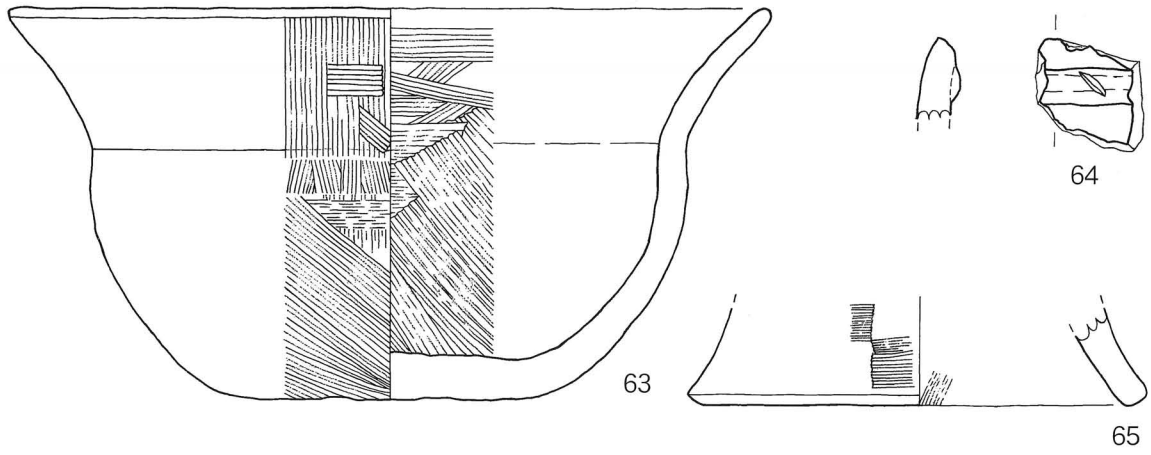


- I. Hue2.5Y2/1黒色土  
アカホヤが少量混じる。  
しっとりとしている。  
埋土。黒ボク土。
- II. Hue2.5Y2/1黒色土  
Hue2.5Y6/8明黄褐色土アカホヤがやや多く混じる。  
埋土。黒ボク土。
- III. Hue5Y3/1オリーブ黒色土  
Hue2.5Y6/8明黄褐色土アカホヤ(2~3mm)を多く含む。  
攪乱層
- IV. Hue2.5Y6/8明黄褐色土アカホヤ



第29図 SX-2 平面図および土層断面図

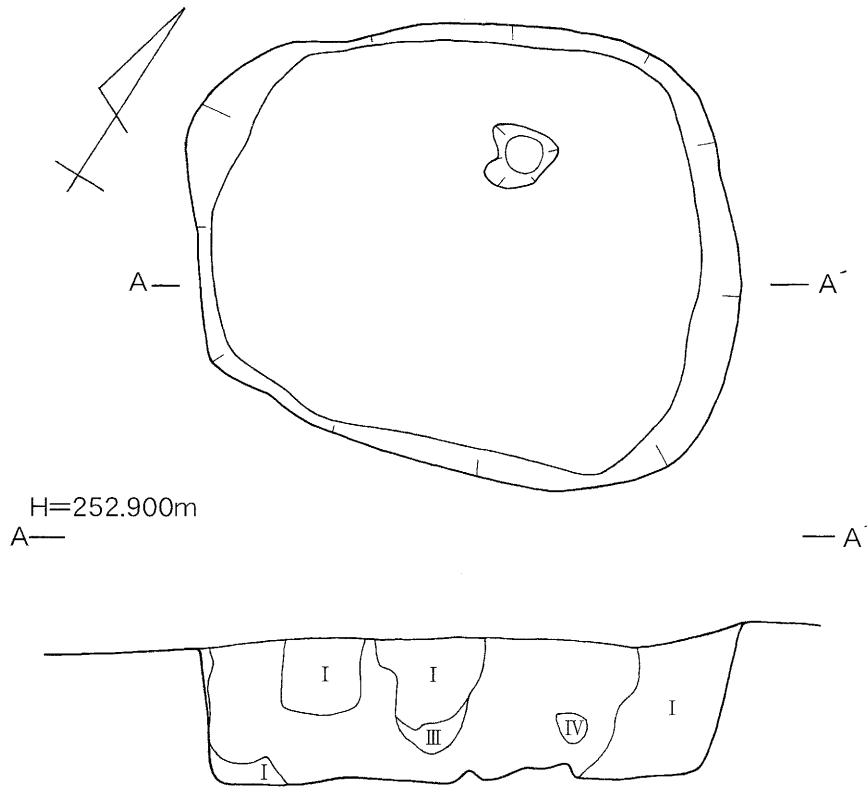




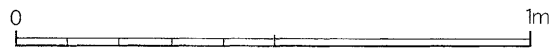
第30図 S X - 2 出土遺物

9 SC-1 (第31図、図版11)

1.05cm×0.9cm、深さ30cmの円形土坑である。ごく少量の遺物が出土したが、土坑の用途など詳細不明である。遺物も約10点ほど出土したがほとんどが黒曜石剥片で、土器も小片で特徴を捉えられるものはなかった。



- I. ゴボウのトレンチャーによる攪乱
- II. Hue2.5Y2/1黒色土  
キメが細かくしっとりしている。  
埋土。
- III. Hue2.5Y2/1黒色土  
Hue2.5Y6/6明黄褐色土のブロック(5mm)を含む。  
キメが細かく、しっとりとしている。
- IV. Hue2.5Y2/1黒色土とHue2.5Y6/6明黄褐色土が混じる。



第31図 SC-1 平面図および土層断面図

## 第5章 3区調査の記録

### 第1節 概要(第33図、図版2)

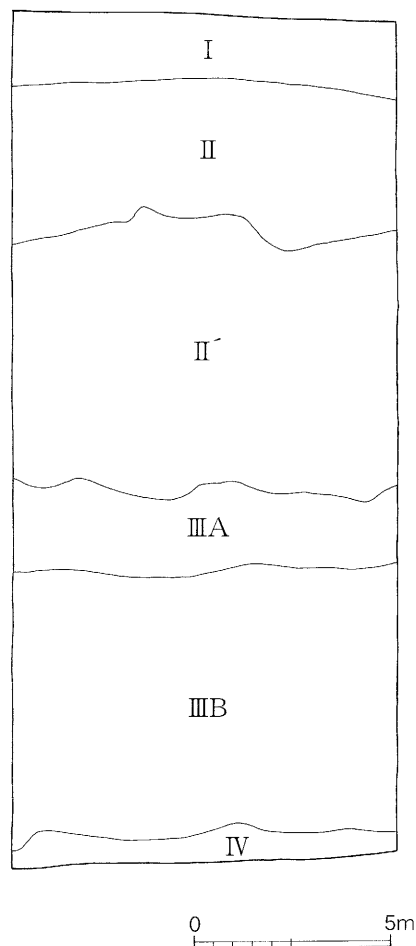
3区の調査面積は約1,200㎡である。3区は遺物分布の広がりを見るため、初めにトレンチを二箇所設定して確認調査を行った。その結果、盛土や攪乱土の下の黒ボク土から多くの土器片や炭化物が出土し、1区・2区よりも出土密度が高いことが判明した。

西側より重機による表土剥ぎを開始し、黒ボク土直上まで表土を剥いだ。その後、ジョレンかけを行い、人力で掘削を開始した。旧地形は西側から東側へ向かって傾斜していく地形であったため、畑を整地する際に西側を中心に大きく削平されていた。

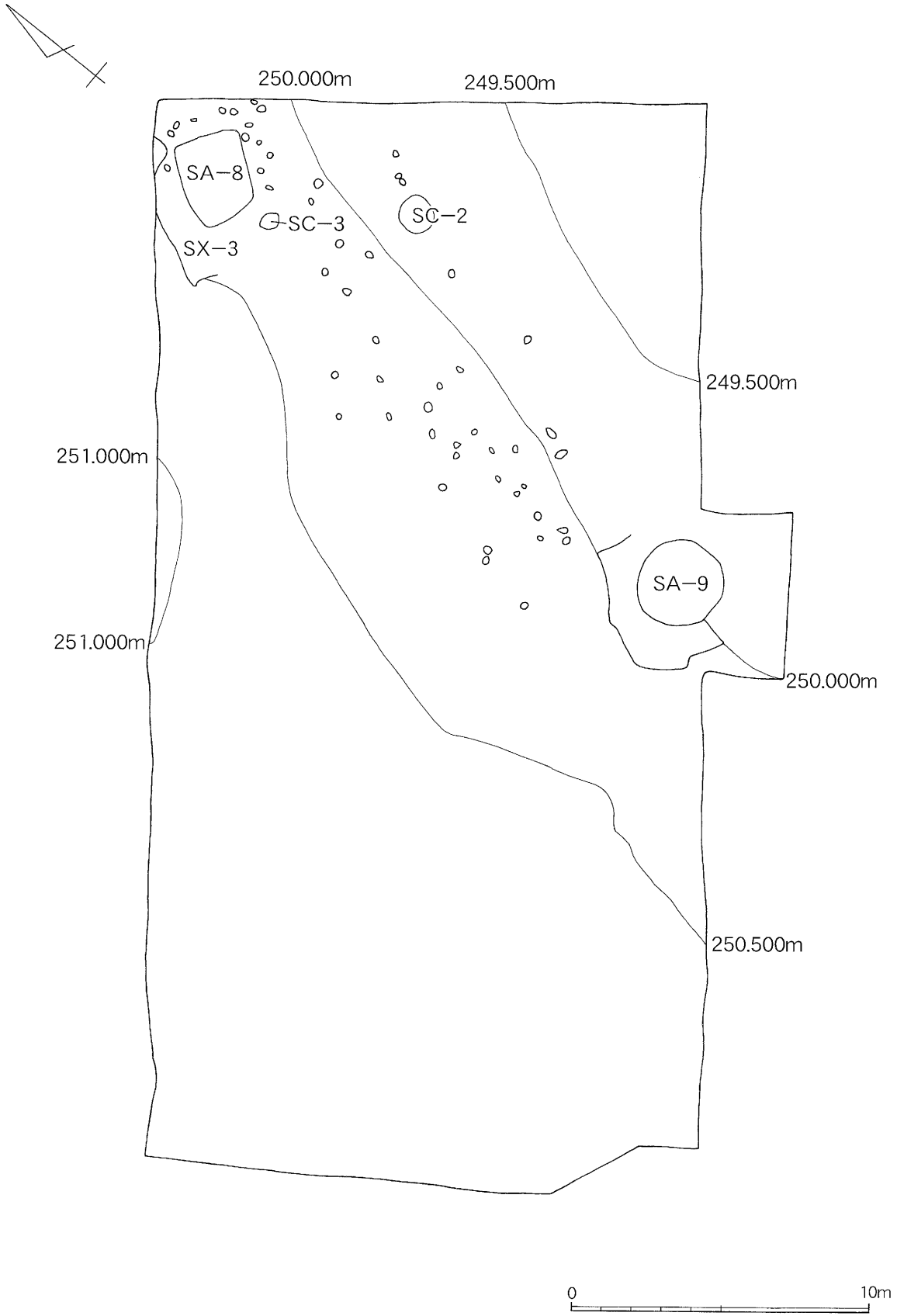
掘削を進めていくと大量の土器片が出土し、また地形から東側の黒ボク土の残りが良いため、東側からの出土遺物が目立った。遺構は住居跡2基、土坑2基が検出されている。

### 第2節 基本土層(第32図)

I層は黒褐色土(Hue10YR2/2)の表土で、草の根が大変多く入り込んでいる。II層は黒色土(Hue7.5YR2/1)で、I層と同様に草の根が入り込み、また直径2mm～1cm程度のアカホヤのブロックを含んでいる。II層はアカホヤやオリーブ黒色土、黒ボク土のブロックが入り混じっている盛土である。III A層は黒ボク土(Hue10YR2/1黒色)で、粒子は非常にキメが細かく、直径3mm程度のパミスを含んでいる。III B層は黒ボク土(HueN1.5/黒色)で、しまりがよく、粒子はキメが細かい。IV層は暗オリーブ褐色土(Hue2.5Y3/3)で、アカホヤの直上層にあたる。非常にキメが細かい土で、若干粘質である。遺物包含層はIII A層およびIII B層で、3区東側へ向かうほどその残存状態は良好であった。特にIII B層から多くの遺物が出土している。



第32図 3区基本土層図



第33图 3区地形图

### 第3節 遺構・遺物

#### 1 SA-8、SX-3(第34図、図版12・13)

SA-8は3区北東、アカホヤ面で検出された。2.5m×3.0mの隅丸方形プランで、幸いトレンチャーによる攪乱はさほど受けていなかった。住居跡中央部には土坑を有し、遺構の内外に柱穴が多く見られた。

SX-3はSA-8の東側に切り合った状態で出土している。二つの遺構の埋土を観察してみると、SX-3の方がSA-8よりも先に作られ、その後SA-8が作られていることが判明した。SX-3はアカホヤ面での検出で、深さは10cm弱と浅い。北西側に直径約1.4mの土坑を有するが、遺構全体が調査区の壁に入り込んでいて遺構の全形を把握することはできなかった。遺物は10数点出土したが、良好な資料は得られなかった。

#### ≪SA-8出土遺物≫(第35・36図、図版23)

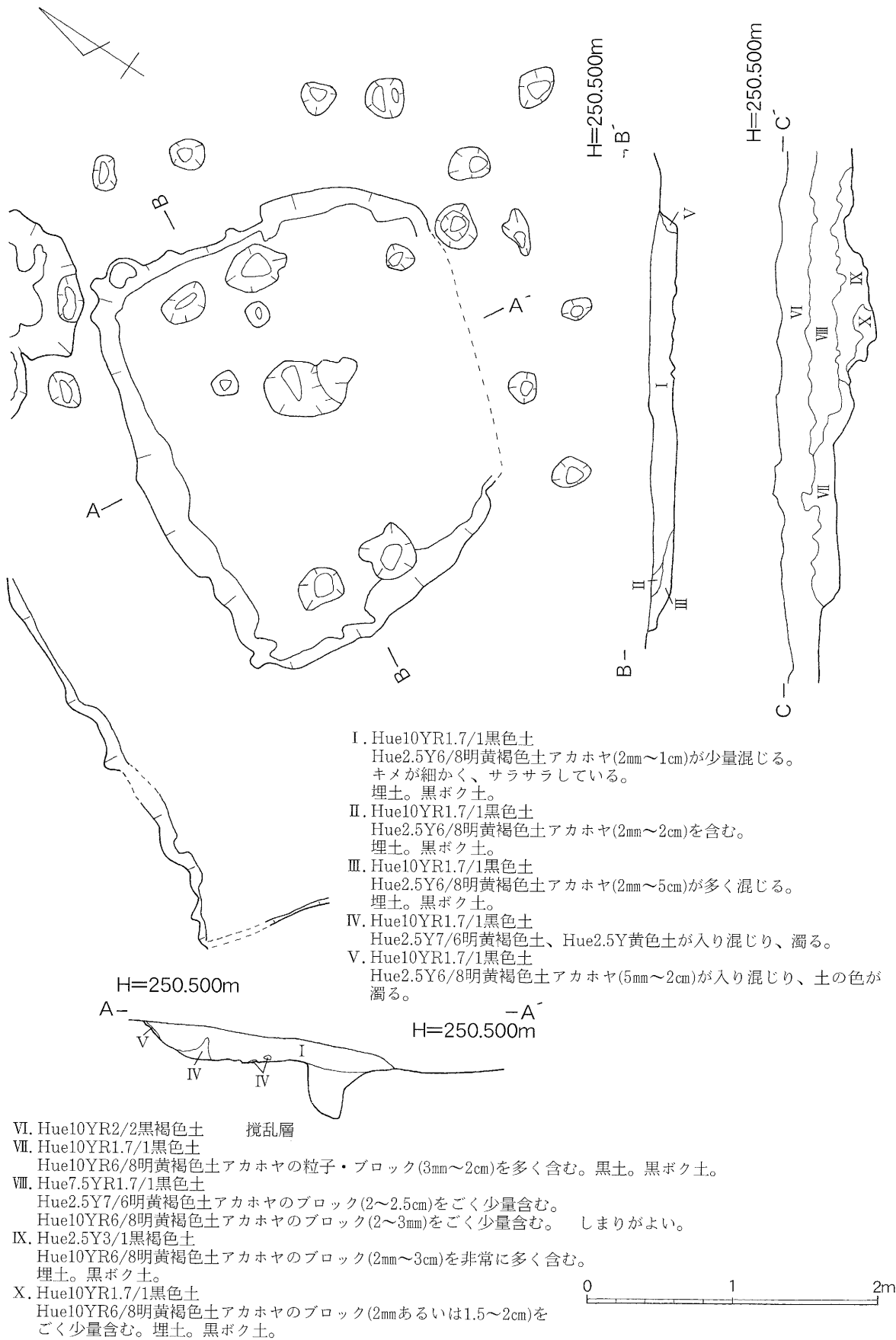
69は甕の口縁部である。小片であるため、頸部から胴部がどのような形状であったかは不明である。器面はハケによる器面調整が施され、口唇端部は一応平坦に仕上げられるが、端部外側部分は若干丸く仕上げられてメリハリをもたない。70は甕の頸部～胴部である。頸部の屈曲は緩く、屈曲部分に貼り付けの刻み目突帯が見られる。突帯には布目圧痕が残る。内外面ともハケ後ナデによる調整が見られる。71は口径11.6cmの小型甕の口縁～胴部で、器壁は非常に薄い。胴部はほぼ直線状で膨らみをもたず、頸部でわずかに段をもって、口縁部は丸く外反している。器面には太目のハケ、細目のハケが使用されている。72は台付甕の底部で、底径8.4cmを測る。脚部は中空脚台で、器面には多方向のハケ・ナデ調整が施されている。

73は壺の口縁～肩部で、口径は11.25cmである。肩部は張り、頸部はくの字状に屈折し、口縁部は外反する。口縁部はやや肥厚しており、口唇部は斜めに平坦に仕上げている。口縁部には横方向のハケ、肩部には多方向のハケ調整が認められる。頑丈なつくりである。74は壺の口縁部である。おそらく二重口縁壺で、貼り付けていた口縁端部がはがれてしまったものであると思われる。

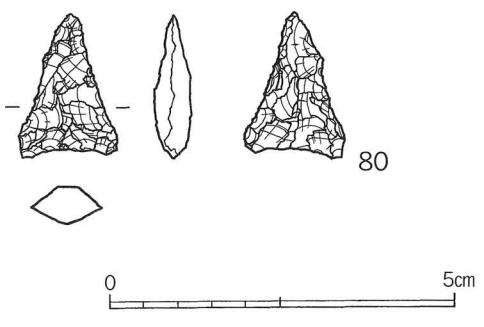
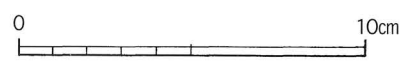
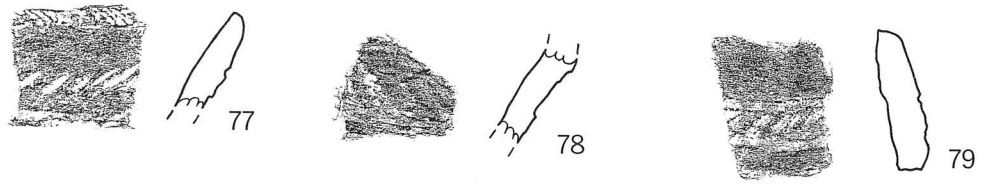
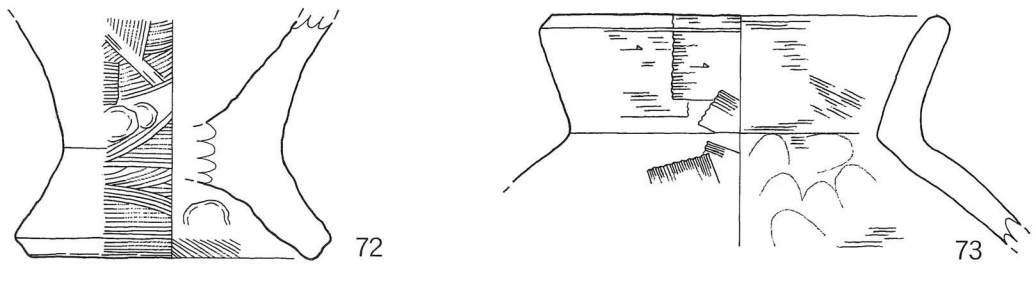
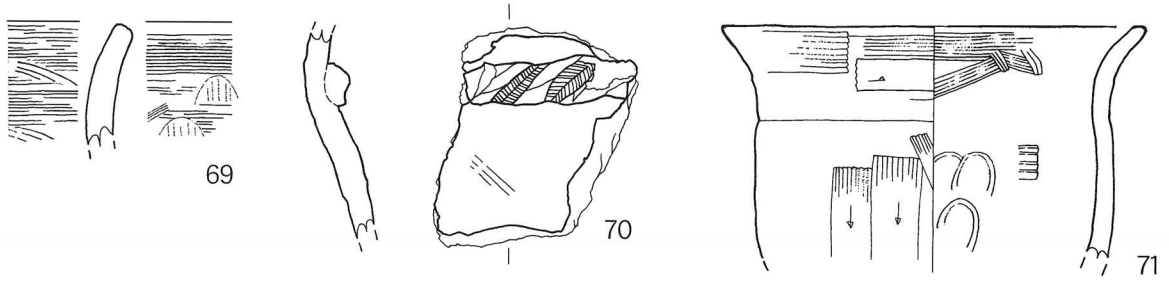
75は甕の口縁部である。直立する胴部から、口縁部は外側に真横へと屈折する。内外面ともにハケによる調整が見られる。黒髪式時期のものと思われる。76は甕の口縁部である。口縁部は端部を外側に折り返しており、断面三角形を成している。内外面にはハケによる調整が認められ、内面はほとんどナデによる調整が見られる。他のSA-8出土遺物とは時代が異なり、75・76は弥生中期のものと思われる。おそらく住居埋土に流れ込んだものと推測される。

77・78は縄文時代の鉢と思われ、二点とも胎土中に金雲母を含んでいる。77は口縁部を外側に折り返しており、幅約3cm程度の肥厚帯となる。肥厚帯と口唇部には刻み目が付けられている。78は縄文後期の丸尾式と思われ、口縁部には貝殻押引文が認められる。住居の年代と大きく差異が生じるため、これら二点も75・76に加えて流れ込みと見たほうがよいと思われる。

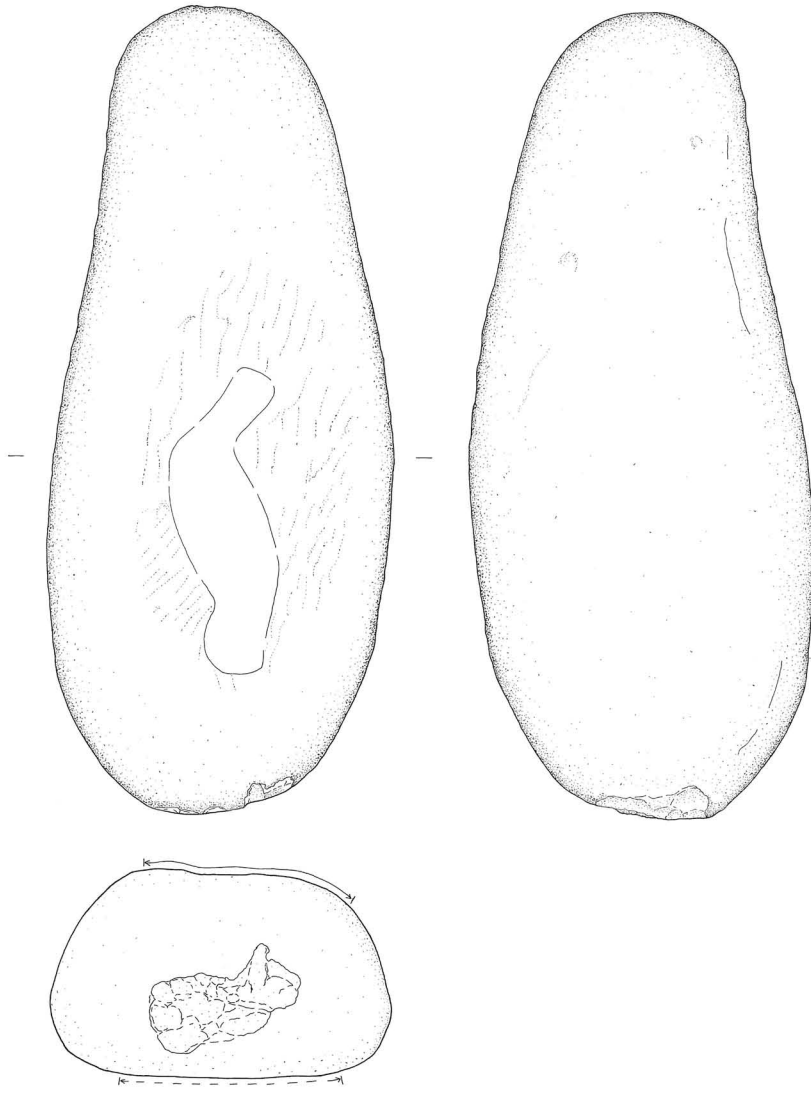
79は台付皿形土器の台部である。透かしを有し、外面には沈線による施文が見られる。



第34図 SA-8、SX-3平面図および土層断面図



第35图 SA-8 出土遺物(1)



81

第36図 SA-8 出土遺物(2)



80は黒曜石製の石鏃である。81は住居跡中央の土坑に斜めに突き刺さった状態で出土した。

## 2 SA-9 (第37図、図版14・15)

ベッド状遺構を有する花卉形住居跡である。3区南東側の壁側に位置し、アカホヤ面で検出された。住居跡の一部は土手に入り込んでいたため、ベルトを残して掘り、土層の記録を行った後、土手を除去して再び遺構検出を行った。ベッド状遺構は住居跡の北から南に広がり、住居跡中央部は整った円形である。埋土は黒ボク埋土で、土中には焼土も少量含まれていた。遺物は多く出土し、遺構の東南部からの出土が目立った。また、床面からも良好な資料が出土した。

### 《出土遺物》(第38・39・40・41・42図、図版24・25)

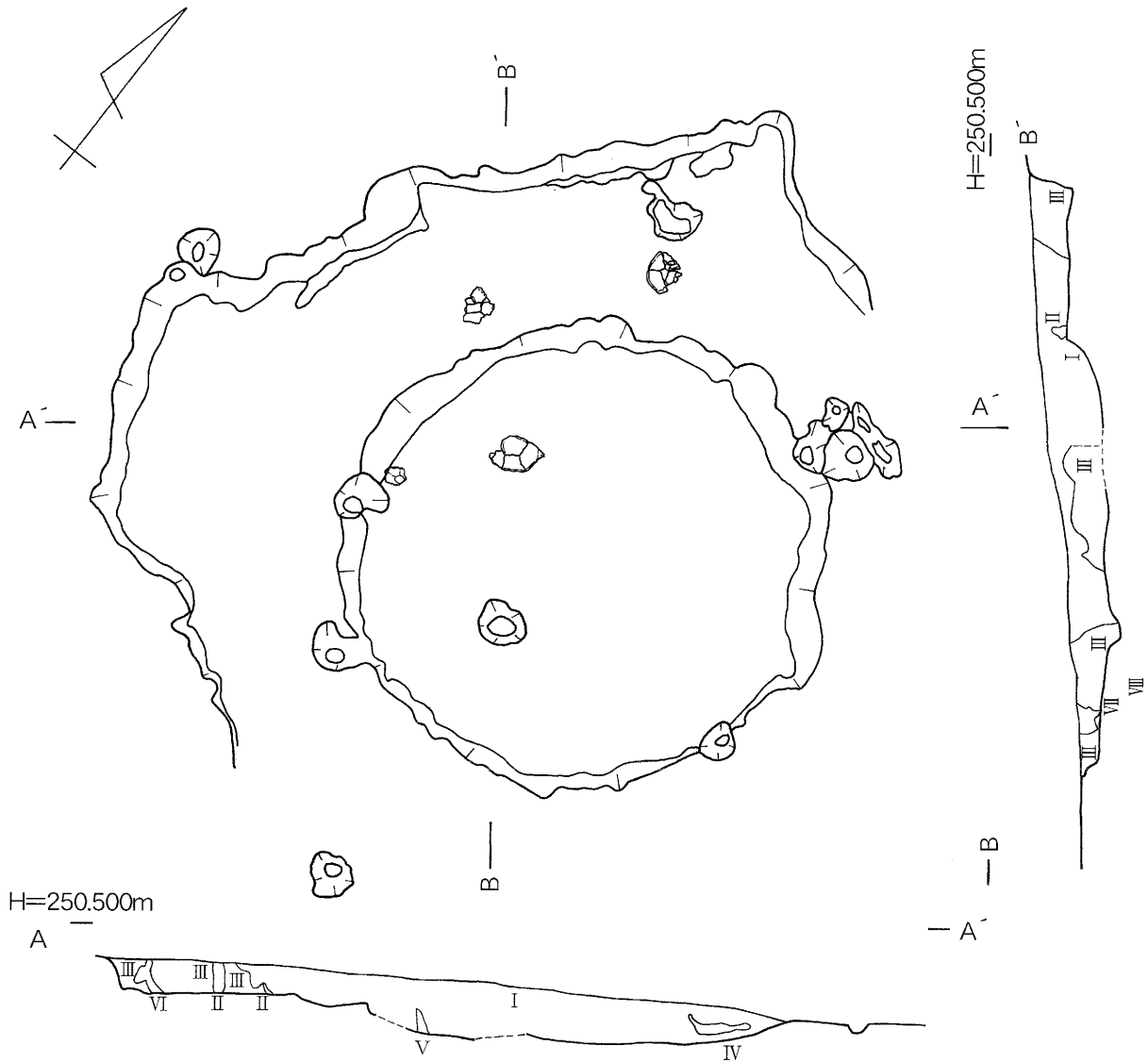
82は甕の頸胴部である。胴部は膨らみをあまりもたず、頸部と胴部の境目には段を有し、口縁部は直立に近い。外面はハケ、ヘラによる調整、内面はハケによる器面調整と見られる。83は甕の口縁部で、口径は22.4cmを測る。頸部の屈曲はあまく、内外面に明瞭にハケ目が残る。口唇部は凹状に成形され、丁寧に仕上げられている。84は口径25cm、底径4.5cmの甕で、完形の姿を復元できた。底部はわずかに上げ底で、胴部中位に最大径をもち、肩部はそれほど張らない。口唇端部は平坦を基調とするが、丸みをもつ。内外面とも太目のハケで器面調整され、外面は口縁～肩部にかけてススが多く付着している。胎土中にごく少量の金雲母を含む。85は甕の口縁～胴部で、住居跡中央の床面に近い地点から出土した。胴部は球形に近い丸い膨らみで、屈曲する頸部には幅約1cmの刻み目突帯が付されている。外面胴部は太目のハケで丁寧に器面調整され、頸部から口縁部にかけては細目のハケによって調整される。外面胴部は太目のハケで丁寧に器面調整され、頸部から口縁部にかけては細目のハケによって調整される。胴下部には一部ミガキを確認できる。内面は摩滅が激しい部分も見られるが、丁寧に磨かれているの確認できる。内外面には黒斑が見られ、胎土には金雲母を含む。

86は台付甕の底部で、底径は9.0cmと推測される。端部は強く外側に張り出す。内外面ともにハケによる器面調整が施され、内面にはさらにナデによる調整が見られる。

87は平底で、直線的に外反した後丸い膨らみをもつ。外面は非常に丁寧に磨かれ、内面にはハケ目が見られるが多少剥離している。

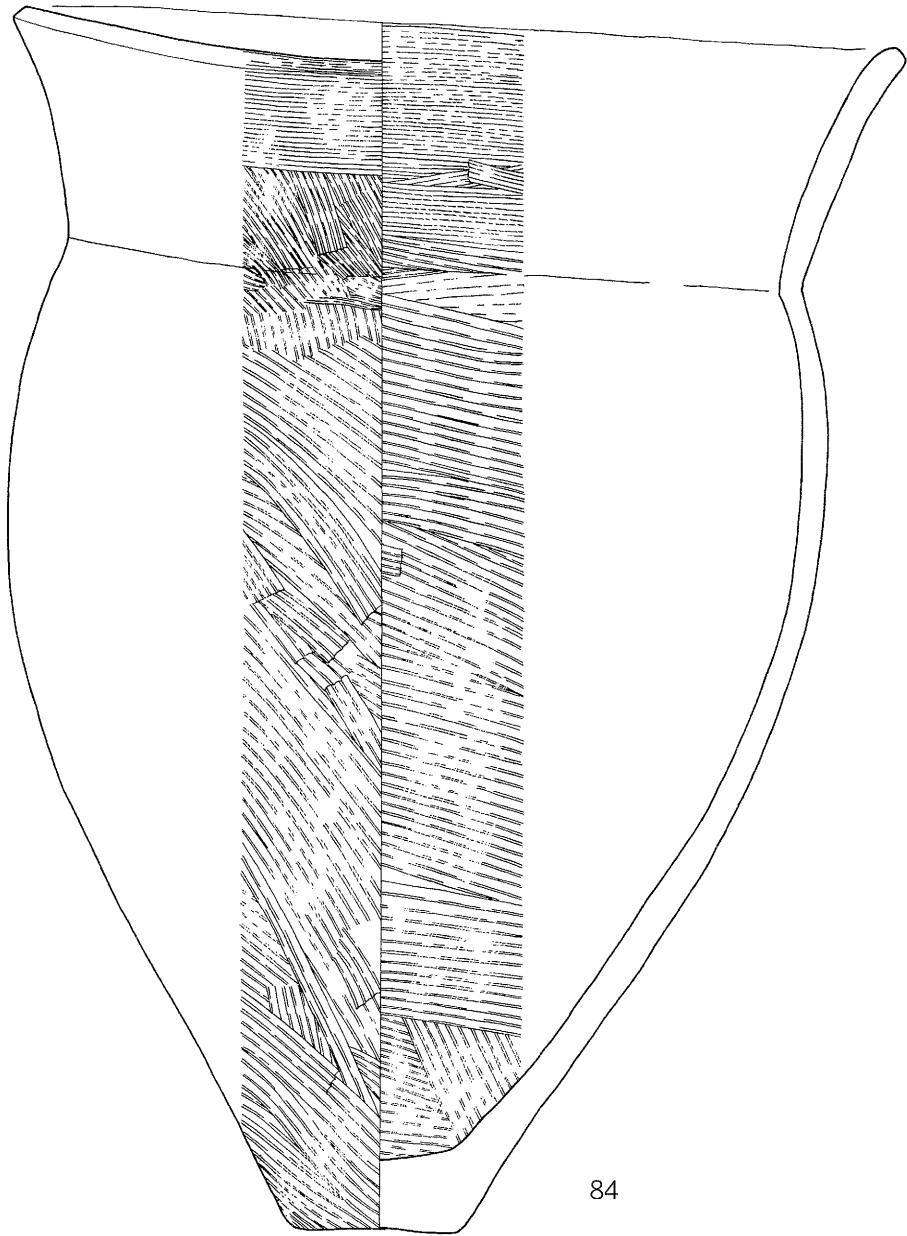
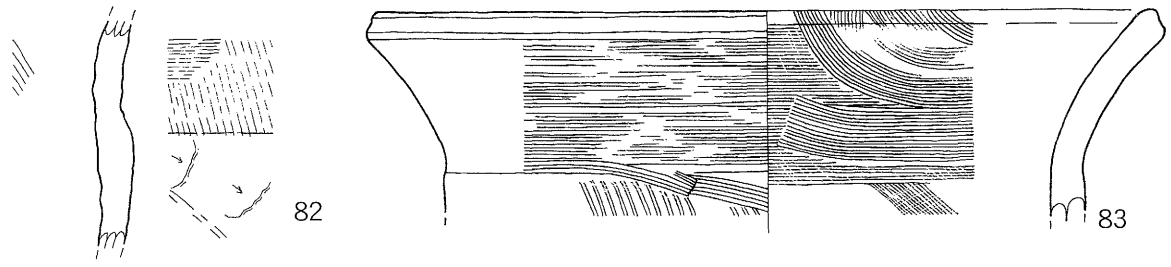
88は平底で、底部からはほぼ垂直に立ち上がる。外面には太目のハケ調整痕が見られ、内面はナデによる調整である。

89は壺の口縁部である。口縁には細目の櫛描波状文が描かれている。



- I. Hue10YR1.7/1黒色土  
Hue10YR6/8明黄褐色土アカホヤの粒子・ブロック(2mm~4cm)を含む。  
メが細かく、サラサラとしている。埋土。黒ボク土。
- II. Hue2.5Y6/8明黄褐色土アカホヤ  
Hue10YR2/2黒褐色土の粒子が均一に入り混じる。
- III. Hue10YR1.7/1黒色土  
Hue10YR6/8明黄褐色土アカホヤの粒子・ブロック(2mm~4cm)を多く含む。  
キメが細かく、サラサラとしている。埋土。黒ボク土。
- IV. Hue10YR2/1黒色土  
アカホヤで若干濁る。
- V. Hue10YR1.7/1黒色土  
Hue10YR6/8明黄褐色土アカホヤのブロック(2mm)を含む。  
Hue2.5Y3/3暗オリーブ褐色土のブロック(2~3cm)を含む。
- VI. Hue10YR1.7/1黒色土  
Hue10YR6/8明黄褐色土のアカホヤの粒子・ブロック(2mm~2cm)を含み濁る。
- VII. Hue2.5Y2/1黒色土  
Hue10YR6/8明黄褐色土アカホヤの粒子を多く含む。  
全体的にアカホヤで黄色がかっている。
- VIII. Hue2.5Y2/1黒色土  
Hue10YR6/8明黄褐色土アカホヤの粒子・ブロック(2~3mm)をごく少量含む。

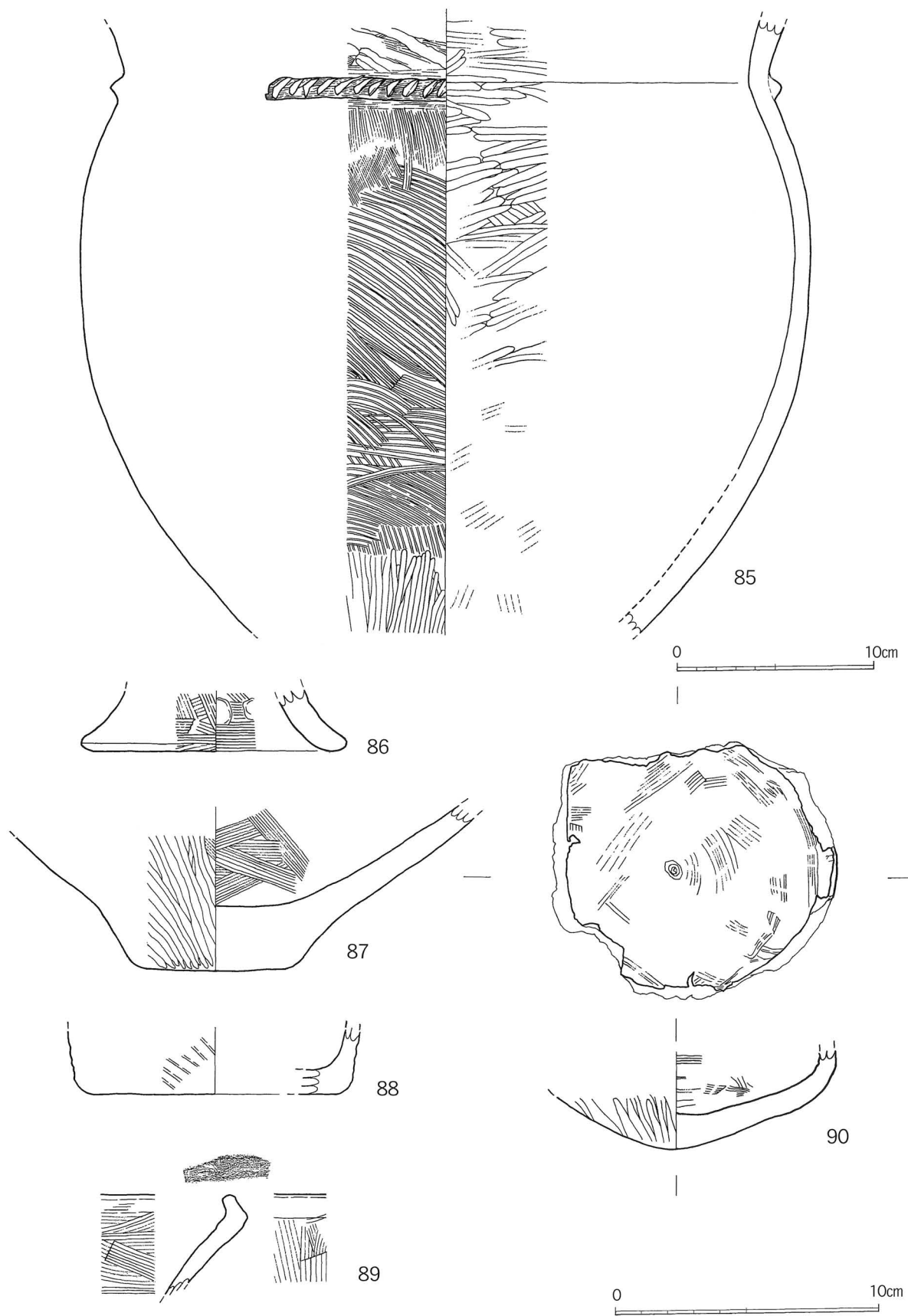
第37図 SA-9 平面図および土層断面図



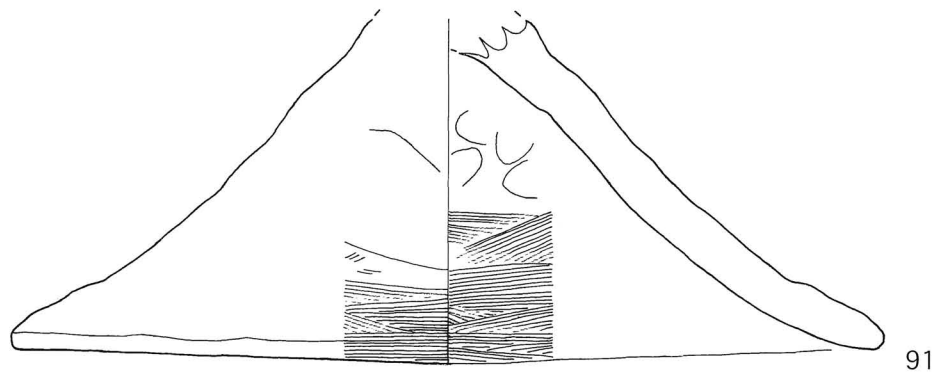
84

0 10cm

第38图 SA-9 出土遺物(1)



第39図 SA-9 出土遺物(2)



92



93



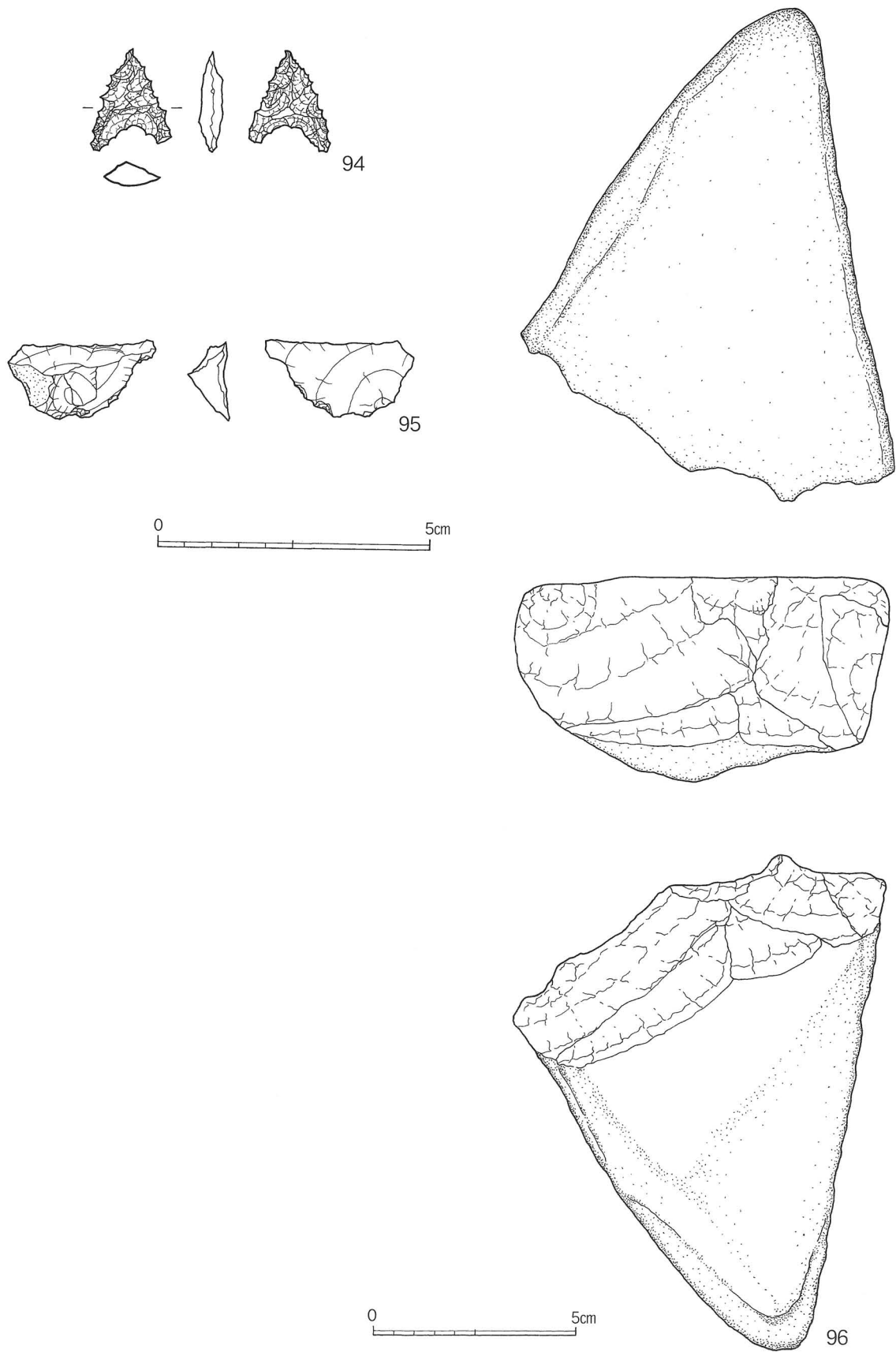
第40図 SA-9 出土遺物(3)

90は壺の底～胴部である。底部は尖底で、胴部は最大径部で強い屈曲をみせる。内面には円形の刺突痕らしきもの(焼成前に付けられたもの)が見られるが、どのようなことに使用されたものなのかは分からない。外面にはミガキによる調整が施され、内面にはハケ、ナデによる調整が見られる。

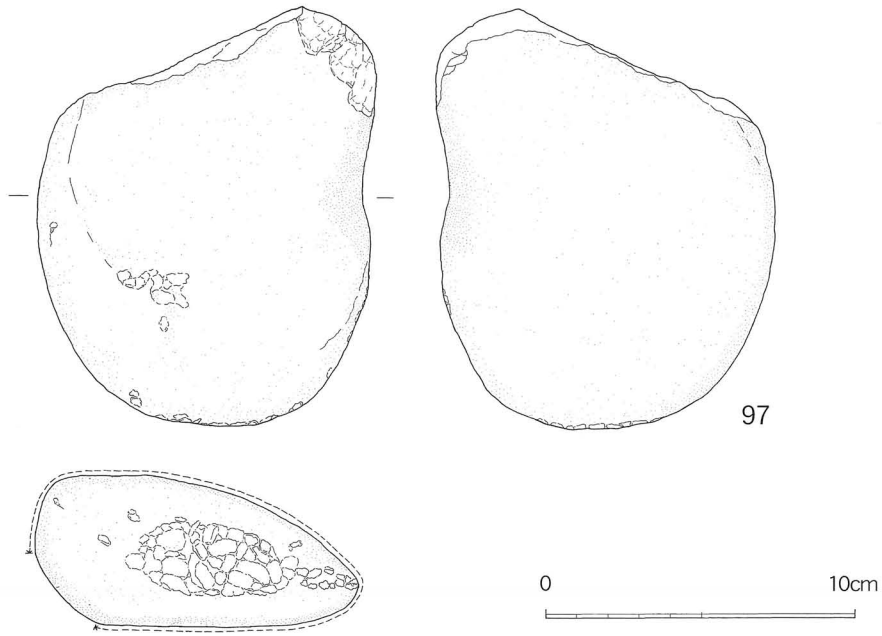
91は径25.1cmの蓋である。住居跡内北東側の床面より出土した。出土直後は蓋上部も残存していたが、焼成が非常に軟弱ですぐに崩れてしまった。外面にはハケ目や板状工具痕が残り、内面はハケまたは指押さえによって調整されている。器面は凹凸が目立ち、形も不整形で粗雑につくられた土器である。内面の外周にはススが付着し、蓋として使用された様子が伺える。胎土には金雲母を含んでいる。

92は鉢の口縁部で、外面に貝殻条痕文・貝殻刺突文、内面にも貝殻条痕文が見られるが、全体的に摩滅していて不明瞭である。93の残存部は胴部で外面に沈線あるいは刺突による施文が認められるが、器種はよく分からない。内面はナデ調整が施されている。縄文時代の土器と思われ、遺構に流れ込んだものであろう。

94は石鏃、96は台石、97は敲石で石材は砂岩が使用されている。98は砂岩製の砥石で縦方向に擦痕が見られる。

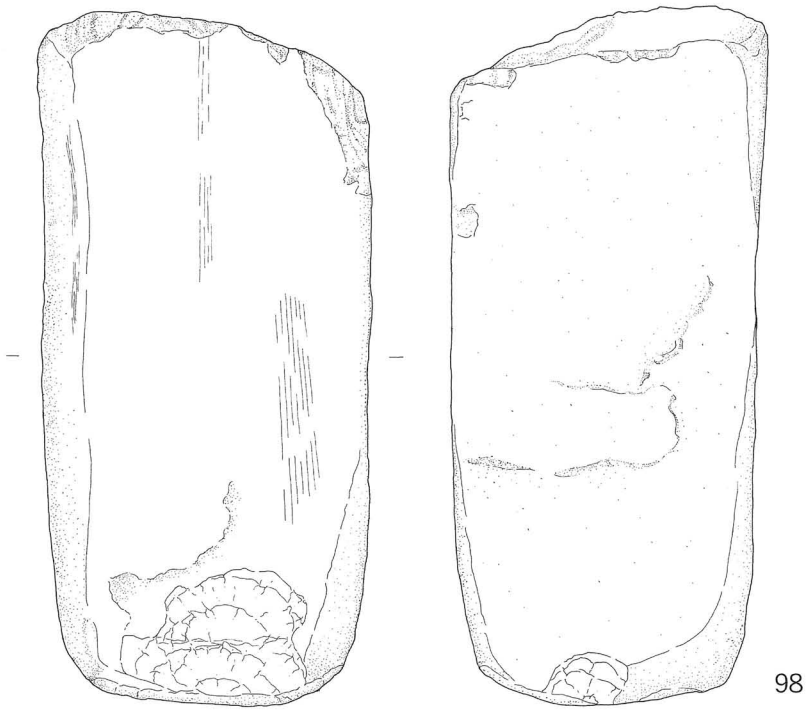


第41図 SA-9 出土遺物(4)



97

0 10cm



98

0 10cm

第42図 SA-9 出土遺物(5)

### 3 SC-2 (第43図、図版15)

1.3m×1.4m、深さ約35cmの土坑で、アカホヤ面で検出された。SA-8の南東側に位置している。土坑の用途は不明である。

#### ≪出土遺物≫(第44図、図版25)

99は甕の口縁部で、口径20.0cmを測る。頸部は緩く屈曲し、口縁は短く外反する。口唇端部は平坦に仕上げられる。内外面ともにハケ後の指押さえ痕を確認できる。

100は壺の頸部であると思われ、頸部以下の部位と口縁部を別々に成形した後、二つをつなぎ合わせた様子が伺える。外面にはハケによる調整、内面にはナデによる調整が認められる。

101は平底の底部である。底径は4.5cmを測り、内外面ともナデによる調整が施されている。

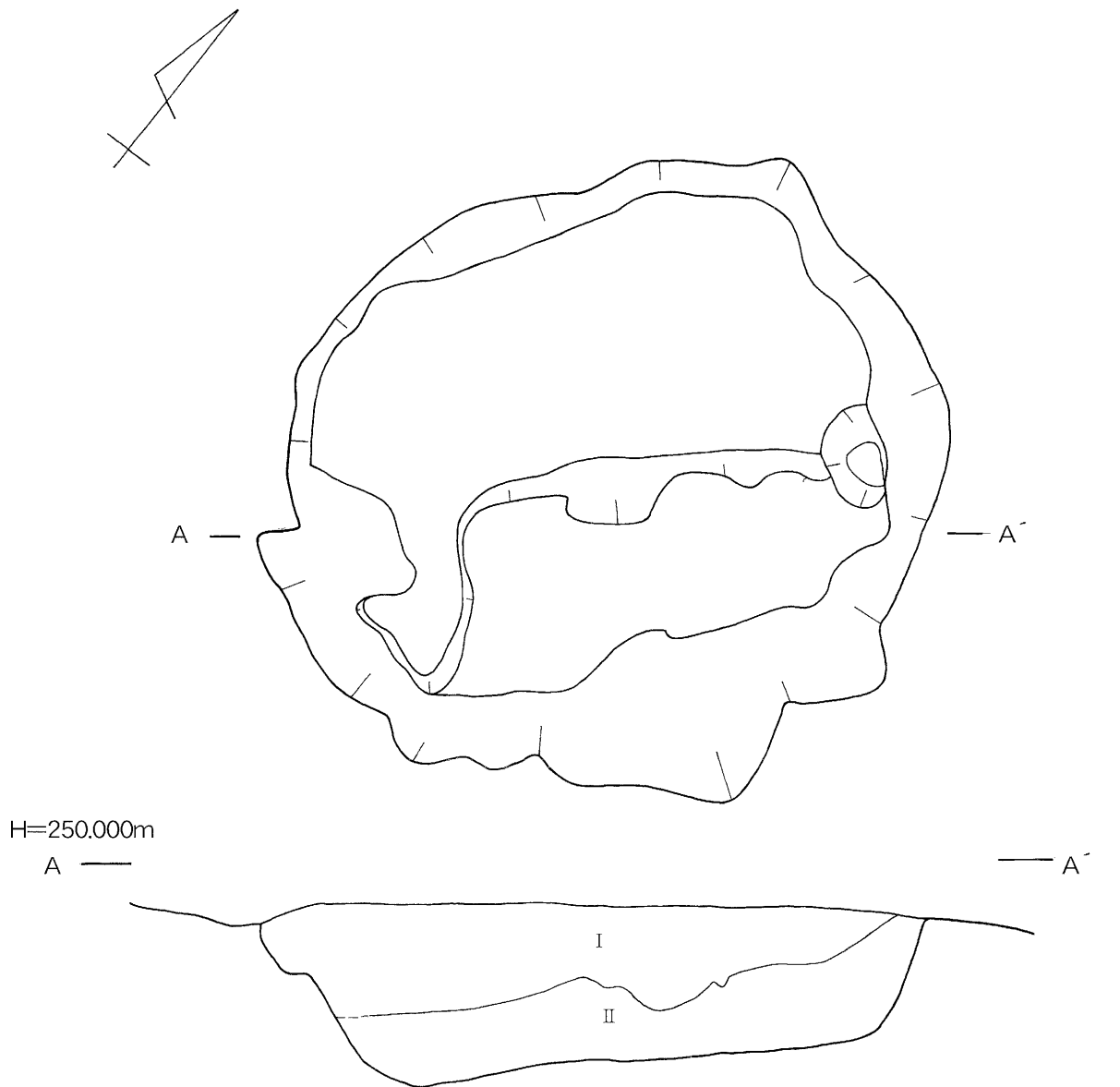
102は縄文後期の鉢口縁部である。外面は貝殻条痕文後にナデ調整され、貝殻腹縁刺突文が施されている。内面はナデによる調整である。

103は石鏃で、石材は頁岩か。104は使用痕剥片で、黒曜石製である。

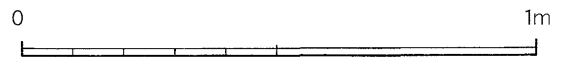
### 4 SC-3 (第45図、図版16)

50cm×90cm、深さ約10cmで不整形の楕円形土坑である。SA-8の南側に隣接している。アカホヤ直上面で検出を行った。遺物は全く出土せず、土坑の用途は不明である。

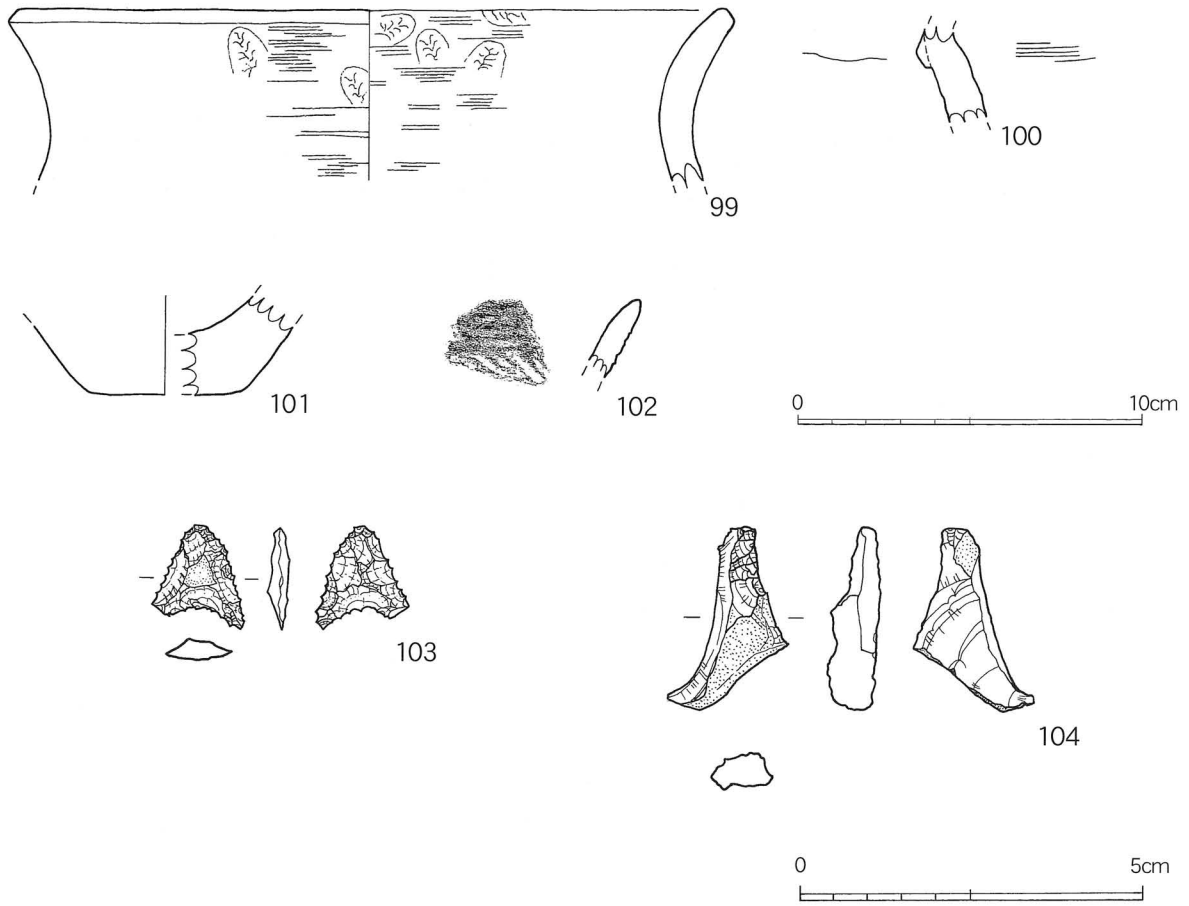




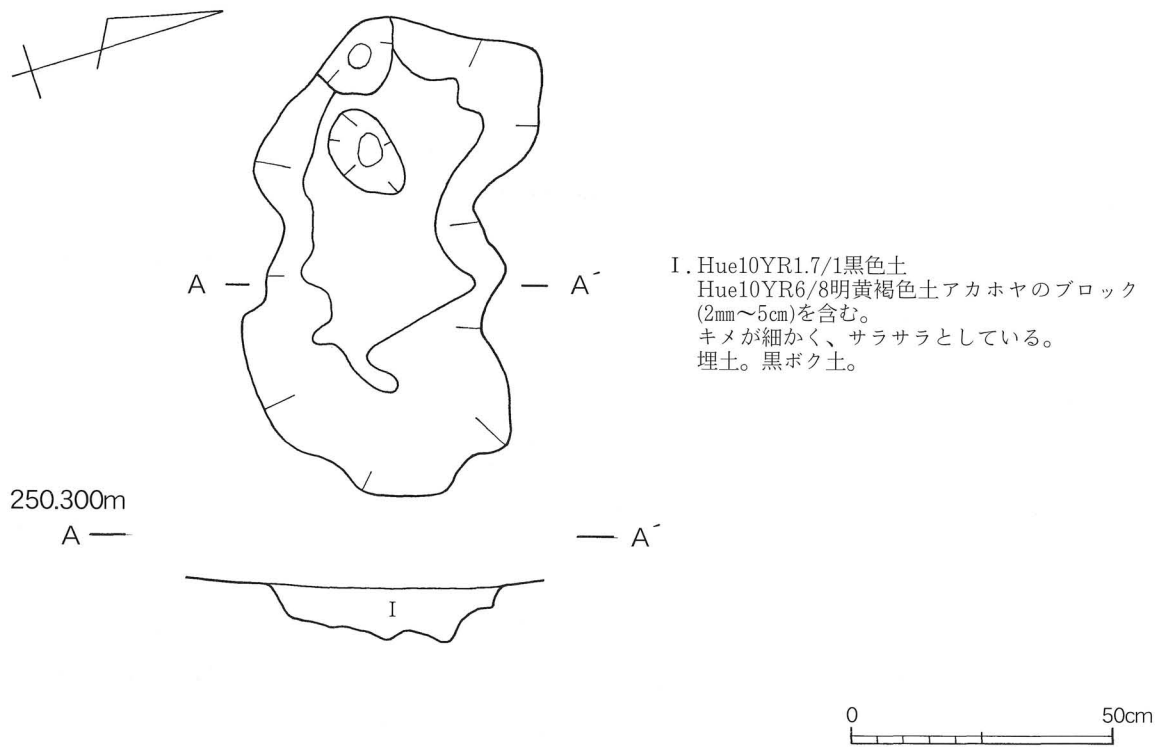
- I. Hue10YR1.7/1黒色土  
 Hue10YR6/8明黄褐色土アカホヤのブロック(2mm~3cm)を多く含む。  
 キメが細かい。  
 埋土。黒ボク土。
- II. Hue10YR2/1黒色土  
 Hue10YR6/8明黄褐色土アカホヤのブロック(2mm~3cm)を含む。  
 Iと比較して、アカホヤの細かい粒子を含んでいるため、色調が明るい。  
 キメが細かい。  
 埋土。黒ボク土。



第43図 SC-2 平面図および土層断面図



第44図 SC-2 出土遺物



第45図 SC-3 平面図および土層断面図

## 第6章 包含層出土遺物

包含層から出土した遺物については、出土した調査区を問わず、一括して時代ごと、器種ごと、タイプごとに掲載する。また第2節については、本遺跡内から出土する遺物は弥生時代から古墳時代への過渡期にわたる資料であるため「弥生」「古墳」と明瞭な線引きを行うことが困難である。よって、「弥生時代以降の土器」として掲載している。

### 第1節 縄文時代の土器

#### 《鉢》

##### ＜貝殻擬似縄文＞(第46図、図版26)

105～111は鉢の口縁部である。すべて口縁部は若干内側に湾曲する。中でも110・111は口縁端部を内側に強く曲げている。105の外側は横方向に丁寧に磨かれ、口縁上部の2本の平行する波状沈線の間には貝殻擬似縄文が施されている。口縁部は波状口縁で、口唇端部は刻み目が付されている。106は口縁部に帯状に貝殻擬似縄文が施され、唯一沈線を持たない。107～111はいずれも数本の沈線の間には貝殻による施文と、磨り消し部分が見られる。109には列点文も施されている。口唇部の形態、施文の仕方などから110・111が同系統、107・108・109が同系統の土器であると思われる。112・113は鉢の頸部である。113は頸部屈曲部に横方向の沈線、沈線以下に貝殻擬似縄文が施されている。112は口縁肥厚部に横方向の沈線、貝殻擬似縄文が見られ、頸部は無文である。114は鉢胴部で、緩やかなカーブを描く。外面には縦・横方向の沈線と貝殻擬似縄文が施される。

##### ＜縄文＞(第46図、図版26)

115～120は鉢の頸胴部である。6点とも沈線と沈線の間には縄文が施されている。116・117の頸部は屈曲が弱く、胴部もさほど張り出さない。118は胴部に沈線の間には縄文、頸部屈曲部に刺突列点文が施されるなど、116と施文の仕方は同じであるものの、頸部は強い屈曲を呈している。119には沈線の先に直径5mm程度の列点が1つある。120には磨きの部分も見られ、117は内外面ともに丁寧にミガキが施されている。

##### ＜丸尾式土器＞(第47・48図、図版27・28)

121～135は「市来式土器の最終形態の土器」といわれる丸尾式土器に相当する。(菅付氏ご教示による。)

残存はすべて深鉢あるいは鉢の口縁部で、器面には貝殻条痕文が施されている。126・128・129・131・132・133には口縁部の逆「く」の字の屈曲部が残り、屈曲部の上下は斜位の貝殻腹縁刺突文、貝殻押引文が施文されている。128・133は山形口縁である。132には、屈曲部下の斜位(右下がり)の貝殻押引文の下に、さらに逆斜位(左さがり)の刺突文が見られる。また

124・125・127は口縁端部にも文様帯をもち、貝殻による刺突文が施されている。

134は他の丸尾式とは文様が異なっているようである。わずかに屈曲する部分の上には斜位の沈線に加え、沈線の先に刺突列点文が見られる。また屈曲部の下には斜位の刺突文、そしてその下の屈曲部には刺突列点文が施されている。

136～139も丸尾式土器であるが、上記土器群と違い口縁部のくの字状の屈曲がなく、口縁部が外反するものである。いずれも内外面に貝殻条痕文が見られ、外面には貝殻腹縁刺突文が施されている。139は山形口縁で、口縁部に二列にわたって貝殻腹縁刺突文が見られる。

#### <丸尾式土器に後続する土器> (第48図、図版28)

140・141は丸尾式の器形・施文が崩れてきた段階のものと思われ、丸尾式に後続するであろう土器である。(菅付氏ご教示による。)140は深鉢口縁～胴部で、頸部がわずかにくびれて外傾する。内外面には貝殻条痕文、頸部外面には斜位の貝殻腹縁押引文が施されている。口縁端部はやや肥厚している。141は深鉢口縁～胴部で、口縁部は山形口縁である。頸部はわずかにくびれ、口縁部は少々内湾している。器面はナデ調整が施され、口縁部外面には二列にわたる刺突文が見られる。

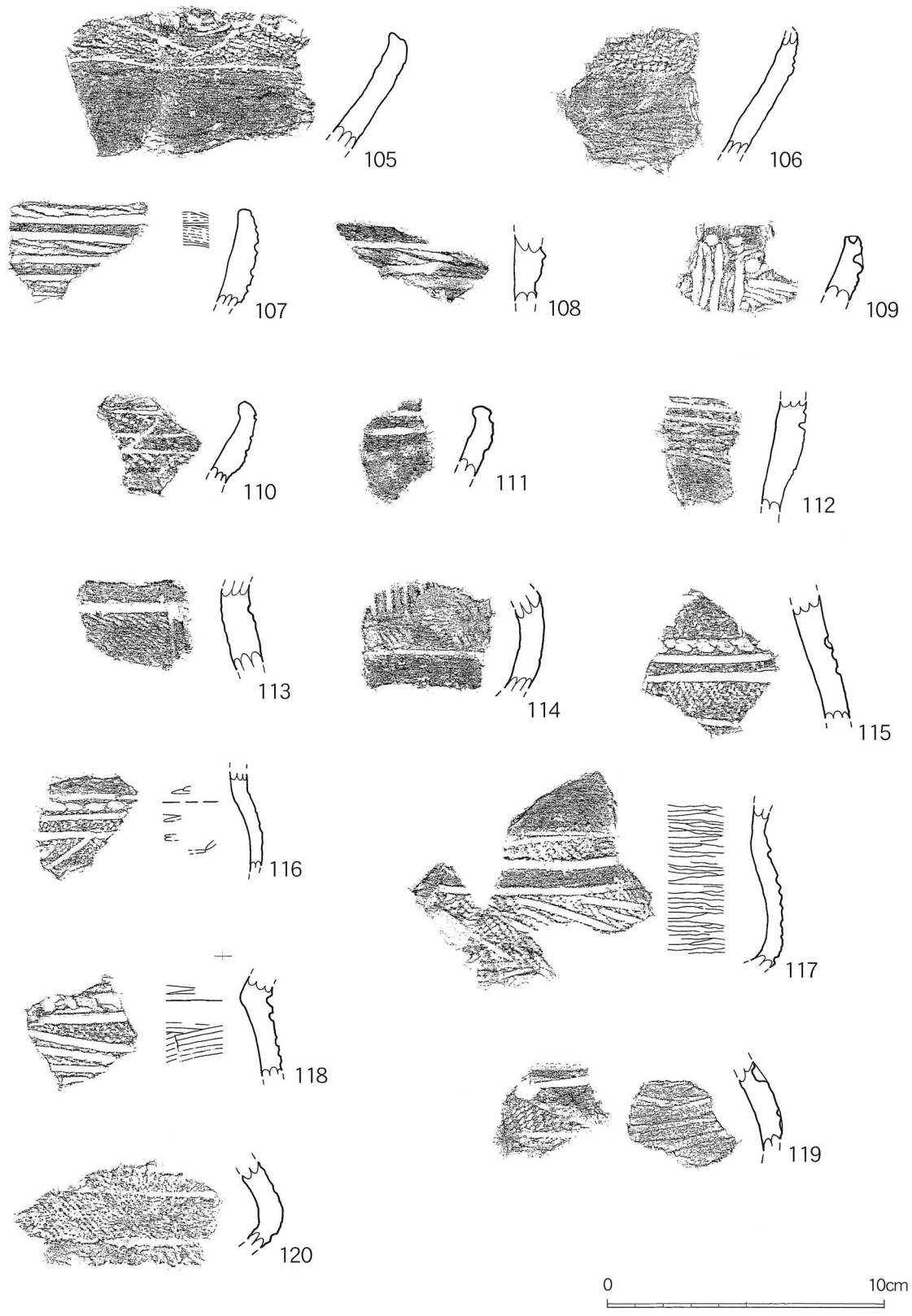
142は深鉢口縁部である。口縁部にはわずかに屈曲部をもち、屈曲部は肥厚するが端部に向けて細くなる。口唇部は平坦である。内面は貝殻条痕文後のナデ調整で、外面には屈曲部の上下に貝殻刺突文、口縁端部に横位・斜位の沈線が施されている。胎土には金雲母を含んでいる。文様は市来式の系統と類似するが異なるようで、丸尾式と相前後する時期か。(本田氏ご教示による。)

#### <<台付皿形土器>> (第49図、図版28・29)

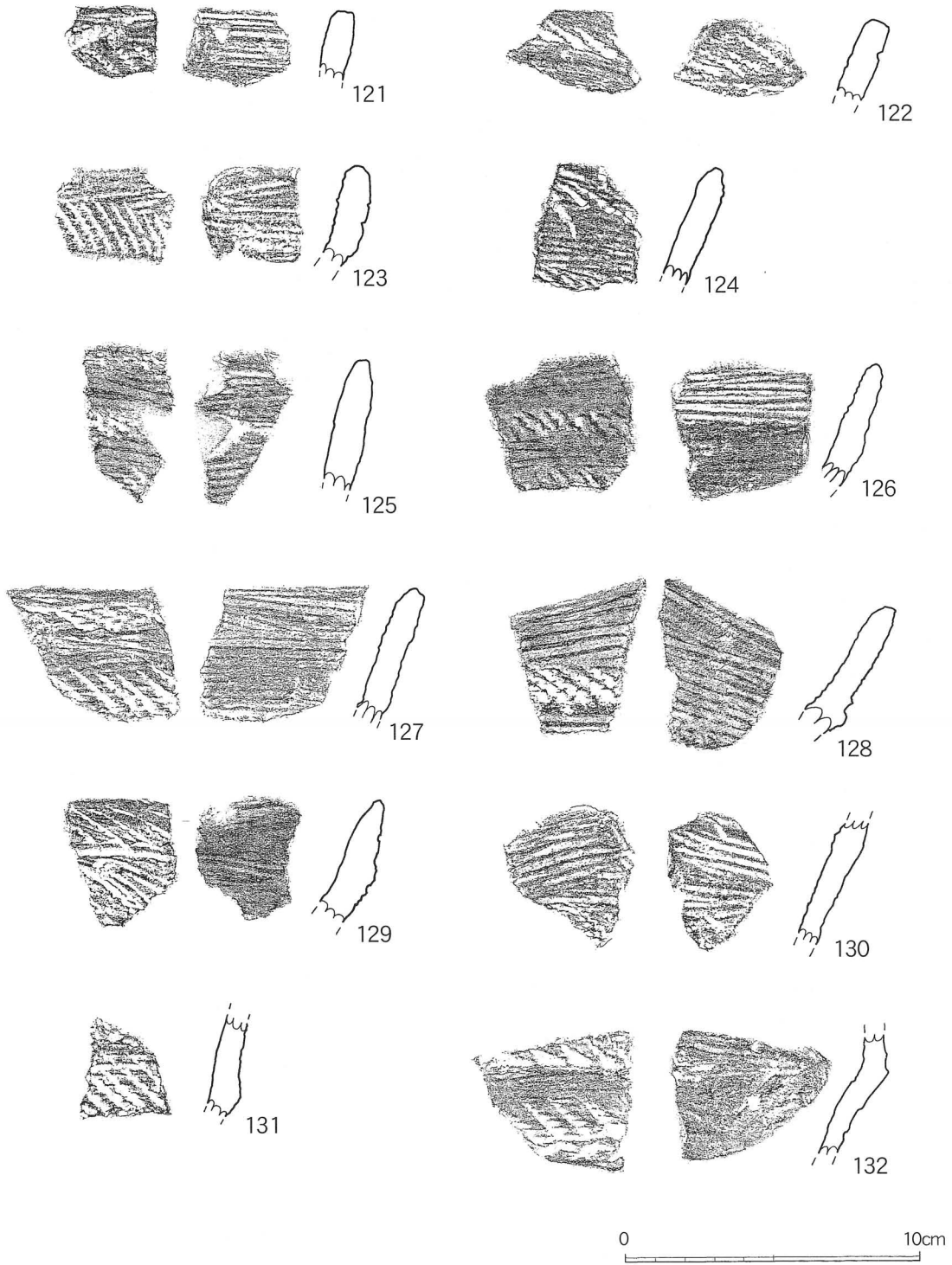
多数出土したものの住居跡出土のものも含めていずれも小片であったため、全体の器形を捉えることはできなかった。

143は皿口縁部で、口縁に貼付文を有する。144も残存部は皿口縁部で、口縁端部に貼付の装飾を有する。器面は内面のみ磨かれている。145も同じく皿口縁部で、縦に3条の貼付文が付されている。146・147は皿の口縁部である。146の内面には刺突列点文によって規則的に施文されている。砂礫を多く含む。147の内面は最も外側になる箇所の一列に刺突列点文、また口唇端部にも刺突列点文が施されている。砂礫が多めで、胎土は146と類似している。148は残存部は皿部で口縁部を欠く。幅約5mm程度の貼付文を有する。149は皿口縁部で、内面の最も外周に梯子のような沈線が描かれている。非常に薄く作られており、内面外面ともに磨かれて丁寧なつくりである。

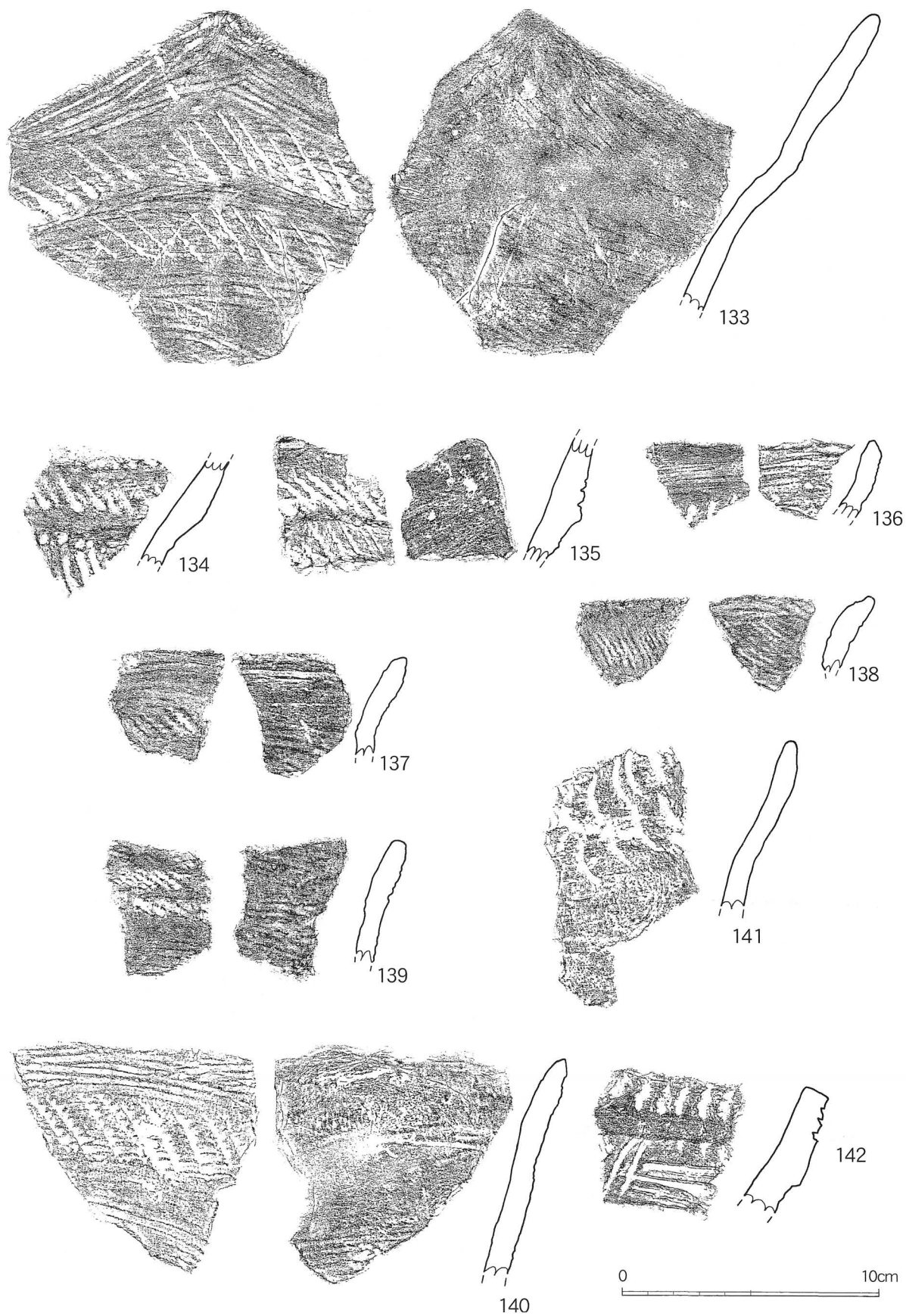
153～158は台付皿形土器の台部である。153は外面にはミガキによる調整が見られ、沈線あるいは刺突による施文が認められる。154は透かしを有する台付皿形土器である。台部には肥厚帯があり、肥厚部分には縦の沈線が何本も見られる。また底面には網代のような跡も見られ



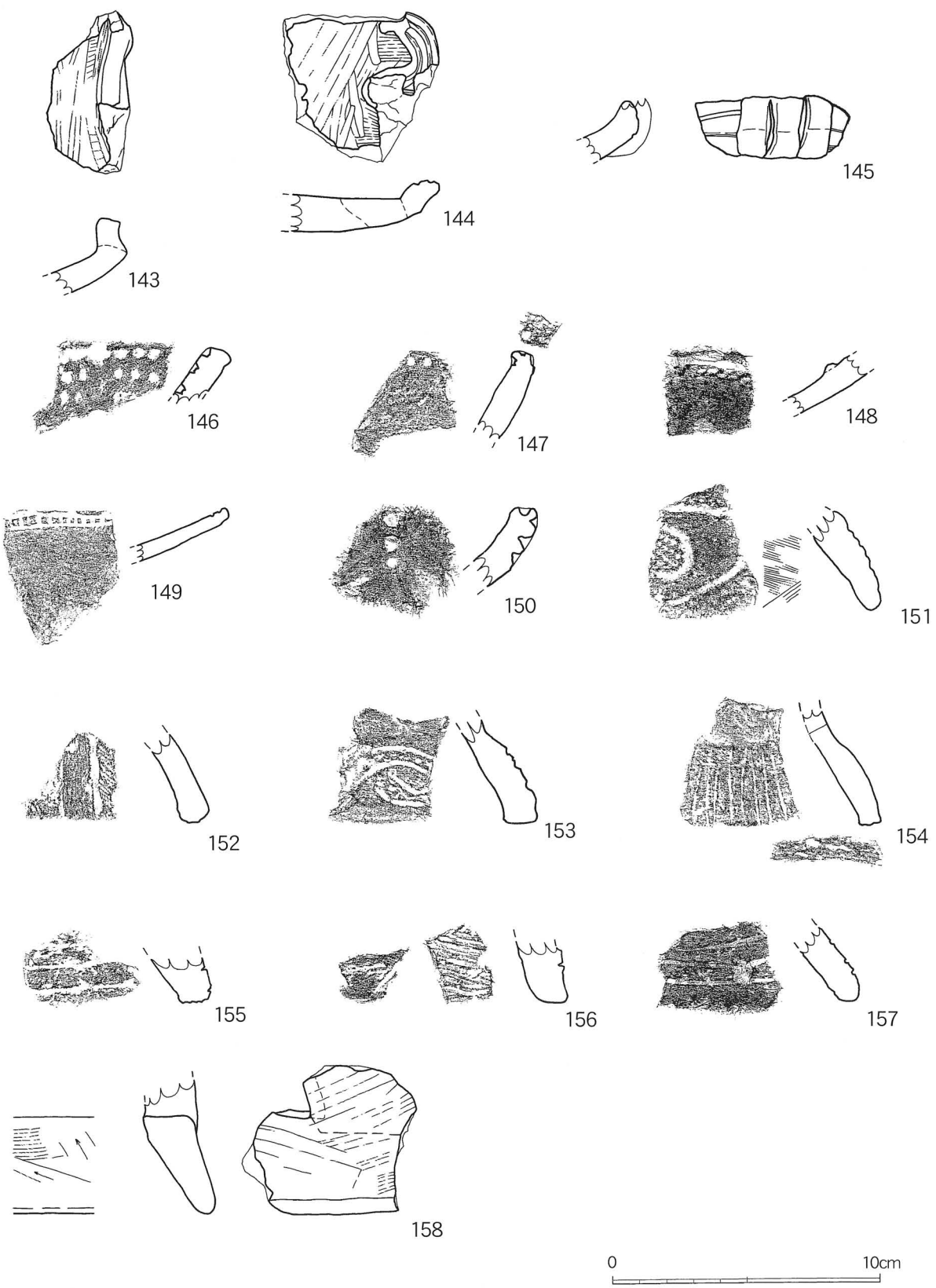
第46図 包含層出土遺物 縄文土器(1)



第47図 包含層出土遺物 縄文土器(2)



第48図 包含層出土遺物 縄文土器(3)



第49図 包含層出土遺物 縄文土器(4)



る。155は外面に横方向に平行線が描かれ、156の外面には斜方向の短沈線が描かれる。158は透かしを有し、内外面は摩滅している。

#### <貝殻擬似縄文・縄文>

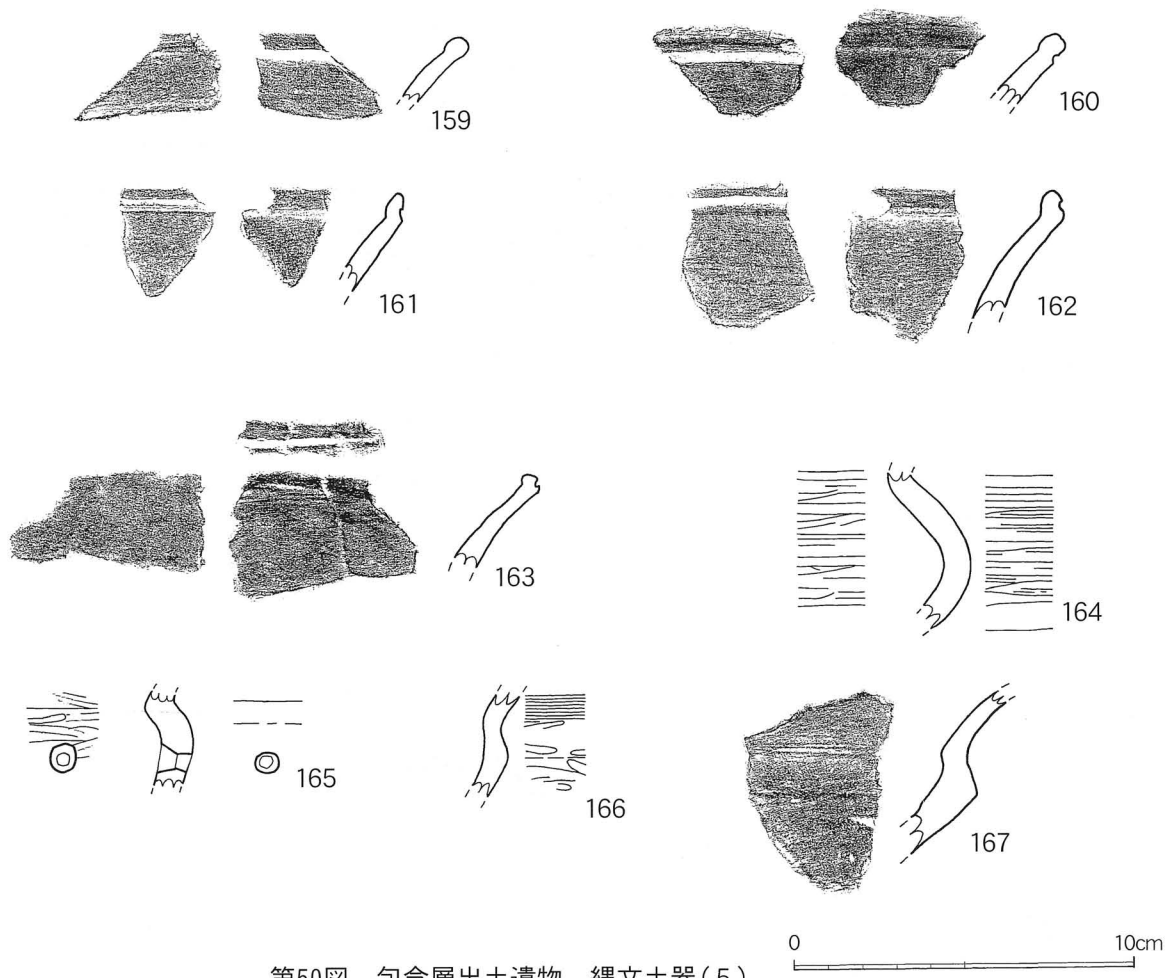
150は皿部口縁部で、器形は内湾して口縁端部で屈曲を強める。外面は沈線の先に3つの刺突列点が施され、また沈線と沈線の間には縄文あるいは貝殻擬似縄文が施されているが、摩滅のためはつきりと確認できない。さらに、口唇端部にも刺突文が見られる。胎土は146・147と類似し、砂礫を多く含む。

151は台付皿形土器の台部である。摩滅のため状態はよくないが、外面に沈線と貝殻刺突文・貝殻擬似縄文によって装飾されている。152は台部で、外面には縦の沈線や縄文が施され、また2本の沈線の間には磨かれた部分も見られる。意図的にその部分のみ縄文を磨り消しているようである。

#### <<縄文晩期土器>>(第50図、図版29)

159～163は浅鉢口縁部である。すべて黒色磨研土器で、両面を丁寧に磨いている。159は口縁端部が丸く、160も同様に口縁部は丸いが外側には沈線が走る。161は口縁端部は直立状となり、外面には沈線を有する。162も161と同様に口縁端部が短く直立し、外面には沈線が見られる。163は口縁端部を潰したような形で、外面に沈線を有する。

164～167は浅鉢胴部である。164は胴部が強く湾曲し、頸部はほぼ垂直に立ち上がっている。内外面ともに横方向に非常に丁寧に磨かれている。黒色磨研土器である。165は胴部中位に穿孔を有する。穿孔は焼成後に両面からあけられている。器形は胴部が緩やかに内湾し、肩部で屈曲して再び頸部でくの字状に屈曲して外反する口縁部へとつながる。内面にミガキとも思われる部分も見られる。166は黒色磨研土器で、両面とも丁寧なミガキが施されるが、内面はミガキの単位が明瞭でない。167は胴部の膨らみはほぼ直線状で、肩部でくの字状に屈折し、再び頸部で屈折して外反する口縁部へとつながる。内外面とも磨かれている。



第50図 包含層出土遺物 縄文土器(5)

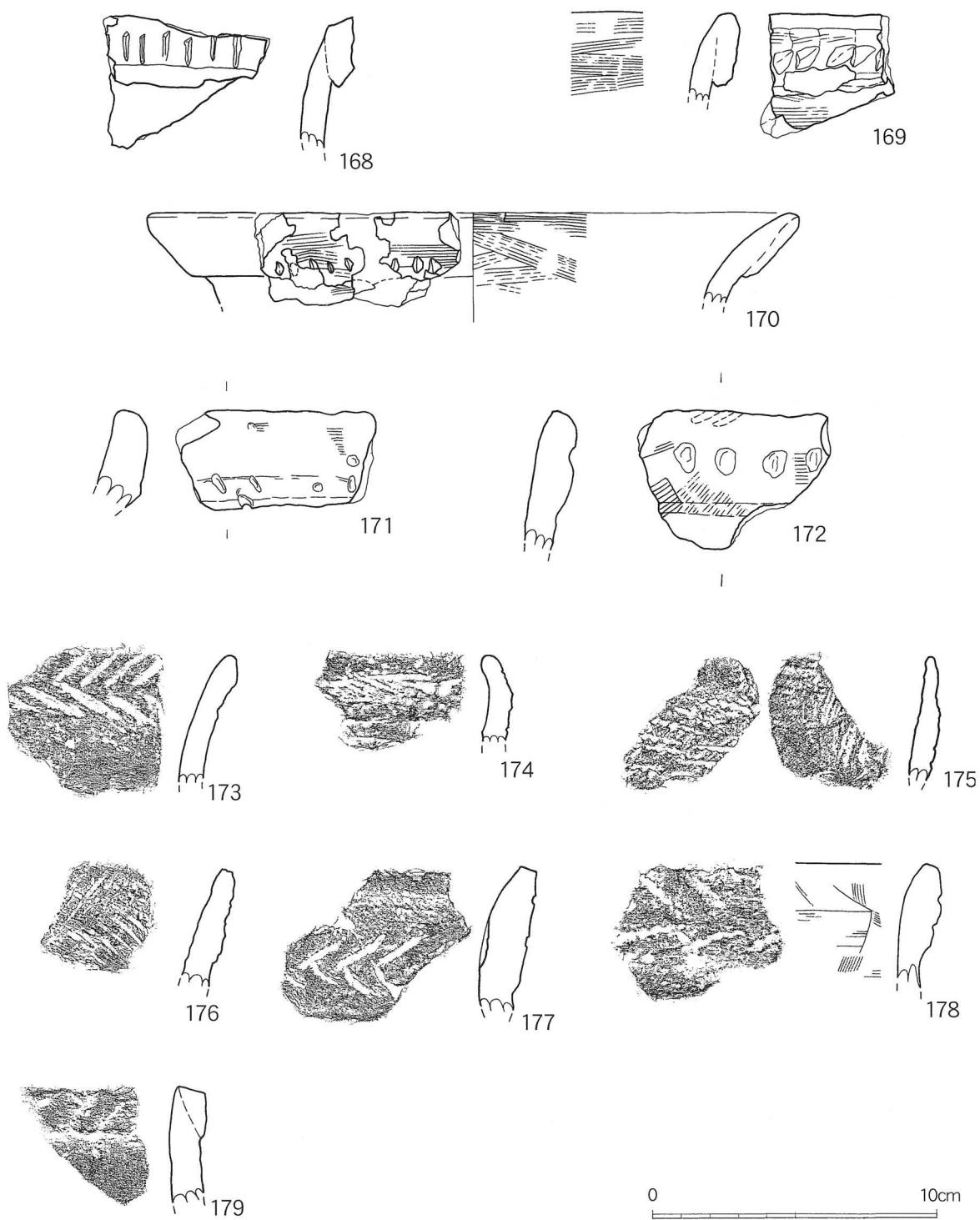
《不明土器》(第51図、図版30)

168~172は鉢の口縁部であり、口縁部に肥厚帯を有する。168は口縁端部を折り返しており、肥厚部外面に刻み目を施す。169・170もまた同様に口縁端部を折り返し、連続刺突文が施される。171・172も口縁肥厚部に連続刺突文が施されている。172は口唇部に刻み目が付けられている。

173は深鉢口縁部である。外反する口縁部は端部近くでわずかに肥厚し、羽状文(ハの字状)の連続刺突文を有する。北久根山式に類似してはいるものの、よくわからないものである。

174は鉢の口縁部で、口縁端部を内側に湾曲させている。

176~179は深鉢口縁部である。すべて口縁部に肥厚帯を持つ。176の口縁部は他のものよりもそれほど肥厚しておらず、肥厚部には沈線による施文が見られる。177は口唇部を平坦に仕上げ、肥厚部に縄文で逆くの字に施文されている。178もまた口縁部は平坦に仕上げられており、肥厚部には逆くの字状に貝殻腹縁文が施されているようである。両者は口縁の外反の仕方や肥厚、口唇部形態などの器形に加えて、施文道具は異なるにしても逆くの字に施文されているなど、大変類似しているため同時期・同系統の土器と見てよいのではないか。179は肥厚帯の幅が狭く、肥厚部には刻み目が見られる。口唇部は平坦である。



第51図 包含層出土遺物 縄文土器(6)

## 第2節 弥生時代以降の土器

### 《甕》(第52～57図、図版31～33)

甕は他器種と比較して最も出土数が多かった。口唇部形態や頸部形態などの相違から、いくつかタイプが存在していることがわかる。

180～184は甕の口縁部で、口唇部は平坦に仕上げられる。180は口径28.2cmの甕の口縁部で、内外面にミガキが施されている。口唇部には刻み目が付されている。181は口径23.8cmで、口唇端部はわずかに凹状だが平坦といってよい。頸部はくの字形に屈曲する。内外面はハケによって丁寧に器面調整され、器面は滑らかである。胎土に金雲母を含んでいる。183は内外面に明瞭なハケ目が残り、口唇端部は平坦にシャープに成形されているため角ばっている。184は外面の頸部屈曲は曖昧であるが、内面のみ強く屈折している。内面にはミガキによる調整も見られる。外面は丹で塗られていたと思われ、内面にも口縁端部に丹塗りの痕跡を確認できる。

185・186は頸部に段を形成し、稜線を有するものである。頸部では胴部からわずかな段をもって器壁が若干うすくなり、口唇端部へ向けてさらに細くなる。2点ともハケ後ナデによって器面調整されている。185は外面にススが付着している。

187～190は口唇部は平坦を基調としてはいるが、やや丸みをもって成形されている。内外面ともハケによる調整が認められ、190の外面にはススが付着している。

191は口唇端部は丸く仕上げられる。両面をハケによって調整され、胎土に金雲母を少量含んでいる。192は口径19.3cmの甕の口縁部である。頸部は緩く屈曲し、口縁部は外傾する。器面はハケ・ナデに加え、ミガキによる調整が施されて光沢感がある。口縁端部外面に5mm程度の圧痕があるが、意識的に付されたのかあるいは偶発的なものであるのかは不明である。口唇部は丸く仕上げられている。193は口径22.4cmで、頸部の屈曲がシャープでなく、口縁部はあまり外側へと開かない。外面にはススが付着している。胴部を縦方向にハケで器面調整した後、口縁部を横方向に調整している。口唇部は平坦に仕上げているが、丸みを帯びる。

194は口径25.0cm、口縁部は不整形でやや波打っている。頸部はわずかに屈曲している。内外面はハケによって調整されている。

195～198は頸部にメリハリがなく、口縁が外傾するものである。195は口径25.8cmの甕で、外面はハケによる調整、内面はハケ、あるいは板状工具のナデによる調整が施される。口唇部は丸く仕上げられ、外面にはススが付着している。196は口径24.0cmの甕の口縁部で、195よりもさらに頸部の屈曲が曖昧となる。内外面をハケによって調整され、口唇部は平坦に仕上げられている。197は口径22.8cmの甕の口縁部である。胴部から口縁部にかけてはほぼ直線的に外反し、胴部と口縁部の境が判然としない。198もまた胴部から外側に反するような器形で、胴部、頸部、口縁部の境が不明瞭である。内外面はハケ・ナデによる調整が施され、胎土には金雲母を含んでいる。

199は口径19.4cmの口縁部で、口唇端部はくぼませている。頸部はくの字状に屈曲し、内外面にはハケ・ナデによる調整が施される。外面には一部、タタキ痕と見られる跡もある。

200は内外面をハケによって調整され、外面にはススが付着している。胎土にわずかに金雲母を含んでいる。口唇端部はくぼませている。201は口縁部中位がわずかに肥厚し、口唇部が凹状にくぼんでいる。内外面をハケで調整され、外面にはススが付着している。胎土中には金雲母が含まれていた。202は口径27.3cmの甕の口縁～胴部である。胴部はさほど張らず、頸部は緩く屈曲して口縁部は外反する。器面にはハケあるいはハケ後のナデ調整が施され、口唇端部はくぼませている。

203・204は頸部が丸く屈曲して口縁部は外反する。口唇部は丸く仕上げられている。両者とも外面にはハケ後のナデ調整、内面はハケによる調整が見られるが、頸部内面は摩滅している。胎土には砂粒を非常に多く含んでいる。

205は口縁部は直立して立ち上がり、肥厚している。内外面にはハケによる調整が認められる。206は口径28.4cmの甕の口縁部である。頸部はほんのわずかに屈曲し、口縁部は直立する。口唇部は丸く仕上げている。内外面には指押え後ハケによる調整が施されている。

207は甕の口縁部で、口径24.2cmである。胴部は丸く内湾していたようだが、口縁部ですぼまって口縁端部は短く直立する。口唇端部は平坦に仕上げられている。内外面にはハケによる調整が施され、内面には太目のハケでの調整も認められる。外面にはススが付着している。

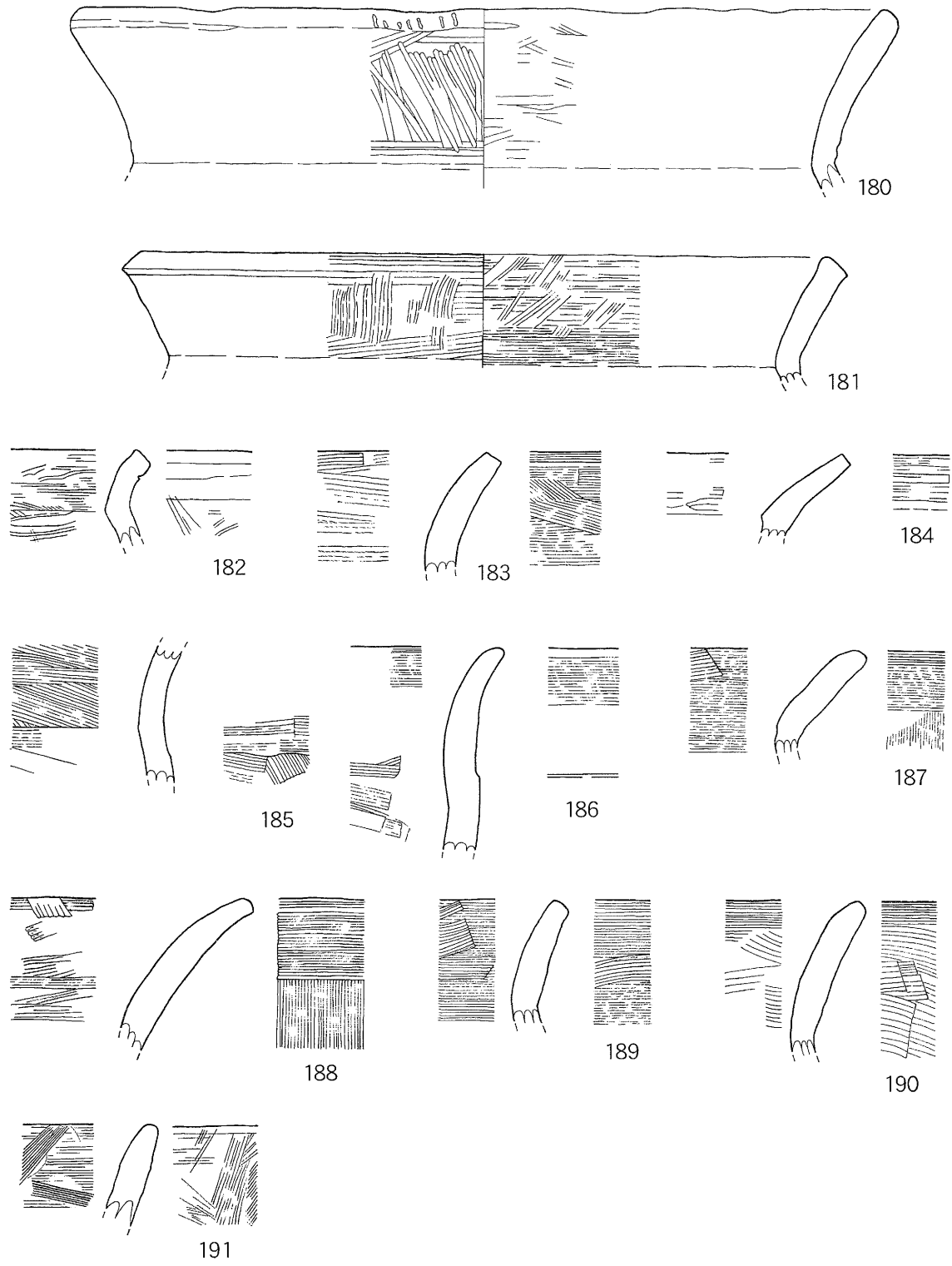
208は口径42.0cmの甕の口縁部である。丸みを持った胴部は頸部でくびれるが、口縁部は短くわずかに外反する。内外面にはハケによる調整が見られる。

209・210は小型の甕である。209は胴部にあまり膨らみをもたず、頸部は緩めのくの字を呈して短い口縁部へとつながる。内外面はハケによって調整され、口唇端部は平坦に仕上げている。外面には口縁部と胴部にススの付着が顕著に見られる。一方、210は209と比較して胴部は丸みが強く、頸部は湾曲して口縁部は外側に反った形である。口径は11.8cmで、内外面はハケ後ナデ調整が施されている。

211・212の口唇端部はほんのわずかだがくぼませている。この2点は口縁端部の内面が少しくぼんでいて、内面のみが湾曲している状態になっている。その度合いは211の方が強い。両者ともハケによる器面調整が見られるが、212の器面は非常に丁寧に調整され、一部は単位は確認できないがミガキによる調整も施されていると思われ、光沢のある部分も見られる。また211・212の胎土中には金雲母が含まれていた。

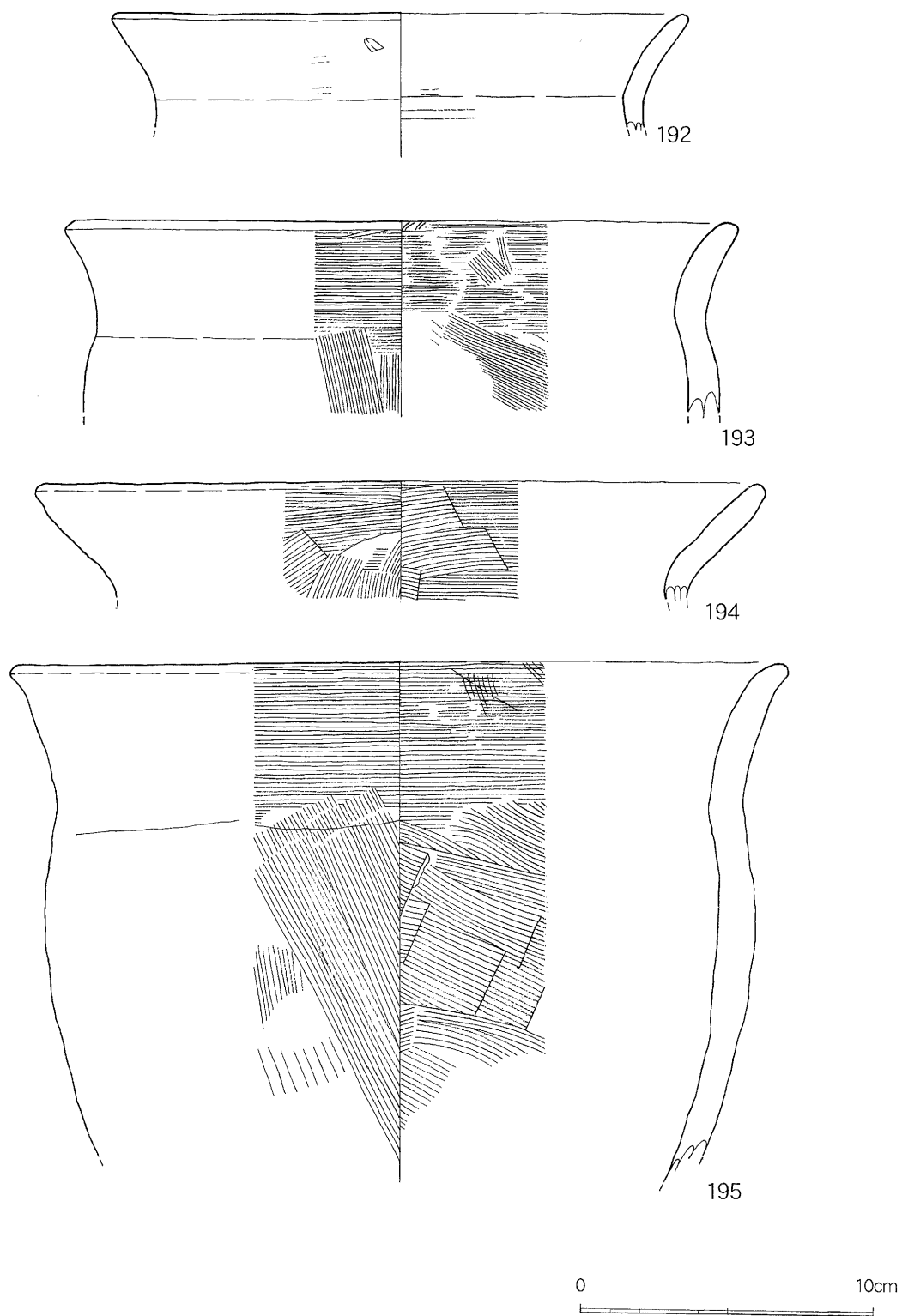
213は甕の口縁部で、先端に浅い刻み目を有する。口縁端部は短く外側へと折られている。ハケ後ナデによる調整がなされている。

214は貼付の刻み目突帯を口縁部直下に有する。215の頸部は218よりも強い屈曲を呈し、同じくくびれの部分に貼付の刻み目突帯を有する。刻み目部分には布目の圧痕を確認できる。内外面はハケ後にナデ調整が施され、大変丁寧な器面調整が認められる。216は胴部で貼付の刻み目突帯を有し、刻み目部分には布目圧痕を確認することができる。内外面はハケ後ナデによる調整である。217は甕胴部で、胴部に貼付突帯が一部残る。胴部は直線的で膨らみを持っておらず、内外面にハケ目を見ることができる。218の頸部にはそれほど強い屈曲はなく、丁度

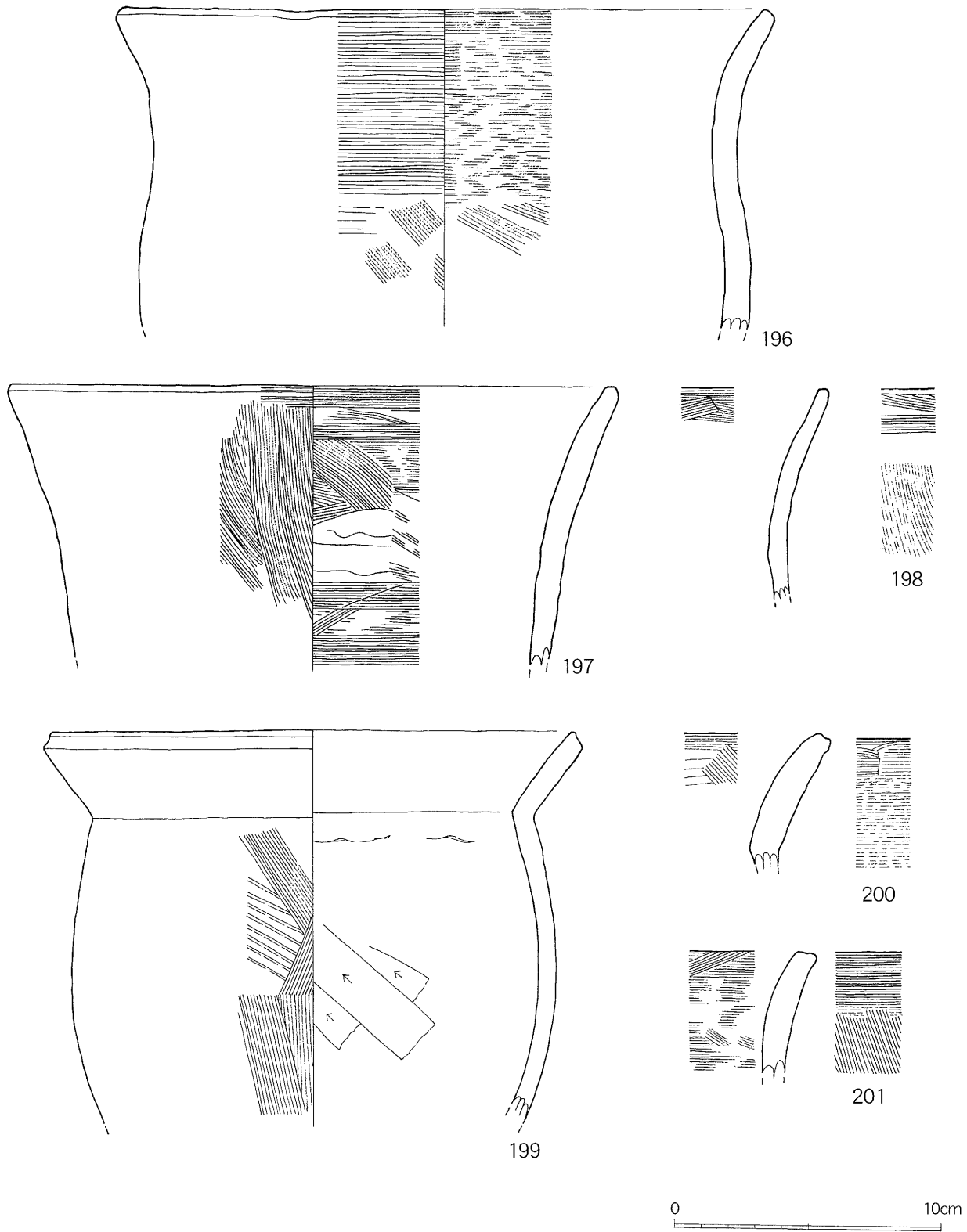


0 10cm

第52図 包含層出土遺物 甕(1)

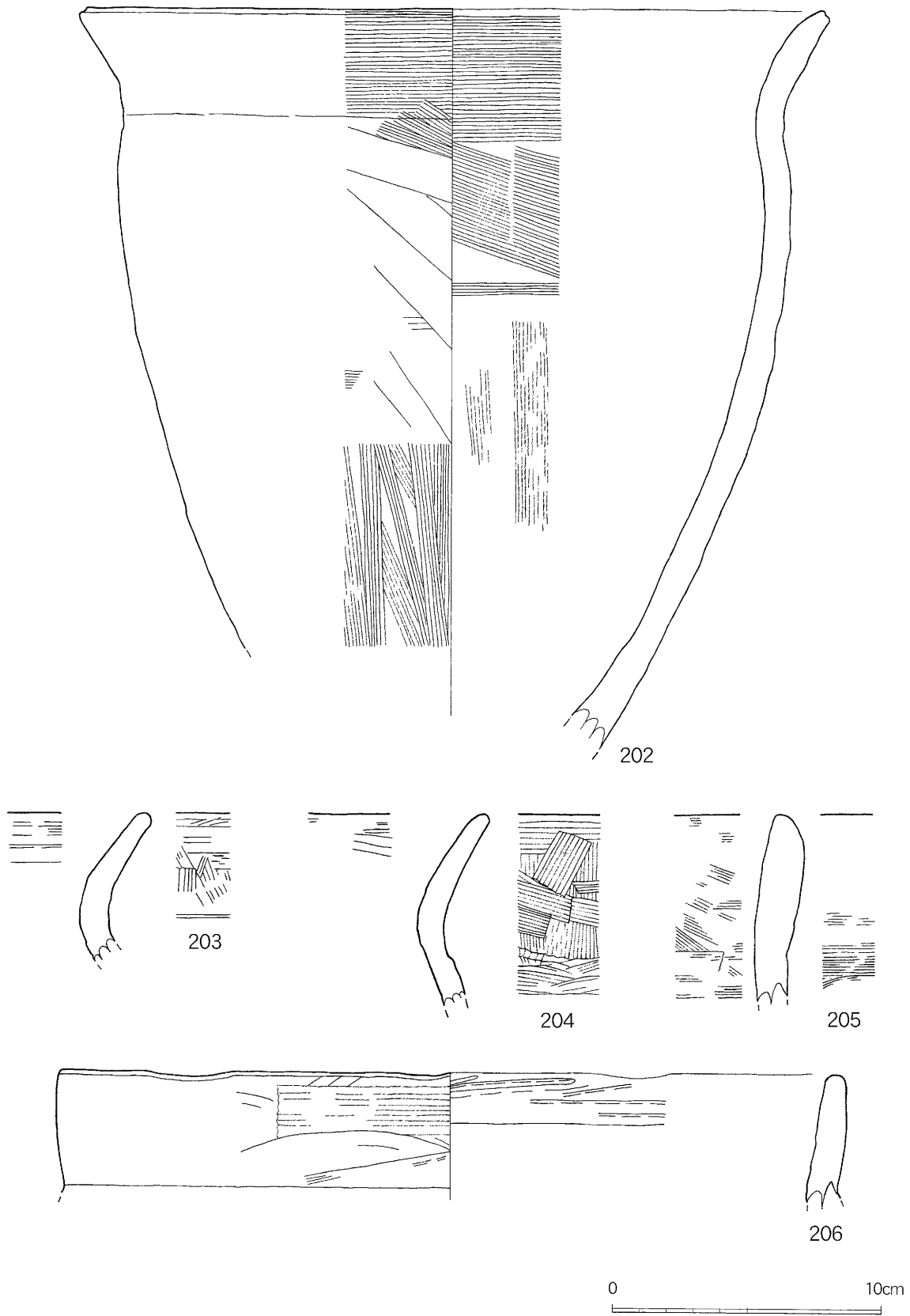


第53図 包含層出土遺物 甕(2)

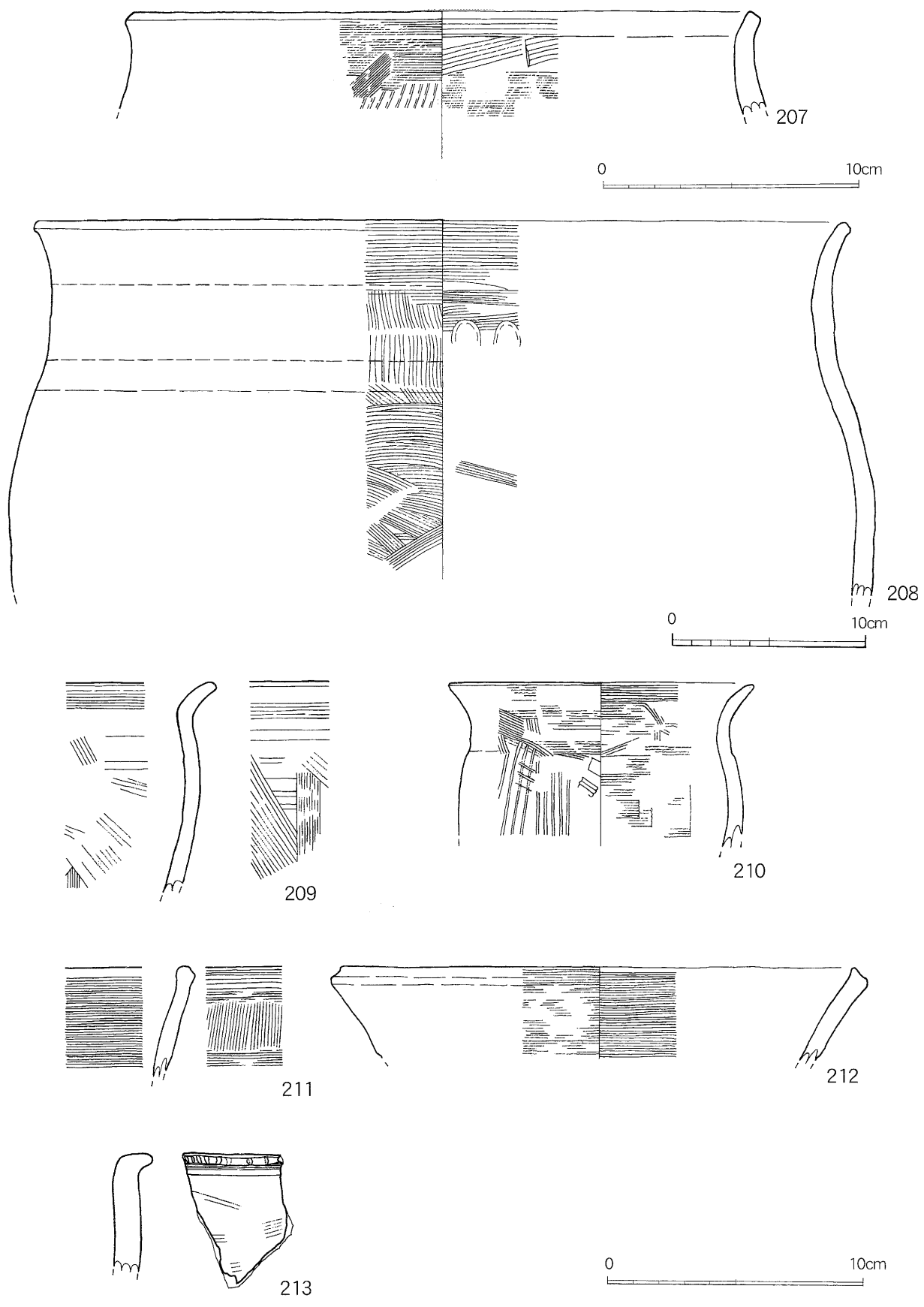


第54図 包含層出土遺物 甕(3)

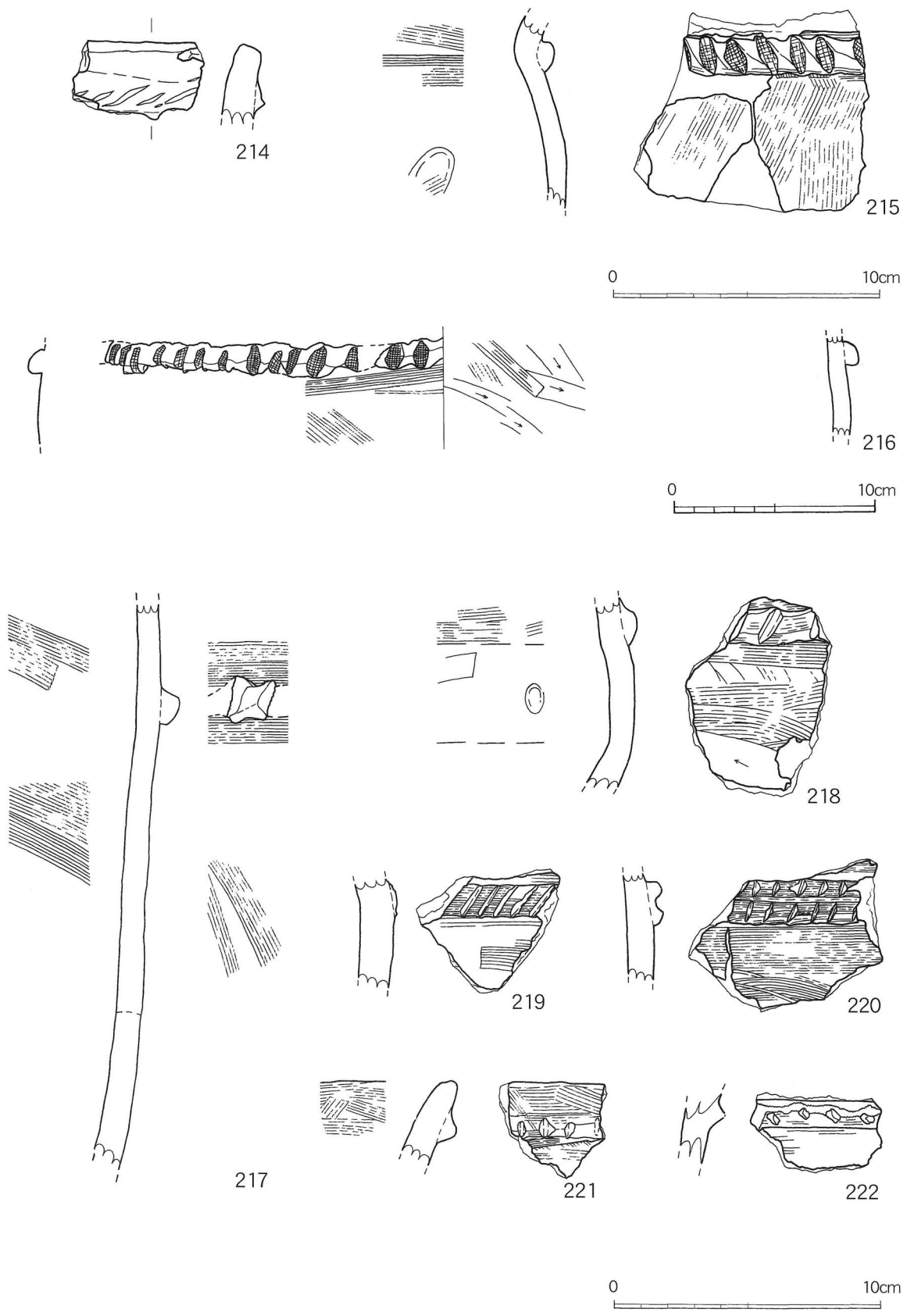




第55图 包含層出土遺物 甕(4)



第56図 包含層出土遺物 甕(5)



第57図 包含層出土遺物 甕(6)

くびれの部分に突帯が貼り付けられている。内外面ともハケ後にナデ調整が施され、内面には指押さえの痕も見られる。219・220は刻み目突帯付の甕である。219は胴部に薄い突帯が付き、斜めに刻みが入っている。220の胴部には幅約1.7cmほどの突帯が貼り付けられ、中央をくぼませた後に刻みを入れている。外面胴部にはハケ目、工具痕が明瞭に残る。

221は口縁部直下に刻み目突帯をもつ。突帯は断面三角形で、内外面にはハケ・ナデ調整が見られる。222も221と同様の形態の突帯を有し、突帯部には刺突文が施されている。

#### 《甕・壺底部》(第58～60図、図版34・35)

出土した甕・壺の底部を一括して掲載する。底部形態や胴部への立ち上がり方等からいくつかのタイプに分けられ、甕は底部形態が平底のもの、上げ底のもの、脚台状の3種類の形態が存在し、壺は上げ底と平底のものが見られる。

#### <平底>

223～228は底部が平底で、いずれも平底の底部を大きく外側につまみ出し、屈曲して胴部へつながる。226は立ち上がりの部分に工具痕が明瞭に残り、意識的に底部からの立ち上がりを直立に近く仕上げようとしたことが推測される。また、226は底部のみ丁寧に磨かれている。227には底部と胴部をつなぎ合わせた接合痕が見られる。

229・230は小さな平底の底部から大きく開いて立ち上がる。底部には厚みがある。231は平底ではあるが曖昧で、底部と胴部の境が判然としない。底部の円形もはっきりせず、胴部へと非常に大きく開いている。前述の土器群と比較して、底部に厚みがなく、胴部と同程度の厚みしか持たない。

232～234は平底の甕の底部である。232は脚台状の平底で、底径は4.0cmを測る。内外面はハケ・ナデによる調整が施されている。233・234は底部から反るように立ち上がるものである。233は両面をハケによって調整され、234は底径5.0cmで、外面はハケあるいはミガキによる調整も認められる。

235～237は壺の底部であると思われる。235は脚台状の平底で、236・237は底部から外側に反るようにして立ち上がるものである。235は立ち上がりの部分に工具痕が明瞭に残り、意識的に底部からの立ち上がりを直立に近く仕上げようとしたことが推測される。

236は全体的に摩滅または剥離していて調整は不明瞭である。しかし、底部に何か圧痕のようなものが二箇所確認できる。

238～241もまた壺の底部であると推測される。底部のつまみ出しなどを持たず、底部から自然に外側に外傾あるいは直線的に胴部へつながるものである。238は器面は両面とも摩滅している。239は平底の底部で、外面にハケ後のナデ調整が施され、内面は摩滅しているもののナデ調整であったと推測される。240は底径8.3cmを測る平底の底部である。内外面ともにハケによる調整が施されている。241は底径8.0cmの平底の底部で、両面ともナデ調整が見られる。

### <上げ底>

242～246は上げ底の底部である。242は底部をつまみ出したような器形で、底径6.0cmを測る。胴部は丸みを帯び、外面にはハケ、内面はハケ後のナデ調整が施されている。243は甕の口縁部と思われ、底部からの立ち上がりは226と類似している。底径は5.5cmで、脚台状のわずかな上げ底である。244は底径7.8cmで、立ち上がりの外反度が強い。245は壺の底部で、底径は10.9cmを測る。底部から外側へは大きく開かず、上へとわずかに内湾しながら立ち上がっている。246は壺で底径5.7cmを測り、胴部は底部から直線的に伸びている。内外面とも摩滅により調整は不明である。

### <脚台付のもの>

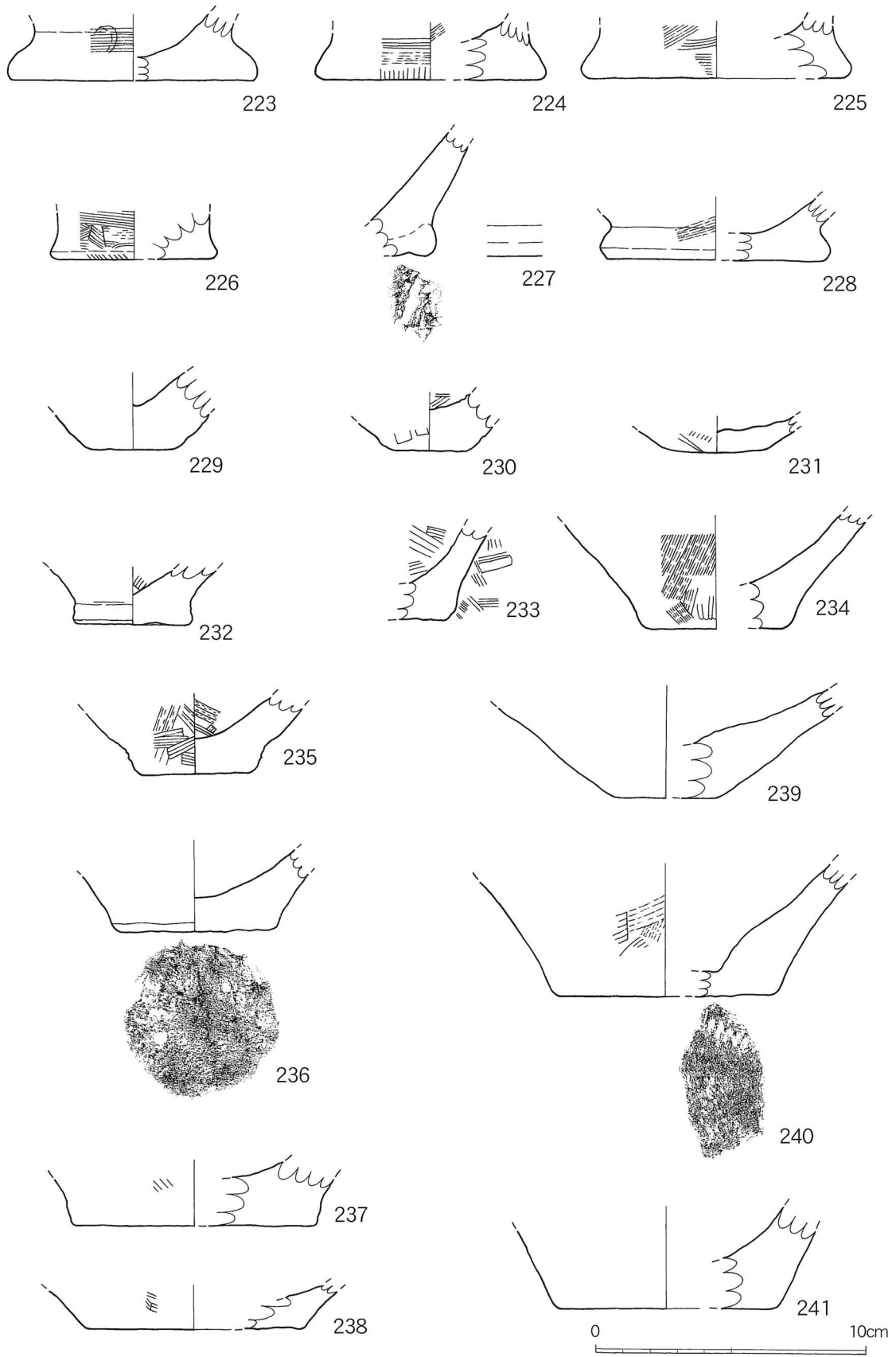
247～262は脚台状の底部をもつ甕である。249は内面のみが非常に丁寧に磨かれている。252・253は大変丁寧なつくりで、脚部端部も平坦で丁寧な成形である。脚部と胴部との境はくの字に屈折し、脚部端部は大きく外側に張り出す。内外面にはハケ目が見られる。254は内外面ともに平坦で、脚部端部は外側に張り出す。内外面はハケによる調整が見られる。

255・257は同タイプの脚部である。どちらも脚部端部に丸みをもち、それほど高い脚ではない。255は直立に近い立ち上がりで胴部との境の屈曲が弱い。しかし一方、257は脚部端部から内傾して強く屈曲して胴部につながっている。両者とも内外面にハケ目が見られる。

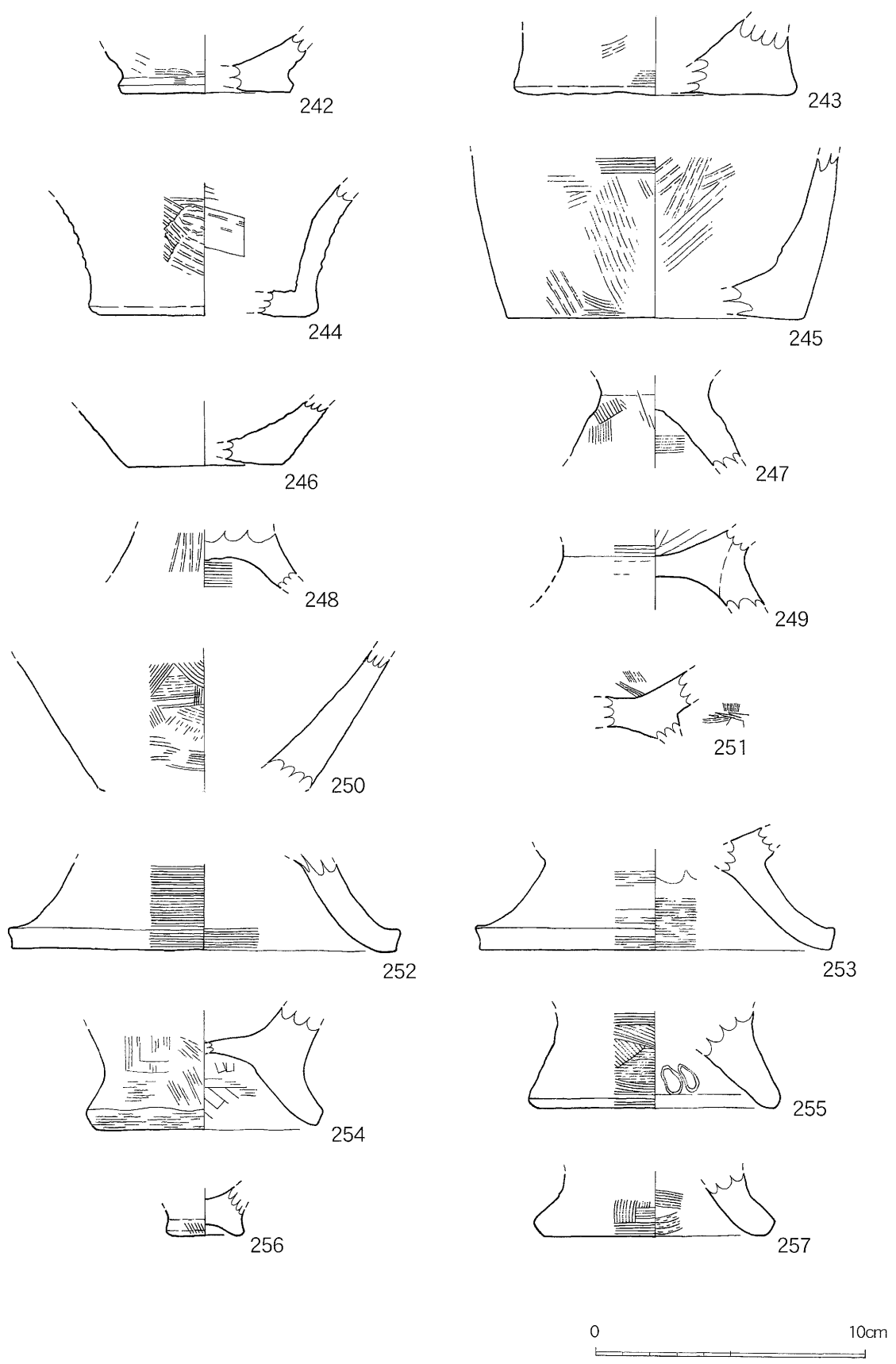
258～260は低い脚台状の底部である。脚部は小さく外側に張り出している。脚台内面には丸みがない。259は外形が底部から大きくくびれて、外反する胴部へとつながる。屈曲度が強く、端部が外側に大きく張り出している。外面には横方向のハケ調整を確認できる。

261は一見、平底かと思われたが、底部中央付近のみ若干くぼんでわずかに上げ底となっている。底部は脚台状で、261は底部から内傾して立ち上がり、屈曲して胴部につながる。胴部外面には縦方向のハケ調整が明瞭に確認できる。また、内面にも所々にハケ目が見られる。

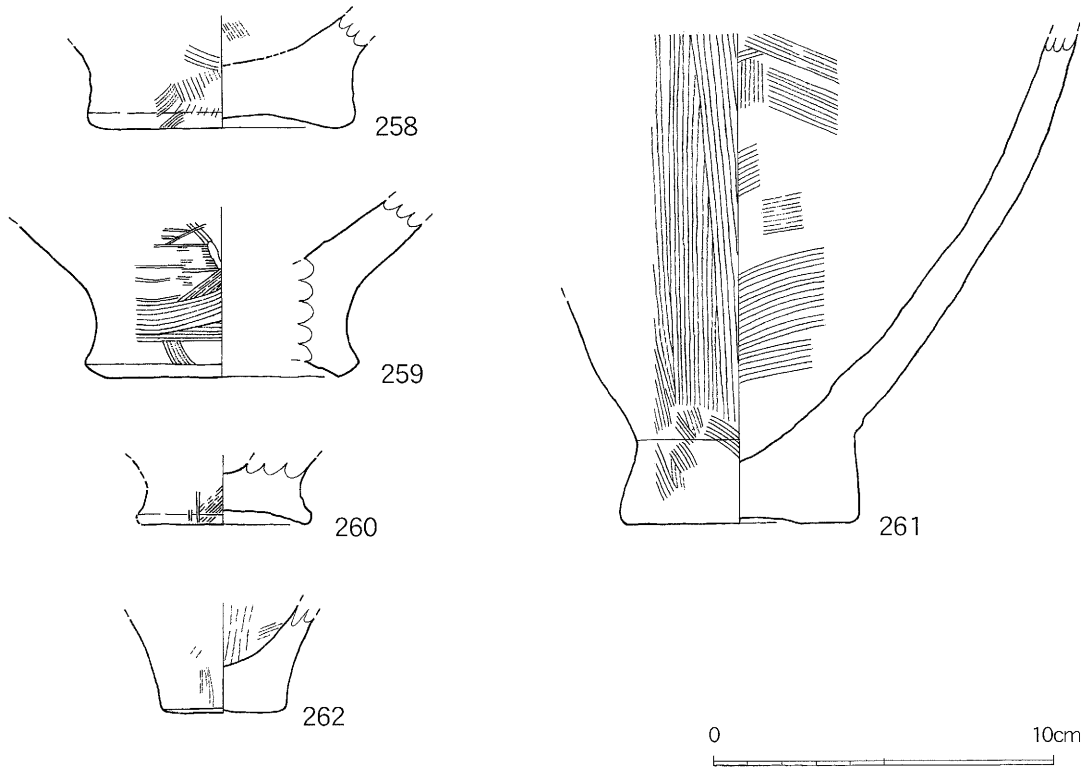
262の底部の上げ底は平底といってよいほどわずかなものである。脚台状の底部で、底径は3.7cmを測る。内外面はハケ後ナデ調整が施されている。



第58图 包含層出土遺物 底部(1)



第59図 包含層出土遺物 底部(2)



第60图 包含層出土遺物 底部(3)



#### 《壺》(第61図、図版35)

263は壺の口縁部である。不整形で歪みが激しいが、内外面とも丁寧に横方向のハケによる調整を確認できる。口唇部は平坦に仕上げられている。264は口径9.6cmの壺口縁部である。口唇部は丸く仕上げられ、内外面に横方向・斜方向のハケ調整が見られる。265は口径10.4cmの壺口縁部で、口縁端部は強く外側へ屈曲している。内外面ともハケによる調整である。266は壺の口縁部である。口縁端部が肥厚しており、外面は指押え後ハケ調整、内面はハケ後にナデ調整が施されている。267は口径11.0cmの壺口縁部である。頸部で屈曲した後、厚く肥厚して端部で薄くなる。胎土には金雲母を含んでいる。

268は小型丸底壺の完形品である。3区の東側黒ボク土より出土した。丸みを帯びた底で、胴部は丸く膨らみ、頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は内湾形に仕上げられている。口径は5.8cm、器高は6.62cmを測る。内外面ともハケ調整後ナデられており、内面には指押さえ痕も見られる。焼成は軟弱である。

269・270・271は長頸壺である。269は胴部の最大径部分であり、斜位の短い刻みが付されている。外面はハケによる調整、内面はハケ後のナデ調整が認められる。270・271は重弧文長頸壺の肩部であり、外面には重弧文が描かれている。

272・273・274は二重口縁壺の口縁部である。いずれも外面に櫛描波状文が描かれている。272・273はその器形から同時期のものであろう。274は口縁端部が短く、両面に丁寧なミガキを確認することができる。胎土には砂礫を多く含んでいる。

275・276は壺の肩部である。2点とも同類のタイプの壺であると推定される。肩部は張り、頸部は強い屈曲を呈する。内外面をハケによって器面調整され、器壁は非常に薄く作られている。

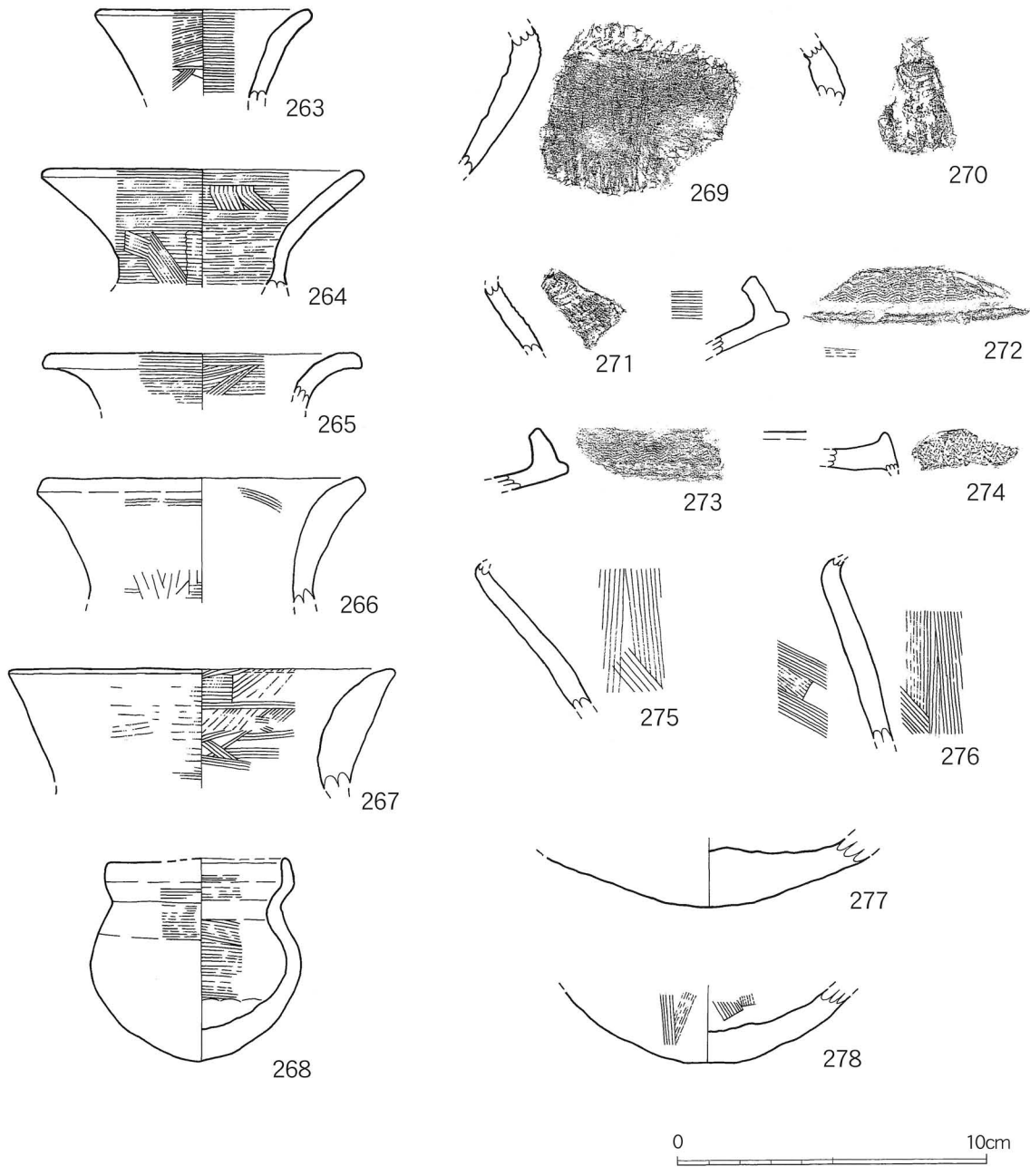
277・278は壺の底部である。丸底で、277は摩滅のために両面の調整は不明である。278は内外面にハケによる調整が施される。

#### 《鉢》(第62図、図版36)

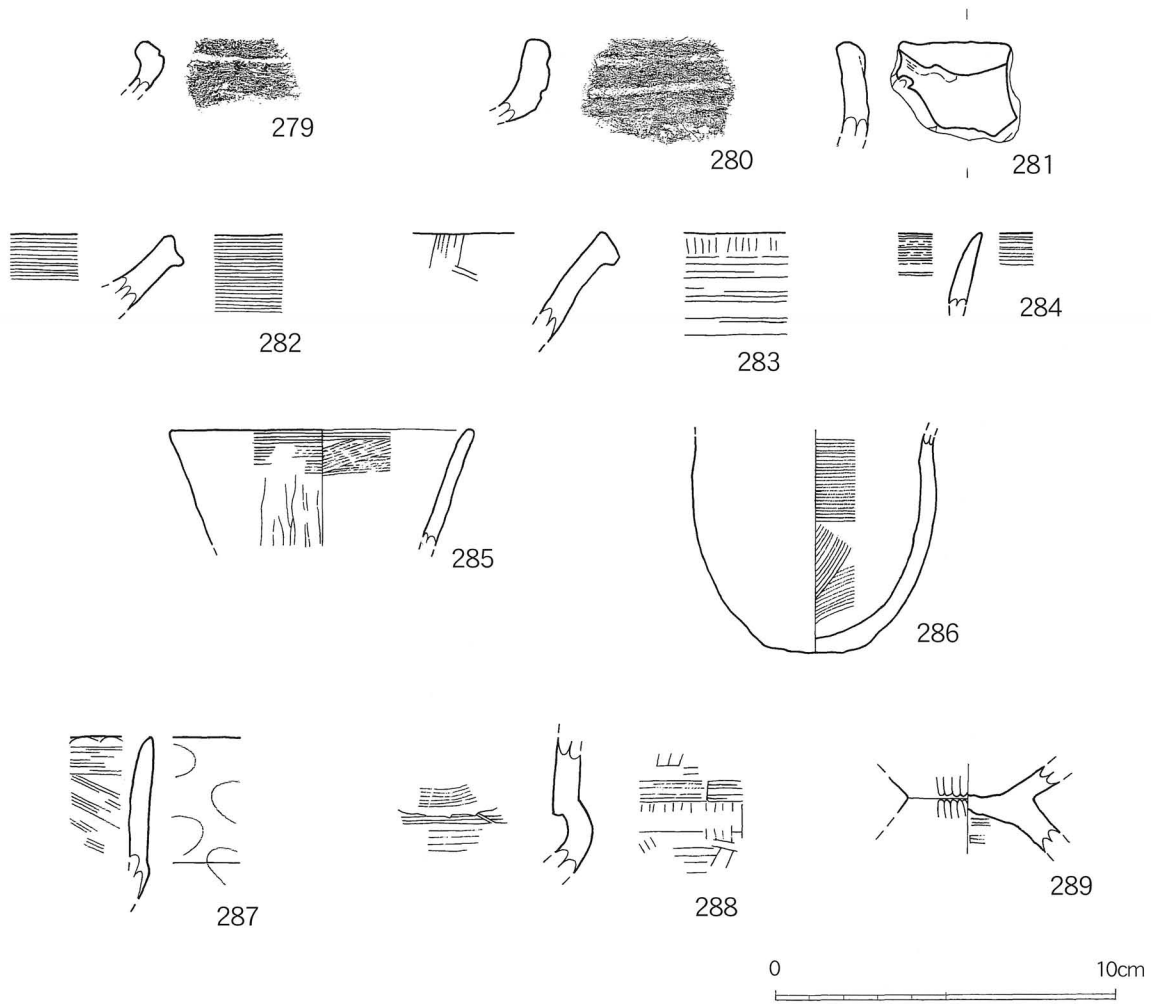
279・280は口縁部で、口縁部に沈線が描かれている。279の内面はハケ後ナデによる調整が見られ、280はナデによる調整が施されている。

281は口縁部で、口縁端部をわずかに折り返して若干肥厚する。口縁部は内傾している。282は鉢の口縁部で、口唇端部はくぼませている。内外面ともにハケによる調整が見られる。

284・285・287は鉢の口縁部である。287は口縁部は直立し、胴部は外側に張り出さずすばまる。外面はハケ後ナデ調整、内面はハケ調整が見られる。284・285も同じく口縁部が直立している。両者ともハケによる調整が見られるが、285は口径9.0cmで、外面のみ縦方向のミガキを確認できる。286は鉢の底部～胴部で、底径約3.0cmである。底部は平底であるが、完全に平底に成形されておらず、丸みが残る。胴部は下部のほうでは膨らみをもつが、胴上部へいくにつれて真上へと立ち上がっていく。外面はハケ・ナデによる器面調整に加え、磨かれたと推測さ



第61図 包含層出土遺物 壺



第62図 包含層出土遺物 鉢

れる部分もあるが、ミガキの単位は見えない。内面はハケ・ナデによる調整である。器壁が非常に薄い。288は鉢の頸胴部で、胴部は強い屈曲を呈し、口縁部は頸部から直立して立ち上がる。内外面ともにハケで調整されている。

289は台付鉢の台部であると思われる。外面には縦方向のミガキを確認でき、内面にはハケ・ナデによる調整が見られる。

#### 《高杯他》(第63図、図版36)

290は高杯の杯部である。受部は直線的で、わずかに段を有して口縁部は直線的に外傾している。外面には丁寧なハケ・ミガキ、内面には丁寧なミガキが認められる。291の高杯もまた残存部は杯部で、290と同様の器形を呈している。内外面はハケ、丁寧なナデによる調整である。

292は高杯の脚～裾部である。外面は磨かれ、内面はナデ調整である。293・294は高杯脚部である。293は大きさは異なるものの、292と同様の器形である。外面にはミガキが施され、内面はナデ調整である。294は脚部に円形の透かし孔を有する。外面は縦方向のミガキが認められ、内面はハケ後ナデ調整が施されている。295もまた高杯脚部で、外面には縦方向のミガキが認められる。296・297の脚部は、エンタシス状に丸みを帯びた器形である。298は高杯裾部である。丸く内湾しており、椀をふせて置いたような器形である。外面にはハケ後丁寧なミガキが施され、内面にはハケ後ナデ調整が施されている。296・297とは同類のものである。

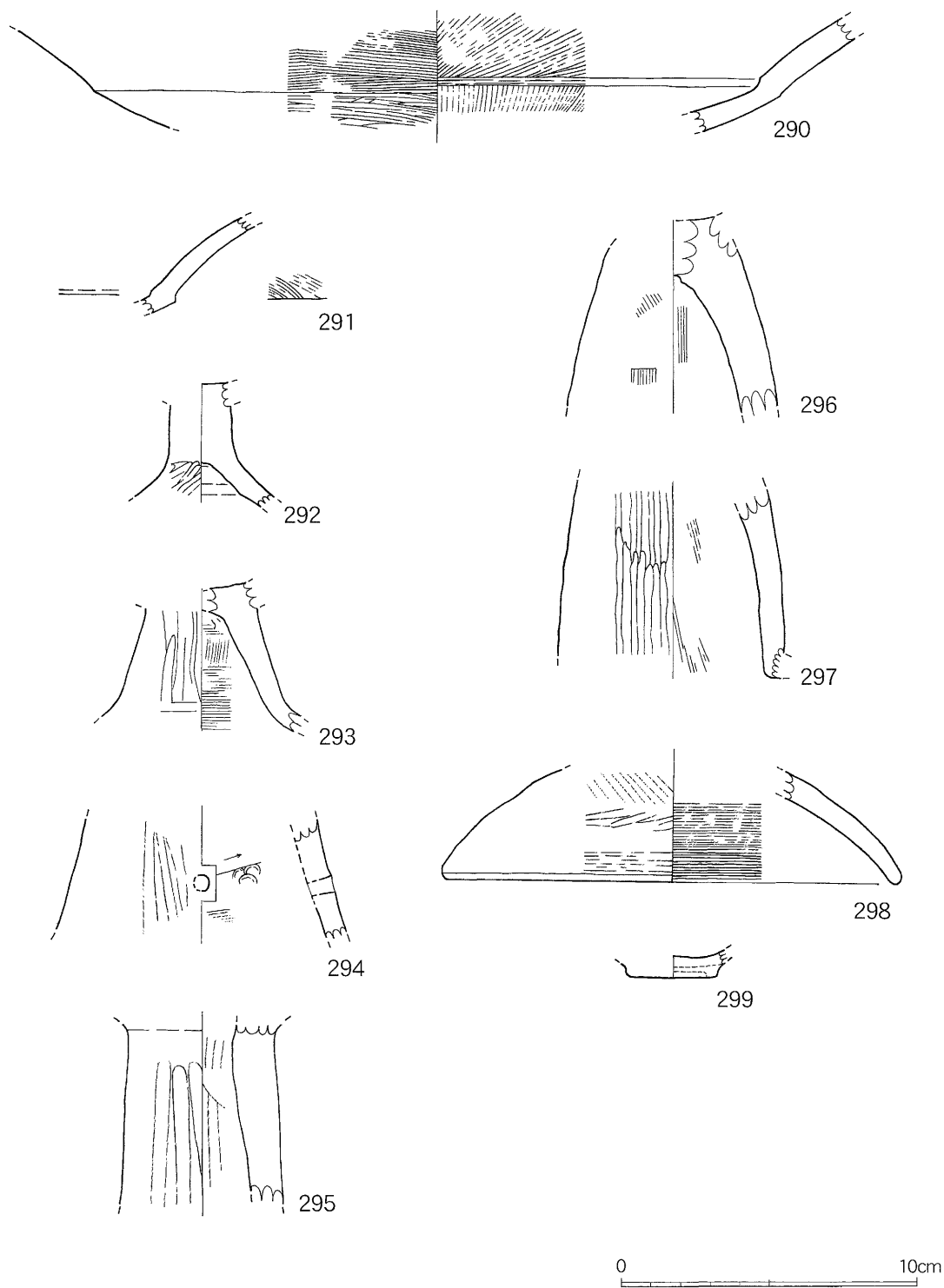
299は不明の土器である。貫通した孔をもつ。

### 第3節 出土石器(第64～70図、図版37・38)

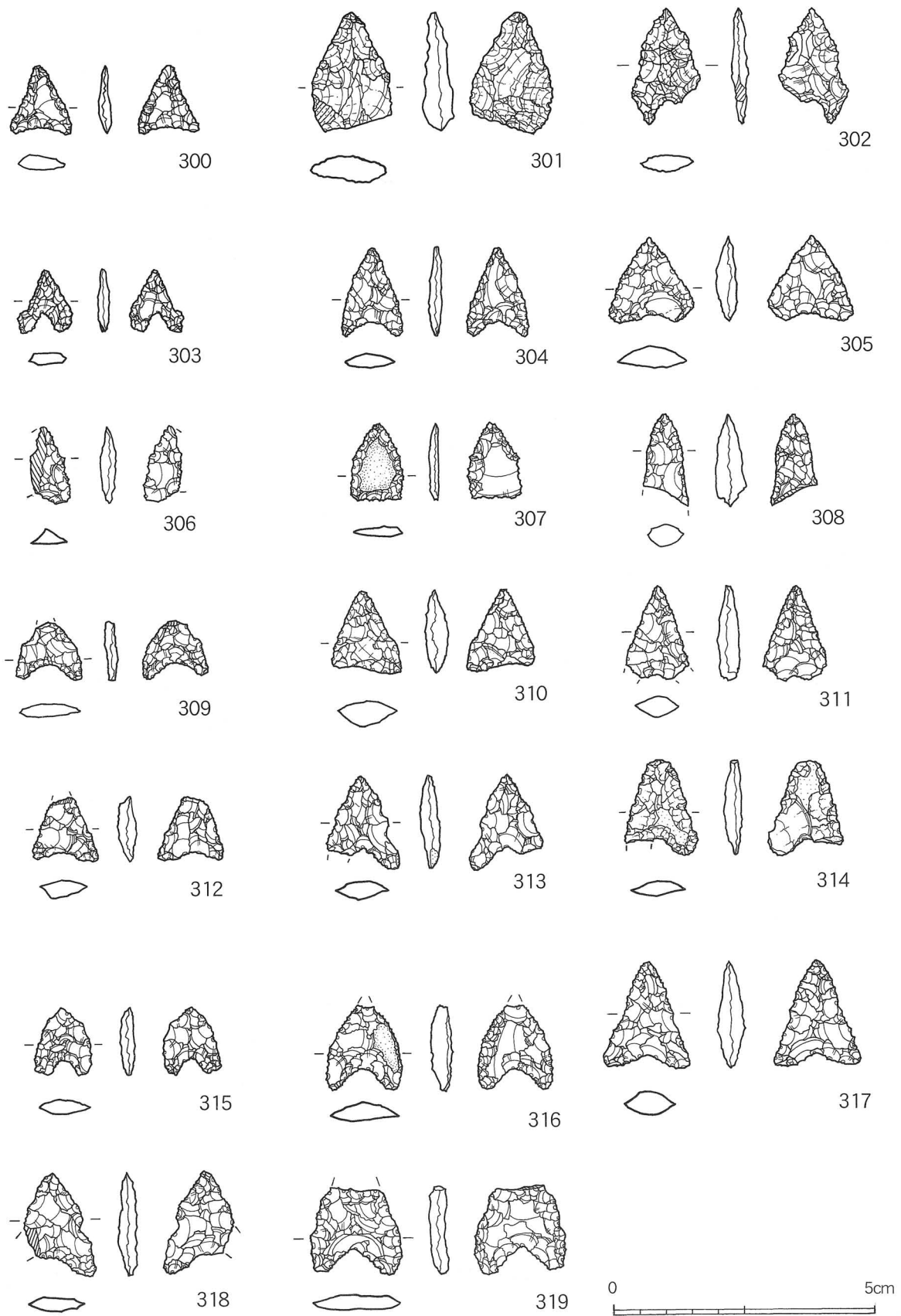
ここでは遺物包含層である黒ボク土からの出土石器、または攪乱層出土あるいは表採資料を紹介する。

出土した石器のほとんどが黒曜石製の石鏃である。今回、石鏃は46点掲載している。(未製品を含む。)これ以外にも攪乱層出土の石鏃は多数出土している。チャート製のものも見られるが、ほんの数点にすぎない。この他に頁岩、シルト岩製の石鏃も少量ながら出土した。

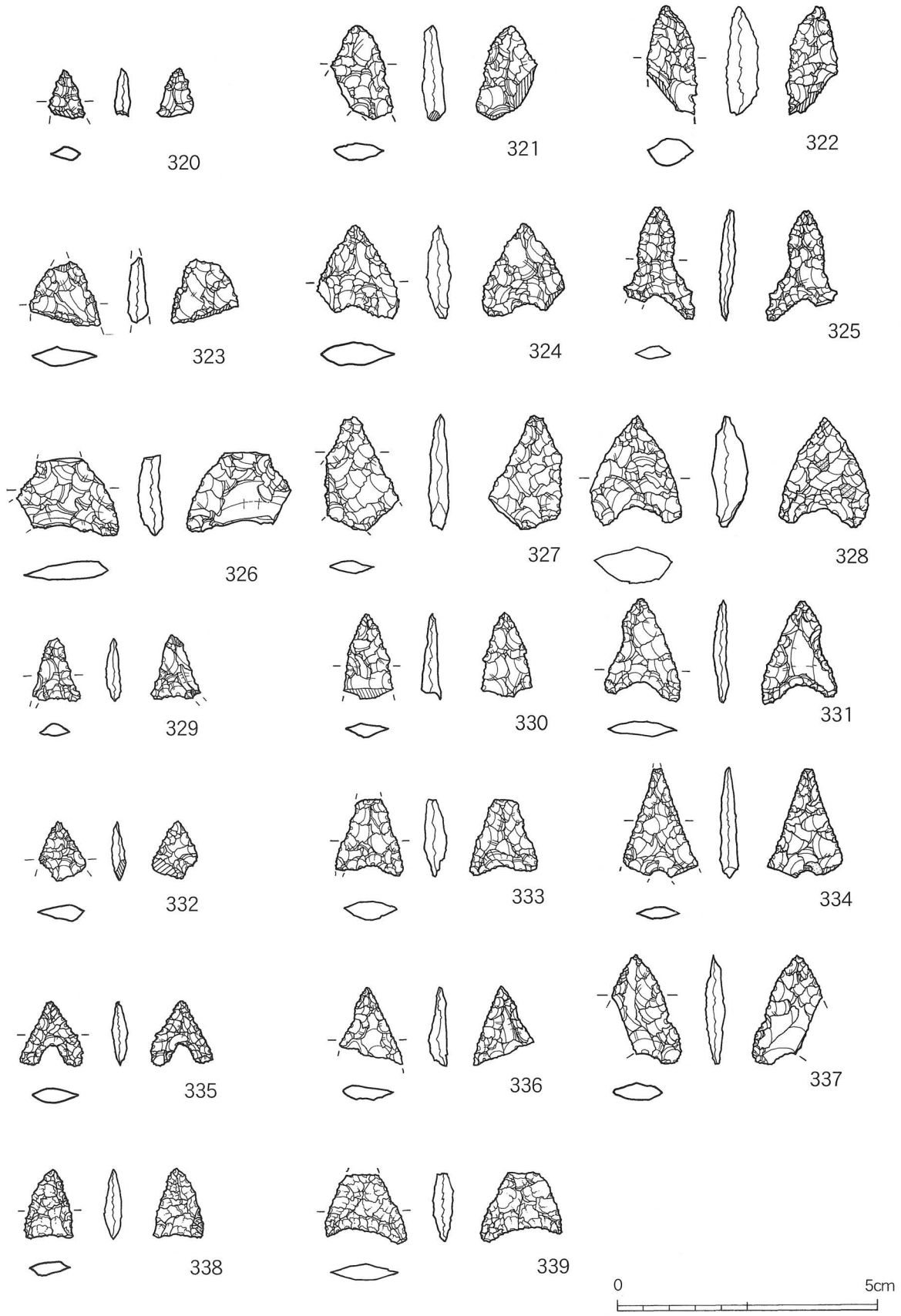
石鏃以外には石斧2点、敲石1点、磨石1点、二次調整剥片4点、使用痕剥片4点、石匙1点、スクレイパー3点、石錘2点を掲載している。



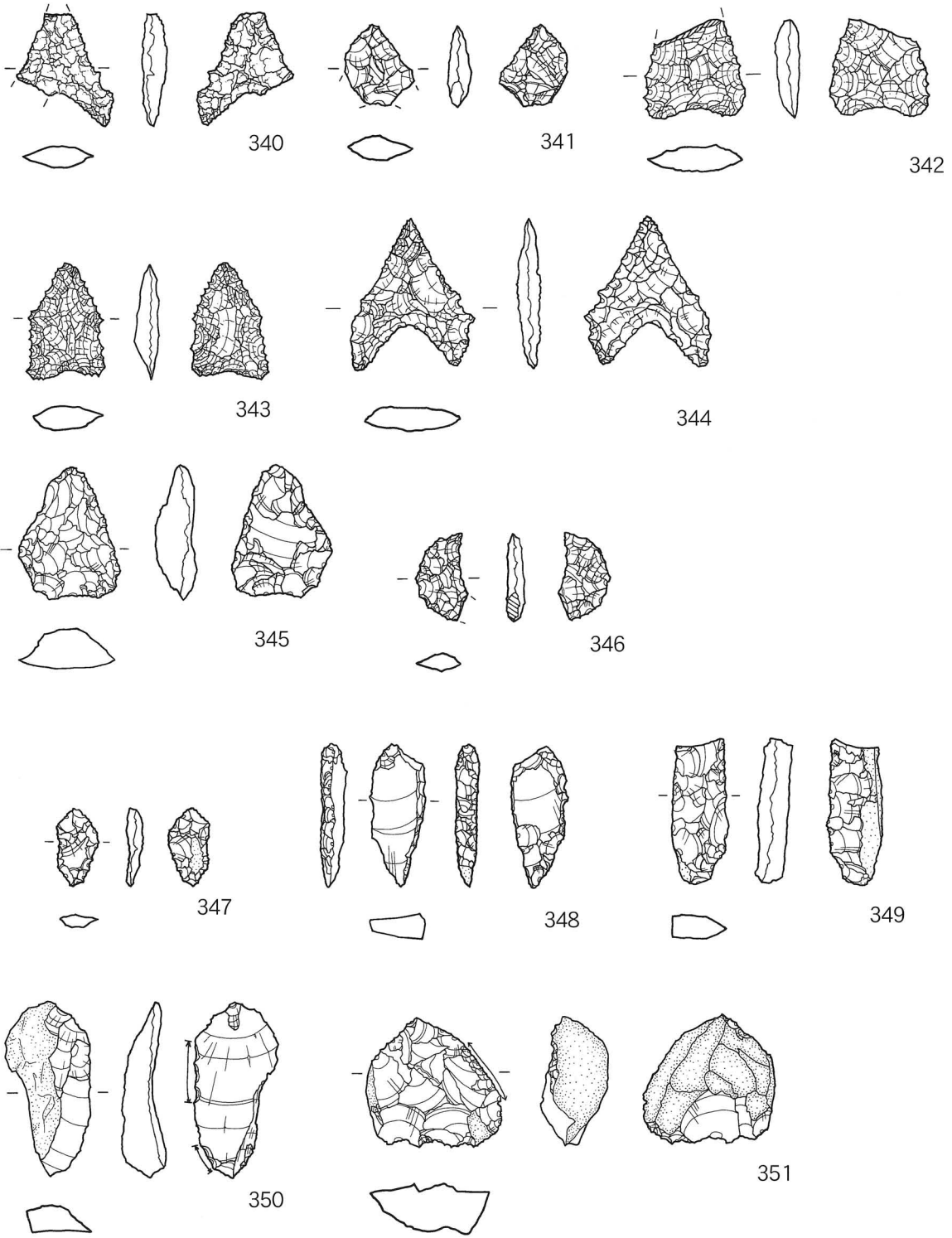
第63图 包含層出土遺物 高杯他



第64図 包含層出土遺物 石器(1)

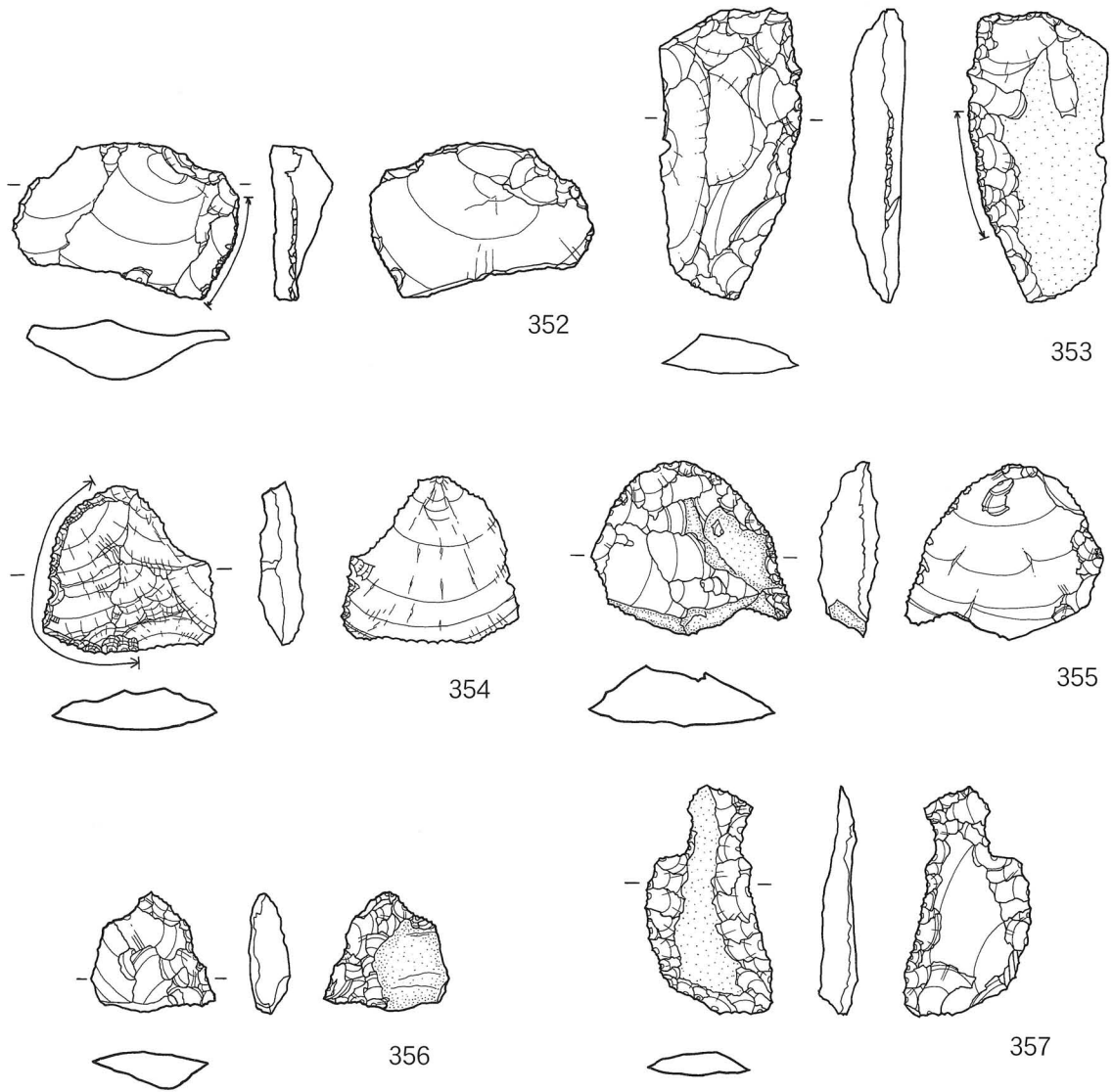


第65图 包含層出土遺物 石器(2)

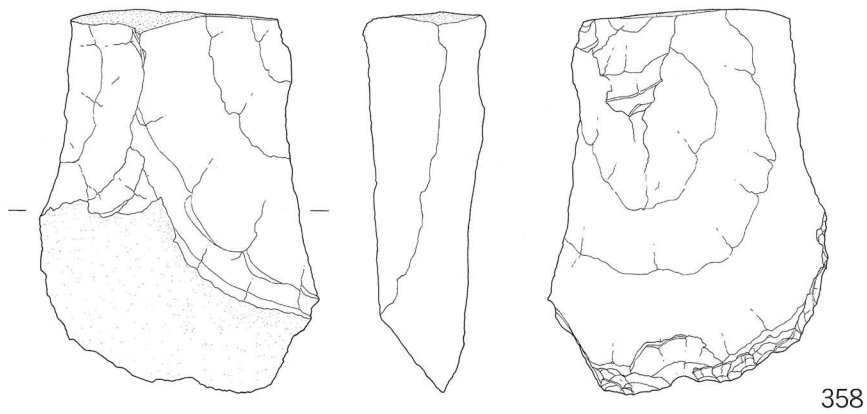


第66图 包含層出土遺物 石器(3)

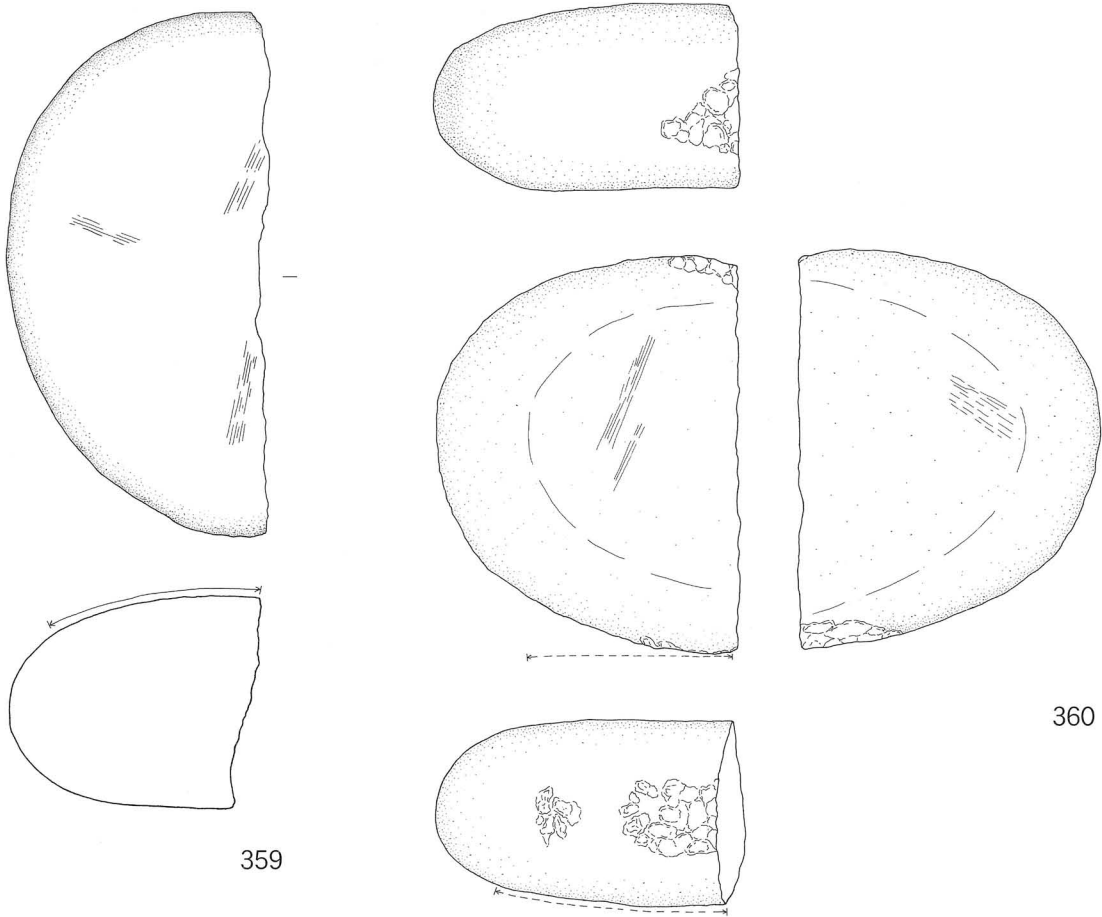
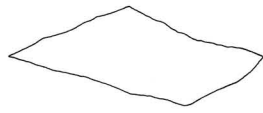




第67図 包含層出土遺物 石器(4)



358

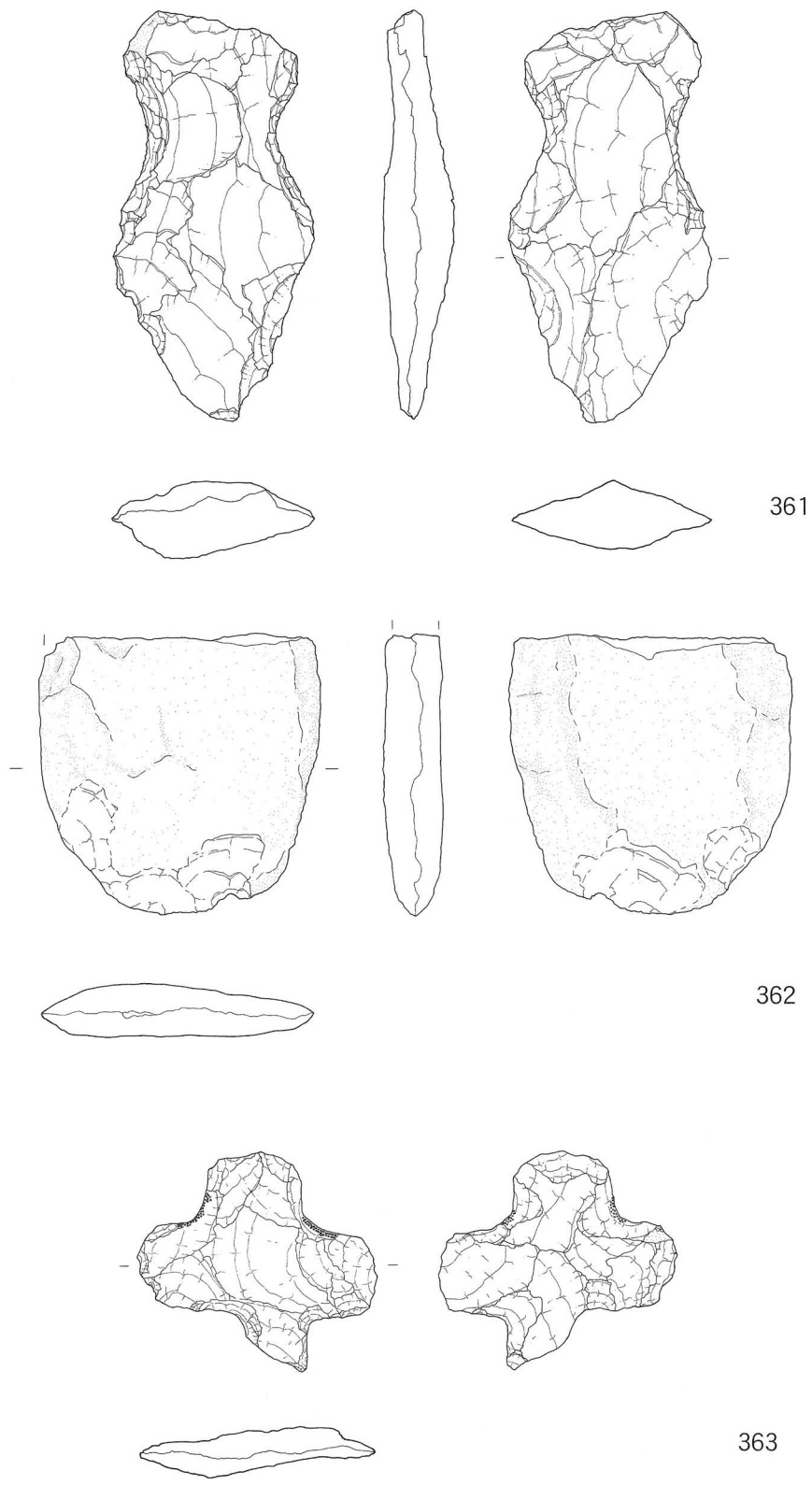


359

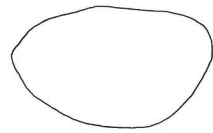
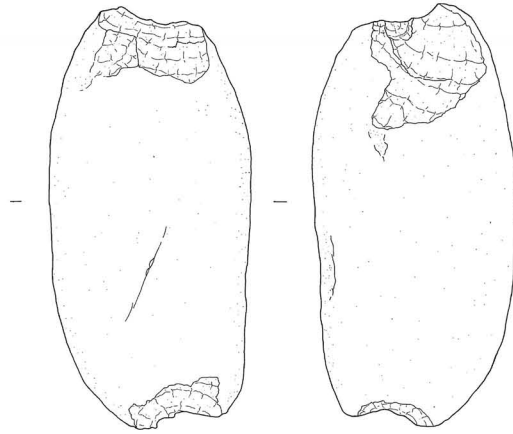
360



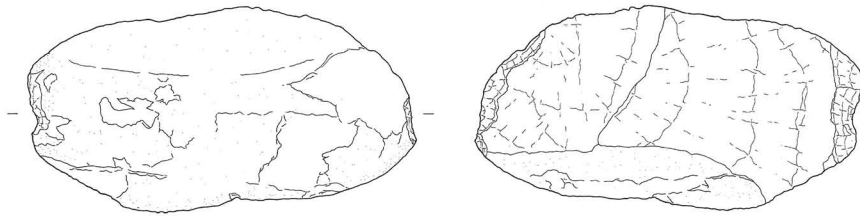
第68図 包含層出土遺物 石器(5)



第69図 包含層出土遺物 石器(6)



364



365



第70図 包含層出土遺物 石器(7)

## 第7章 まとめ

黒仁田遺跡は縄文後期～晩期、弥生後期、終末期、古墳時代初頭を主体とする遺跡である。畑の耕作によってその多くを破壊されていたものの、出土した遺構・遺物から、黒仁田遺跡で営まれてきた歴史の一部を垣間見ることができた。

遺物は霧島を噴出起源とする黒ボク土壌から出土し、前述した縄文時代後期～晩期、弥生後期、終末期、古墳時代初頭の遺物に加え、弥生時代中期がごく少量、中近世陶磁器の小片が多数出土している。遺構も住居跡9基、不明遺構2基、土坑3基が検出された。土層の攪乱が激しく、また他時期の遺物が住居跡へ流れ込んでいることもあって、遺構の年代を特定するのが大変困難であった。しかし、中には床面出土資料も得られた住居跡もあるため、若干の考察を加えてみたい。

S A - 4 は隅丸方形の住居跡で、遺物は床面からは浮いて出土したものの、多くの資料に恵まれた。土器片の接合により器形の大部分を復元できたものもある。頸部下の突帯付甕の脚台や鉢・壺の形態に着目すると弥生後期中葉～後葉の時期に相当するものではなかろうか。一方、高杯の時期はこれらよりは新しい時期のものである。しかし、出土した資料の比重からいうと弥生後期中葉～後葉の時期とってよいと思われる。

S A - 5 は円形住居跡で床面出土資料という良好な資料に恵まれたことに加え、炭化物の放射性炭素年代測定法により西暦220～350年の結果が得られている。また、S A - 9 の花卉形住居跡もまたS A - 4 同様、多くの良好な資料に恵まれた。ほぼ完形に復元できた土器からは古墳時代初頭の時期であると推定される。

他の遺構の年代もやはり弥生後期、終末期、古墳時代の初頭と思われ、黒ボク土から出土した包含層出土遺物も同時期のものであることから、黒仁田遺跡は弥生後期、終末期、古墳時代に営まれた集落であるといってお間違いないだろう。試掘確認調査時に調査区東側方面に住居跡や多くの遺物が確認されていることから、集落は現在把握しているよりも広範囲に、特に東側～南側斜面に住居跡が広がっている可能性が高い。

今回石器を多数掲載したが、これらは出土した石器すべてではなく、他にも多く出土している。残念なことに、黒仁田遺跡はその大部分をゴボウのトレンチャーの掘削によって破壊されているため、土器と同様に欠損しているものや攪乱土からの出土が目立った。そのこともあって、現場での出土状況から遺跡の特徴・性格を見つけ出すのは困難であった。よって、出土した石器そのものについて若干ながら検討したい。

黒仁田遺跡で特徴的であるのは黒曜石の出土数の多さである。出土した石鏃のほとんどは黒曜石製で、圧倒的に他の石材を上回る。チャート製などの遺物も見られるが微々たるものである。黒曜石の剥片や石核の出土も非常に多く、黒仁田遺跡内で石器の製作を行っていたであろうことが容易に予想される。これらの黒曜石を肉眼で観察すると、いくつかの種類を確認でき、いくつか異なる原産地の黒曜石を使用していることがわかる。近隣から採取できる黒曜石の使

用が予想されたが、京都大学原子炉実験所の藁科哲男氏に黒曜石製遺物の原材産地分析を依頼したところ、予想通りの結果が得られた。桑ノ木津留第1群、桑ノ木津留第2群、日東・五女木産、内屋敷UT遺物群などの原材産地からの黒曜石の使用が認められ、えびの市や鹿児島県の出水など小林市の西側近隣地域との活発な交流があったことを想定できる。また、桑ノ木津留第2群、内屋敷UT遺物群は現在まだその原石産地が不明とされており、この2箇所の原石産地が確認されればまた、黒仁田遺跡の当時の周辺地域との交流関係が明らかとなるであろう。

黒仁田遺跡からは中世～近世の陶磁器片も出土し、すべてが日常雑器類である。一部は黒ボク土からの出土であるが、そのほとんどは攪乱層出土あるいは表採資料で、いずれも小片で出土状態の良好なものは得られなかった。中世のものとしては、中国青磁が6点のみ出土し、そのうち1点は鎬連弁文の碗であった。出土した資料の大半が18～19cの苗代川系、加治木・始良系の薩摩陶器で、苗代川系が大部分を占めている。苗代川系黒薩摩には挿鉢や土瓶が主として見られた。また、龍門司系陶器鮫肌手や三彩陶磁も確認できた。その他にもごく少量の肥前系染付や陶器、平佐系色絵、明治以降の瀬戸・美濃系染付、近世染付などが出土している。

今回の発掘調査により、断片的ではあるものの黒仁田遺跡において生活していた人々の生活・文化を知ることができた。今後もこれらの資料を活用することで、小林市の歴史研究・教育に役立てていきたい。

本書の作成にあたり、菅付和樹氏、谷口武範氏、本田道輝氏、渡辺芳郎氏、中村直子氏、宮崎県埋蔵文化財センター諸氏には多くの貴重な御教示をいただきました。末尾になりますが、心より感謝申し上げます、お礼とさせていただきます。

#### 《引用・参考文献》

新井政義 『宮崎県風土記』旺文社 1988

石川悦雄 「宮崎平野における弥生土器編年試案一素描(Mk. II)」『宮崎考古』第9号  
宮崎県考古学会 1984

工藤基志 「梅木原遺跡発掘調査報告書」『小林市埋蔵文化財報告書』第11集  
小林市教育委員会 2000

小林市史編さん委員会 『小林市史 第三巻 戦後編』小林市 2000

重留康宏 「広庭遺跡」『小林市埋蔵文化財調査報告書』第12集 小林市教育委員会 2001

重山郁子・山田洋一郎・東憲章 「丸谷地区遺跡群 中大五郎第1遺跡 中大五郎第2遺跡  
本池遺跡 前畑遺跡」『都城市文化財調査報告書』第34集  
都城市教育委員会 1996

菅付和樹 「ひむかの弥生時代後期住居跡」『えとのす31号』新日本教育図書株式会社 1986

- 谷口武範 「永田原遺跡」『永田原遺跡・小木原遺跡群蔵地区(A・B地区)・口ノ坪遺跡』  
えびの市教育委員会 1990
- 富田紘一 「II. 西山南麓の未紹介遺跡」『戸坂遺跡発掘調査報告書』  
熊本市教育委員会 1986
- 中園 聡 「九州南部地域弥生土器編年」『人類史研究』第9号 人類史研究会 1997
- 長津宗重 「日向型間仕切り住居研究序説」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告』第2集  
宮崎県教育委員会 1985
- 長津宗重・長友郁子 「水落遺跡」『小林市文化財調査報告書』第5集  
小林市教育委員会 1992
- 中野和浩 「田代地区遺跡群 上田代遺跡・松山遺跡・竹之内遺跡・妙見原遺跡」  
『えびの市埋蔵文化財報告書』第20集 1997 えびの市教育委員会
- 中村直子 「薩摩半島東部における弥生時代後期土器の検討」『鹿児島考古』第31号  
鹿児島県考古学会 1997
- 藤岡謙二郎 「日向国」『古代日本の交通路IV』大明堂 1979
- 本田道輝 「市来・一湊式土器様式」『縄文土器大観4』小学館 1989
- 前迫亮一 「異系統土器文化の一接点」『南九州縄文通信No.6』南九州縄文研究会 1992
- 松永幸男 「九州磨消縄文系土器様式」『縄文土器大観4』小学館 1989
- 前迫亮一 「南の磨消縄文土器—干迫遺跡出土土器にみる磨消縄文土器の変遷に関する覚書—」  
『犬飼徹夫先生古稀記念論集 四国とその周辺の考古学』  
犬飼徹夫先生古稀記念論文集刊行会 2002
- 松永幸寿 「宮崎平野部における弥生時代後期中葉～古墳時代中期の土器編年」『宮崎考古』  
第17号 宮崎考古学会 2001

第1表 SA-1 出土土器観察表

図面 番号	出土 地区	層位	器種	残存部	口唇部 形態	残存率	法量(cm)			色		調 整		胎 土	焼成	備 考
							口径	器高	底径	外 面	内 面	外 面	内 面			
1	1-B区 SA-1	黒 ボク 埋土	甕	口縁部	丸	1/2	26.6 推定	-	-	にぶい赤褐 Hue5YR5/4	明赤褐 Hue5YR5/6	丁寧なハケ ハケ後ナデ	丁寧なハケ	0.1ミリの無色透明、0.5~1mm の白透の砂粒を多く、0.5~1 mmの黒輝の砂粒を含む	良	
2	1-B区 SA-1	黒 ボク 埋土	甕	口縁部	丸	-	28.0 推定	-	-	にぶい赤褐 Hue2.5YR4/4	赤褐 Hue5YR4/6	ハケ 斜方向ハケ	横ハケ後 斜方向ハケ	0.1~3mmの褐明の砂粒を多く、1~ 2mmの白透、白濁の砂粒をわずかに、 0.5~3mmの黒輝の砂粒を含む	良	
3	1-B区 SA-1	黒 ボク 埋土	甕	口縁部	凹	-	22.0 推定	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR6/3	にぶい黄橙 Hue10YR6/4	ハケ後指押サエ	横ハケ 斜方向ハケ	0.1mmの無色透明、黒輝の砂粒 を多く、2mmの白濁をわずかに 0.5~3mmの灰黄の砂粒を含む	良	煤付着
4	1-B区 SA-1	黒 ボク 埋土	甕	口縁部	平坦	-	-	-	-	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	ハケ	摩滅	0.2~0.5mmの灰白の砂粒を多く、 0.2~0.5mmの無色透明、0.1 ~0.2mmの白濁の砂粒を含む	やや軟	
5	1-B区 SA-1	黒 ボク 埋土	甕	底部	-	-	-	-	-	灰黄褐 Hue10YR5/2	黒褐 Hue10YR3/1	ハケ	ハケ後ナデ	0.1mmの無色透明の砂粒を多く、 1~2mmの灰白、0.5~1mmの 褐暗の砂粒を含む	良	
6	1-B区 SA-1	黒 ボク 埋土	壺	胴部	-	-	-	-	-	赤褐 Hue2.5YR4/6	赤褐 Hue2.5YR4/6	ハケ	ハケ	0.5~1mmの金色の砂粒をわず かに、0.5~2mmの褐明、0.5~2 mmの白濁の砂粒を含む	良	胴部最大径： 推定34.0cm
7	1-B区 SA-1	黒 ボク 埋土	長頸 壺	肩部	-	-	-	-	-	黄灰 Hue2.5Y6/1	にぶい黄橙 Hue10YR6/3	重弧文	ハケ後ナデ 指押サエ	0.5~1mm灰白、1mmの黒鈍、1~ 2mmの褐暗の砂粒を含む	良	免田式土器
8	1区 SA-1	黒 ボク 埋土	高杯	杯部	-	-	-	-	-	明赤褐 Hue5YR5/8	明赤褐 Hue5YR5/6	ハケ後ナデ	風化の為不明瞭	微細~1.5mmの無色透明の砂 粒を多く、0.5~4mmの小石の灰 白、0.5~1.5黒輝の砂粒を含む	良好	丹塗り
9	1区 SA-1	黒 ボク 埋土	台付 皿型 土器	台部	-	-	-	-	16.9 推定	明褐 Hue7.5YR5/6	明赤褐 Hue5YR5/6	沈線文	ナデ	0.5~2mmの無色透明の砂粒を 多く、0.5~1mmの灰黄の砂粒 をわずかに含む	良	

第2表 SA-3 出土土器観察表

図面 番号	出土 地区	層位	器種	残存部	口唇部 形態	残存率	法量(cm)			色		調 整		胎 土	焼成	備 考
							口径	器高	底径	外 面	内 面	外 面	内 面			
12	2区 SA-3	黒 ボク 埋土	甕	口縁部	凹	1/6	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR6/3	にぶい黄橙 Hue10YR7/3	ハケ ハケ後ナデ	ハケ ナデ	0.1mmの無色透明、0.1~0.2mm の灰白の砂粒を含む	良	煤付着
13	2区 SA-3	黒 ボク 埋土	甕	胴下部	-	-	-	-	-	橙 Hue7.5YR6/6	にぶい褐 Hue7.5YR5/3	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ 指押サエ	0.1mmの無色透明の砂粒を多く、 0.1~1mmの黒鈍、0.2~0.5 mmの灰白の砂粒を含む	良	
14	2区 SA-3	黒 ボク 埋土	甕	口縁部	平坦	1/10	19.7 推定	-	-	にぶい褐 Hue7.5YR5/3	灰褐 Hue7.5YR5/2	ハケ	ハケ	1~2mmの灰黄の砂粒を多く含 む	良	煤付着
15	2区 SA-3	黒 ボク 埋土	甕	口縁部	平坦	-	-	-	-	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	ハケ	ハケ	2~3mmの白濁、褐暗の砂粒を 含む	良	
16	2区 SA-3	黒 ボク 埋土	甕	頸部	-	-	-	-	-	灰褐 Hue7.5YR5/2	灰褐 Hue7.5YR5/2	ハケ	ハケ	2~3mmの黒鈍、褐暗の砂粒を 含む	良	
17	2区 SA-3	黒 ボク 埋土	甕	頸部	-	-	-	-	-	褐灰 Hue7.5YR5/1	褐灰 Hue7.5YR5/1	ハケ	ナデ	0.1~0.5mmの褐暗、0.1mmの白 透の砂粒を含む	良	外：刻目(布目) 突帯
18	2区 SA-3	黒 ボク 埋土	壺	口縁部	丸	1/5	8.8 推定	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	ハケ	ハケ ナデ	0.1~0.5mmの灰白、褐暗、1~2 mmの白濁の砂粒を含む	良	
19	2区 SA-3	黒 ボク 埋土	二重 口縁 壺	口縁部	-	-	-	-	-	橙 Hue5YR6/8	橙 Hue5YR6/8	櫛歯波状文	-	0.1mmの無色透明の砂粒を多く、 0.5~1mmの白透の砂粒を 含む	良	
20	2区 SA-3	黒 ボク 埋土	壺	底部	-	1/2	-	-	-	橙 Hue7.5YR6/6	灰黄褐 Hue10YR6/2	ハケ	ハケ	0.1~0.2mmの無色透明の砂粒を 多く、0.1~0.5mmの灰白の 砂粒を含む	良	平底、丹塗り
21	2区 SA-3	黒 ボク 埋土	高杯	杯部	平坦	1/10	27.3 推定	-	-	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	ハケ	ミガキ	0.1mmの無色透明の砂粒を多く、 0.1~0.2mmの灰白の砂粒 を含む	良	



第3表 SA-4 出土土器観察表

図面 番号	出土 地区	層位	器種	残存部	口唇部 形態	残存率	法量(cm)			色		調 整		胎 土	焼成	備 考
							口径	器高	底径	外 面	内 面	外 面	内 面			
22	2区 SA-4	黒 ボク 埋土	甕	口縁部	平坦	-	27.2 推定	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR5/3	にぶい黄橙 Hue10YR6/4	ハケ ハケ後ミガキ	ハケ	0.5~2mmの黒輝、黒鈍を多く、1~2mmの褐明の砂粒をわずかに、1~5mmの灰黄、1~6mmの白濁の砂粒を含む	良	煤付着 刻目突帯付
23	2区 SA-4	黒 ボク 埋土	甕	口縁部	丸	1/4	-	-	-	黒褐 Hue10YR3/2	明褐 Hue7.5YR5/6	横ハケ	横ハケ	1~4mmの灰黄、灰白の砂粒を多く、0.5~1mmの黒輝の砂粒を含む	良	煤付着
24	2区 SA-4	黒 ボク 埋土	甕	口縁部	丸	-	-	-	-	暗褐 Hue7.5YR3/3	橙 Hue7.5YR6/6	指押サエ後横 斜方向ハケ	指押サエ後横 斜方向ハケ	1~4mmの灰黄、灰白の砂粒を多く、1~4mmの褐明、0.5~1mmの透輝の砂粒を含む	良	煤付着
25	2区 SA-4	黒 ボク 埋土	甕	口縁へ 胴部	平坦	1/2	-	-	-	黒褐 Hue2.5Y3/1	にぶい黄橙 Hue10YR5/3 黒褐Hue10YR3/1	横ハケ 縦ハケ後ナデ	ハケ 横ハケ後ナデ	微細~2mmの無色透明の砂粒を多く、0.5~1.5mmの白濁の砂粒を含む	良	煤付着
26	2区 SA-4	黒 ボク 埋土	甕	胴下部	-	-	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	明褐 Hue10YR5/4	ナデ	指押サエ後ナデ	1~2mmの白濁、褐明、1~3mmの灰黄、灰白、0.5~1mmの黒輝の砂粒をわずかに、1~2mmの無色透明の砂粒を含む	良	
27	2区 SA-4	黒 ボク 埋土	甕	胴下部	-	-	-	-	-	橙 Hue7.5YR6/6	にぶい黄橙 Hue10YR6/4	斜方向ハケ後 ナデ	斜方向ハケ後 ナデ	0.5~2mmの白濁の砂粒を多く、1~3mmの褐暗の砂粒をわずかに含む	良	
28	2区 SA-4	黒 ボク 埋土	甕	底部	-	-	-	-	9.9	にぶい橙 Hue7.5YR7/3	にぶい橙 Hue7.5YR7/3	ハケ	指押サエ ミガキ	0.5~1mmの白濁、0.5~2mmの黒輝の砂粒を含む	良	中空脚台
29	2区 SA-4	黒 ボク 埋土	甕	底部	-	-	-	-	-	橙 Hue7.5YR6/6	橙 Hue7.5YR6/6	横ハケ	横ハケ	0.5~1mmの透輝を多く、1~2mmの褐暗、白濁、0.5~2mmの黒鈍の砂粒を含む	良好	
30	2区 SA-4	黒 ボク 埋土	壺	底部	-	-	-	-	-	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	にぶい褐 Hue7.5YR5/3	ハケ ミガキ 摩滅	ハケ 剥離 ナデ	0.5~2mmの灰黄、無色透明を多く、0.5~2mmの黒輝をわずかに、0.5~2.5mmの白濁、白濁の砂粒を含む	良	丸底
31	2区 SA-4	黒 ボク 埋土	壺	底部	-	-	-	4.4 推定	-	にぶい黄橙 Hue10YR7/3	にぶい黄橙 Hue10YR7/3	ハケ後ナデ 指押サエ	ハケ後ナデ	0.5~1mmの黒輝の砂粒をわずかに、0.5~1mmの白濁、白濁の砂粒を含む	良	平底
32	2区 SA-4	黒 ボク 埋土	壺	底部	-	-	-	8.0 推定	-	にぶい赤褐 Hue5YR5/4	橙 Hue7.5YR6/6	ハケ後ナデ	ハケ 摩滅	微細~1mmの金色、黒輝、0.1~3mmの灰白、灰黄、5mmの褐暗の砂粒を含む	良	
33	2区 SA-4	黒 ボク 埋土	鉢	ほぼ 完形	-	3/4	9.95	10.4	5.8 推定	橙 Hue7.5YR6/6	明褐 Hue7.5YR5/6	ミガキ ナデ	指押サエ後斜 方向ハケ、ナデ	1~3mmの灰黄、灰白を多く、1mmの褐暗をわずかに、1~2mmの白濁、黒鈍の砂粒を含む	良好	金雲母混入
34	2区 SA-4	黒 ボク 埋土	鉢	口縁部	凹	1/4	19.0 推定	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR6/3	にぶい黄橙 Hue10YR7/3	縦方向ナデ 指押サエ後横 ハケ	指押サエ 横 ハケ 斜方向 ハケ ヘラ	1~4mmの褐明の砂粒をわずかに、1mmの無色透明、黒鈍、1~2mmの白濁の砂粒を含む	良	
35	2区 SA-4	黒 ボク 埋土	高杯	脚部	-	-	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR6/4	赤褐 Hue5YR4/6	ハケ後ナデ	ナデ	0.5~1mmの黒輝、1~3mmの無色透明の砂粒を多く、1~2mmの灰白の砂粒を含む	良	刺突痕有
36	2区 SA-4	黒 ボク 埋土	深鉢	口縁部	平坦	-	-	-	-	黒褐 Hue7.5YR3/1	褐 Hue7.5YR4/3	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文後 ナデ	貝殻条痕文後 ナデ	0.1~0.3mmの無色透明、0.1~0.5mmの白濁の砂粒をわずかに、1~3mmの黒鈍の砂粒を含む	良好	

第4表 SA-5 出土土器観察表

図面 番号	出土 地区	層位	器種	残存部	口唇部 形態	残存率	法量(cm)			色		調 整		胎 土	焼成	備 考
							口径	器高	底径	外 面	内 面	外 面	内 面			
39	2区 SA-5	黒 ボク 埋土	甕	口縁部	平坦	-	30.6 推定	-	-	灰黄褐 Hue10YR4/2	褐 Hue7.5YR4/4	多方向ハケ	横、斜方向ハケ 指押サエ	0.5mmの無色透明、0.5~4mmの灰黄、灰白の砂粒を多く、0.5mmの黒輝、0.5~5mmの褐明、褐暗の砂粒を含む	良	煤付着
40	2区 SA-5	黒 ボク 埋土	甕	口縁部	平坦	-	23.8 推定	-	-	黒褐 Hue10YR3/2	にぶい赤褐 Hue5YR4/3	指押サエ後 横ハケ	指押サエ後 横ハケ	0.5~1mmの灰黄、1~2mmの褐明、褐暗を多く、0.5mmの黒輝をわずかに、1mmの無色透明の砂粒を含む	良好	煤付着
41	2区 SA-5	黒 ボク 埋土	甕	口縁部	平坦	-	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR7/3	にぶい黄橙 Hue10YR7/3	横方向ハケ	横方向ハケ	1~3mmの灰白、1~5mmの褐暗の砂粒を多く、1~2mmの黒鈍の砂粒をわずかに含む	やや軟	
42	2区 SA-5	黒 ボク 埋土	壺	胴部	-	-	-	-	-	橙 Hue5YR6/6	灰黄 Hue2.5Y6/2	多方向ハケ	指押サエ 摩滅	0.1~0.5mmの白濁を多く、0.5~1mmの黒鈍、褐暗、1~3mmの灰黄の砂粒を含む	良	胴部最大径： 推定24.2cm 床面出土
43	2区 SA-5	黒 ボク 埋土	壺	胴下部	-	-	-	-	-	褐灰Hue10YR4/1 橙Hue7.5YR6/6	黒褐 Hue7.5YR3/1	ハケ ハケ後ナデ	摩滅 剥離	微細~1.5mmの無色透明の砂粒を多く、0.5~1mmの黒輝の砂粒を含む	軟	
44	2区 SA-5	黒 ボク 埋土	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	明赤褐 Hue5YR5/6	明赤褐 Hue5YR5/6	貝殻腹縁刺引文	貝殻条痕文 指押サエ	0.1~0.2mmの無色透明の砂粒を多く含む	良	
45	2区 SA-5	黒 ボク 埋土	深鉢	胴部	-	-	-	-	-	明赤褐 Hue2.5YR5/6	明赤褐 Hue5YR5/6	貝殻条痕文後 ナデ	貝殻条痕後ナデ	0.1mmの無色透明の砂粒を多く、0.1~0.2mmの褐暗の砂粒を含む	良	
46	2区 SA-5	黒 ボク 埋土	台付 皿型 土器	台部	-	-	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR7/2	にぶい黄橙 Hue10YR7/3	沈線文	ナデ	0.1~0.3mmの褐明、褐暗の砂粒を多く、0.1~2mmの黒鈍の砂粒を含む	良	

第5表 SA-6 出土土器観察表

図面 番号	出土 地区	層位	器種	残存部	口唇部 形態	残存率	法量(cm)			色		調 整		胎 土	焼成	備 考
							口径	器高	底径	外 面	内 面	外 面	内 面			
50	2区 SA-6 付近	-	台付 皿型 土器	台部	-	-	-	-	-	灰黄褐 Hue10YR4/2	暗灰黄 Hue2.5Y4/2	沈線文	ヘラナデ	0.1~0.3mmの褐暗、0.1~2mmの白濁の砂粒をわずかに、0.5~3mmの黒鈍の砂粒を含む	良	

第6表 SX-1 出土土器観察表

図面 番号	出土 地区	層位	器種	残存部	口唇部 形態	残存率	法量(cm)			色		調 整		胎 土	焼成	備 考
							口径	器高	底径	外 面	内 面	外 面	内 面			
55	2区 SX-1	黒 ボク 埋土	壺	胴部	-	-	-	-	橙 Hue7.5YR6/6	橙 Hue7.5YR6/6	タタキ後ハケ	摩滅	0.5~2mmの白濁の砂粒を多く 微細~1mmの無色透明、0.5~1 mmの灰黄の砂粒を含む	良好	外：刻日突帯	
56	2区 SX-1	黒 ボク 埋土	壺	底部	-	-	-	-	にぶい黄褐 Hue10YR5/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	ハケ ミガキ	摩滅	0.5~1mmの黒輝を多く、1~6mm の灰黄、0.5~1mmの褐明をわず かに、1mmの白濁の砂粒を含む	良	丸底	
57	2区 SX-1	黒 ボク 埋土	鉢	口縁部	平坦	-	-	-	褐 Hue7.5YR4/4	にぶい赤褐 Hue5YR4/4	斜位の刺突文	-	0.1mmの無色透明、灰白の砂粒 を含む	良	外：煤付着	
58	2区 SX-1	黒 ボク 埋土	鉢	口縁部	-	-	-	-	黒褐 Hue7.5YR3/2	褐 Hue7.5YR4/3	貝殻刺突文	-	0.1mmの灰白、無色透明の砂粒 を含む	良	山形口縁 唇部：刺突文	
59	2区 SX-1	黒 ボク 埋土	鉢	口縁部	平坦	1/10	-	-	黒褐 Hue10YR3/2	にぶい黄橙 Hue10YR5/3	横方向ヘラケ ズリ	ナデ	0.5~1mmの透輝を多く、0.5~4mmの褐 暗の砂粒をわずかに、1~3mmの灰黄、 灰白、0.5~1mmの黒輝の砂粒を含む	良		
60	2区 SX-1	カ ラン	台付 皿型 土器	台部	-	-	-	-	オリーブ黒 Hue5Y3/1	黒 Hue5Y2/1	沈線文 ミガキ	ミガキ	0.1~2mmの褐明、褐暗、0.1~ 0.5mmの灰白のさりゅうをわ ずかに、0.1~3mmの白濁	良		

第7表 SX-2 出土土器観察表

図面 番号	出土 地区	層位	器種	残存部	口唇部 形態	残存率	法量(cm)			色		調 整		胎 土	焼成	備 考
							口径	器高	底径	外 面	内 面	外 面	内 面			
63	2区 SX-2	黒 ボク 埋土	鉢	完形	丸	-	24.1	11.6	7.4	褐 Hue7.5YR4/3	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	縦、斜方向ハケ ハケ後ナデ	指押サエ後ハケ	0.1~0.2mmの褐暗、1~3mmの灰黄、 1~5mmの白濁の砂粒をわずかに、 1~3mmの黒鈍の砂粒を含む	良好	外：布目 煤付着 平底
64	2区 SX-2	黒 ボク 埋土	甕	口縁部	-	-	-	-	-	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	にぶい褐 Hue7.5YR5/3	ナデ	ナデ	0.1~1mmの白濁、1~2mmの灰黄 の砂粒をわずかに、0.5~3mmの 黒輝の砂粒を含む	やや軟	外：刻日突帯
65	2区 SX-2	黒 ボク 埋土	甕	底部	-	-	-	-	12.2 推定	にぶい黄橙 Hue10YR6/4	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	0.1mmの無色透明、0.1~0.5mm の白濁、褐暗の砂粒を含む	良	
66	2区 SX-2	黒 ボク 埋土	甕	底部	-	-	-	-	5.8	橙 Hue5YR6/6	にぶい赤褐 Hue5YR4/3	ハケ ナデ	ナデ	0.5~2.5mmの透輝を多く、0.5~6mm の褐暗をわずかに、0.5~2mmの白濁、黒 輝、0.5~2.5mmの褐暗の砂粒を含む	良	上げ底
67	2区 SX-2	黒 ボク 埋土	鉢	口縁部	波状	-	-	-	-	褐 Hue7.5YR4/3	暗褐 Hue10YR3/4	貝殻腹縁刺突文	ナデ	0.1~1mmの無色透明、0.5~1mmの黒 輝を多く、0.5~1mmの灰白、0.5~4 mmの褐暗の砂粒をわずかに含む	良好	波状口縁

第8表 SA-8 出土土器観察表

図面 番号	出土 地区	層位	器種	残存部	口唇部 形態	残存率	法量(cm)			色		調 整		胎 土	焼成	備 考
							口径	器高	底径	外 面	内 面	外 面	内 面			
69	3区 SA-8	黒 ボク 埋土	甕	口縁部	平坦	-	-	-	-	灰褐 Hue7.5YR5/2	褐灰 Hue7.5YR4/1	ハケ	ハケ	0.5~1mmの褐明をわずかに、 0.5~2mmの灰黄、灰白の砂粒 を含む	良好	
70	3区 SA-8	黒 ボク 埋土	甕	胴部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue10YR3/1	にぶい黄橙 Hue10YR6/4	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	0.1~3mmの黒鈍を多く、0.5~1mmの 褐暗をわずかに、0.1~2mmの白濁、 1~3mmの無色透明の砂粒を含む	良	煤付着 刻日突帯(布目)
71	3区 SA-8	黒 ボク 埋土	甕	口縁部	-	-	11.6	-	-	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	横ハケ	ハケ ハケ後指押サエ	0.5~1mmの褐明の砂粒をわ ずかに、0.5~2mmの白濁、0.1 ~0.5mmの黒鈍の砂粒を含む	良	外：二次焼成 痕有
72	3区 SA-8	黒 ボク 埋土	甕	底部	-	-	-	-	8.4 推定	赤褐 Hue2.5YR4/6	黒褐 Hue10YR3/2	指押サエ 不定方向ハケ	ナデ ハケ	0.5~1.5mmの無色透明の砂粒 をわずかに、1~3mmの灰黄、3 ~5mmの岩片を含む	良	
73	3区 SA-8	黒 ボク 埋土	壺	口縁部	平坦	-	11.25	-	-	赤褐 Hue5YR4/6	明赤褐 Hue2.5YR5/6	横ハケ 多方向ハケ	指押サエ ハケ	0.5~2mmの無色透明、0.5~4 mmの褐明、褐暗の砂粒を多く、 0.5~4mmの灰黄の砂粒を含む	軟	
74	3区 SA-8	黒 ボク 埋土	二重 口縁 壺	口縁部	-	-	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	にぶい黄橙 Hue10YR6/4	摩滅 ハケ	ハケ	微細~0.5mmの砂粒をわず かに、微細の無色透明、微細~ 1mmの白濁の砂粒を含む	やや軟	全体的に摩滅
75	3区 SA-8	黒 ボク 埋土	甕	口縁部	-	-	-	-	-	黒褐Hue10YR3/1 にぶい黄橙 Hue10YR5/3	暗灰褐 Hue2.5Y5/2	ハケ	ハケ	0.5~1.5mmの黒鈍の砂粒を多 く、0.5~2mmの白濁、灰黄の砂 粒を含む	良	
76	3区 SA-8	黒 ボク 埋土	甕	口縁部	-	-	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR5/3	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	指押サエ後ハケ	ナデ	0.5~1mmの黒鈍、灰黄、灰白、1 mmの白濁の砂粒を含む	良	
77	3区 SA-8	黒 ボク 埋土	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	明赤褐 Hue5YR5/6	黒褐 Hue7.5YR3/1	斜方向に刻目	ナデ	0.5~1mmの無色透明、0.1~2 mmの灰白の砂粒をわずかに、 0.5~2mmの黒輝の砂粒を含む	良	口唇部：刻日 金雲母を含む
78	3区 SA-8	黒 ボク 埋土	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue10YR3/1	暗赤褐 Hue5YR3/2	貝殻伸引文	ナデ後指押サエ	0.1~0.5mmの無色透明、褐明の砂 粒をわずかに、0.1~2mmの灰黄、 0.1~0.5mmの黒輝の砂粒を含む	良	丸尾式 金雲母を含む
79	3区 SA-8	黒 ボク 埋土	台付 皿形 土器	台部	-	-	-	-	-	灰褐 Hue7.5YR6/2	にぶい赤褐 Hue5YR5/4	沈線文	ナデ	0.5~1mmの無色透明の砂粒をわず かに、0.1~2mmの白濁、1~5mmの黒鈍、 0.5~3mmの褐暗の砂粒を含む	良	煤付着

第9表 SA-9 出土土器観察表

図面 番号	出土 地区	層位	器種	残存部	口唇部 形態	残存率	法量(cm)			色		調 整		胎 土	焼成	備 考
							口径	器高	底径	外 面	内 面	外 面	内 面			
82	3区 SA-9	黒 ボク 埋土	甗	頸胸部	-	-	-	-	-	に お い 黄 橙 Hue10YR7/4	橙 Hue7.5YR6/6	ハ ケ ヘ ラ ナ デ	ハ ケ	0.5~2.5mmの灰黄を多く、0.5~2mmの褐暗、白濁、黒鈍の砂粒を含む	良	
83	3区 SA-9	黒 ボク 埋土	甗	口縁部	凹	-	22.4 推定	-	-	黒 Hue5Y2/1	オ リ ー プ 黒 Hue5Y3/2	横、縦方向の ハ ケ	横、縦方向の ハ ケ	0.5mmの透輝、1mmの黒輝を多く、1~2mmの砂粒をわずかに、2mmの無色透明の砂粒を含む	良好	
84	3区 SA-9	黒 ボク 埋土	甗	完形	平坦	3/4	約 25.0	約 30.7	約 4.5	明赤褐 Hue5YR5/6 黒褐 Hue5YR3/1	明赤褐 Hue5YR5/6 黒褐 Hue5YR3/1	ハ ケ	ハ ケ 後 ナ デ	2~4mmの白灰の岩片、0.5~3mmの白濁の砂粒を多く、微細の砂粒を含む	良好	炭化物付着 金雲母含む
85	3区 SA-9	黒 ボク 埋土	甗	頸~胴部1/3	-	-	-	-	-	赤褐 Hue5YR4/6 黒 HueN1.5/	赤褐 Hue5YR4/6 黒 HueN1.5/	ハ ケ ナ デ ナ デ な ミ ガ キ	ハ ケ ナ デ ナ デ な ミ ガ キ	0.5~8mmの白濁の岩片を多く、微細の金色、微細~0.5mmの無色透明の砂粒を含む	据置	両面：胴部に黒斑 刻目突帯 金雲母を含む
86	3区 SA-9	黒 ボク 埋土	甗	台部	-	-	-	-	9.0 推定	に お い 黄 橙 Hue10YR6/4	に お い 褐 Hue7.5YR5/4	ハ ケ	ハ ケ ナ デ	0.5~2mmの白透を多く、0.5~1mmの灰白をわずかに、0.5~1.5mmの白濁、0.5~2mmの無色透明の砂粒を含む	良好	
87	3区 SA-9	黒 ボク 埋土	壺	底部	-	-	-	-	-	に お い 赤 褐 Hue5YR5/4	橙 Hue5YR6/6	ミ ガ キ ハ ケ	ハ ケ	0.5~1mmの白透の砂粒をわずかに、0.5~2mmの灰白の砂粒を含む	良	平底
88	3区 SA-9	黒 ボク 埋土	-	底部	-	1/8	-	-	-	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR6/6	ハ ケ	ナ デ	0.5~1mmの白透、金色の砂粒、0.5~2mmの黒輝の砂粒を含む	良	
89	3区 SA-9	黒 ボク 埋土	壺	口縁部	-	-	-	-	-	に お い 橙 Hue7.5YR7/4	橙 Hue5YR7/6	櫛 描 波 状 文	ハ ケ	0.1~0.5mmの白透の砂粒を多く、0.5~1mmの褐暗の砂粒をわずかに含む	良	
90	3区 B-4 SA-9	黒 ボク 埋土	壺	底部	-	-	-	-	-	に お い 赤 褐 Hue5YR4/3	に お い 赤 褐 Hue2.5YR4/4	ミ ガ キ	ハ ケ ナ デ	微細~1.5mmの白透、白濁、灰黄、0.1~1.5mmの黒鈍の砂粒を含む	良	内面に刺突痕有
91	3区 SA-9	黒 ボク 埋土	蓋	蓋部	-	-	-	-	25.1 推定	暗褐 Hue7.5YR3/3	に お い 褐 Hue7.5YR5/4	ハ ケ 板状工 具によるナ デ	ハ ケ 指 押 サ エ	1~6mmの灰黄、灰白、0.5~2mmの黒輝を多く、0.5~1mmの褐暗の砂粒を含む	軟	金雲母を含む 煤付着 床面出土
92	3区 SA-9	黒 ボク 埋土	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue7.5YR3/1	黒褐 Hue10YR3/1	貝殻条痕文 貝殻刺突押引文	貝殻条痕文 ナ デ	0.1~2mmの無色透明の砂粒を多く、0.1~1mmの黒輝の砂粒をわずかに、0.1~2mmの灰黄の砂粒を含む	良	
93	3区 SA-9	黒 ボク 埋土	-	胴部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue10YR3/2	黒褐 Hue7.5YR3/1	刺突文 沈線文	ナ デ	0.1~0.5mmの褐明の砂粒をわずかに、0.1~2mmの無色透明、0.1~0.5mmの黒輝の砂粒を含む	良	

第10表 SC-2 出土土器観察表

図面 番号	出土 地区	層位	器種	残存部	口唇部 形態	残存率	法量(cm)			色		調 整		胎 土	焼成	備 考
							口径	器高	底径	外 面	内 面	外 面	内 面			
99	3区 SC-2	ⅢB	甗	口縁部	平坦	-	20.0 推定	-	-	黒 Hue5Y2/1	に お い 黄 橙 Hue10YR7/4	ハ ケ 後 指 押 サ エ	ハ ケ 後 指 押 サ エ	1mmの灰白、0.5~1mmの褐暗の砂粒をわずかに、1~2mmの無色透明、灰黒の砂粒を含む	良好	煤付着
100	3区 SC-2	ⅢB	壺	頸部	-	-	-	-	-	灰褐 Hue7.5YR4/2	に お い 褐 Hue7.5YR5/4	ハ ケ	ナ デ 条 痕 か	0.1~0.5mmの灰黄、0.1~2mmの黒鈍、0.5~2mmの褐暗、1~0.5mmの無色透明の砂粒を含む	良	
101	3区 SC-2	ⅢB	壺・甗	底部	-	-	-	-	4.5	褐 Hue7.5YR4/4	暗赤褐 Hue5YR3/6	ナ デ	ナ デ	1mmの黒輝、0.5~1mmの灰黄の砂粒をわずかに、0.5~1mmの白透、白濁、微細~1mmの無色透明の砂粒を含む	良好	平底
102	3区 SC-2	ⅢB	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	に お い 赤 褐 Hue5YR4/4	に お い 褐 Hue7.5YR5/4	貝殻腹縁文 貝殻条痕文後 ナ デ	ナ デ	0.5~2mmの灰白、1~3mmの褐明の砂粒をわずかに、0.1~2mmの無色透明の砂粒を含む	良	

第11表 包含層出土土器観察表(1)

図面 番号	出土 地区	層位	器種	残存部	口唇部 形態	残存率	法量(cm)			色		調		胎	土	焼成	備 考
							口径	器高	底径	外 面	内 面	外 面	内 面				
105	2区 D-5	カク ラン	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	褐灰 Hue10YR4/1	褐灰 Hue10YR4/1	ミガキ 貝殻擬似縄文 沈線	ミガキ 摩滅	0.5~1.5mmの褐暗の砂粒をわ ずかに、0.5~2mmの白濁、灰黄 黒輝の砂粒を含む	良	波状口縁 口唇部に刻目	
106	2区 C-5	カク ラン	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	にぶい褐 Hue7.5YR5/3	褐灰 Hue7.5YR4/1	貝殻擬似縄文	-	0.5~2mmの白濁、灰黄、黒鈍、褐 暗の砂粒を含む	良		
107	2区	Ⅲ	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	灰褐 Hue7.5YR4/2	にぶい褐 Hue7.5YR5/3	沈線文 貝殻刺突文	ハケ	0.5~2mmの白濁、0.5~2.5mmの 灰白、褐明の砂粒を含む	良		
108	2区 C-5	Ⅲ	鉢	頸部	-	-	-	-	-	灰黄褐 Hue10YR4/2	褐灰 Hue7.5YR4/1	沈線文 縄文	ハケ	0.1~1mmの黒輝をわずかに、 0.1~2mmの褐明、無色透明の 砂粒を含む	良		
109	2区	Ⅲ	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	黒 Hue2.5Y2/1	にぶい黄褐 Hue10YR4/3	貝殻刺突文 沈線文刺突列 点文	ハケ	微細~3mmの無色透明を多く、 7mmの褐暗をわずかに、0.1~2 mmの白濁、灰黄の砂粒を含む	良	口縁に刺突文有	
110	3区	ⅢB	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue10YR3/2	灰黄褐 Hue10YR5/2	沈線文	ナデ	1~5mmの白濁の砂粒を多く、 0.5~1mmの褐暗、0.1~1 mmの無色透明の砂粒を含む	良		
111	3区 B-5	ⅢB	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR6/3	褐灰 Hue10YR4/1	沈線文	ナデ	0.1~1mmの白濁、灰白、0.1~ 0.5mmの黒鈍、微細の無色透明 の砂粒を含む	良		
112	2区 D-4	ⅢB	鉢	頸部	-	-	-	-	-	灰黄褐 Hue10YR5/2	褐灰 Hue10YR5/1	沈線文 貝殻擬似縄文	ナデ	0.1~5mmの褐明の砂粒をわず かに、0.1~1mmの白濁、0.1~3 mmの灰白、黒鈍の砂粒を含む	良		
113	2区	ⅢB	鉢	頸部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue10YR3/2	褐灰 Hue10YR4/1	貝殻擬似縄文	ナデ	0.5~2mmの白濁の砂粒を多く、 0.5~2mmの黒輝、褐暗の砂粒をわ ずかに、0.5~2mmの灰白の砂粒を含む	良		
114	3区	ⅢB	鉢	胴部	-	-	-	-	-	にぶい黄褐 Hue10YR5/3	にぶい黄褐 Hue10YR5/3	沈線文 貝殻擬似縄文	ナデ	0.5~2mmの灰黄、0.5~1mmの 黒輝の砂粒を多く含む	良		
115	2区	Ⅲ	鉢	胴部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue10YR3/1	灰黄褐 Hue10YR5/2	列点 沈線 磨消縄文	ナデ	0.5~2mmの無色透明、黒輝の 砂粒を多く、0.5mmの金色の砂 粒をわずかに含む	良		
116	2区	カク ラン	鉢	頸部	-	-	-	-	-	褐灰 Hue7.5YR4/1 にぶい橙 Hue7.5YR6/4	黒褐 Hue10YR3/1	列点文 沈線文 磨消縄文	ミガキ	微細~1mmの無色透明、微細~ 1.5mmの白濁の砂粒を含む	軟		
117	2区	Ⅲ	浅鉢	頸部	-	-	-	-	-	にぶい黄褐 Hue10YR5/3	にぶい黄褐 Hue10YR5/3	沈線文 縄文 ミガキ	ミガキ	0.5~2mmの金色の砂粒をわず かに、0.5~2mmの白濁、灰白の 砂粒を含む	良	縄文部分は丹 塗り	
118	2区	カク ラン	鉢	頸部	-	-	-	-	-	暗赤褐 Hue5YR3/2	黒褐 Hue7.5YR3/1	列点文 沈線文 磨消縄文	ハケ	微細~1mmの無色透明の砂粒、 0.5~1.5mmの白濁の砂粒を多 く含む	良		
119	2区	カク ラン	鉢	頸部	-	-	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR5/3	黒褐 Hue10YR3/1	刺突1ヶ 沈線文 縄文	ナデ	0.1~3mmの無色透明を多く、 0.1~2mmの黒輝、白濁、白濁、 灰黄の砂粒を含む	良		
120	1-B区 D-1	-	鉢	胴部	-	-	-	-	-	にぶい黄褐 Hue10YR5/4	褐 Hue7.5YR4/4	沈線文 縄文 ミガキ	ナデ 摩滅	0.1~1mmの白濁、灰白、0.1~2 mmの黒輝、黒鈍の砂粒を含む	良		
121	2区	表採	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	にぶい橙 Hue5YR6/4	橙 Hue5YR6/6	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文	貝殻条痕文	0.1~0.2mmの無色透明の砂粒 を含む	良		
122	2区	カク ラン	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	貝殻腹縁刺突文	貝殻腹縁刺突文	微細~2mmの無色透明の砂粒を 多く、微細~2mmの黒輝、0.1~1 mmの白濁、灰白の砂粒を含む	良		
123	3区	ⅢB	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue10YR3/2	褐 Hue7.5YR4/4	貝殻腹縁刺突文 条痕文	貝殻条痕文	微細~2mmの無色透明の砂粒を多 く、0.1~1mmの褐明の砂粒をわ ずかに、微細~2mmの白濁、黒鈍の砂粒を含む	やや軟		
124	2区	カク ラン	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	明赤褐 Hue2.5YR5/6	明赤褐 Hue2.5YR5/6	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文後 ナデ	貝殻条痕文後 ナデ	0.5mmの無色透明、0.1mmの白 濁の砂粒を含む	良		
125	3区	ⅢB	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue7.5YR3/1	赤褐 Hue5YR4/6	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文	貝殻条痕文	微細~1.5mmの無色透明0の砂 粒を多く、微細~1mmの白濁を 含む	軟		
126	2区	-	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue7.5YR3/2	黒褐 Hue7.5YR3/1	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文	貝殻条痕文	0.5~1mmの黒輝、白濁の砂粒 をわずかに、0.5~1.5mmの白 濁、灰白の砂粒を含む	良		
127	2区	カク ラン	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	にぶい橙 Hue2.5YR6/4	にぶい橙 Hue5YR6/4	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文	貝殻条痕文	0.5~2mmの白濁の砂粒を多く、 0.5~1mmの黒輝の砂粒をわず かに、0.5~1mmの灰白の砂粒を含む	良		
128	2区 カク ラン	黒 ボク 埋土	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	にぶい赤褐 Hue5YR4/3	にぶい赤褐 Hue5YR4/3	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文	貝殻条痕文	0.1~0.2mmの無色透明の砂粒 を多く、0.1mmの白濁の砂粒を 含む	良	山形口縁	
129	2区	-	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue10YR3/2	褐 Hue7.5YR4/3	貝殻腹縁刺突文	条痕文後ナデ	微細~3mmの褐明の砂粒を多 く、微細~1mmの灰白、黒鈍、無 色透明の砂粒を含む	良		
130	3区 A-5	カク ラン	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	褐 Hue7.5YR4/3	黒褐 Hue10YR3/1	貝殻条痕文 貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕文	0.1~1mmの褐明の砂粒をわ ずかに、0.1~1mmの黒輝、黒鈍、 無色透明の砂粒を含む	良		
131	2区	カク ラン	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	暗赤褐 Hue2.5YR3/3	にぶい黄橙 Hue10YR6/4	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文後ナデ	0.1mmの無色透明の砂粒を多 く、0.1~0.2mmの褐暗の砂粒 を含む	良		
132	2区	Ⅲ	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue7.5YR3/1	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文	ナデ 貝殻条痕文	微細~1.5mmの無色透明、微細~5mm の白濁の砂粒を多く、微細~1.5mm の黒輝、黒鈍の褐明の砂粒を含む	良		
133	2区	-	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue10YR3/2	明赤褐 Hue2.5YR5/6~ 灰 HueN4/	貝殻条痕文 貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕文 横ナデ	0.5~2mmの無色透明の砂粒を多 く、0.5~1mmの黒輝の砂粒をわ ずかに、0.5~1.5mmの白濁の砂粒を含む	良	山形口縁	
134	2区 D-4	Ⅲ	鉢	胴部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue10YR3/1	黒褐 Hue10YR3/1	沈線 列点文 貝殻腹縁刺突文	ナデ	微細~2mmの白濁の砂粒を多 く、0.5mmの無色透明の砂粒を 含む	軟		
135	2区	Ⅲ	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue7.5YR3/1	褐 Hue7.5YR4/4	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文	貝殻条痕文	0.5mmの褐明の砂粒をわずかに、 0.5~1.5mmの灰白、無色透明、 0.5~2mmの灰白の砂粒を含む	良		
136	2区	Ⅲ	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue7.5YR3/2	赤褐 Hue7.5YR4/6	沈線文 貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕文	0.5~1mmの褐暗の砂粒をわ ずかに、0.5~1mmの白濁、0.5~2 mmの無色透明の砂粒を含む	良		
137	2区	Ⅲ	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	灰褐 Hue7.5YR4/2	暗褐 Hue10YR3/3	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文	貝殻条痕文	0.5~2mmの無色透明の砂粒を多 く、0.5~1mmの灰黄、褐暗の砂粒をわ ずかに、0.1~0.5mmの黒輝の砂粒を含む	良		

第11表 包含層出土土器観察表(2)

図面 番号	出土 地区	層位	器種	残存部	口唇部 形態	残存率	法量(cm)			色		調 整		胎 土	焼成	備 考
							口径	器高	底径	外 面	内 面	外 面	内 面			
138	3区	ⅢB	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	にぶい赤褐 Hue5YR5/4	黒褐 Hue2.5Y3/2	貝殻縁刺突文 貝殻条痕文	貝殻条痕文	0.1~0.5mmの灰黄、0.1~1mmの 無色透明の砂粒を多く、0.1mm の黒輝の砂粒をわずかに含む	良	
139	1-B区	ⅢB	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue10YR3/2	黒 Hue5Y2/1	貝殻縁刺突文 沈線文 ミガキ	ミガキ	微細~1mmの無色透明、微細~ 3mmの褐暗、0.1~2mmの灰黄、 黒輝の砂粒を含む	良	
140	2区 C-5	Ⅲ	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue10YR3/2	灰黄褐 Hue10YR4/2	沈線文 貝殻縁刺突文 ミガキ	貝殻条痕文後 ナデ	微細~1.5mmの黒輝、無色透明の 砂粒を多く、0.1~3mmの褐暗、微 細~1.5mmの灰白の砂粒を含む	良	山形口縁
141	2区 E-5	Ⅲ	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue10YR3/2	黒褐 Hue10YR3/2	刺突文	ナデ	0.1~6mmの黒輝の砂粒を多く 0.1~1mmの白濁、0.1~2mmの 褐明の砂粒を含む	良	山形口縁
142	1-B区 D-1	-	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue7.5YR3/1	黒褐 Hue7.5YR3/2	沈線文 貝殻縁刺突文	条痕文後ナデ	微細~1mmの金色、微細~2mmの 灰黄の砂粒を多く、微細~2mmの 白濁の砂粒を含む	良	金雲母含む
143	1-B区	-	台付 皿形土器	口縁部	-	-	-	-	-	明褐 Hue7.5YR5/6	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	ハケ後ミガキ	ハケ後ミガキ	0.5~2.5mmの無色透明の砂粒 を多く、0.5~1.5mmの白濁、黒 輝の砂粒を含む	良	口縁部に貼付 文有
144	3区	-	台付 皿形土器	口縁部	-	-	-	-	-	赤褐 Hue5YR4/6	明赤褐 Hue5YR5/6	ナデ	ハケ後ミガキ	微細~2mmの無色透明の砂粒を多 く、0.5~1.5mmの白濁をわずかに、 0.5~1.5mmの黒輝の砂粒を含む	良	口縁部に貼付 文有 沈線文
145	3区	ⅢB	台付 皿形土器	口縁部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue7.5YR3/1 にぶい黄褐 Hue10YR7/3	黒褐 Hue7.5YR3/1	横ハケ ナデ 沈線	横ハケ	0.5~2.5mmの無色透明、黒輝、 0.5~3mmの白濁の砂粒を多く 0.5~2mmの灰黄の砂粒を含む	軟	口縁に貼付文有
146	3区	ⅢB	台付 皿形土器	口縁部	-	-	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	浅黄 Hue2.5Y7/4	横ナデ	刺突列点文 横ナデ	0.5~3mmの褐明の砂粒を多く 微細~2mmの砂粒をわずかに、 0.5~2mmの砂粒を含む	軟	3mmの刺突列 点文
147	3区	ⅢB	台付 皿形土器	口縁部	-	-	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR5/3	浅黄 Hue2.5Y7/3	ナデ 刺突列点文	ナデ 刺突列点文	0.5~2mmの褐明の砂粒を多く 0.5~1mmの黒輝、無色透明の 砂粒を含む	やや軟	両面：3mmの 刺突列点文が 口唇部に3列
148	3区	カク ラン	台付 皿形土器	皿部	-	-	-	-	-	にぶい赤褐 Hue5YR4/4	赤褐 Hue5YR4/6	横ハケ	横ハケ	微細~2.5mmの無色透明の砂粒 を多く、微細~1mmの白濁、 0.5~1mmの黒輝の砂粒を含む	良	貼付(微)突帯文
149	2区	カク ラン	台付 皿形土器	口縁部	-	-	-	-	-	橙 Hue7.5YR6/6 褐灰 Hue10YR5/1	褐 Hue7.5YR6/6 褐灰 Hue10YR5/1	ミガキ 沈線	ミガキ	0.5~1mmの白濁の砂粒を多く 微細の無色透明の砂粒を含む	やや軟	
150	3区 A-5	ⅢB	皿形土器	口縁部	-	-	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	にぶい黄橙 Hue10YR6/4	刺突列点文 沈線文	指押サエ	0.1~0.5mmの無色透明の砂粒を わずかに、0.1~1mmの灰白、0.1~ 3mmの白濁、褐暗の砂粒を含む	良	口唇端部に刺 突文
151	3区	ⅢB	台付 皿形土器	台部	-	-	-	-	-	明赤褐 Hue5YR5/6	灰黄褐 Hue10YR5/2	沈線文 貝殻押引文 貝殻擬似繩文	ナデ	1~2mmの無色透明の砂粒を多 く、0.5~1mmの灰黄、黒輝、0.5 ~2mmの白濁の砂粒を含む	良	
152	3区	ⅢB	台付 皿形土器	台部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue10YR3/1	黒褐 Hue10YR3/1	沈線文 縄文 ミガキ	ナデ ミガキ	0.1~2mmの白濁のさきょうをわず かに、微細の無色透明、0.1~2mmの 灰黄、灰白、褐明の砂粒を含む	良	
153	3区 A-5	カク ラン	台付 皿形土器	台部	-	-	-	-	-	にぶい褐 Hue7.5YR5/3	黒褐 Hue10YR3/1	沈線文 刺突文 ミガキ	指押サエ	0.1~0.5mmの黒輝の砂粒をわ ずかに、0.1~2mmの灰白、無色 透明の砂粒を含む	良	
154	3区	ⅢB	台付 皿形土器	台部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue10YR3/1	褐灰 Hue10YR4/1	縦方向沈線文	横方向ハケ 摩滅	0.1~2mmの無色透明を多く、0.1 ~2mmの黒輝、0.5~3mmの褐明、 0.1~2mmの黄透の砂粒を含む	良	底部：汗痕有 透し孔有
155	3区	ⅢB	台付 皿形土器	台部	-	-	-	6.0 推定	-	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	にぶい赤褐 Hue5YR5/4	ハケ 摩滅	ハケ後ナデ	0.1~1.5mmの無色透明、黒輝の砂粒 を多く、0.1~1mmの褐明をわずかに、 0.1~0.5mmの灰黄の砂粒を含む	良	
156	2区	Ⅲ	台付 皿形土器	台部	-	-	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR5/3	明赤褐 Hue5YR5/6	沈線文	ハケ	0.1~2mmの黒輝を多く、0~0.5mm の灰白、白濁、0.1~2mmの褐暗、0.5 ~2mm無色透明の砂粒を含む	良	
157	3区	-	台付 皿形土器	台部	-	-	-	-	-	にぶい赤褐 Hue5YR4/4	褐 Hue7.5YR4/4	沈線文	指頭汗痕 ナデ	1~3mmの白濁の砂粒をわずかに、 0.1~2mmの黒輝、0.5~5mm の褐明の砂粒を含む	良	
158	2区	Ⅲ	台付 皿形土器	台部	-	-	-	-	-	赤褐 Hue5YR4/6	黒褐 Hue5YR3/1	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	微細~1mmの無色透明、0.5~3 mmの白濁の砂粒を多く、0.5~ 1mmの黒輝の砂粒を含む	やや軟	透かし孔有
159	2区	カク ラン	浅鉢	口縁部	-	-	-	-	-	黒 Hue5Y2/1	黒 Hue5Y2/1	ミガキ	ミガキ	0.5mmの灰白の砂粒をわずかに、 0.1~0.5mmの無色透明の 砂粒を含む	良好	黒色磨研土器
160	1-B区	カク ラン	浅鉢	口縁部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue7.5YR3/2	黒褐 Hue7.5YR3/2	沈線 ミガキ	ミガキ	0.5~1mmの黒輝の砂粒をわず かに、0.5~2mmの褐暗、0.5~ 2.5mmの白濁の砂粒を含む	良	黒色磨研土器
161	1-B区	ⅢB	浅鉢	口縁部	-	-	-	-	-	オリーブ黒 Hue5Y3/1	黒 Hue7.5Y2/1	沈線文 ミガキ	ミガキ	微細の無色透明の砂粒を多く 0.1~2mmの灰黄、灰白の砂粒 を含む	良好	黒色磨研土器
162	1-B区	-	浅鉢	口縁部	-	-	-	-	-	橙 Hue7.5YR6/6	暗灰黄 Hue2.5Y4/2	沈線文 ミガキ	ミガキ	0.5~2mmの無色透明の砂粒を多 く、0.5mmの灰黄、0.5~1mm の黒輝の砂粒を含む	良	黒色磨研土器
163	3区	ⅢB	浅鉢	口縁部	-	-	-	-	-	褐灰 Hue10YR4/1	黒 Hue2.5Y2/1	沈線文 ミガキ	ミガキ後 指押サエ	微細~1mmの無色透明、褐明、 微細~2mmの黒輝の砂粒を含む	良好	黒色磨研土器
164	3区	ⅢB	浅鉢	胴部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue2.5Y3/2	灰 Hue5Y4/1	ミガキ	ミガキ	0.1mmの黒輝、0.5mmの褐暗の砂 粒をわずかに、0.1~1mmの白濁、 0.1mmの無色透明の砂粒を含む	良好	黒色磨研土器
165	1-B区	-	浅鉢	胴部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue2.5Y3/1	黒褐 Hue2.5Y3/1	ナデ	ミガキ	0.5~1mmの黒輝の砂粒をわ ずかに、0.5~1mmの白濁の砂粒 を含む	良好	補修孔有
166	3区	ⅢB	浅鉢	胴部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue2.5Y3/1	オリーブ黒 Hue7.5Y3/1	ミガキ ハケ	ミガキ後 指押サエ	0.5~1mmの褐明の砂粒をわず かに、0.1~1mmの無色透明、0.5 ~2mmの白濁の砂粒を含む	良好	黒色磨研土器
167	1-B区 C-2	-	浅鉢	頸部	-	-	-	-	-	暗灰黄 Hue2.5Y4/2	黒褐 Hue2.5Y3/1	ハケ ミガキ	ミガキ	微細の無色透明の砂粒を多く、 0.1~1mmの灰黄、灰白の砂粒 を含む	良好	
168	3区 A-5	ⅢB	鉢	口縁部	-	1/20	-	-	-	黒褐 Hue7.5YR3/1	暗褐 Hue7.5YR3/3	-	ナデ	0.1~0.5mmの黒輝、無色透明、0.1 ~2mmの褐明の砂粒をわずかに、 0.1~0.5mmの灰白の砂粒を含む	良	刻み目有
169	3区	ⅢB	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue7.5YR3/2	暗褐 Hue7.5YR3/4	ハケ後ナデ ナデ 刺突文	ハケ後ナデ	微細~2.5mm無色透明の砂粒を多 く、0.5~2mmの灰黄の砂粒 を含む	良	
170	3区 B-5	ⅢB	鉢	口縁部	-	-	22.3 推定	-	-	褐 Hue7.5YR4/4	黒褐 Hue10YR3/1	ハケ後ナデ ナデ 刺突文	ハケ後ナデ	微細~1mmの白濁の砂粒、びさい ~2mmの無色透明の砂粒を 多く含む	良	

第11表 包含層出土土器観察表(3)

図面 番号	出土 地区	層位	器種	残存部	口唇部 形態	残存率	法量(cm)			色		調整		胎 土	焼成	備 考
							口径	器高	底径	外 面	内 面	外 面	内 面			
171	2区	Ⅲ	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR6/3	にぶい黄橙 Hue10YR6/3	ハケ 摩滅 刺突文	ハケ後ナデ 摩滅	0.5~1mmの白濁、灰黄、灰白、 0.5~2mmの黒輝の砂粒を含む	良	
172	3区	ⅢB	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue2.5Y3/2	黄灰 Hue2.5Y4/1	ハケ 刺突文	ハケ 摩滅	0.5~2mmの白濁を多く、0.5~1mmの 黒輝をわずかに、0.5~1mmの灰黄、 灰白、0.5~2mmの褐明の砂粒を含む	良	口唇部に刻み 有
173	3区	ⅢB	浅鉢	口縁部	-	-	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	羽状文	ナデ	0.5~1.5mmの黒輝、0.5~2mmの 無色透明の砂粒を多く、0.5mm の白濁の砂粒を含む	良	北久根式段階 か
174	2区	Ⅲ	鉢	口縁部	丸	-	-	-	-	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	縄文 沈線文 刺突文	ナデ	微細~2mmの白濁、無色透明、 0.1~1mmの褐明、0.1~2mmの 黒輝の砂粒を含む	良	
175	3区	ⅢB	浅鉢	口縁部	-	-	-	-	6.0 推定	灰黄褐 Hue10YR4/2	にぶい赤褐 Hue10YR4/4	貝殻緑刺突文	貝殻条痕文	微細~1mmの無色透明の砂粒を 多く、微細~1mmの黒輝、0.1~2 mmの褐明、褐暗の砂粒を含む	良	
176	2区	Ⅲ	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue10YR3/1	にぶい黄褐 Hue10YR4/3	沈線文	ナデ	微細~2mmの無色透明の砂粒を 多く、微細~1mmの褐明、灰黄、 微細~2mmの黒輝の砂粒を含む	良	
177	2区	Ⅲ	鉢	口縁部	平坦	-	-	-	-	にぶい黄褐 Hue10YR5/4	黒褐 Hue2.5Y3/1	ハケ ナデ 縄文	ハケ ナデ	微細~1mmの黒輝、微細~2mm の無色透明、0.1~1mmの褐明 の砂粒を含む	良	
178	2区	Ⅲ	鉢	口縁部	平坦	-	-	-	-	橙 Hue7.5YR6/6	にぶい黄橙 Hue10YR6/4	貝殻緑刺突文 ハケ	ナデ後多方向 ハケ	0.1~1mmの透輝、0.5~3mmの 灰黄、灰白の砂粒を多く、0.5 ~1mmの褐明の砂粒を含む	良	
179	2区	Ⅲ	鉢	口縁部	平坦	-	-	-	-	黄灰 Hue2.5Y4/1	にぶい黄褐 Hue10YR4/3	刻目 摩滅	ナデ	1~1.5mmの灰黄をわずかに、微細 ~2mmの無色透明、微細~5mmの褐 明、1~2mmの黒輝の砂粒を含む	良	
180	2区	Ⅲ	甕	口縁部	平坦	-	-	-	28.2 推定	灰黄褐 Hue10YR4/2	灰黄褐 Hue10YR6/2	ミガキ	ミガキ	0.5~1mmの灰白、0.5~2mmの黒輝の砂 粒を多く、0.5~2mmの無色透明をわず かに、0.5~1mmの白濁の砂粒を含む	良	口唇部に刻目
181	3区	ⅢB	甕	口縁部	平坦	-	-	-	23.8 推定	灰黄褐 Hue10YR4/2	灰黄褐 Hue10YR6/2	縦後横方向ハケ	横後斜方向ハケ	微細~1mmの無色透明、灰黄、 微細~2mmの白濁、0.5~1mmの 金色の砂粒を含む	良	煤付着
182	2区	Ⅲ	甕	口縁部	平坦	-	-	-	-	橙 Hue7.5YR6/6	にぶい褐 Hue7.5YR5/3	指押サエ後ハケ	指押サエ ナデ後ハケ	1~6mmの黒灰の砂粒を多く、1 mmの無色透明の砂粒をわずかに、 1mmの褐暗の砂粒を含む	良	
183	3区	ⅢB	甕	口縁部	平坦	-	-	-	-	橙 Hue5Y R6/6	橙 Hue7.5YR6/6	ハケ	ハケ	微細~1.5mmの無色透明の砂 粒を多く、0.5~1mm黒輝の砂 粒を含む	良好	
184	3区 B-5	ⅢB	甕	口縁部	平坦	-	-	-	-	橙 Hue5YR6/8	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	ハケ	ハケ後ミガキ	微細~1mmの褐明の砂粒をわ ずかに、微細~1mmの灰白、黒 輝、無色透明の砂粒を含む	良	丹塗り
185	3区	ⅢB	甕	頸部	-	-	-	-	-	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	明赤褐 Hue5YR5/6	ハケ後ナデ	ハケ ハケ後ナデ	微細~2mmの無色透明を多く、 0.5mmの黒輝をわずかに、微細 ~1mmの白濁の砂粒を含む	良好	煤付着 金雲母含む
186	3区	ⅢB	甕	口縁部	丸	-	-	-	-	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	黒褐 Hue7.5YR3/1	ハケ後ナデ ナデ	ハケ後ナデ ナデ	微細~1.5mmの無色透明の砂 粒を多く、0.5~1mm白濁、黒輝 の砂粒を含む	良好	
187	1-B区	ⅢB	甕	口縁部	平坦	-	-	-	-	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	にぶい褐 Hue7.5YR5/3	ハケ	ハケ	0.5~1mmの白濁、0.3~1.5mmの 黒輝、0.5~2mmの褐暗の砂粒 を含む	良	煤付着
188	3区 B-5	ⅢB	甕	口縁部	平坦	-	-	-	-	黒褐 Hue7.5YR2/3	にぶい褐 Hue7.5YR5/3	縦方向ハケ後 横ハケ	ハケ後ナデ	0.5~1mmの黒輝、0.1~2mmの 褐暗をわずかに、0.1~3mmの 白濁の砂粒を含む	良	
189	3区 B-4	ⅢB	甕	口縁部	平坦	-	-	-	-	黒褐 Hue7.5YR3/2	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	ハケ	ハケ	0.5~1mmの褐明をわずかに、 0.5~1mmの白濁、黒輝、0.5~2 mmの灰白の砂粒を含む	良	
190	3区 B-5	ⅢB	甕	口縁部	平坦	-	-	-	-	黒褐 Hue7.5YR3/1	橙 Hue5YR6/6	ハケ	ハケ	0.5~1mmの白濁、無色透明、 0.5~2mmの灰白、黒輝、0.5~3 mm褐明の砂粒を含む	良	煤付着
191	3区	ⅢB	甕	口縁部	丸	-	-	-	-	褐灰 Hue10YR4/1	明赤褐 Hue5YR5/6	ハケ	指押サエ後 ナデ	0.5~5mmの灰黄、灰白の砂粒 を多く、0.5~2mmの無色透明 の砂粒をわずかに含む	良	金雲母含む 調整難
192	1-B区 D-1	ⅢB	甕	口縁部	丸	-	-	-	19.3 推定	黒褐 Hue7.5YR3/2	黒 Hue10YR2/1	横ハケ後丁寧 な横ナデ ミガキ	ミガキ 横ハケ後横ナデ	0.5~1mmの白濁、0.5~1.5mmの 無色透明を多く、0.5~1.5mm の黒輝の砂粒を含む	良	外：圧痕有
193	3区	ⅢB	甕	口縁部	平坦	-	-	-	22.4 推定	にぶい黄橙 Hue10YR5/3	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	横、斜方向ハケ	多方向ハケ	0.5~1mmの無色透明を多く、0.5~ 1mmの褐明、1mmの白濁をわずかに、 0.5~2mmの黒輝の砂粒を含む	良好	煤付着
194	3区 B-5	ⅢB	甕	口縁部	丸	-	-	-	25.0 推定	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	にぶい赤褐 Hue5YR5/4	ハケ	ハケ	0.5~3mmの白濁、0.5~2mmの 灰黄、黒輝の砂粒を含む	良	煤付着
195	3区 B-5	ⅢB	甕	口縁部	丸	-	-	-	25.8 推定	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	にぶい黄橙 Hue10YR6/3	ハケ	ハケ 板状工具によ るナデ	0.5~1mmの金色の砂粒を多く、 0.5~3mmの白濁、灰白の砂粒 を含む	良	煤付着
196	3区 B-5	ⅢB	甕	口縁部	平坦	-	-	-	24.0 推定	にぶい赤褐 Hue5YR4/3	にぶい赤褐 Hue5YR4/3	ハケ	ハケ	0.5~2mmの白濁を多く、0.5~1 mmの褐暗をわずかに、0.5~2mm の灰白、黒輝の砂粒を含む	良	
197	3区	ⅢB	甕	口縁部 ~胴部	丸	-	-	-	22.8 推定	明赤褐 Hue5YR5/6	褐 Hue7.5YR4/3	縦、斜方向の ハケ	多方向のハケ	1~2mmの無色透明の砂粒を多く、0.5~1 mmの白濁、0.5~2mmの褐明の砂粒をわ ずかに、0.5~1mmの黒輝の砂粒を含む	良	煤付着
198	3区	ⅢB	甕	口縁部	丸	-	-	-	-	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	明赤褐 Hue5YR5/6	ハケ ナデ	ハケ ナデ	0.5~1mmの黒輝をわずかに、 0.5~1mmの白濁、褐明、金色の 砂粒を含む	良	金雲母含む 煤付着
199	3区	ⅢB	甕	口縁部	丸	1/4	-	-	19.4 推定	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	上部押サエ ナデ	ハケ後ナデ	0.5~1mmの白濁、灰黄、褐暗、0.5 ~1.5mmの金色の砂粒をわずかに 含む	良	煤付着
200	3区 B-5	ⅢB	甕	口縁部	凹	-	-	-	-	黒褐 Hue10YR3/1	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	ハケ	ハケ	0.5~1mmの白濁の砂粒をわず かに、0.5~2mmの灰白、褐暗の 砂粒を含む	良	金雲母含む 煤付着
201	3区	ⅢB	甕	口縁部	凹	-	-	-	-	黒褐 Hue10YR3/2	明赤褐 Hue5YR5/6	ハケ	ハケ	0.5~1mmの金色、褐暗、0.5mm の黒輝の砂粒をわずかに、1~ 1.5mmの灰黄の砂粒を含む	良好	金雲母含む 煤付着
202	3区 B-5	ⅢB	甕	口縁部 ~胸部	凹	-	-	-	27.3	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	ハケ ハケ後ナデ	ハケ ハケ後ナデ	0.5~1mmの金色、0.5~2mmの 白濁、灰白、黒輝の砂粒を含む	良	
203	3区 B-5	ⅢB	甕	口縁部	丸	-	-	-	-	褐灰 Hue7.5YR4/1	黄灰 Hue2.5Y4/1	ハケ後ナデ	ハケ 摩滅	0.1~0.5mmの灰黄、褐明の砂粒を わずかに、0.1~1mmの黒輝、0.1~ 2mmの無色透明の砂粒を含む	良	

第11表 包含層出土土器観察表(4)

図面 番号	出土 地区	層位	器種	残存部	口唇部 形態	残存率	法量(cm)			色		調 整		胎 土	焼成	備 考
							口径	器高	底径	外 面	内 面	外 面	内 面			
204	3区 B-5	ⅢB	甕	口縁部	丸	-	-	-	-	黒褐 Hue10YR3/1	にぶい褐 Hue7.5YR5/3	ハケ	ハケ ナデ 摩滅	0.1~3mmの無色透明を多く、 微細~1.5mmの黒輝、0.1~1mm の白濁、褐明の砂粒を含む	良	
205	2区	Ⅲ	甕	口縁部	丸	-	-	-	-	明赤褐 Hue5YR5/6	褐 Hue7.5YR4/4	ハケ	ハケ	0.5~1mmの黒輝、0.5~2mmの白濁、 灰白の砂粒を多く、0.5~2mmの褐 明、褐暗の砂粒をわずかに含む	やや軟	外：丹塗り
206	2区	Ⅲ	甕	口縁部	丸	-	28.4 推定	-	-	褐灰 Hue7.5YR4/1	にぶい褐 Hue7.5YR6/3	指押サエ後 ハケ	指押サエ後 ハケ	0.5~4mmの褐明を多く、1~3mmの 灰白、0.5~2mmの黒輝、黒鈍、0.5~ 1mmの無色透明の砂粒を含む	良	
207	3区	ⅢB	甕	口縁部	平坦	-	24.2 推定	-	-	黒褐 Hue2.5YR2/1	橙 Hue7.5YR6/6 にぶい黄橙 Hue10YR6/3	指押サエ後 ハケ ナデ	指押サエ後 ハケ ナデ	1~4mmの褐暗、褐明を多く、3mmの白濁 をわずかに、0.5~1mmの無色透明、 1mmの灰黄、灰白の砂粒を含む	良	
208	3区 B-4	ⅢB	甕	口縁~ 胴部	-	-	42.0 推定	-	-	にぶい褐 Hue7.5YR5/3	褐 Hue7.5YR4/3	ハケ	ハケ	0.5~2mmの白濁、灰黄、灰白、 黒輝、黒鈍、褐暗の砂粒を含む	良	
209	3区 B-5	ⅢB	甕	口縁部 ~胴部	丸	-	-	-	-	灰黄褐 Hue10Y R5/2	褐灰 Hue10YR6/1	ハケ	ハケ	0.1~1mmの灰白、0.1~2mmの 黒鈍、褐明、褐暗の砂粒を含む	良	煤付着
210	3区	-	小型 甕	口縁部	-	-	11.8 推定	-	-	橙 Hue7.5YR7/6	にぶい黄橙 Hue10YR6/4	ハケ後 ナデ	ハケ後 ナデ	1~2mmの白濁、0.5~2mmの灰黄、灰白 を多く、0.5~1mmの褐明をわずかに、 0.5~1mmの黒輝の砂粒を含む	良	
211	3区	ⅢB	甕	口縁部	凹	-	-	-	-	黒褐 Hue10YR3/1	にぶい黄橙 Hue10YR7/3	ハケ	ハケ	0.5~1mmの褐明の砂粒を多く、 0.5~1mmの白濁をわずかに、 0.1~0.5mmの金色の砂粒を含む	良	金雲母含む 煤付着
212	3区	ⅢB	甕	口縁部	凹	-	20.1 推定	-	-	黒褐 Hue10YR3/1	黒褐 Hue10YR3/1	指押サエ後 横ハケ	指押サエ後 横ハケ	0.5~1mmの灰白の砂粒をわず かに、0.1~1mmの無色透明、 0.5~2mmの褐暗の砂粒を含む	良好	金雲母含む
213	2区 D-5	-	甕	口縁部	-	-	-	-	-	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	明褐 Hue7.5YR5/6	ハケ ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	0.5~2mmの白濁、灰白の砂粒を多 く、1~2mmの褐暗の砂粒をわず かに、微細の無色透明の砂粒を含む	軟	外：口縁部に ごく浅い刻み 目有
214	3区 A-5	ⅢB	甕	口縁部	平坦	-	-	-	-	黒褐 Hue7.5YR3/1	にぶい褐 Hue7.5YR5/3	ハケ	-	0.1~2mmの白濁、無色透明、0.5~3mmの 灰白、0.5~1mmの褐明の砂粒をわず かに、0.1~1mmの黒鈍の砂粒を含む	良	刻目突帯
215	3区	ⅢB	甕	胴部	-	-	-	-	-	赤褐 Hue5YR4/6	赤褐 Hue5YR4/6	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	微細~1.5無色透明、0.5~1.5 mmの白濁の砂粒を多く、0.5~ 1mmの黒輝の砂粒を含む	良	刻目突帯 (布目圧痕有)
216	3区 B-5	ⅢB	甕	突帯部	-	-	-	-	-	明赤褐 Hue5YR5/6 黒褐Hue5YR3/1	明赤褐 Hue5YR5/6 黒褐Hue5YR3/1	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	微細~2mmの白濁、0.5~2mmの 黒輝の砂粒を含む	良好	刻目突帯 (布目圧痕有)
217	3区 B-5	ⅢB	甕	胴部	-	-	-	-	-	明赤褐 Hue5YR5/6 黒褐 Hue5YR3/1	明赤褐 Hue5YR5/6 黒褐 Hue5YR3/1	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	微細~2mmの無色透明、0.5~ 2.5mmの白濁の砂粒を多く、 0.5~2mmの黒輝の砂粒を含む	良好	刻目突帯
218	3区	ⅢB	甕	胴部	-	-	-	-	-	橙 Hue7.5YR6/6	明赤褐 Hue5YR5/6	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ 一部指押サエ	微細~2mmの無色透明、0.5~1.5mm の黒輝の砂粒を多く含む、1mm前後 の褐明の砂粒をわずかに含む	良	刻目突帯 煤付着
219	3区	ⅢB	甕	胴部	-	-	-	-	-	明黄褐 Hue10YR6/6 黒 Hue2.5Y2/1	明黄褐 Hue10YR6/6	ハケ ハケ後ナデ	ナデ	微細~2mmの無色透明の砂粒 を多く、0.5~1.5mmの白濁、黒 輝の砂粒を含む	良好	刻目突帯 外：黒斑有
220	3区	ⅢB	甕	胴部	-	-	-	-	-	明黄褐 Hue10YR6/6 黒 Hue2.5Y2/1	明黄褐 Hue10YR6/6	ハケ	風化のため 不明瞭	微細~1.5mm無色透明、0.5~2 mm白濁の砂粒を多く含む	良好	二段の刻目突 帯 外：黒斑有
221	3区	ⅢB	甕	口縁部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue7.5YR3/1	黒 Hue10YR2/1	斜方向ナデ ナデ ハケ後ナデ	ナデ後ハケ	微細~2mmの無色透明の砂粒 を多く、微細~1mmの白濁の砂 粒を含む	良	貼付突帯 (刺突有) 刻目
222	2区	Ⅲ	甕	胴部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue2.5Y3/1	灰黄褐 Hue10YR5/2	刺突文 ハケ	摩滅	0.1~0.5mmの無色透明、0.5~1mm の灰黄の砂粒を多く、0.5~2mm の黒鈍の砂粒をわずかに含む	良	煤付着
223	3区 B-4	ⅢB	甕	底部	-	-	-	-	-	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	浅黄橙 Hue10YR8/3	指押サエ ハケ	ナデ	0.5~1mmの黒輝をわずかに、 0.5~1mmの白濁、0.5~2mmの灰 黄、灰白、褐暗の砂粒を含む	良	平底
224	3区	ⅢB	甕	底部	-	-	8.5 推定	-	-	明赤褐 Hue5YR5/6	黒褐 Hue5YR2/1	ハケ ナデ	ハケ ナデ	0.5~1mmの黒輝の砂粒をわず かに、0.5~2mmの白濁、灰白、 褐明の砂粒を含む	良	平底
225	1-B区 D-2	-	甕	底部	-	-	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	にぶい黄橙 Hue10YR6/3	ハケ ナデ	ナデ	0.5~3mmの褐明を多く、0.5~1mm の白濁、黒鈍の砂粒をわずかに、 0.5~2mmの灰白の砂粒を含む	良	平底
226	3区	ⅢB	甕	底部	-	-	6.0 推定	-	-	黒褐 Hue10YR3/1	-	ハケ	-	0.5~1mmの白濁の砂粒をわず かに、0.5~2mmの灰白、褐明の 砂粒を含む	良	平底 底部：ミガキ
227	3区	ⅢB	甕	底部	-	-	-	-	-	明赤褐 Hue2.5YR5/8	にぶい黄橙 Hue10YR6/4	摩滅	摩滅	0.5~1.5mmの無色透明の砂粒 を多く、0.5~1mmの砂粒、3~4 mmの小石をわずかに含む	やや軟	底部：圧痕
228	2区	Ⅲ	甕	底部	-	1/8	8.0 推定	-	-	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい黄橙 Hue10YR6/4	ナデ	ナデ	0.5~1mmの白濁、黒輝、褐明の 砂粒を含む	良	平底
229	3区	-	甕	底部	-	-	3.2 推定	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	黒褐 Hue10YR2/2	ハケ後ナデ	ナデ	0.5~2mmの白濁の砂粒を多く、0.5 ~1mmの灰白、黒鈍の砂粒をわず かに、0.5~1mmの褐暗の砂粒を含む	良	煤付着 平底
230	3区	ⅢB	甕	底部	-	-	2.6 推定	-	-	浅黄 Hue2.5Y4/3	黄灰 Hue2.5Y4/1	ハケ ヘラ	ハケ ナデ	0.1~3mmの褐暗の砂粒を多く、 0.1~1mmの白濁、灰白、黒輝の砂 粒を含む	良	平底
231	3区	ⅢB	甕	底部	-	-	3.8	-	-	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	ハケ 指押サエ	ハケ	0.5~2mmの褐明の砂粒を含む	良	平底
232	3区	ⅢB	甕	底部	-	-	4.0 推定	-	-	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	にぶい黄橙 Hue10YR6/3	ハケ ナデ	ハケ ナデ	0.1~2mmの白濁、灰白、黒鈍の 砂粒、小石を含む	良	平底
233	3区	ⅢB	甕	底部	-	-	-	-	-	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	にぶい赤褐 Hue5YR4/4	多方向ハケ	ハケ	0.1~1mmの黒輝、0.1~1mmの 灰黄、無色透明、0.1~3mmの白 濁、褐白の砂粒を含む	良	平底
234	3区 B-5	ⅢB	甕	底部	-	-	5.0 推定	-	-	黒褐 Hue10YR3/1	にぶい赤褐 Hue5YR5/4	ハケ ミガキ ナデ	ハケ後ナデ	微細~1mmの白濁、0.1~1mmの褐明を わずかに、微細~2mmの黒輝、黒鈍、無 色透明の砂粒をわずかに含む	良	平底
235	3区 B-5	ⅢB	甕	底部	-	-	4.0 推定	-	-	にぶい褐 Hue7.5YR5/3	にぶい橙 Hue7.5YR8/4	多方向ハケ後 ナデ	ハケ	0.1~0.3mmの白濁、白濁の砂粒を 多く含む、0.1~0.2mmの黒鈍、褐明、 褐暗、無色透明の砂粒を含む	良	平底
236	2区 D-5	Ⅲ	甕	底部	-	-	5.1 推定	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR6/4	にぶい黄褐 Hue10YR5/3	摩滅	摩滅	微細~2mmの無色透明の砂粒 を多く、0.5の黒輝、0.5~2mm の白濁の砂粒を含む	やや軟	底部：2ヶ所 に圧痕有

第11表 包含層出土土器観察表(5)

図面 番号	出土 地区	層位	器種	残存部	口唇部 形態	残存率	法量(cm)		色		調 整		胎 土	焼成	備 考	
							口径	器高	底径	外 面	内 面	外 面				内 面
237	1-B区 C-2	ⅢB	壺	底部	-	-	-	9.1 推定	橙 Hue5YR6/6	にぶい黄橙 Hue10YR7/3	ハケ後ナデ	ナデ	0.5~2.5mmの褐明、褐暗の砂粒を多く、0.5~2mmの白濁、黒鈍、0.5~2.5mmの灰黄、灰白の砂粒を含む	良	平底	
238	1-B区 D-1	ⅢB	壺	底部	-	-	-	-	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	ハケ 摩滅	摩滅	0.1~2mmの白透、灰白、黒輝、黒鈍、無色透明の砂粒を含む	良	平底	
239	3区 B-5	ⅢB	壺	底部	-	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	灰黄褐 Hue10YR6/2	ハケ後ナデ	ナデ 摩滅	0.5~1mmの灰黄、黒輝、0.5~2mmの白濁の砂粒を含む	良	平底	
240	2区 C-5	Ⅲ	壺	底部	-	-	-	8.3 推定	橙 Hue5YR6/6	にぶい黄橙 Hue10YR6/4	ハケ ケズリ	ハケ	0.5~1.5mmの黒輝、灰白の砂粒をわずかに、0.5~1.5mmの白濁、0.5~2.5mmの褐明の砂粒を含む	良	底部：圧痕有 平底	
241	3区 カク ラン	壺	底部	-	-	-	-	8.0 推定	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	黒褐 Hue7.5YR3/1	ナデ	ナデ	0.5~1mmの黒輝の砂粒をわずかに、0.5~2mmの白透、灰白の砂粒を含む	良	平底	
242	3区	ⅢB	-	台部	-	-	-	-	にぶい赤褐 Hue5YR4/4	にぶい赤褐 Hue5YR4/4	ハケ	ハケ後ナデ	微細~1.5mmの黒鈍の砂粒を多く、微細~2mmの無色透明、0.1~1mmの白透、灰黄の砂粒を含む	良	上げ底	
243	1-B区	ⅢB	甕	底部	-	-	-	5.5	浅黄 Hue2.5Y7/3	灰黄 Hue2.5Y7/2	ハケ後ナデ	ナデ 指押サエ	0.5~2.5mmの褐明の砂粒を多く、0.5~1mmの白濁をわずかに、0.5~2mmの灰黄、灰白の砂粒を含む	良	上げ底	
244	2区	Ⅲ	壺	底部	-	-	-	7.8 推定	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	ハケ ナデ	斜方向ハケ後 ナデ ヘラ	微細~1.5mmの無色透明、0.1~2mmの白濁を多く、0.1~2mmの黒輝、0.5~3mmの褐明の砂粒を含む	良	上げ底	
245	2区	Ⅲ	壺	底部	-	-	-	10.9 推定	にぶい黄橙 Hue10YR7/3	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	ハケ	ハケ	0.5~7mmの褐明、褐暗の砂粒を多く、1mmの黒鈍をわずかに、1~2mmの灰白の砂粒を含む	やや軟	上げ底	
246	3区 A-5	カク ラン	甕	底部	-	-	-	5.7 推定	橙 Hue5YR6/6	暗褐 Hue7.5YR3/3	摩滅	摩滅	微細~1.5mmの無色透明、0.5~2mm白透、褐明の砂粒を含む	軟	上げ底	
247	3区	ⅢB	甕	底部	-	-	-	-	にぶい赤褐 Hue5YR5/4	黒褐 Hue2.5Y3/1	ハケ ナデ	ハケ ナデ	微細~0.5mmの無色透明の砂粒をわずかに、0.5~1mmの灰白の砂粒、3~6mmの岩片を含む	良好	内面：爪の痕 あり	
248	2区	Ⅲ	甕	底部	-	-	-	-	明赤褐 Hue5YR5/6	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	ハケ	ナデ	0.1~1mmの黒鈍、0.1~2mmの白透、微細~2mmの灰白の砂粒を含む	良		
249	3区 B-5	ⅢB	甕	底部	-	-	-	-	明赤褐 Hue5YR5/6	橙 Hue7.5YR6/6	横ハケ後ナデ ナデ	ヘラナデ	0.5~3mmの無色透明の砂粒を多く、0.5~2mmの白濁、0.5~1.5mmの黒輝の砂粒を含む	良		
250	3区 A-5	ⅢB	甕	底部	-	-	-	-	灰黄 Hue2.5Y6/2	灰黄 Hue2.5Y7/2	ハケ	ハケ後ナデ	0.5~1mmの白濁、灰白の砂粒をわずかに、0.5~2mmの褐暗の砂粒を含む	良	平底	
251	2区	Ⅲ	甕	底部	-	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR6/4	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	ハケ	ミガキ	0.1~2mmの白透、黒輝、0.1~1mmの灰黄の砂粒を含む	良		
252	3区	ⅢA	甕	底部	-	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR6/4	灰黄褐 Hue10YR4/2	指押サエ後 ハケ	指押サエ後 ハケ	0.1mmの黒輝、0.5~1mmの灰白の砂粒をわずかに、0.1~0.5mmの無色透明の砂粒を含む	良好	煤付着	
253	3区	ⅢB	甕	底部	-	-	-	12.8	にぶい黄橙 Hue10YR6/4	にぶい黄橙 Hue10YR6/4	指押サエ後 ハケ	指押サエ後 ハケ	0.5~1mm白濁、黒鈍、0.5~2mmの褐明の砂粒をわずかに、0.1~1mmの無色透明の砂粒を多く含む	良好	内面：煤付着	
254	2区	Ⅶ	甕	底部	-	1/3	-	8.2 推定	にぶい黄褐 Hue10YR5/4	黒褐 Hue10YR3/2	多方向ハケ	ナデ	1~3mmの褐明、0.5~2mmの灰黄の砂粒を多く、0.5~1mmの黒鈍の砂粒を含む	良		
255	3区	-	甕	底部	-	-	-	8.5 推定	にぶい赤褐 Hue2.5YR4/4	黒褐 Hue7.5YR3/2	丁寧なナデ 押サエ ハケ	丁寧なナデ 押サエ	0.5~1mmの灰黄の砂粒を多く、0.5~1mmの黒輝、0.5~1.5mmの白濁の砂粒、4~7mmの岩片を含む	良好		
256	3区	ⅢB	甕	底部	凹	-	-	2.9 推定	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	にぶい黄橙 Hue10YR7/2	ハケ後ナデ	ナデ	0.5~2.5mmの褐暗の砂粒を多く、褐明の砂粒を含む	良	上げ底	
257	3区	ⅢB	甕	底部	-	-	-	7.2 推定	灰黄褐 Hue10YR4/2	灰黄褐 Hue10YR4/2	ハケ後ナデ	ナデ	微細~2mm黒輝、0.1~2mm白透、褐明、無色透明の砂粒を含む	良		
258	3区	ⅢB	甕	底部	-	-	-	7.9 推定	橙 Hue5YR6/6	黒褐 Hue5YR3/1	ハケ	ハケ後ナデ	0.5~1mmの黒輝の砂粒をわずかに、0.5~1mmの白透、0.5~2mmの灰白、褐暗の砂粒を含む	良	上げ底	
259	3区 B-4	-	甕	底部	-	-	-	-	褐 Hue7.5YR4/4	黒 Hue10YR2/1	ハケ 押サエ ナデ	ナデ	0.5~1mmの黒鈍、3~10mmの岩片をわずかに、0.5~4mmの灰黄、微細~1mmの無色透明の砂粒を含む	良好		
260	3区 A-5	ⅢB	甕	底部	-	-	-	-	明赤褐 Hue5YR5/6	暗褐 Hue10YR3/3	ナデ 押サエ ハケ	-	1~2mmの黒鈍をわずかに、4~7mmの岩片、0.5~1.5mmの灰黄の砂粒を含む	良	上げ底	
261	3区 B-5	ⅢB	甕	底部	-	-	-	7.0	明赤褐 Hue5YR5/6	にぶい赤褐 Hue5YR4/3	ハケ	ハケ タタキ	0.5~2mmの白透の砂粒を多く、0.5~2mmの灰白の砂粒をわずかに、0.5~2mmの褐明、褐暗の砂粒を含む	良		
262	3区	ⅢB	甕	底部	-	-	-	3.7 推定	明黄褐 Hue10YR6/6	橙 Hue7.5YR6/6	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	0.5~2mmの灰白を多く、1mmの茶黄をわずかに、0.5~2mmの褐暗の砂粒を含む	良好	平底	
263	3区 A-5	ⅢB	壺	口縁部	丸	-	-	-	赤褐 Hue2.5YR4/6	黒褐 Hue2.5Y3/2	横方向ハケ	横方向ハケ	0.5~1mmの褐明をわずかに、0.5~1.5mmの灰黄の砂粒、2mm~5mmの岩片を含む	良好		
264	2区 D-5	カク ラン	壺	口縁部	-	9.6 推定	-	-	暗灰黄 Hue2.5Y4/2	暗灰黄 Hue2.5Y4/2	横方向ハケ後 斜方向ハケ	横方向ハケ後 斜方向ハケ	微細~1mmの黒輝、0.1~1mm白濁、0.1~1.5mmの金色の砂粒を含む	良	金雲母含む	
265	3区	ⅢB	壺	口縁部	-	-	10.4	-	浅黄 Hue2.5Y7/3	浅黄 Hue2.5Y7/3	ハケ	ハケ	0.5~1mmの金色の砂粒をわずかに、0.5~1mmの褐明の砂粒を含む	良		
266	3区	ⅢB	壺	口縁部	平坦	-	-	10.1 推定	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	指押サエ後ハケ	ハケ後ナデ	0.5~2mmの灰黄、灰白を多く、0.5~1mmの無色透明、0.5~2mmの白濁、黒輝、褐明の砂粒を含む	良好	煤付着	
267	1区 D-1	ⅢB	壺	台部	-	-	-	11.0 推定	にぶい黄橙 Hue10YR5/3	灰黄褐 Hue10YR4/2	ハケ	不定方向ハケ	0.1~2mmの黒鈍の砂粒を多く、0.1~2mmの褐明、0.1~2mmの灰白の砂粒を含む	良	金雲母を含む	
268	3区	ⅢB	小型 丸底 壺	完形	-	-	5.8	6.62	尖底	にぶい黄橙 Hue10YR7/4~ 黄褐Hue10YR5/6	にぶい黄橙 Hue10YR7/4 暗赤 Hue5YR4/4	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	微細~1.5mmの無色透明、微細~2mmの白濁を多く含む、0.5mmの金雲母をわずかに、0.5~1mmの黒輝の	やや軟	
269	1-B区	-	長頸 壺	-	-	-	-	-	橙 Hue7.5YR6/6	褐灰 Hue7.5YR5/1	ハケ	ハケ後ナデ	0.5~1mmの灰白の砂粒を含む	良	免田式土器	



第11表 包含層出土土器観察表(6)

図面 番号	出土 地区	層位	器種	残存部	口唇部 形態	残存率	法量(cm)			色		調		胎	土	焼成	備 考
							口径	器高	底径	外 面	内 面	外 面	内 面				
270	1-A区	-	長頸 壺	-	-	-	-	-	-	にぶい赤褐 Hue5YR5/4	褐灰 Hue5YR5/1	重弧文	ハケ後ナデ	0.5~1mmの白濁、灰白の砂粒を含む	良	免田式土器	
271	1-A区	-	長頸 壺	-	-	-	-	-	-	橙 Hue5YR6/6	にぶい褐 Hue7.5YR6/3	重弧文	ナデ	0.5~1mmの灰白、褐暗の砂粒を含む	良	免田式土器	
272	2区	表採	壺	口縁部	-	-	-	-	-	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	ハケ 櫛描波状文	ハケ	0.5~1mmの無色透明の砂粒を多く、0.5~1.5mmの灰白、0.5~2mmの白濁の砂粒を含む	良		
273	3区	ⅢB	壺	口縁部	-	-	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR6/4	にぶい黄橙 Hue10YR6/4	櫛描波状文	-	0.5~1mmの白濁の砂粒を多く、0.5~2mmの黒輝の砂粒をわずかに、0.5~1mmの灰白の砂粒を含む	良		
274	3区	ⅢB	壺	口縁部	-	-	-	-	-	橙 Hue7.5YR6/6	橙 Hue7.5YR6/6	櫛描波状文 ミガキ	ハケ後ナデ ミガキ	0.5~1.5mmの褐明、無色透明の砂粒を多く、0.5~1.5mmの黒輝の砂粒を含む	良		
275	3区	-	壺	肩部	-	-	-	-	-	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue10YR8/3	ハケ	摩滅	0.5~1mmの灰白の砂粒を含む	良	両面：摩滅強	
276	3区 C-4	ⅢB	壺	肩部	-	-	-	-	-	橙 Hue5YR6/6	橙 Hue5YR7/6	ハケ	ハケ	0.5~1mmの白濁、灰白の砂粒を含む	良		
277	1-B区	ⅢB	壺	底部	-	-	-	-	9.1 推定	浅黄橙 Hue10YR8/4	淡黄 Hue2.5Y8/3	摩滅	摩滅	0.5~1mmの黒輝の砂粒をわずかに、0.5~1.5mmの灰黄、灰白、0.5~2mmの白濁の砂粒を含む	良	丸底	
278	3区 B-5	ⅢB	壺	底部	-	-	-	-	-	浅黄橙 Hue10YR8/4	浅黄橙 Hue10YR8/3	ハケ	ハケ	0.5~3mmの褐暗の砂粒を多く、0.5~1mmの白濁の砂粒を含む	良	丸底	
279	3区	ⅢB	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR7/3	にぶい黄橙 Hue10YR7/3	沈線文	ハケ後ナデ	0.5~1mmの黒輝、0.5~1.5mmの褐明の砂粒をわずかに、0.5~1mmの白濁の砂粒を含む	良		
280	3区 B-5	ⅢB	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	にぶい橙 Hue7.5YR7/3	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	沈線文 ナデ	ナデ	0.5~2mmの白濁、白濁の砂粒を含む	良		
281	3区	ⅢB	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	浅黄 Hue2.5Y7/4	にぶい黄橙 Hue10YR6/3	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	0.5~1mmの褐明、黒輝0.5~1.5mmの灰黄、灰白の砂粒をわずかに、0.5~1mmの白濁の砂粒を含む	良		
282	3区	ⅢB	鉢	口縁部	凹	-	-	-	-	橙 Hue5YR6/6	橙 Hue5YR6/6	ハケ	ハケ	0.5~2mmの白濁の砂粒を多く、0.5~2mmの灰白の砂粒をわずかに、0.5~2mmの褐明の砂粒を含む	良		
283	1-B区	ⅢB	鉢	口縁部	平坦	-	-	-	-	灰黄 Hue2.5Y7/2	浅黄 Hue2.5Y7/3	ハケ ナデ	ハケ ナデ	0.1~2mmの褐明、褐暗を多く、微細の金色をわずかに、0.1~1mmの白濁、黒輝の砂粒を含む	良	口縁部断面三角形	
284	3区 A-5	ⅢB	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	橙 Hue5YR7/6	横ハケ	横ハケ	0.5~1mmの灰黄、褐暗、無色透明の砂粒をわずかに含む	良好		
285	3区	ⅢB	鉢	口縁部	-	-	-	-	9.0 推定	明赤褐 Hue5YR5/6	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	ハケ ミガキ	ハケ	0.5~1mm灰白、黒輝の砂粒を含む	良		
286	3区 B-5	ⅢB	鉢	底~胴部	-	-	-	-	2.6 推定	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	ハケ後ナデ	ハケ	0.5~2mmの白濁、0.5~1mmの灰黄、0.5~2mmの褐明の砂粒を含む	良		
287	3区	ⅢB	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	黒褐 Hue10YR3/1	灰黄褐 Hue10YR4/2	ハケ後ナデ	指オサエ後ハケ	0.1~1mmの黒輝の砂粒をわずかに、0.1~2mmの白濁、0.5~4mmの褐暗の砂粒を含む	良		
288	3区	ⅢB	鉢	頸部	-	-	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR5/3	にぶい褐 Hue5YR5/4	ハケ ナデ	ハケ ナデ	0.1~1.5mmの灰白、無色透明、0.1~2mmの黒輝の砂粒を含む	良	金雲母含む	
289	3区	ⅢB	鉢	底部	-	-	-	-	3.0 推定	にぶい赤褐 Hue5YR4/3	にぶい赤褐 Hue5YR4/4	ハケ後ミガキ ナデ	ナデ ハケ	微細の金色の砂粒を多く、微細~0.5mmの白濁、灰白、黒輝の砂粒を含む	良好		
290	3区	ⅢB	高杯	坏部	-	-	-	-	-	橙 Hue7.5YR6/6	明赤褐 Hue5YR5/6	丁寧なハケ 丁寧なミガキ	丁寧なナデ 丁寧なミガキ	微細~1.5mmの無色透明、0.5~1.5mmの黒輝の砂粒を多く、1mm前後の白濁の砂粒をわずかに含む	良		
291	3区	ⅢB	高杯	坏部	-	-	-	-	-	橙 Hue5YR6/8	橙 Hue7.5YR6/6	丁寧なナデ ハケ	丁寧なナデ ハケ	微細~1mmの無色透明の砂粒を多く含む	やや軟		
292	3区	ⅢB	高杯	脚部	-	-	-	-	-	橙 Hue7.5YR6/6	黒褐 Hue10YR3/1	ケズリ後ナデ ミガキ	ナデ	微細~1mmの無色透明の砂粒を多く、0.5~1mmの白濁の砂粒を含む	良		
293	3区	ⅢB	高杯	脚部	-	-	-	-	-	明赤褐 Hue5YR5/6	にぶい黄橙 Hue10YR6/4	ミガキ	ハケ	0.1~0.5mmの灰白、褐暗、黒灰の砂粒をわずかに含む	良好		
294	2区	カク ラン	高杯	脚部	-	-	-	-	-	明褐 Hue7.5YR5/6	暗灰黄 Hue2.5Y4/2	ミガキ	ハケ後ナデ	微細~1mmの無色透明、微細~1.5mmの白濁の砂粒を含む	良好	外：5mmの透かし孔有 焼成前穿孔	
295	3区	ⅢB	高杯	脚部	-	1/4	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR6/4~ 黒 Hue10YR2/1	黒褐 Hue10YR3/1	横ナデ 横ナデ後ミガキ	粗いヘラナデ	微細~1mmの無色透明、0.5~2mmの白濁の砂粒を含む	良好	煤付着	
296	3区 B-5	ⅢB	高杯	脚部	-	-	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR7/3	黄灰 Hue2.5Y4/1	ハケ後ナデ	ハケ ナデ	0.5~2mmの白濁、灰白の砂粒を含む	良		
297	3区 B-5	ⅢB	高杯	脚部	-	-	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR7/3	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	ミガキ	ハケ	0.5~1mmの灰白、0.5~2mmの白濁の砂粒を含む	良		
298	3区	ⅢB	高杯	裾部	-	底径の 1/6	-	-	15.2 推定	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	ハケ後 丁寧なミガキ	ハケ後ナデ	微細の無色透明の砂粒を多く、0.5~1mmの黒輝の砂粒を含む	良好		
299	3区	ⅢB	不明	-	-	-	-	-	-	にぶい黄橙 Hue10YR7/3	にぶい黄橙 Hue10YR7/3	ナデ	ナデ	0.5~2mmの褐明の砂粒を含む	良	穿孔有	

第12表 石器観察表(1)

図面番号	出土地区	層位	器種	石材	法量 (cm)			重量(g)	備考
					最大長	最大幅	厚さ		
10	1-B区SA-1	黒ボク埋土	石斧未製品	頁岩	18.3	7.4	2.4	339.2	
11	1区SA-1	黒ボク埋土	敲石	砂岩	11.6	6.0	3.7	380.8	
37	2区SA-4	黒ボク埋土	石錘	頁岩	8.9	4.5	1.5	88.9	
38	2区SA-4	黒ボク埋土	砥石	頁岩	29.2	15.3	3.1	1750.0	
47	2区SA-5	黒ボク埋土	石鏃	黒曜石	1.3	1.85	0.5	0.9	
48	2区SA-5	黒ボク埋土	石鏃未製品	黒曜石	2.5	1.9	0.7	1.9	
49	2区SA-5	黒ボク埋土	台石	砂岩	13.3	13.05	4.4	1058.7	床面出土
51	2区SA-6	黒ボク埋土	石鏃	チャート	1.72	1.38	0.3	0.6	
52	2区SA-6	黒ボク埋土	丸玉	頁岩	2.35		0.5	4.1	縄文中期～晩期?
53	2区SA-6	黒ボク埋土	敲石	砂岩	5.0	6.68	5.15	218.6	
54	2区SA-7	黒ボク埋土	使用痕剥片	黒曜石	1.53	1.45	0.3	0.7	
61	2区SX-1	黒ボク埋土	石核	黒曜石	1.5	3.7	-	5.6	
62	2区SX-1	黒ボク埋土	石鏃	チャート	3.4	1.8	0.45	1.6	床面出土
68	2区SX-2	黒ボク埋土	石核	黒曜石	3.1	1.1	-	2.9	
80	3区SA-8	黒ボク埋土	石鏃	黒曜石	2.25	1.5	0.55	1.5	
81	3区SA-8	黒ボク埋土	台石	砂岩	26.7	11.3	6.9	3350.0	
94	3区SA-9	黒ボク埋土	石鏃	頁岩	1.9	1.45	0.41	0.8	
95	3区SA-9	黒ボク埋土	スクレイパー	チャート	1.5	2.75	-	1.8	
96	3区SA-9	黒ボク埋土	台石	砂岩	9.2	12.4	-	624.5	
97	3区SA-9	黒ボク埋土	敲石	砂岩	13.6	10.8	5.5	1099.8	両面ともなめらかな面を有す
98	3区SA-9	黒ボク埋土	砥石	砂岩	17.2	8.1	5.5	1376.2	
103	3区SC-2	黒ボク埋土	石鏃	頁岩?	1.5	1.3	0.25	0.4	
104	3区SC-2	黒ボク埋土	使用痕剥片	黒曜石	2.6	0.65	0.65	1.7	
300	2区	Ⅲ	石鏃	黒曜石	1.3	1.2	0.27	0.2	
301	1-B区	Ⅲ	石鏃	チャート	2.3	1.5	0.5	1.7	
302	1-B区C-2	Ⅲ	石鏃	黒曜石	2.2	1.3	3.05	0.5	
303	2区	Ⅲ	石鏃	黒曜石	1.2	1.05	0.23	0.2	刃部欠損
304	2区	Ⅲ	石鏃	黒曜石	1.22	1.18	0.28	0.4	
305	2区	Ⅲ	石鏃	黒曜石	1.68	1.65	0.43	0.7	
306	2区	Ⅲ	石鏃	黒曜石	1.48	(0.75)	0.3	0.1	欠損
307	2区	カクラン	石鏃	黒曜石	1.45	1.0	0.2	0.3	
308	2区	カクラン	石鏃	黒曜石	(0.8)	0.7	0.42	0.6	脚部欠損
309	2区	カクラン	石鏃	黒曜石	(1.25)	1.28	0.25	0.2	頂部欠損
310	2区	カクラン	石鏃	黒曜石	1.6	1.32	0.5	0.7	
311	2区	カクラン	石鏃	黒曜石	1.8	1.2	0.4	0.7	脚部欠損
312	2区	カクラン	石鏃	黒曜石	(1.25)	1.28	0.35	0.4	頂部欠損
313	2区	カクラン	石鏃	黒曜石	1.83	1.4	0.38	0.6	脚部欠損

第12表 石器観察表(2)

図面番号	出土地区	層位	器種	石材	法量 (cm)			重量(g)	備考
					最大長	最大幅	厚さ		
314	2区	カクラン	石鏃	黒曜石	1.82	1.4	0.3	0.6	脚部欠損
315	2区	カクラン	石鏃	黒曜石	1.3	1.05	0.3	0.3	
316	2区	カクラン	石鏃	黒曜石	(1.6)	1.45	0.36	0.7	頂部欠損
317	2区	カクラン	石鏃	黒曜石	2.03	1.68	0.45	1.0	
318	2区	カクラン	石鏃	黒曜石	1.98	1.35	0.3	0.6	
319	2区	カクラン	石鏃	黒曜石	(1.70)	1.75	0.3	0.9	頂部欠損
320	2区	カクラン	石鏃	黒曜石	(0.91)	(0.67)	0.25	0.1	
321	2区	カクラン	石鏃	黒曜石	(1.8)	(1.15)	0.32	0.6	脚部欠損
322	2区	カクラン	石鏃	黒曜石	(2.1)	(0.9)	0.53	1.0	脚部欠損
323	2区	カクラン	石鏃	黒曜石	(0.7)	(0.85)	0.38	0.4	
324	2区	カクラン	石鏃	黒曜石	1.79	1.58	0.43	0.9	脚部欠損
325	2区	表採	石鏃	黒曜石	1.12	1.38	0.25	0.5	
326	2区	表採	石鏃	黒曜石	(1.5)	(1.95)	0.4	1.2	脚部、頂部欠損
327	2区	表採	石鏃	黒曜石	2.2	(1.4)	0.23	1.3	
328	2区	表採	石鏃	黒曜石	2.12	1.79	0.65	1.9	
329	2区	表採	石鏃	黒曜石	1.21	0.9	0.2	1.4	脚部欠損
330	2区	表採	石鏃	黒曜石	(1.65)	(0.85)	0.28	0.4	下部、脚部欠損
331	2区	Ⅲ	石鏃	チャート	2.02	1.46	0.26	0.6	
332	2区	カクラン	石鏃	チャート	(1.15)	(0.82)	0.3	0.2	脚部欠損
333	2区	カクラン	石鏃	チャート	(1.45)	(1.35)	0.4	0.6	脚部、頂部欠損
334	2区	カクラン	石鏃	チャート	(2.1)	1.45	0.25	0.8	脚部、頂部欠損
335	2区	カクラン	石鏃	チャート	1.25	1.2	0.3	0.2	
336	2区	カクラン	石鏃	チャート	(1.49)	1.2	0.3	0.3	脚部欠損
337	2区	カクラン	石鏃	チャート	2.08	(1.28)	0.38	0.7	
338	2区	表採	石鏃	頁岩	1.3	0.94	0.28	0.3	
339	2区	カクラン	石鏃	頁岩	(1.32)	1.58	0.3	0.5	頂部欠損
340	2区	カクラン	石鏃	シルト岩	(2.0)	(1.7)	0.4	0.8	
341	3区	ⅢA	石鏃	黒曜石	1.45	1.25	0.45	0.5	左右とも脚欠損
342	3区	Ⅲ	石鏃	チャート	1.8	1.7	0.04	1.5	
343	3区	ⅢA	石鏃	チャート	2.1	1.2	0.04	1.0	
344	3区 B-5	カクラン	石鏃	チャート	2.7	2.2	0.4	1.5	
345	2区	表採	石鏃未製品	黒曜石	2.42	1.83	7.1	2.5	
346	3区	ⅢA	異形石器	黒曜石	1.55	0.95	0.3	0.3	欠損
347	2区	表採	二次調整剥片	黒曜石	1.4	0.78	0.23	0.2	
348	2区	カクラン	二次調整剥片	黒曜石	2.55	1.08	0.45	1.2	
349	2区	カクラン	二次調整剥離	黒曜石	2.6	1.0	0.53	1.7	
350	3区	Ⅲ	使用痕剥片	黒曜石	3.1	1.5	0.5	2.4	

第12表 石器観察表(3)

図面番号	出土地区	層位	器種	石材	法量 (cm)			重量(g)	備考
					最大長	最大幅	厚さ		
351	2区	表採	使用痕剥片	黒曜石	2.3	2.41	0.9	5.9	
352	2区	カクラン	使用痕剥片	流紋岩	2.4	3.4	0.9	5.0	
353	2区	カクラン	使用痕剥片	頁岩	4.4	2.15	0.6	7.4	
354	1-B区	Ⅲ	使用痕剥片	黒曜石	1.5	2.6	0.6	3.6	
355	2区	カクラン	スクレイパー	黒曜石	2.63	3.0	0.9	6.0	
356	2区	カクラン	スクレイパー	黒曜石	1.8	1.9	0.58	1.5	
357	2区	Ⅲ	石匙	チャート	3.45	1.9	0.35	3.5	
358	2区C-5	Ⅲ	二次調整剥片	安山岩	9.6	6.95	2.5	177.2	
359	2区	Ⅲ	すり石	砂岩	13.1	6.2	5.3	614.0	
360	2区D-5	Ⅲ	敲石	砂岩	9.9	7.4	4.9	528.4	擦痕有
361	2区	Ⅲ	石斧	頁岩	10.9	5.3	1.85	96.5	
362	2区	Ⅲ	石斧	安山岩	7.5	7.5	1.3	131.4	欠損
363	1-B区	カクラン	十字型石器	安山岩	6.2	5.8	1.35	32.9	
364	1-B区D-1	Ⅲ	石錘	流紋岩	10.55	5.0	3.0	219.0	
365	2区C-5	Ⅲ	石錘	頁岩	4.8	9.6	2.0	118.8	

# 版 圖



黒仁田遺跡全景



1区全景

图版 2



2区全景

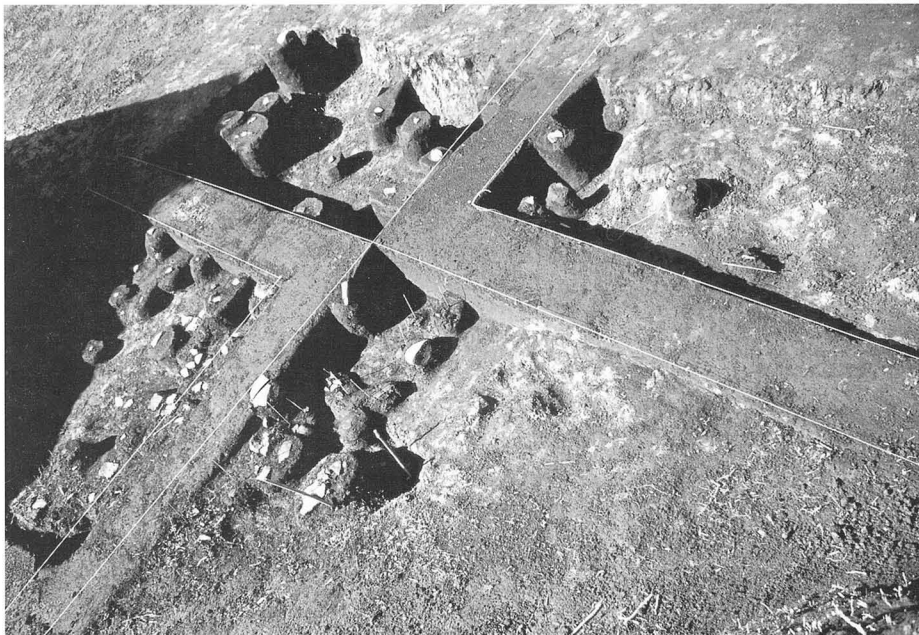


3区全景

図版 3



1区SA-1  
検出状況



1区SA-1  
調査状況



1区SA-1  
完掘状況



図版 4



2区 作業風景



2区 測量風景



2区 SA-2  
検出状況

図版 5



2区 SA-2  
遺物出土状況

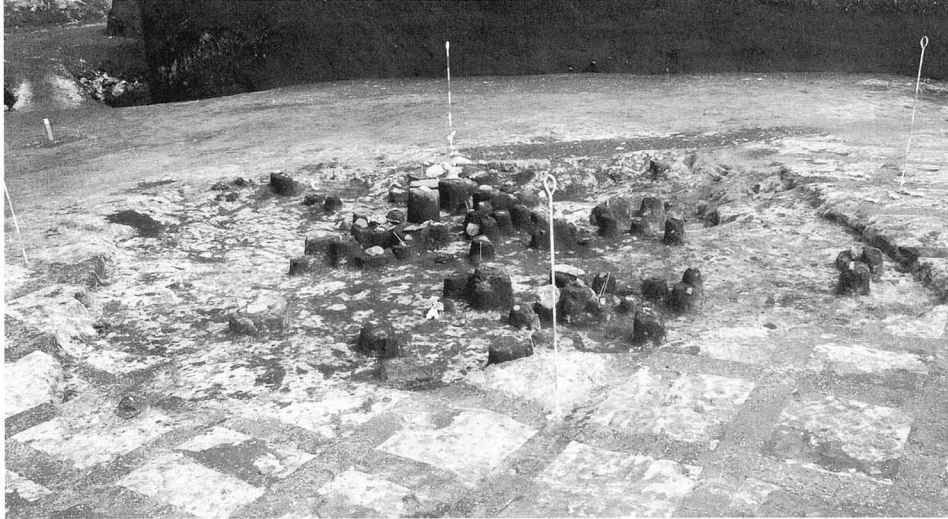


2区 SA-3  
検出状況



2区 SA-3  
遺物出土状況

図版 6



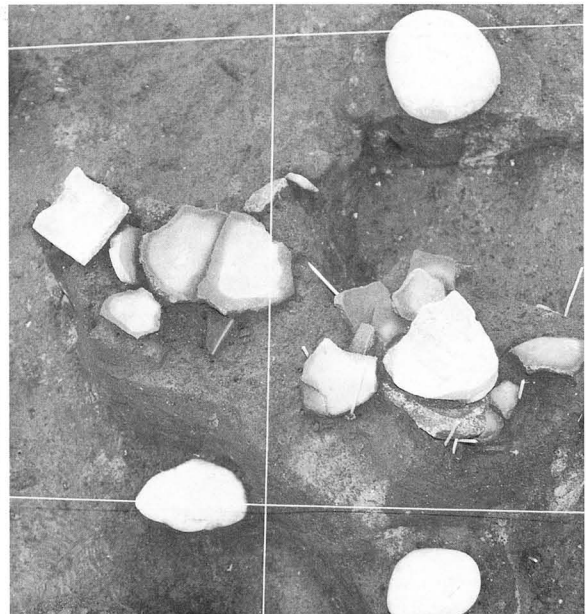
2区 SA-4  
遺物出土状況



2区 SA-4  
完掘状況



2区 SA-4  
遺物出土状況



図版 7



2区 SA-5  
検出状況



2区 SA-5  
出土状況

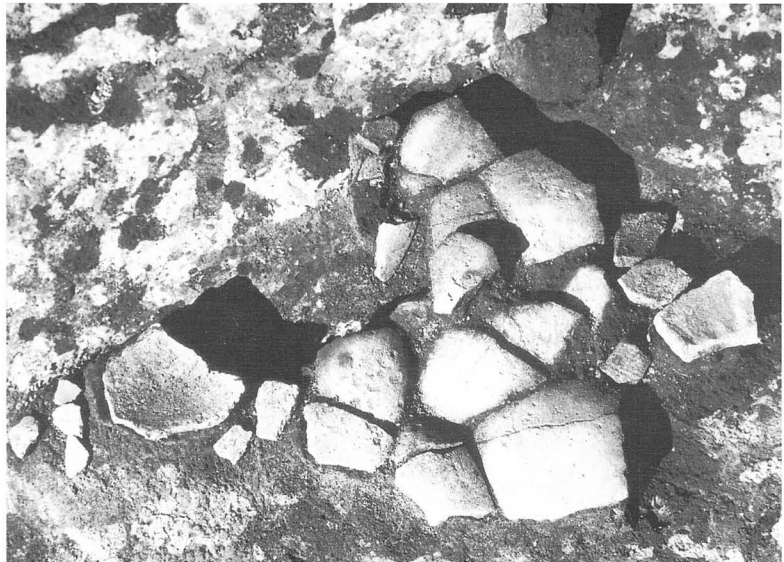


2区 SA-5  
完掘状況

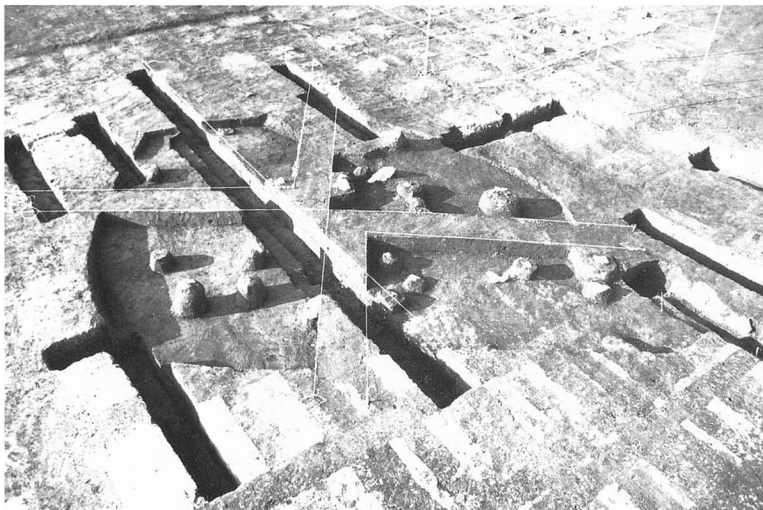
图版 8



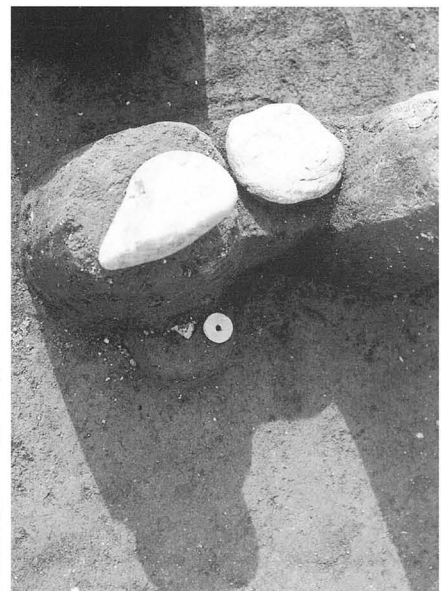
2区 SA-5  
炭化物出土状況



2区 SA-5 遺物出土状況



2区 SA-6 調査状況



2区 SA-6 石器出土状況

図版 9



2区 SA-7  
出土状況



2区 SA-7  
完掘状況



2区 SX-1  
調査状況

図版10



2区 SX-2  
検出状況



2区 SX-2  
遺物出土状況



2区 SX-2  
土器出土状況

図版11



2区 SC-1  
遺物出土状況



2区 SC-1  
完掘状況



図版12



3区  
遺物出土状況



3区  
土器出土状況



3区 SA-8  
SX-3  
検出状況

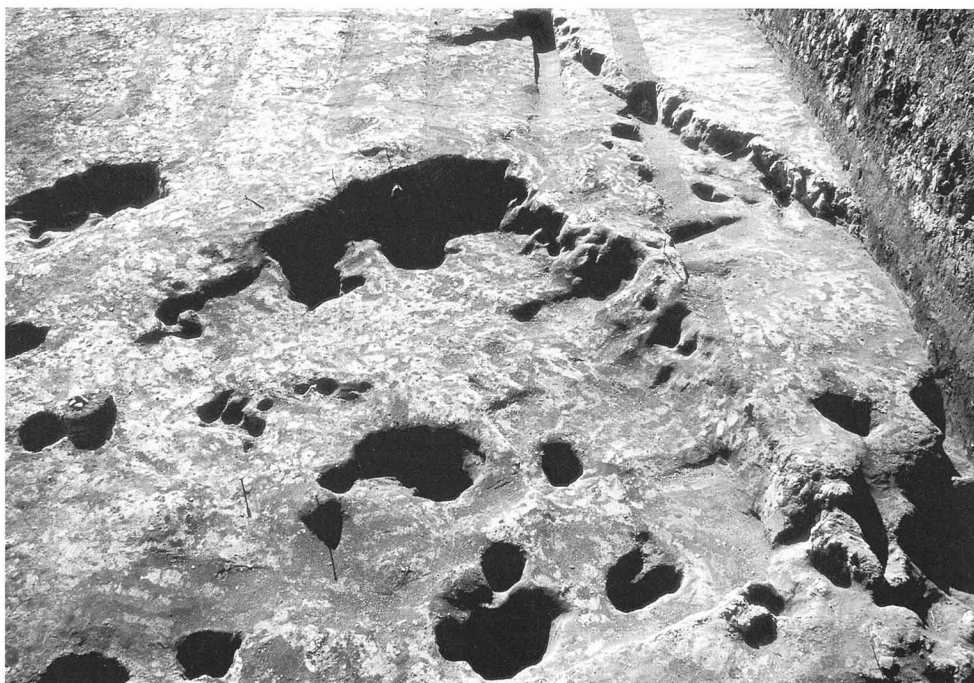
図版13



3区 SA-8  
SX-3  
遺物出土状況

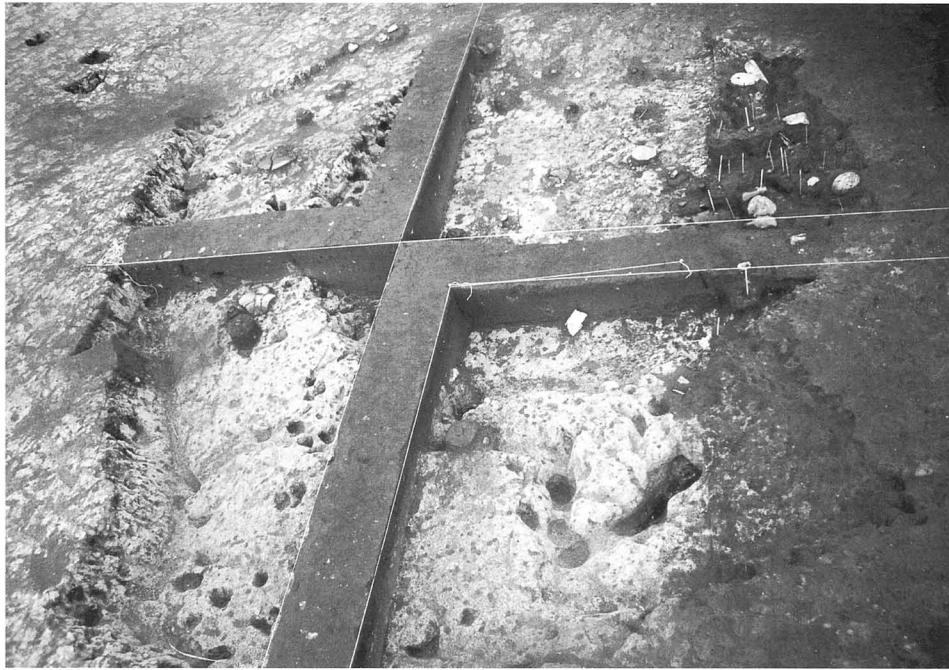


3区 SA-8  
中央土坑



3区 SA-8  
SX-3  
完掘状況

図版14



3区 SA-9  
調査状況



3区 SA-9  
遺物出土状況

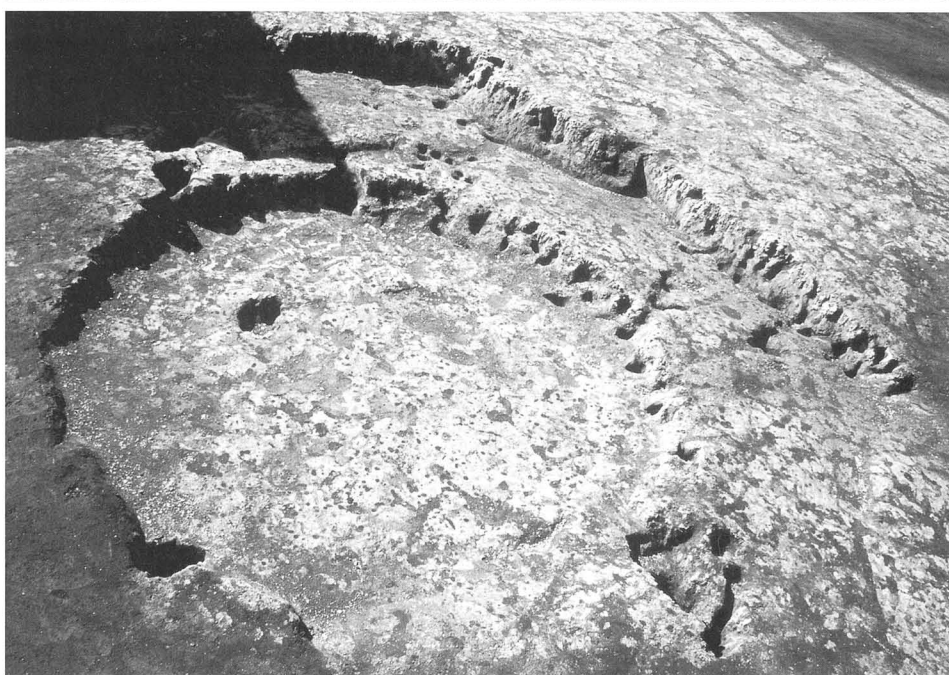


3区 SA-9  
土器出土状況

図版15



3区 SA-9  
作業風景

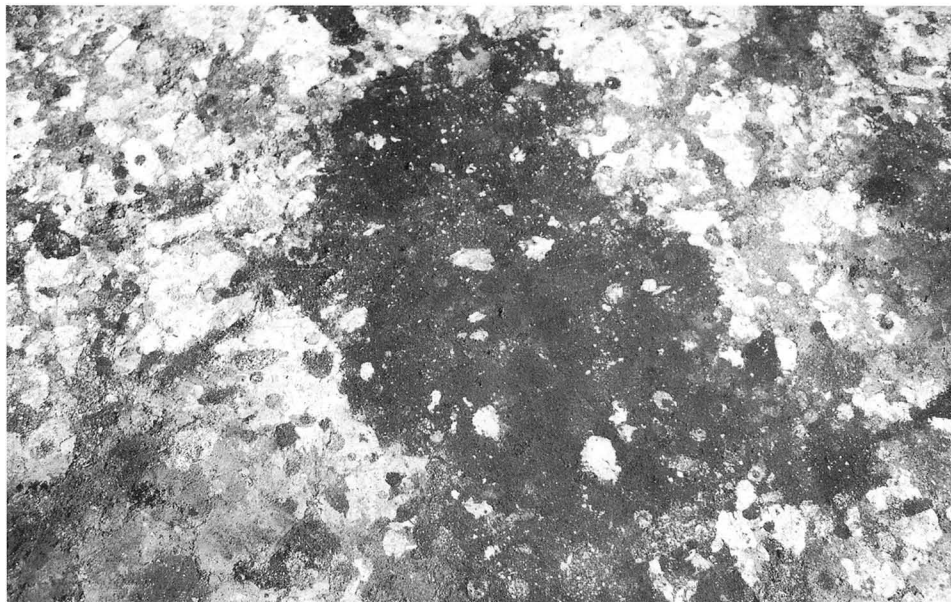


3区 SA-9  
完掘状況



3区 SC-2  
検出状況

図版16



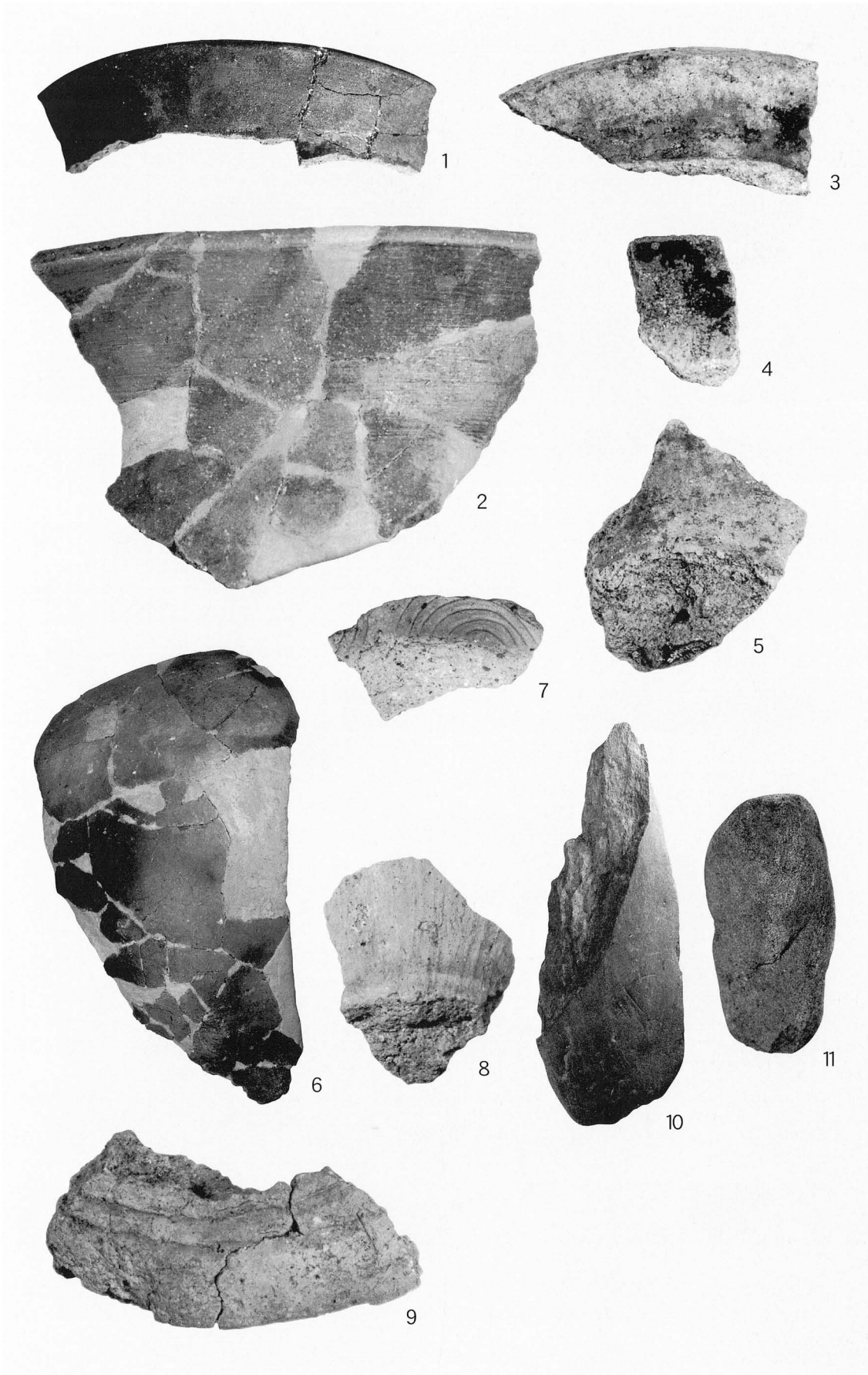
3区 SC-3  
検出状況



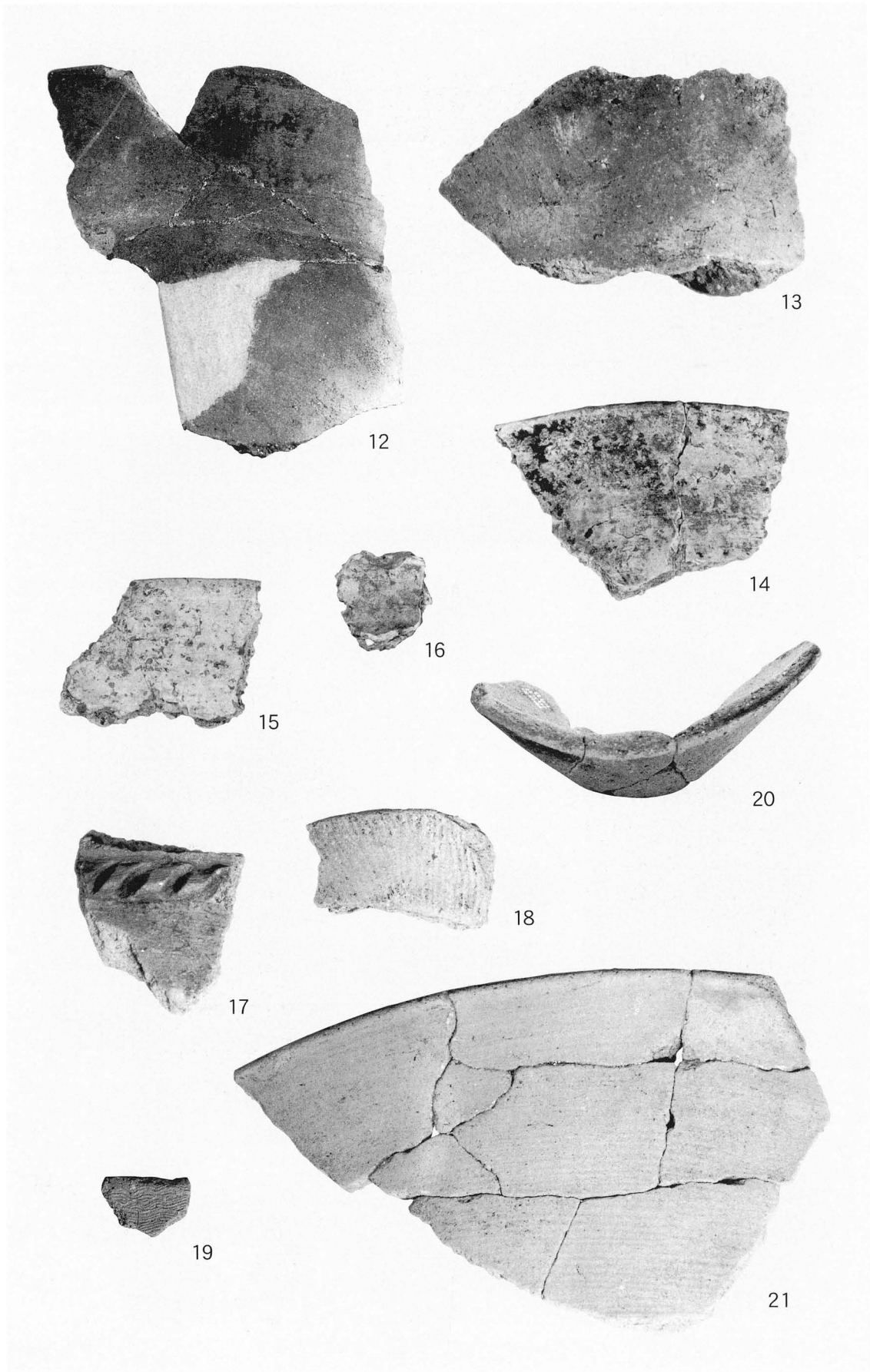
3区 SC-3  
調査状況



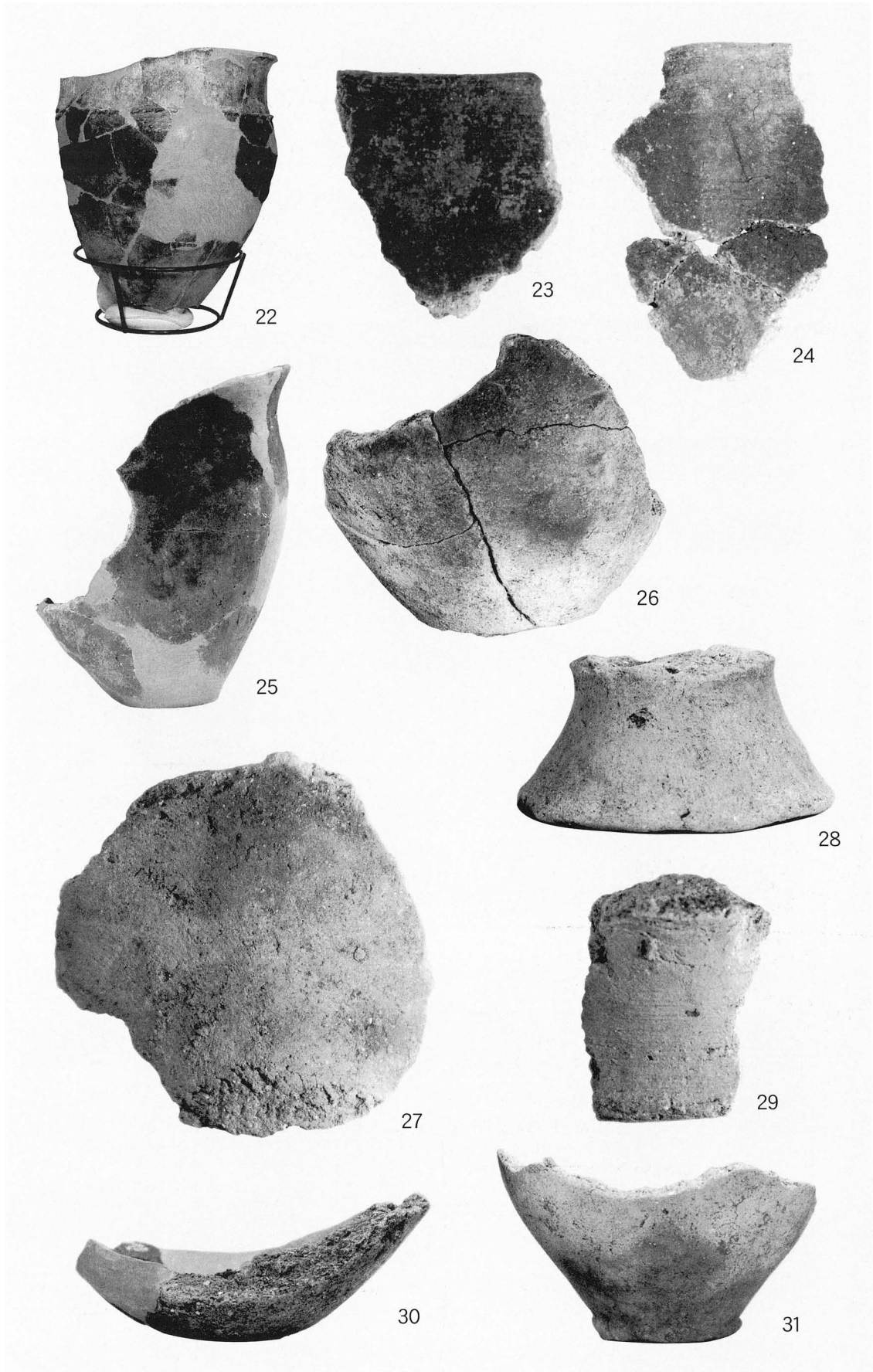
3区 SC-3  
完掘状況



SA-1 出土遺物



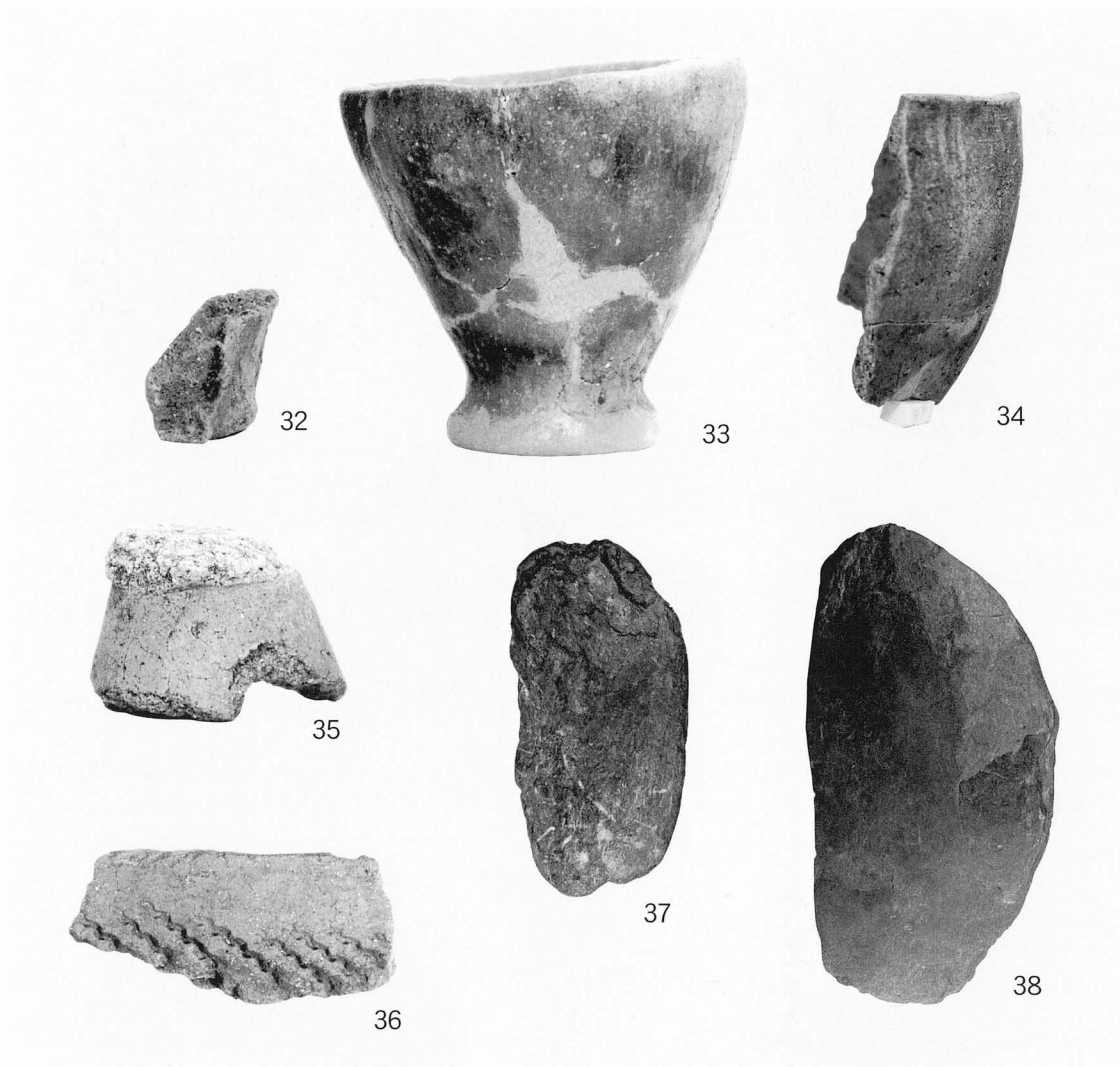
SA-3 出土遺物



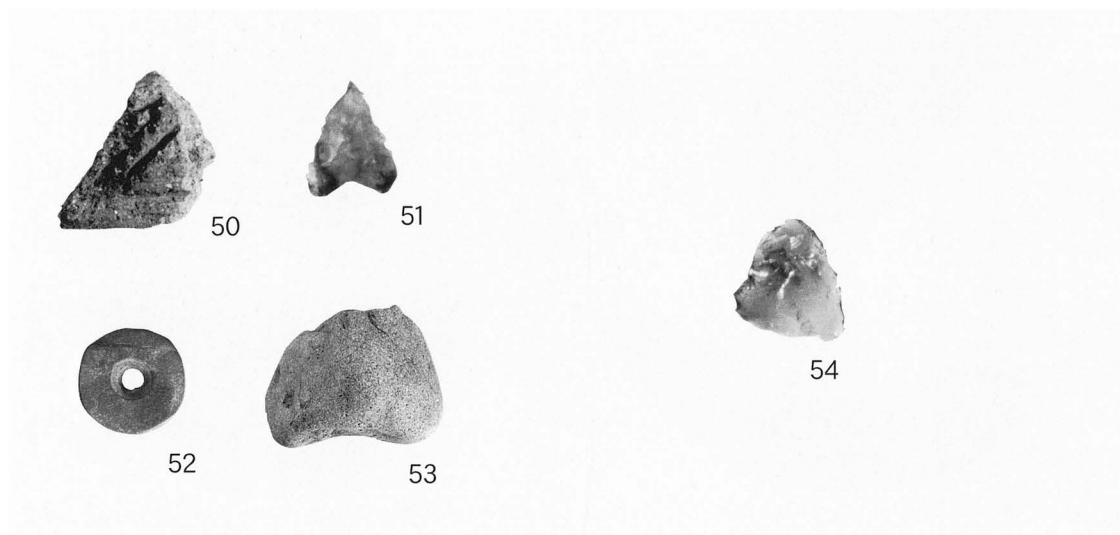
SA-4 出土遺物(1)



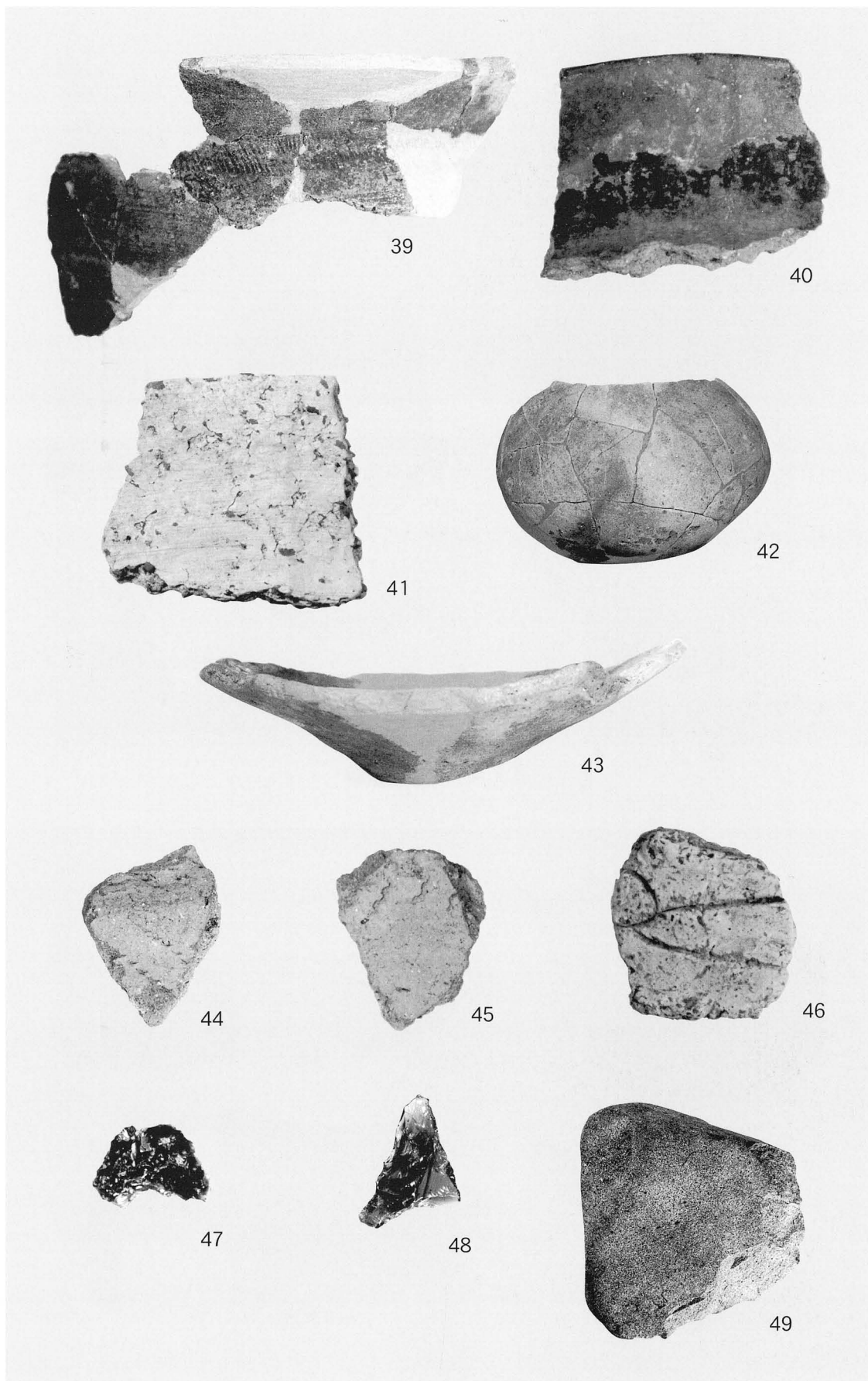
図版20



SA-4 出土遺物(2)

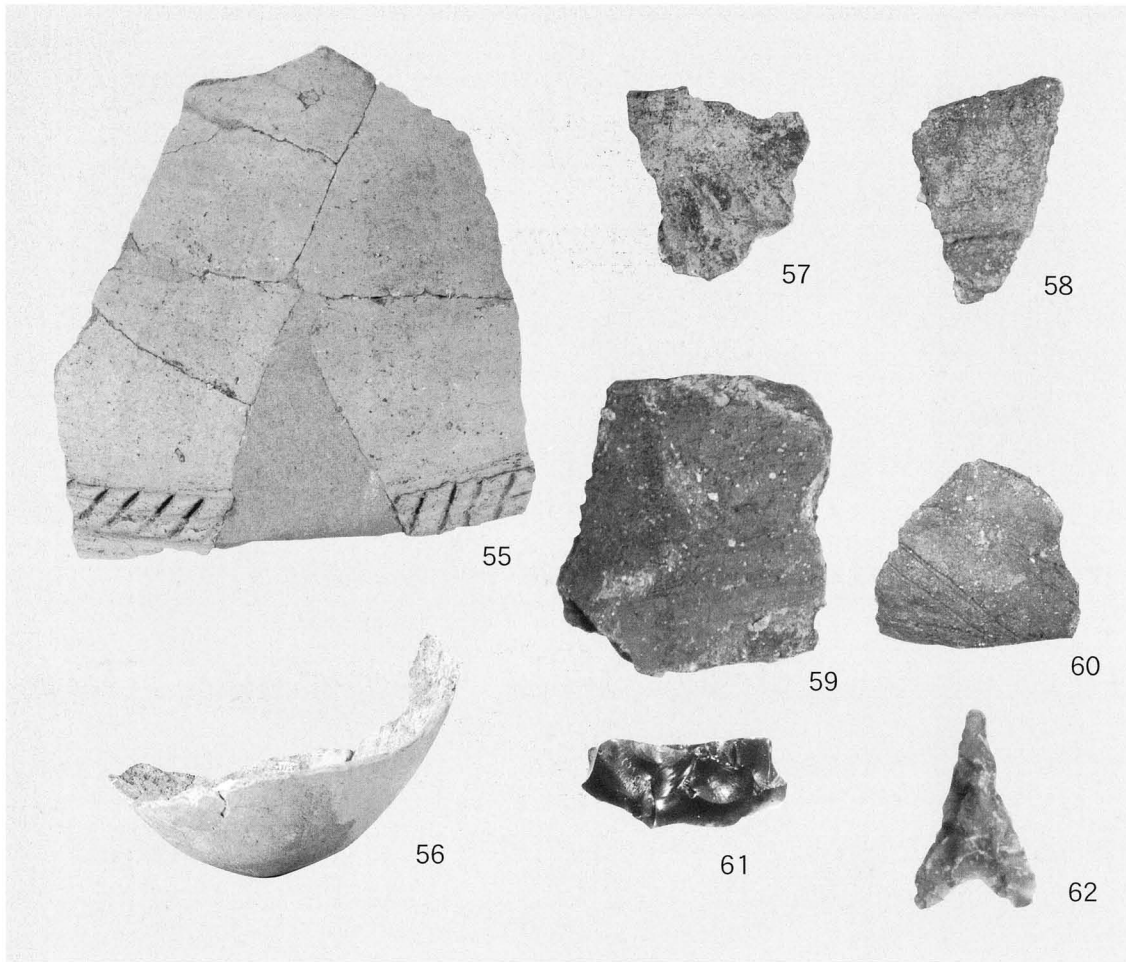


SA-6、SA-7 出土遺物

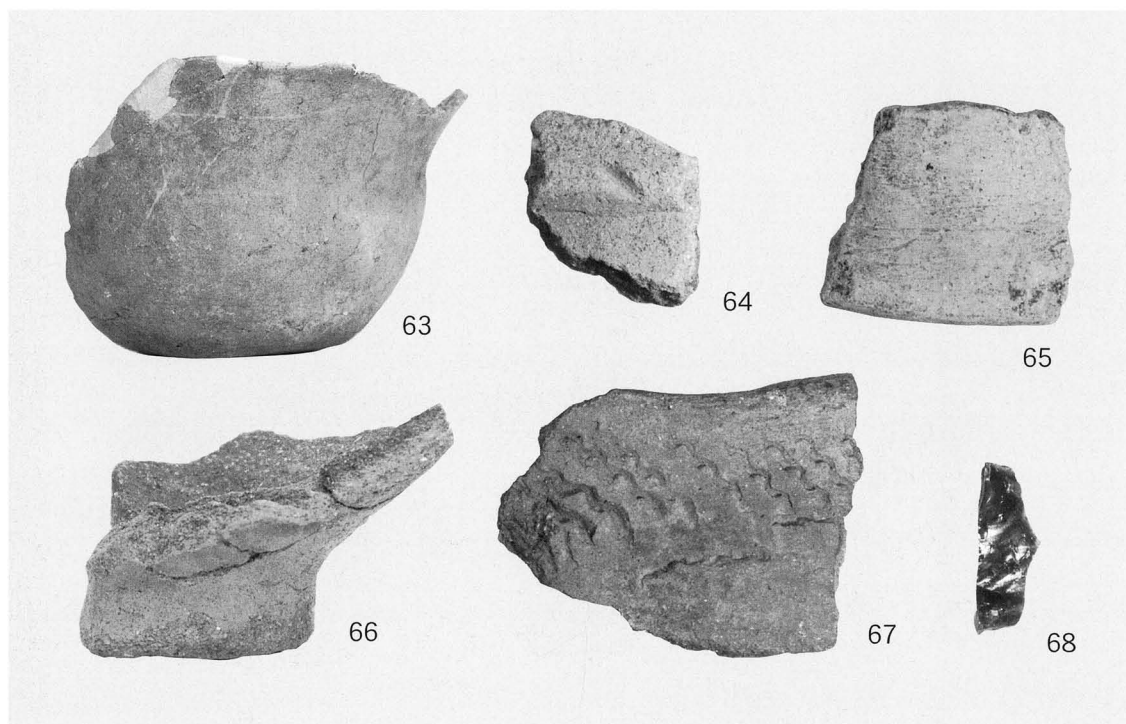


SA-5 出土遺物

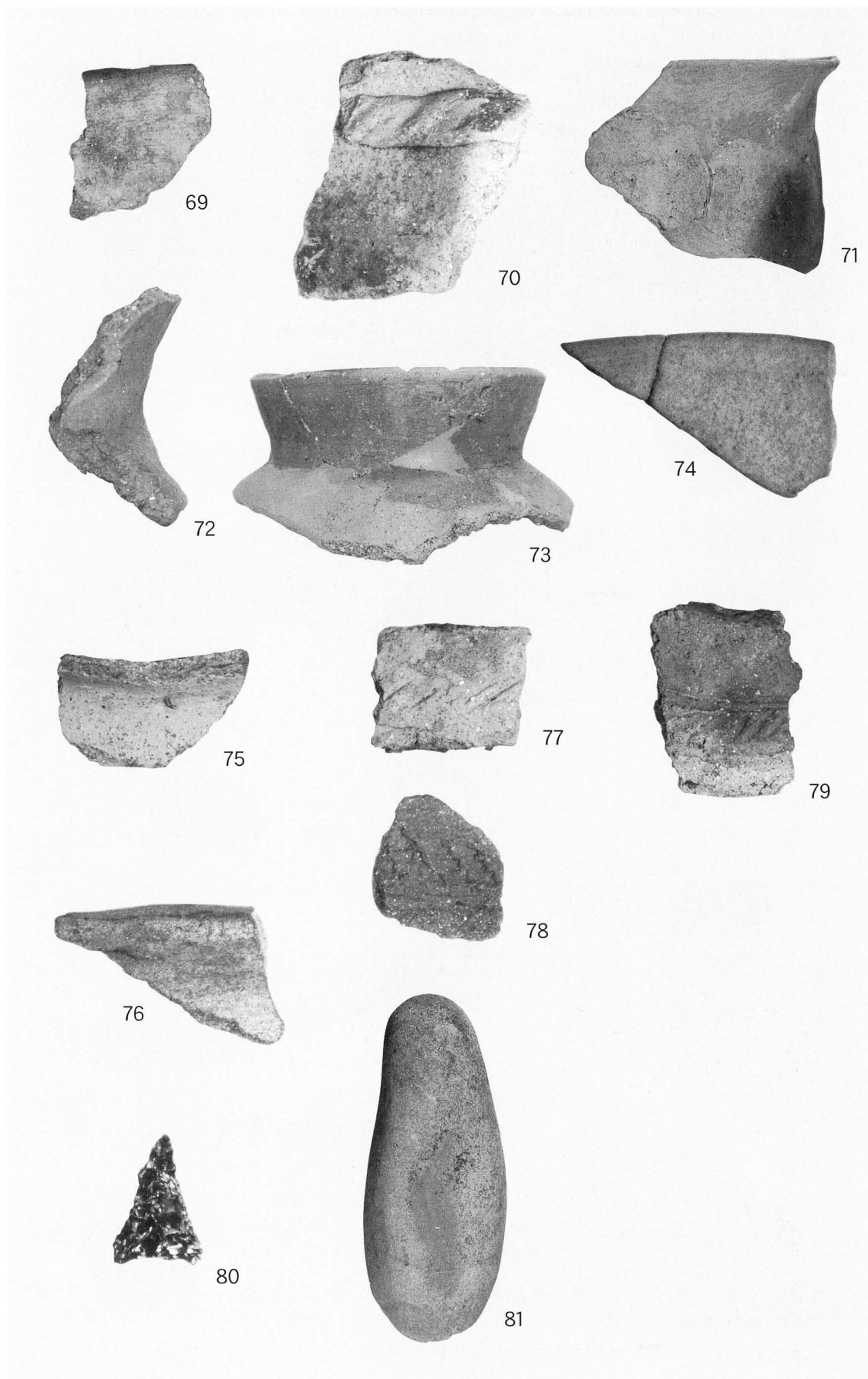
图版22



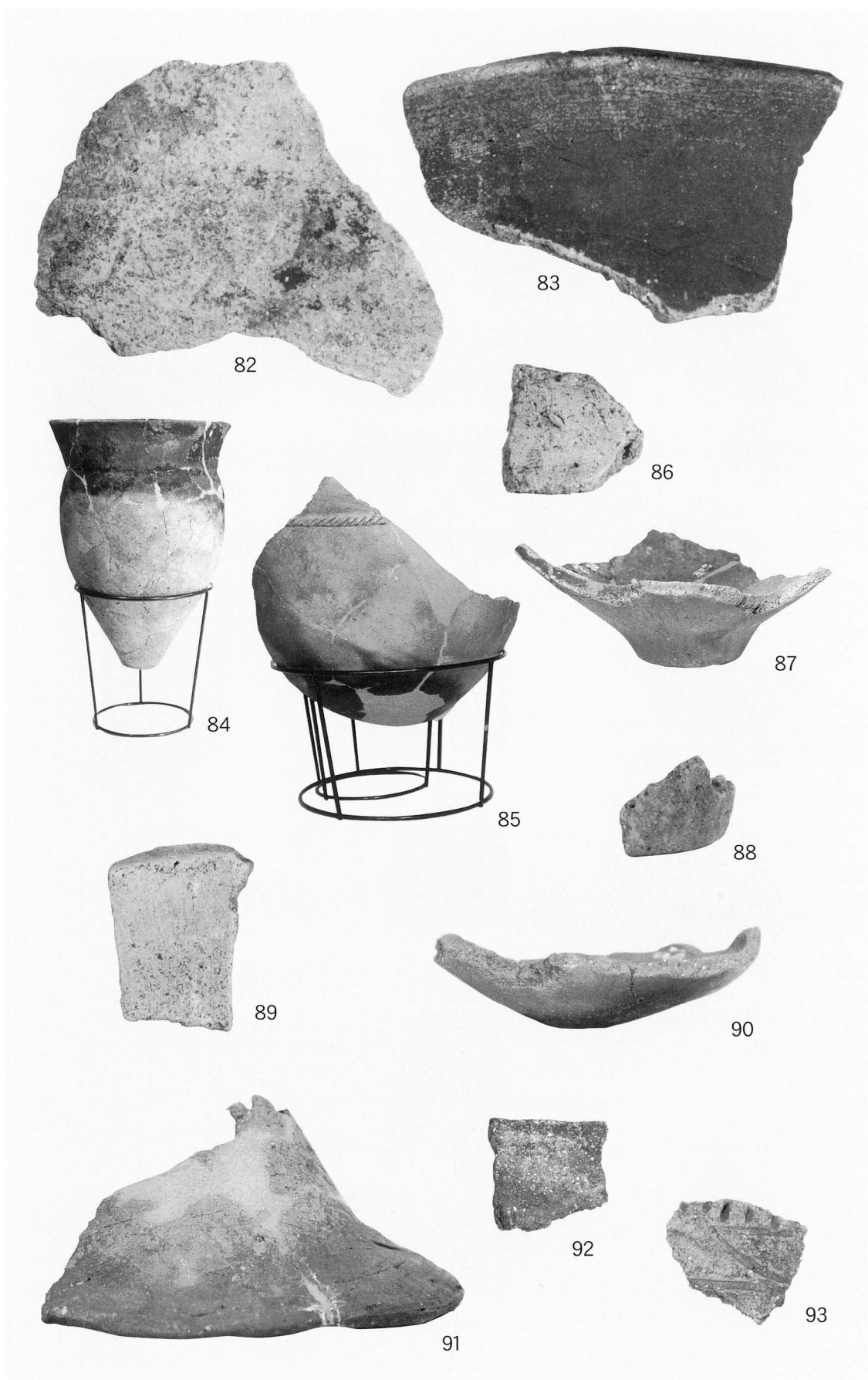
S X - 1 出土遺物



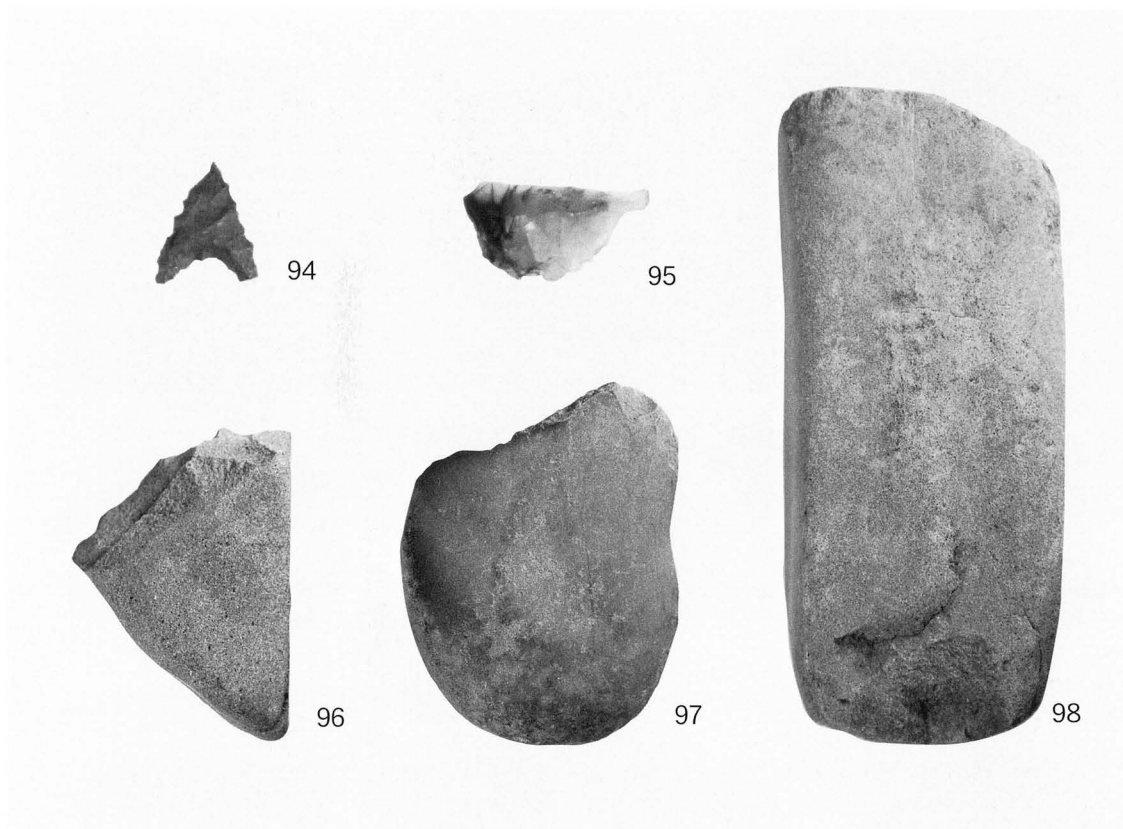
S X - 2 出土遺物



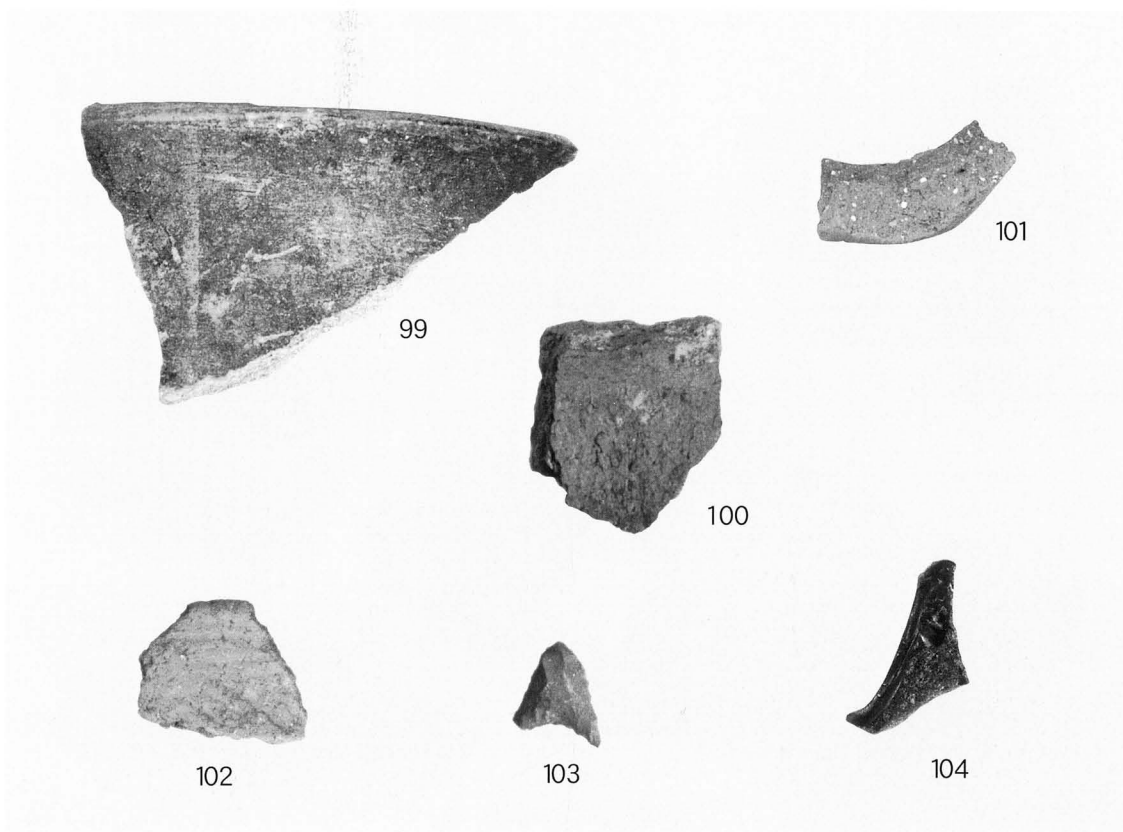
SA-8 出土遺物



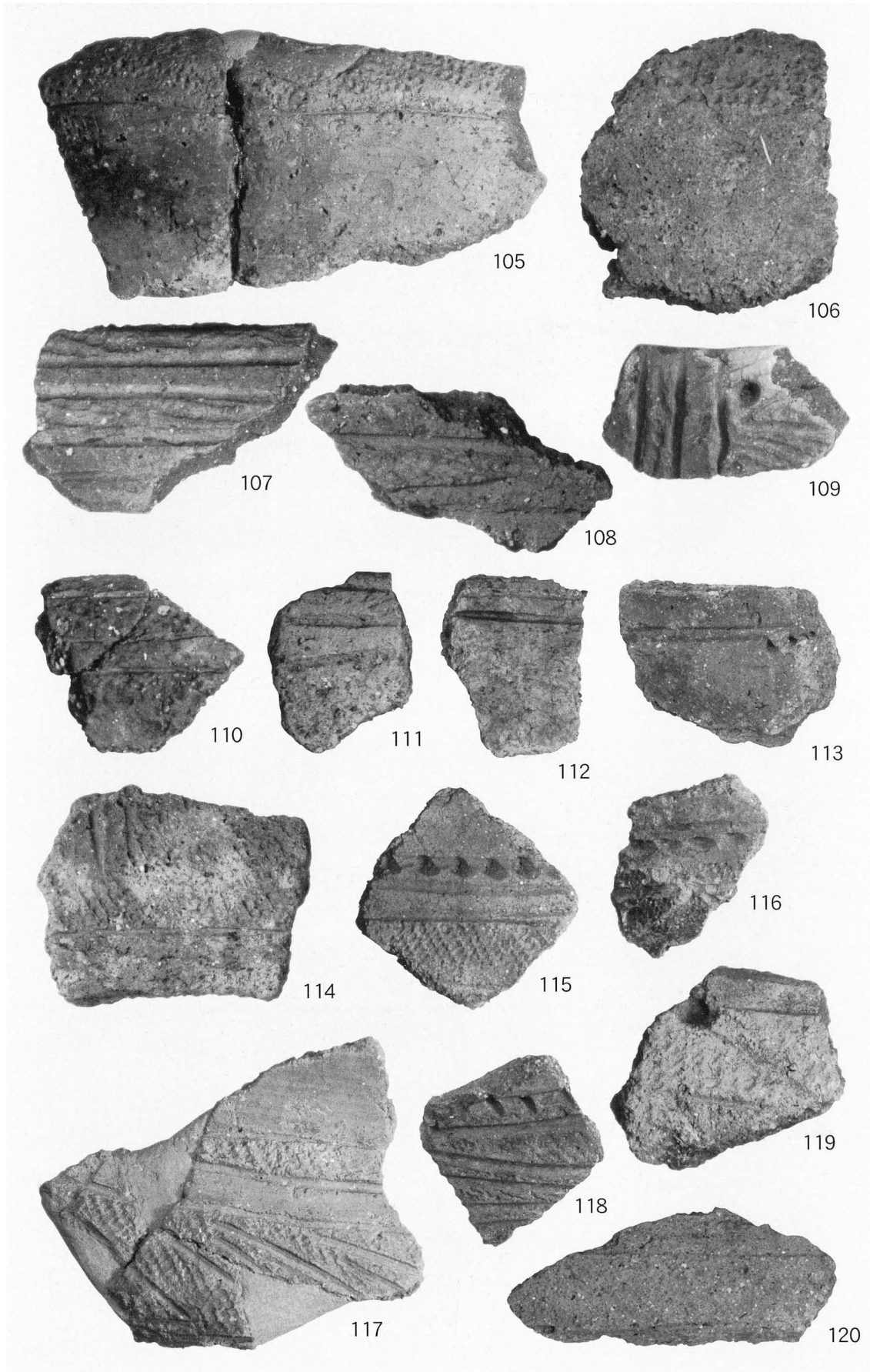
SA-9 出土遺物(1)



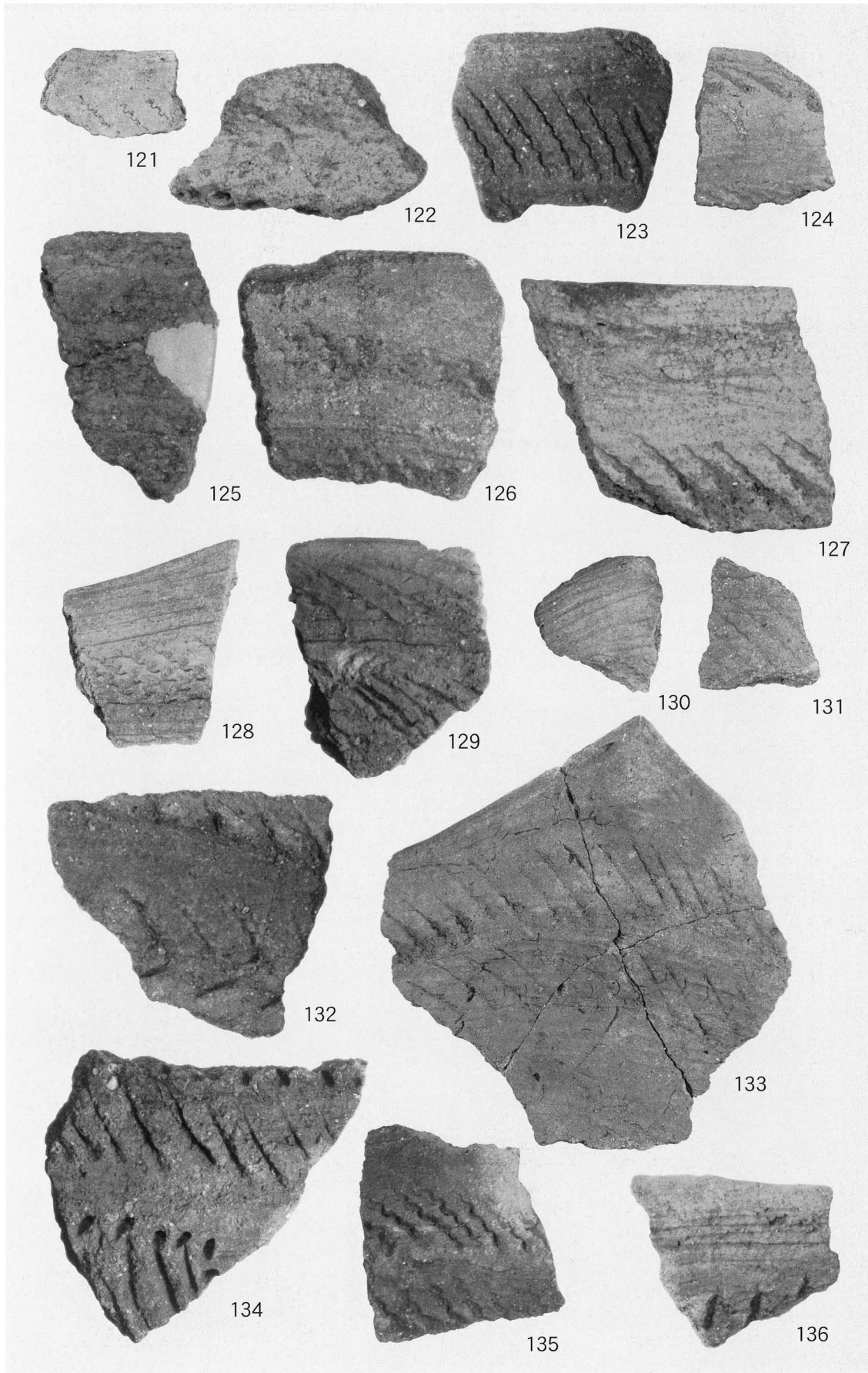
SA-9 出土遺物(2)



SC-2 出土遺物

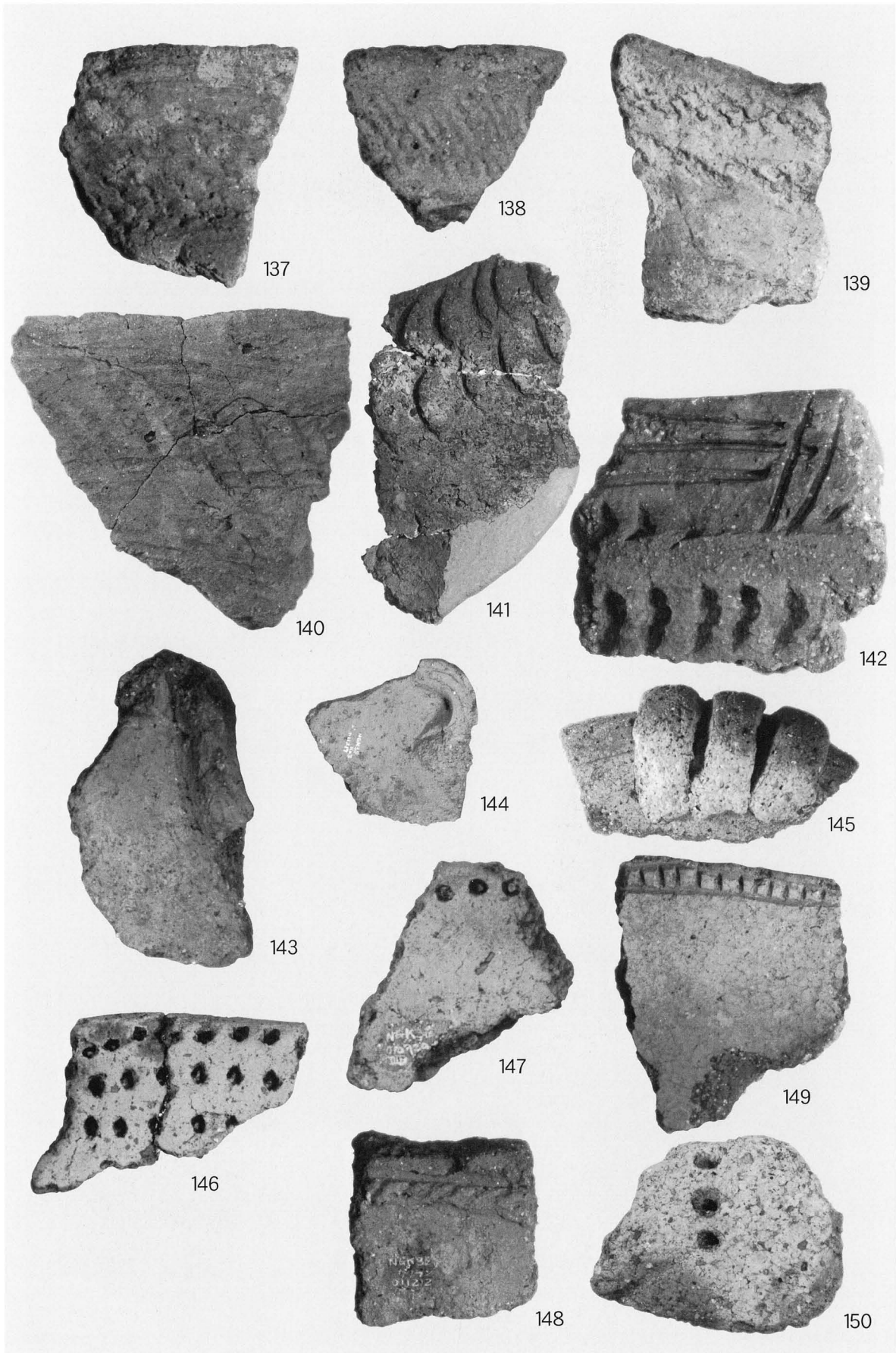


包含層出土遺物 繩文土器(1)

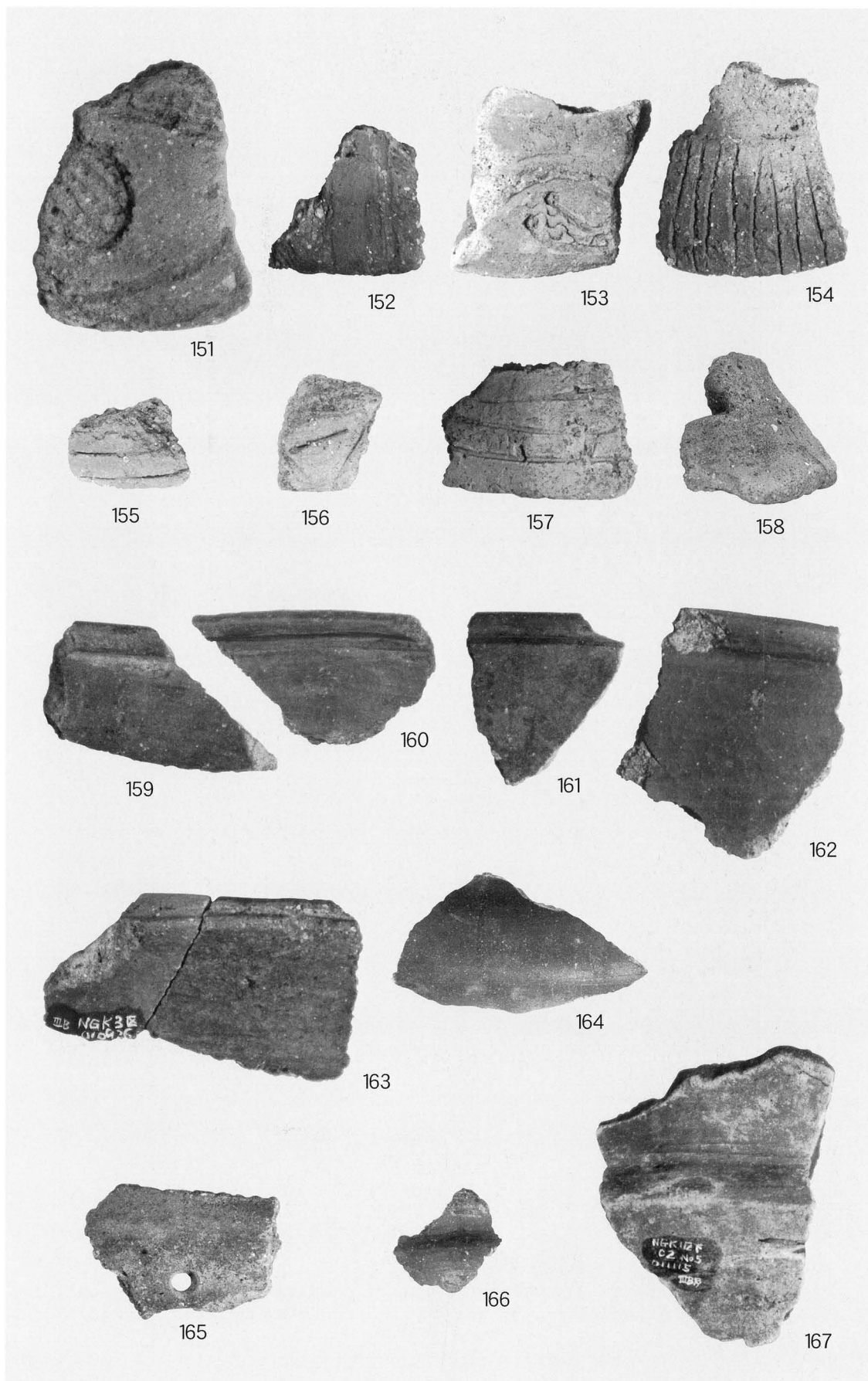


包含層出土遺物 繩文土器(2)



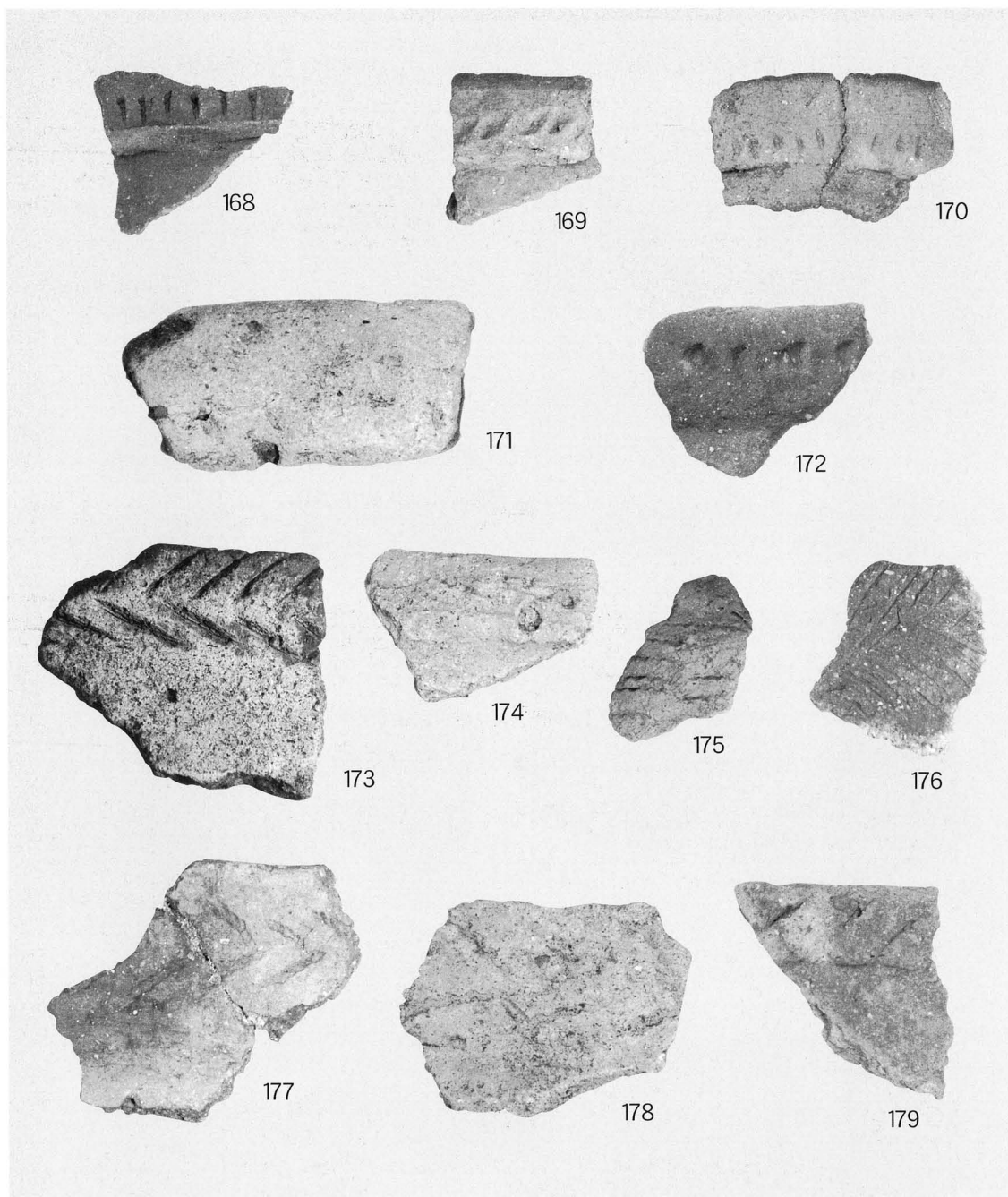


包含層出土遺物 繩文土器(3)

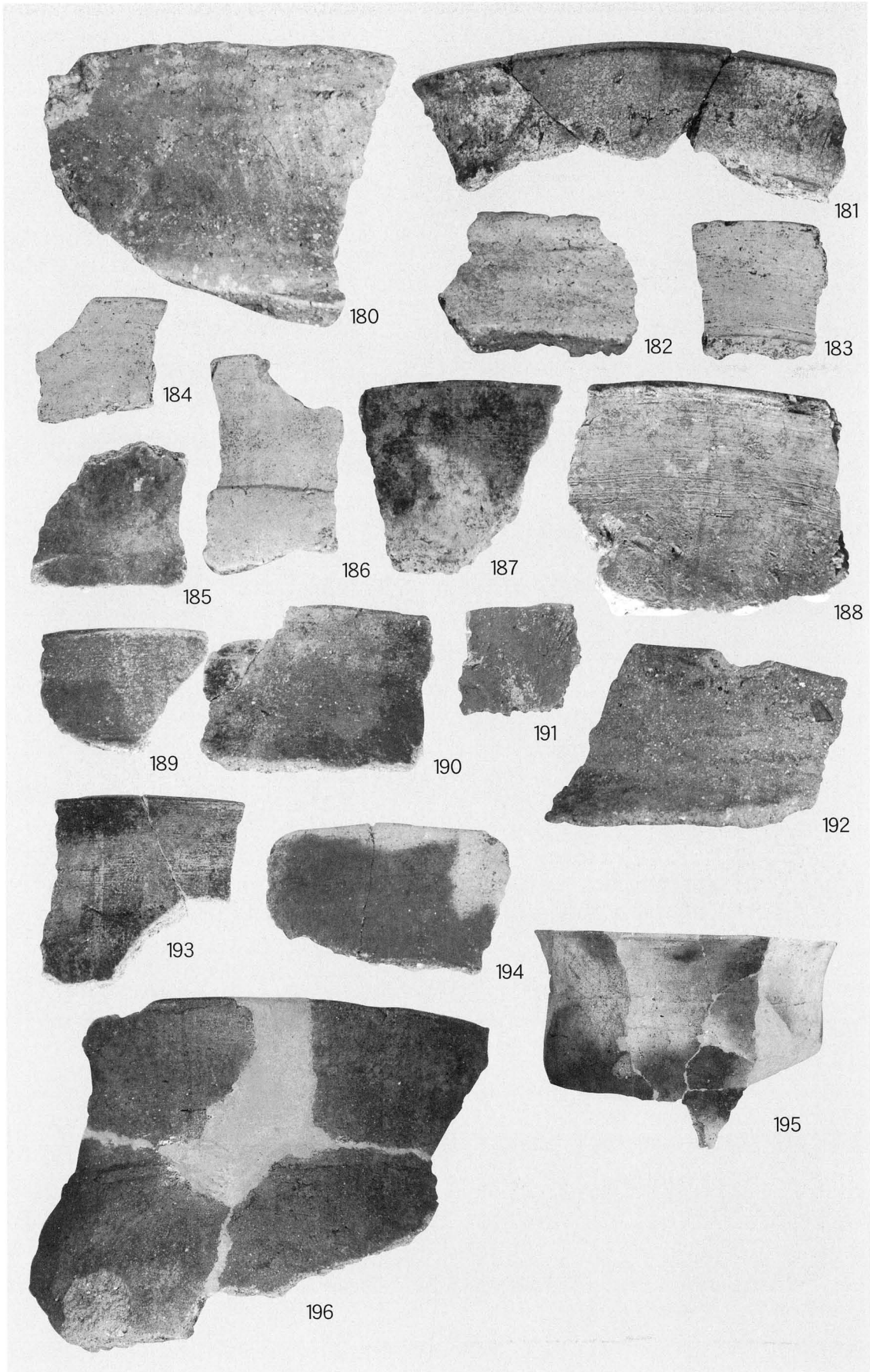


包含層出土遺物 繩文土器(4)

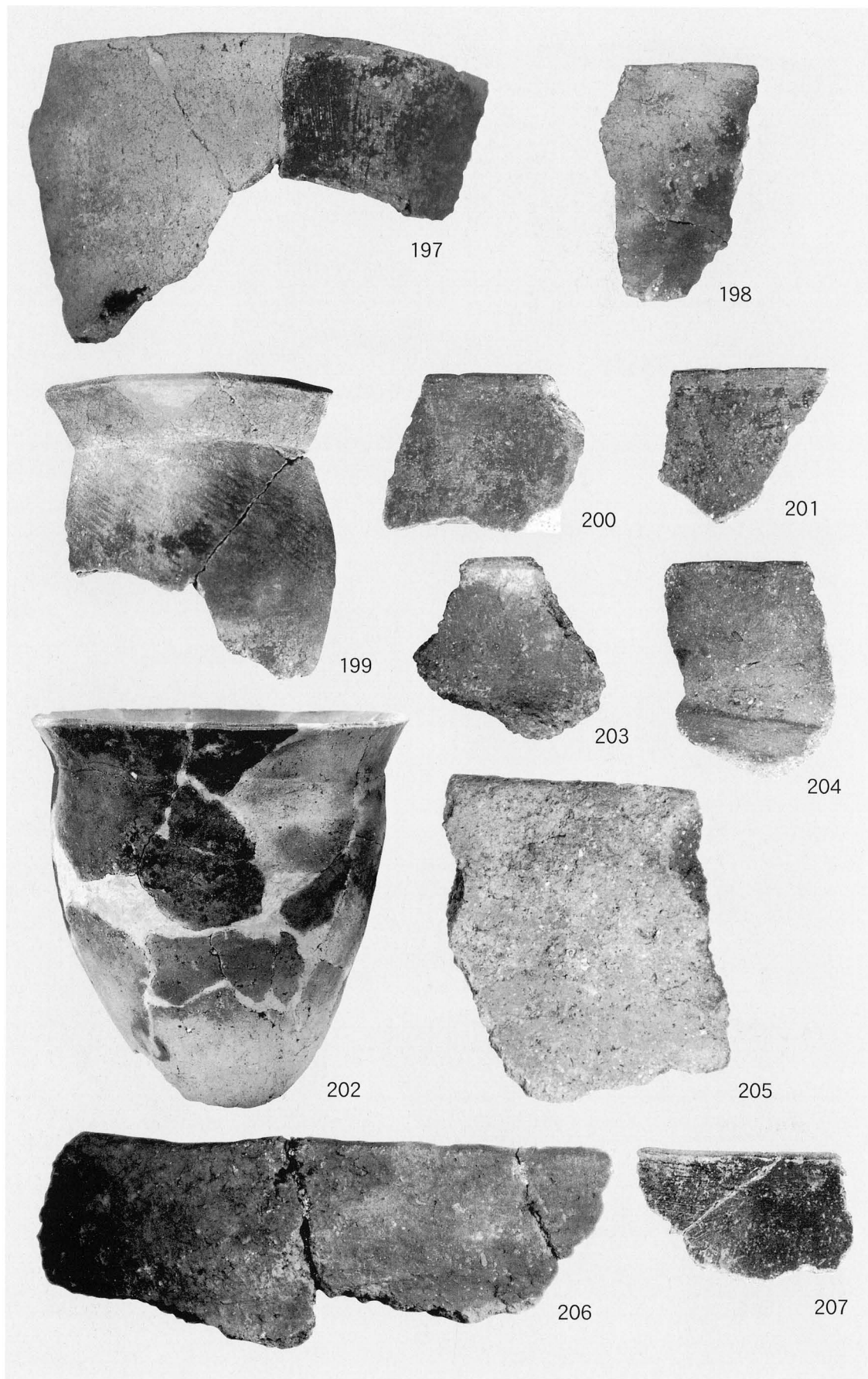
图版30



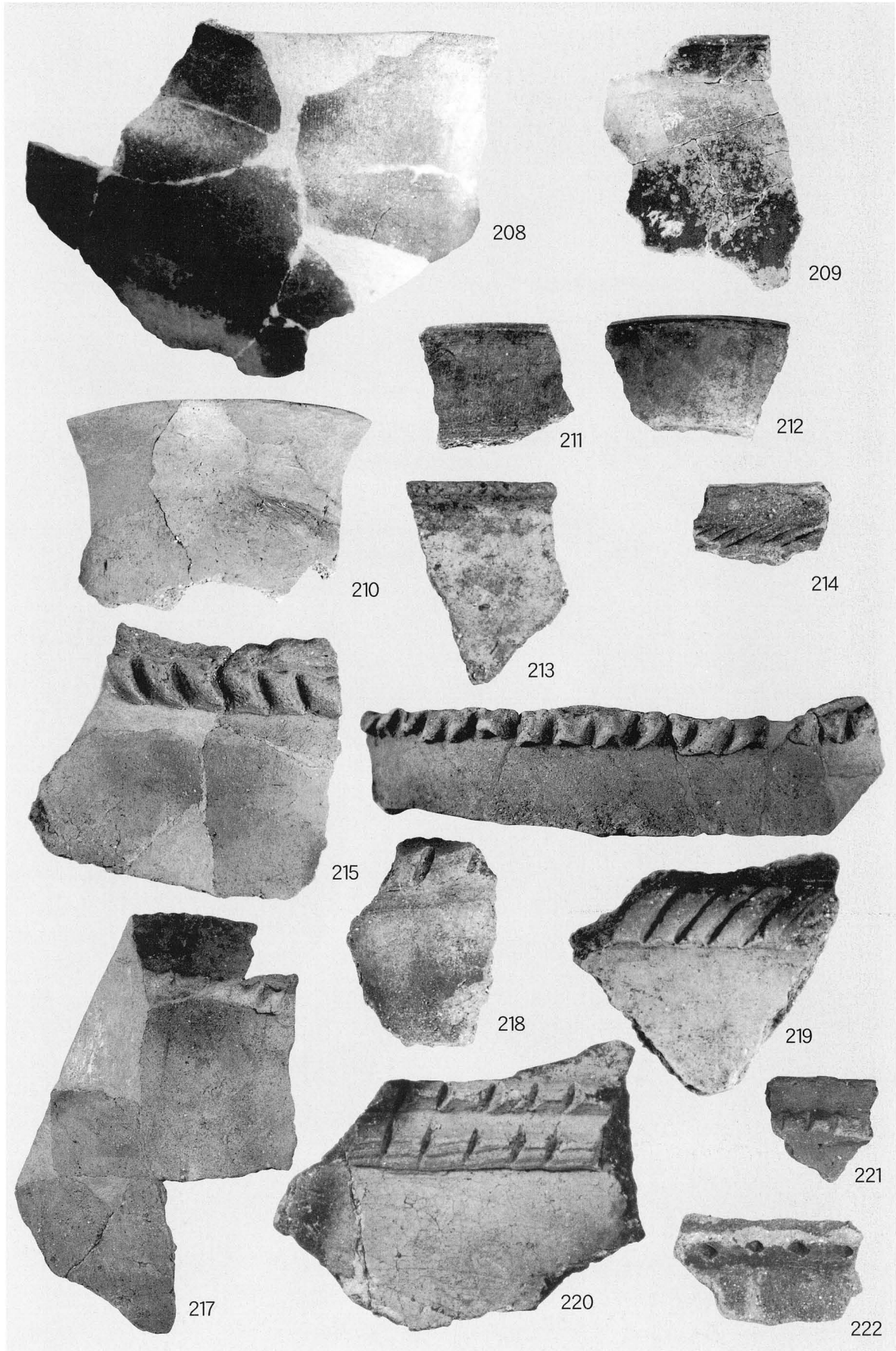
包含層出土遺物 繩文土器(5)



包含層出土遺物 甕(1)

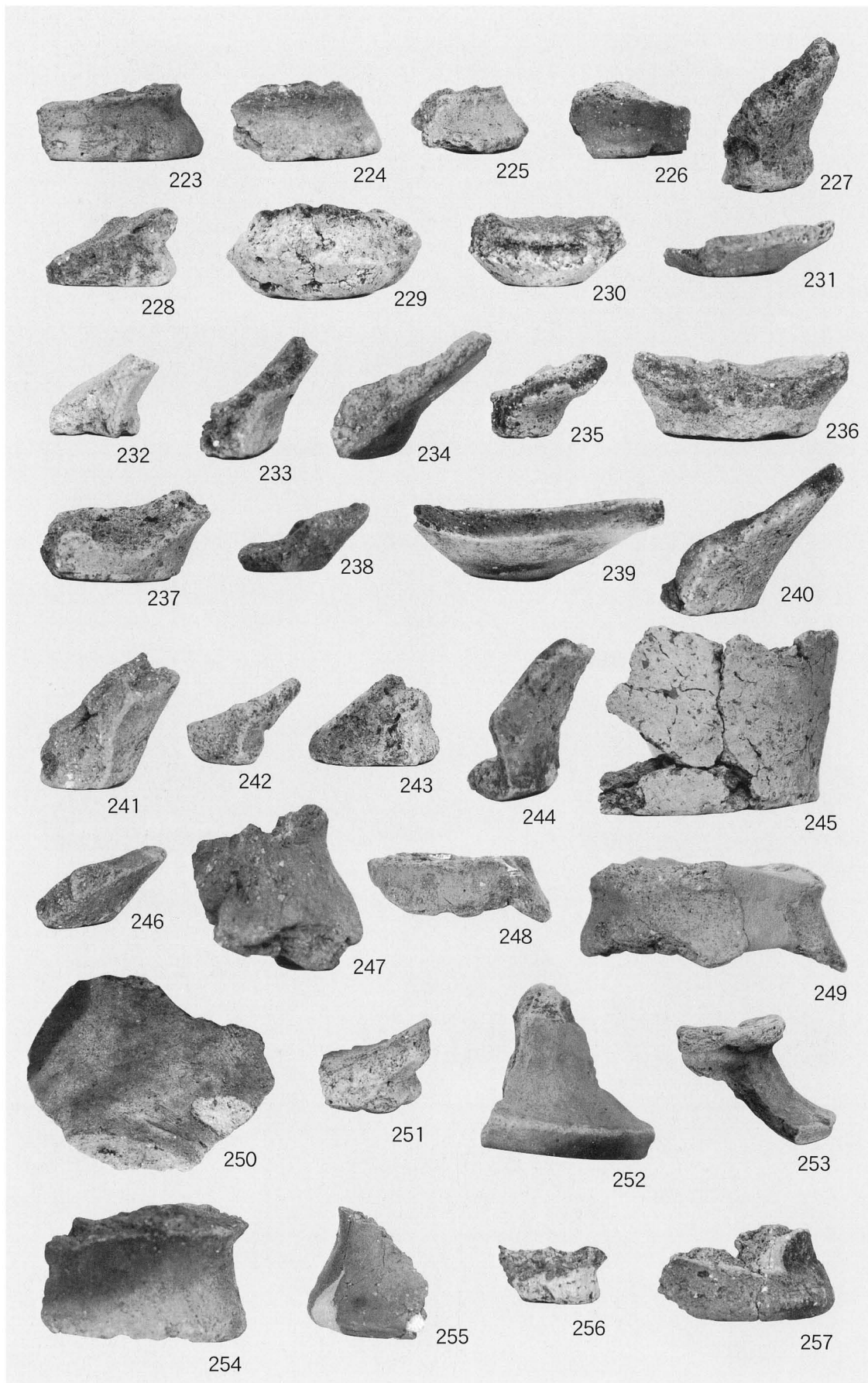


包含層出土遺物 甕(2)

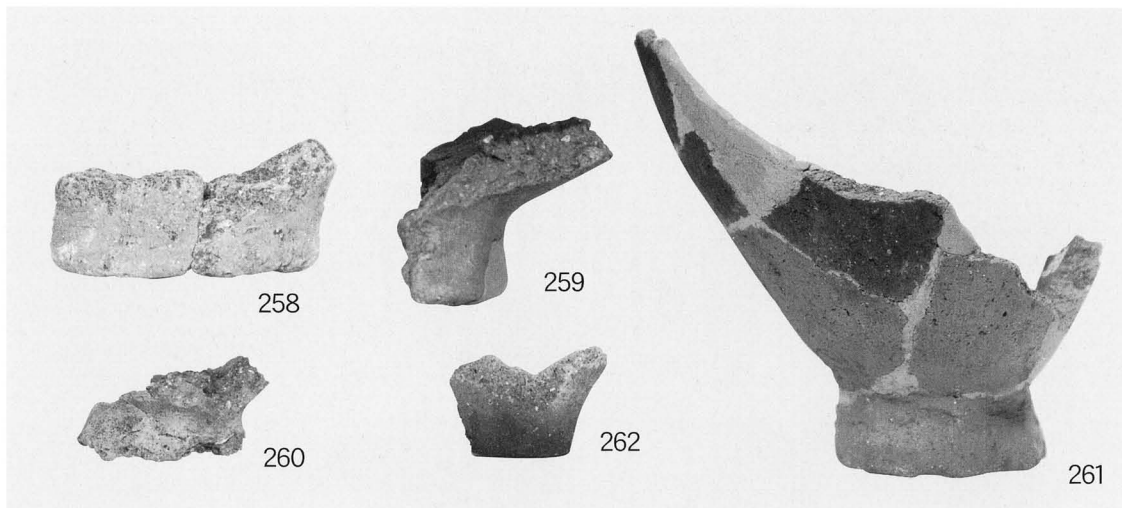


包含層出土遺物 甕(3)

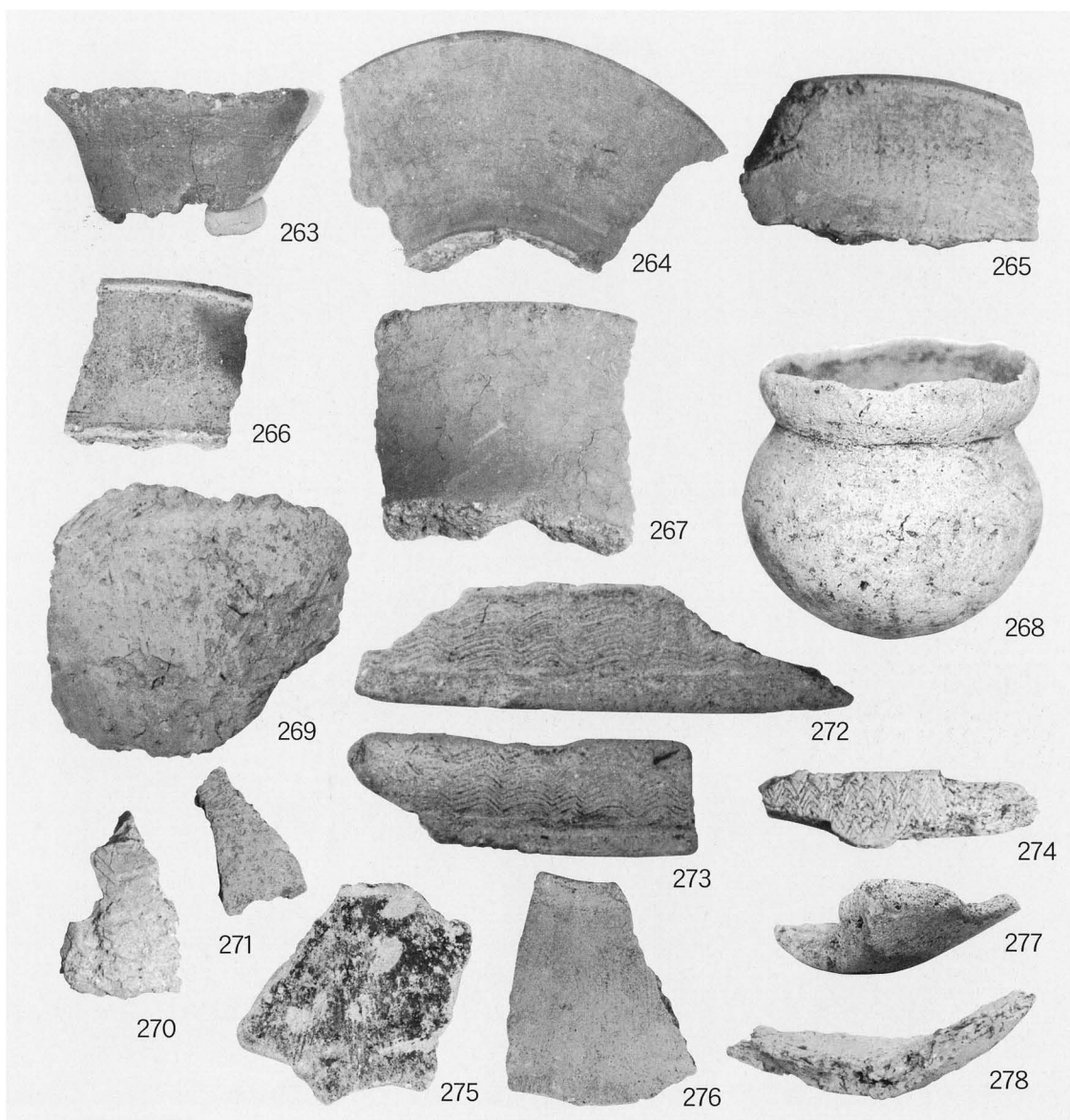
图版34



包含層出土遺物 底部(1)



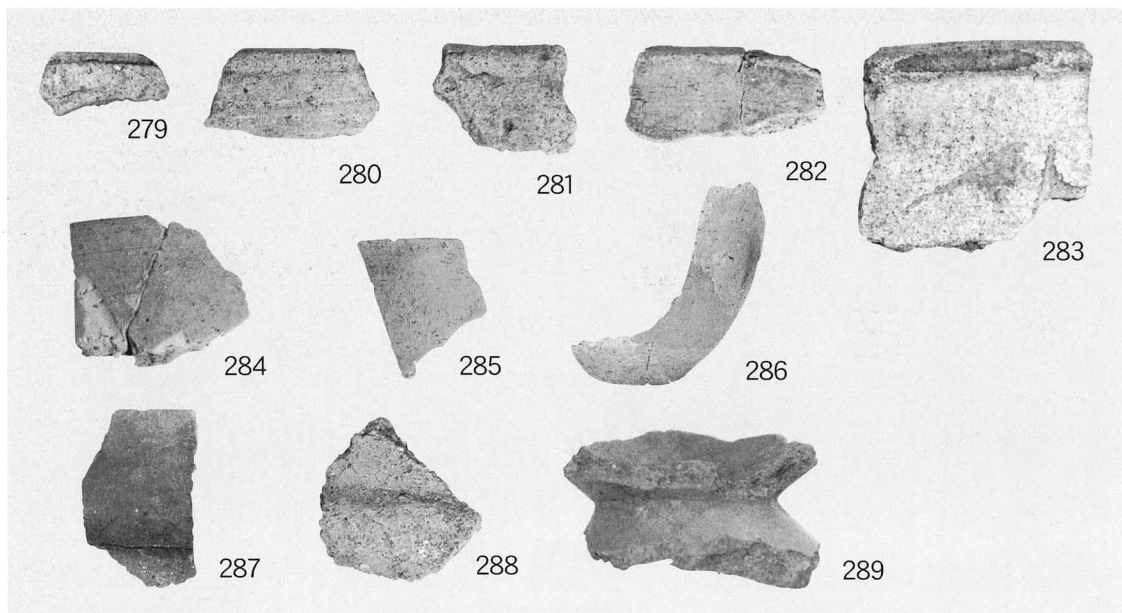
包含層出土遺物 底部(2)



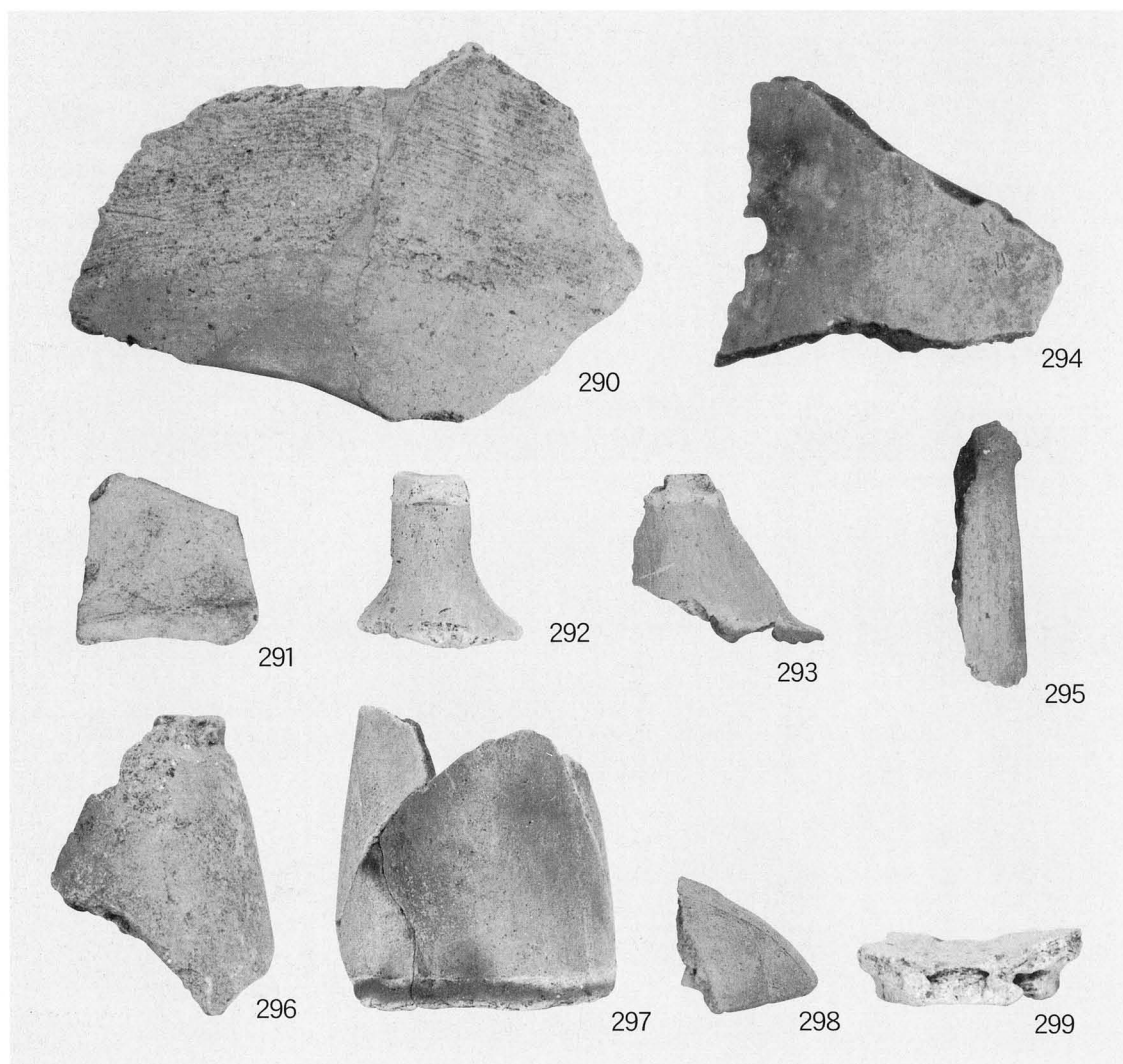
包含層出土遺物 壺



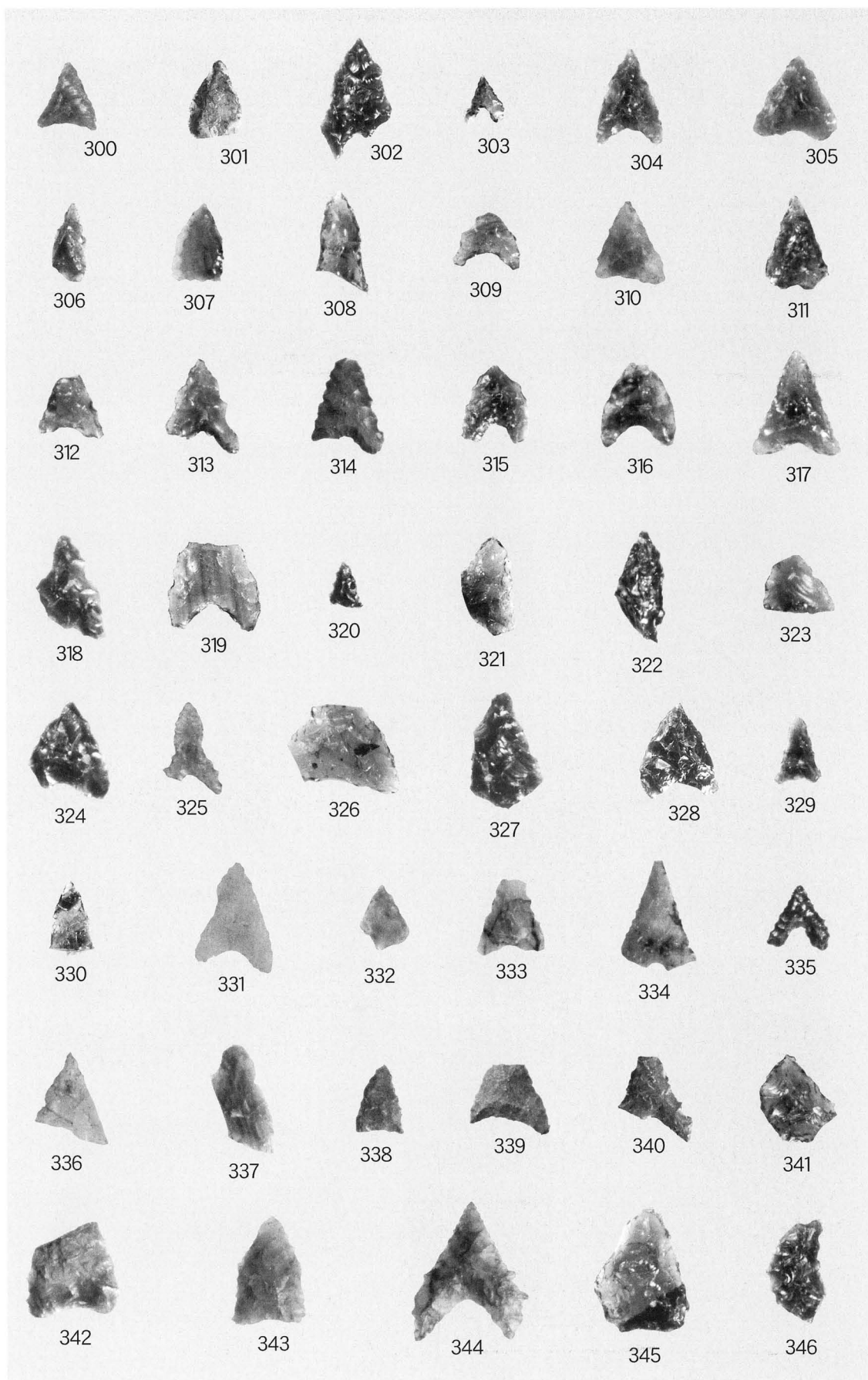
图版36



包含層出土遺物 鉢

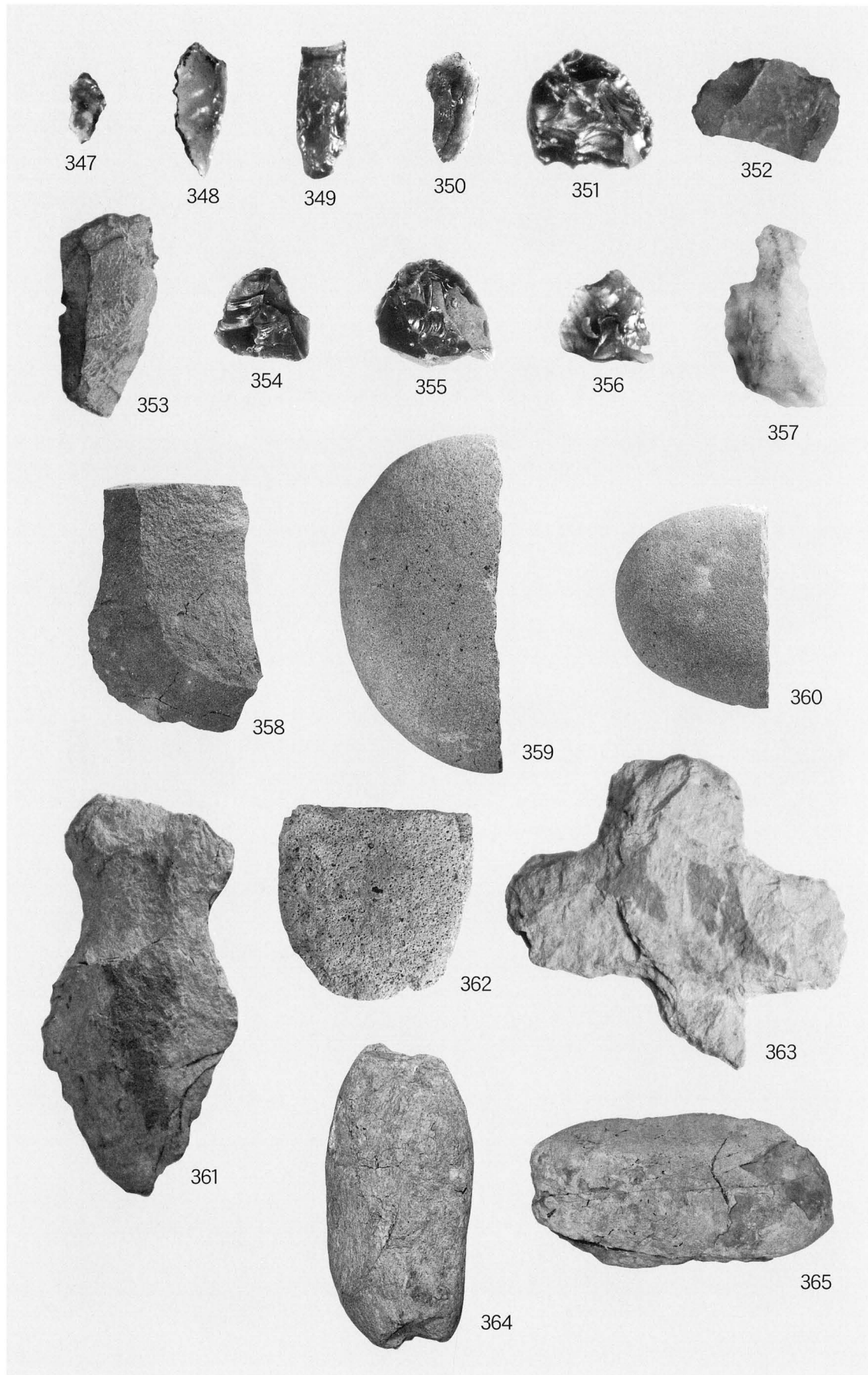


包含層出土遺物 高杯他



包含層出土遺物 石器 (1)

图版38



包含層出土遺物 石器 (2)

# 付 論

# 小林市黒仁田遺跡における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

## I 樹種同定

### 1 はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から属レベル程度の同定が可能である。また、木材は花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

### 2 試料

試料は、黒仁田遺跡から出土した炭化材17点である。

### 3 方法

試料を割折して新鮮な基本的三断面(木材の横断面、放射断面、接線断面)を作製し、落射顕微鏡によって75~750倍で観察した。同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

### 4 結果

結果を表1に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

イヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* K. Koch イヌガヤ科 図版1

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材の幅は非常に狭く、樹脂細胞が散在する。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は、トウヒ型で1分野に1~2個存在する。仮道管の内壁にらせん肥厚が存在する。樹脂細胞が散在する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、1~10細胞高ぐらいである。仮道管の内壁にらせん肥厚が存在する。樹脂細胞が多く見られる。

以上の形質よりイヌガヤに同定される。イヌガヤは、岩手県以南の本州、四国、九州に分布する。常緑の低木または小高木で、高さ10~15m、径20~30cmである。材は、やや堅硬で木理は緻密であるが不整でしばしば波状を呈する。建築、器具、土木、ろくろ細工、薪炭などに用いられる。

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 図版2

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりクリに同定される。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20m、径40cmぐらいであるが、大きいものは高さ30m、径2mに達

する。耐朽性強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で、現在では建築、家具、器具、土木、船舶、彫刻、薪炭、椎茸ほだ木など広く用いられる。

ツブラジイ *Castanopsis cuspidata* Schottky ブナ科

図版 3

横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管が、やや疎に数列配列する環孔材である。晩材部で小道管が火炎状に配列する。放射組織は、単列のものと集合放射組織が存在する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなり、同性放射組織型である。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと集合放射組織が存在する。

以上の形質よりツブラジイに同定される。ツブラジイは関東以南の本州、四国、九州に分布する。常緑の高木で、高さ20m、径1.5mに達する。材は耐朽性、保存性低く、建築材などに用いられる。

シイ属 *Castanopsis* ブナ科

図版 4

横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管がやや疎に数列配列する環孔材である。晩材部で小道管が火炎状に配列する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型のものが存在する。

以上の形質よりシイ属に同定される。シイ属は本州（福島県、新潟県佐渡以南）、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ20m、径1.5mに達する。材は耐朽、保存性やや低く、建築、器具などに用いられる。なお、シイ属にはスダジイとツブラジイがあり、集合放射組織の有無などで識別可能であるが、本試料は小片で広範囲の観察が困難であることから、シイ属の同定にとどめた。

コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科

図版 5

横断面：中型から大型の道管が、1～数列幅で年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属アカガシ亜属に同定される。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシなどがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ30m、径1.5m以上に達する。材は堅硬で強靱、弾力性強く耐湿性も高い。特に農耕具に用いられる。

イスノキ *Distylium racemosum* Sieb. et Zucc. マンサク科

横断面：小型でやや角張った道管が、ほぼ単独に散在する散孔材である。軸方向柔細胞が接線方向に向かって黒い線状に並んで見られ、ほぼ一定の間隔で規則的に配列する。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は比較的少なく15前後のものが多い。放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は、異性放射組織型で、ほとんどが1～2細胞幅であるが、まれに3細胞幅のものも存在する。

以上の形質よりイスノキに同定される。イスノキは関東以西の本州、四国、九州、沖縄に分布する。常緑の高木で、高さ20m、径1mに達する。耐朽性および保存性の高い材で、建築、器具、楽器、ろくろ細工、櫛、薪炭などに用いられる。

モチノキ属 *Ilex* モチノキ科

横断面：小型でやや角張った道管が、単独あるいは数個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管の径はあまり変化しない。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は20~40ぐらいである。

道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は平伏細胞と直立細胞からなる。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で、直立細胞のみからなる単列のものと、2~6細胞幅で上下の縁辺部の1~3細胞高が単列の多列のものからなる。

以上の形質よりモチノキ属に同定される。モチノキ属は常緑または落葉性の高木または低木で、モチノキ、クロガネモチ、イヌツゲなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で高さ15m、径50cmに達する。やや堅硬な材で、旋作、器具、彫刻などに用いられる。

サカキ *Cleyera japonica* Thunb. ツバキ科

図版6

横断面：小型の道管が、単独ないし2個複合して均等に分布する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は多く50を越える。放射組織は平伏細胞、方形細胞、直立細胞からなる異性である。

接線断面：放射組織は、異性放射組織型で単列である。

以上の形質よりサカキに同定される。サカキは関東以西の本州、四国、九州、沖縄に分布する。常緑高木で、通常高さ8~10m、径20~30cmである。材は強靱、堅硬で、建築、器具などに用いられる。

散孔材 diffuse-porous wood

横断面：小型の道管が、散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔であるが、階段の数は不明瞭である。

放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は、異性放射組織型で、1~2細胞幅ぐらいである。

以上の形質より散孔材に同定される。なお、本試料はヒサカキ属、シキミ、ユズリハ属などに類似するが、炭化による焼け膨れなどの変形が著しく、不明瞭な点が多いことから、散孔材の同定にとどめた。

## 5 所見

分析の結果、イヌガヤ2点、クリ2点、ツブラジイ1点、シイ属5点、コナラ属アカガシ垂属1点、イスノキ1点、モチノキ属1点、サカキ2点、散孔材2点が同定された。いずれも照葉樹林の構成要素および照葉樹林内に生育している樹種である。

## 文献

佐伯浩・原田浩(1985)針葉樹材の細胞。木材の構造，文永堂出版，p.20-48.

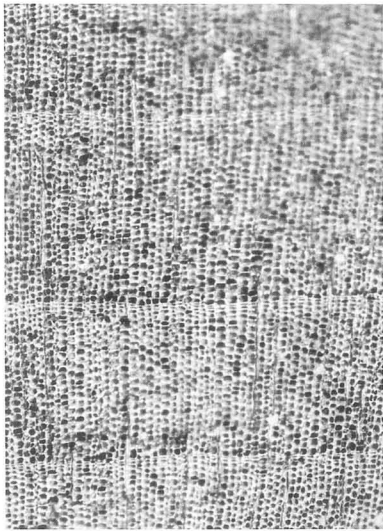
佐伯浩・原田浩(1985)広葉樹材の細胞。木材の構造，文永堂出版，p.49-100.

表1 黒仁田遺跡における樹種同定結果

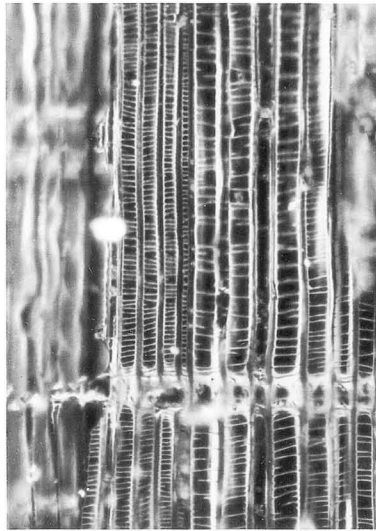
試料		結果(和名/学名)	
SA3	No.86	イヌガヤ	<i>Cephalotaxus harringtonia</i> K.Koch
SA3	No.87	クリ	<i>Castanea crenata</i> Sieb. etZucc.
SA3	No.88	クリ	<i>Castanea crenata</i> Sieb. etZucc.
SA3	No.89	散孔材	diffuse-porous wood
SA3	No.90	イヌガヤ	<i>Cephalotaxus harringtonia</i> K. Koch
SA3	No.91	コナラ属アカガシ亜属	Quercus subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>
SA5	No.93	シイ属	<i>Castanopsis</i>
SA5	No.97	イスノキ	<i>Distylium racemosum</i> Sieb. etZucc.
SA5	No.98	サカキ	<i>Cleyera japonica</i> Thunb.
SA5	No.99	シイ属	<i>Castanopsis</i>
SA5	No.100	ツブラジイ	<i>Castanopsis cuspidata</i> Schottky
SA5	No.101	シイ属	<i>Castanopsis</i>
SA5	No.102	シイ属	<i>Castanopsis</i>
SA6	No.33	散孔材	diffuse-porous wood
SA6	No.34	モチノキ属	<i>Ilex</i>
SA6	No.35	シイ属	<i>Castanopsis</i>
SA6	No.36	サカキ	<i>Cleyera japonica</i> Thunb.



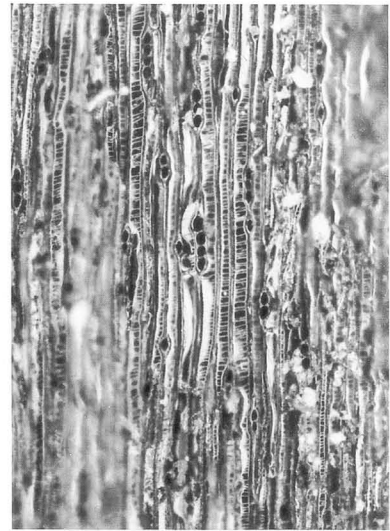
黒仁田遺跡の炭化材 I



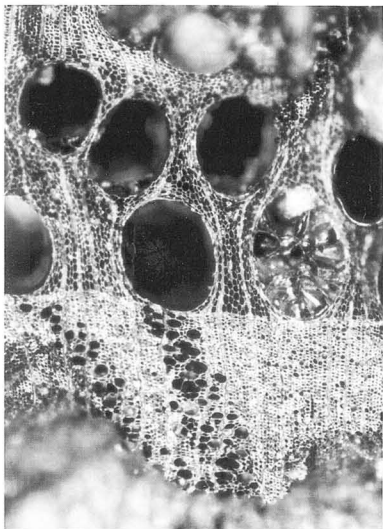
横断面 ————— : 0.4mm  
1. SA3 No.90 イヌガヤ



放射断面 ————— : 0.1mm



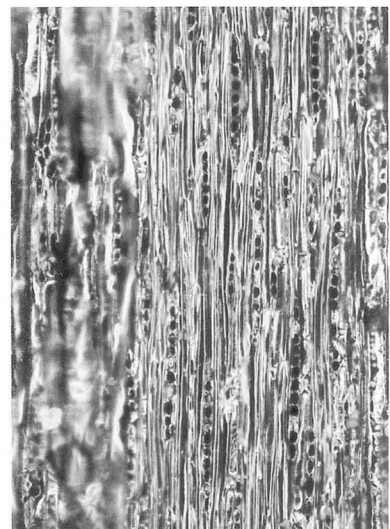
接線断面 ————— : 0.2mm



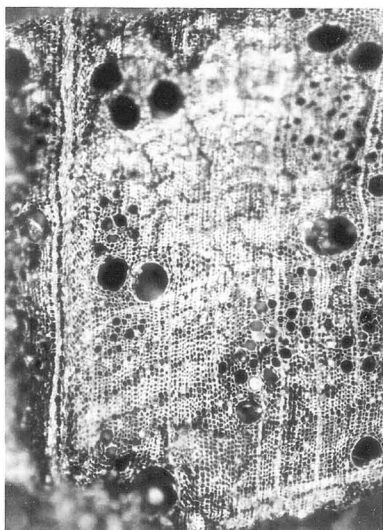
横断面 ————— : 0.4mm  
2. SA3 No.88 クリ



放射断面 ————— : 0.4mm



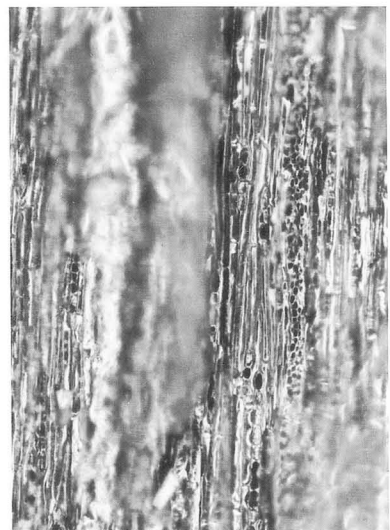
接線断面 ————— : 0.2mm



横断面 ————— : 0.4mm  
3. SA3 No.100 ツブラジイ

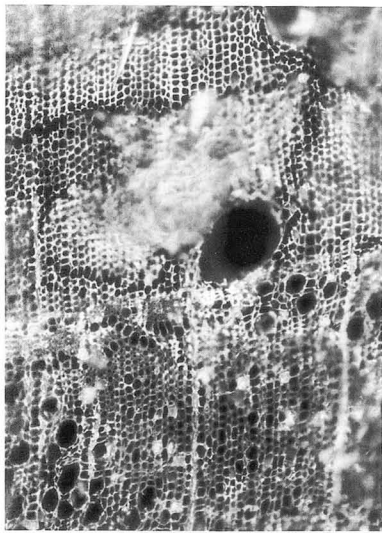


放射断面 ————— : 0.2mm

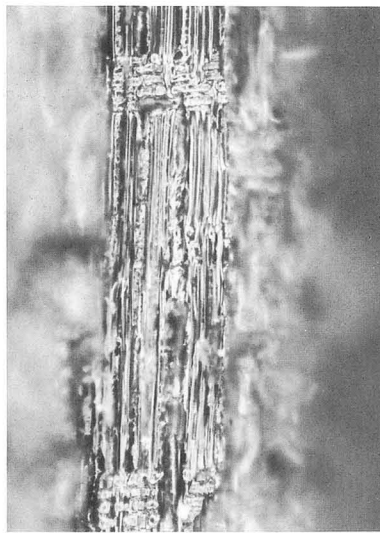


接線断面 ————— : 0.2mm

黒仁田遺跡の炭化材 II



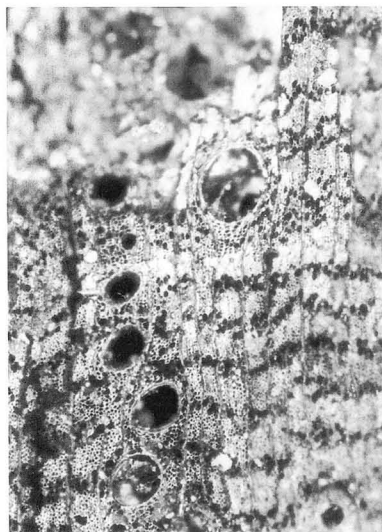
横断面 : 0.2mm  
4. SA5 No.101 シイ属



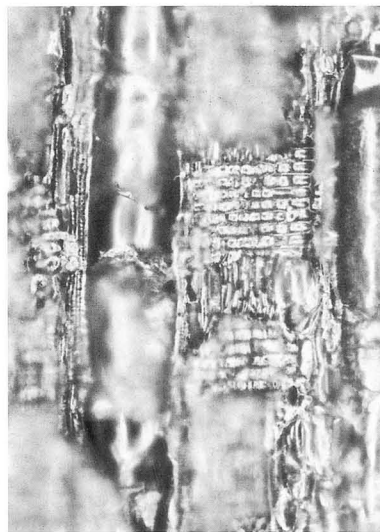
放射断面 : 0.2mm



接線断面 : 0.2mm



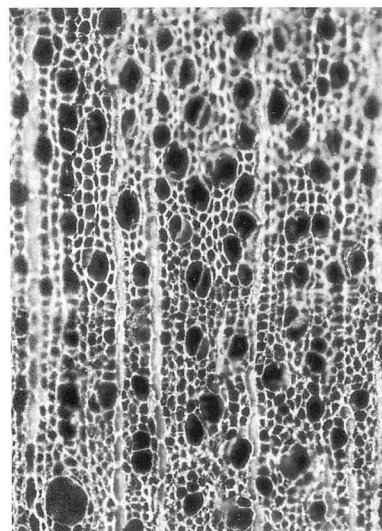
横断面 : 0.4mm  
5. SA5 No.91 コナラ属アカガシ亜属



放射断面 : 0.2mm



接線断面 : 0.2mm



横断面 : 0.2mm  
6. SA5 No.98 サカキ



放射断面 : 0.2mm



接線断面 : 0.2mm

## II 放射性炭素年代測定

### 1 試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No. 1	SA-5, No.98	炭化材	酸-アルカリ-酸洗浄, ベンゼン合成	$\beta$ 線計数法

### 2 測定結果

試料名	$^{14}\text{C}$ 年代 (年BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 $^{14}\text{C}$ 年代 (年BP)	暦年代(西暦)	測定No. (Beta-)
No. 1	1820 $\pm$ 60	-28.5	1770 $\pm$ 60	交点: cal AD 250 1 $\sigma$ : cal AD 220~350 2 $\sigma$ : cal AD 110~410	166706

#### 1) $^{14}\text{C}$ 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在(1950年AD)から何年前かを計算した値。 $^{14}\text{C}$ の半減期は、国際的慣例によりLibbyの5,568年を用いた。

#### 2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ )。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。 $\delta$ の読みはデルタ。

#### 3) 補正 $^{14}\text{C}$ 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正值を加えた上で算出した年代。

#### 4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 $^{14}\text{C}$ 濃度の変動を較正することにより算出した年代(西暦)。較正には、年代既知の樹木年輪の $^{14}\text{C}$ の詳細な測定値、およびサンゴのU-Th年代と $^{14}\text{C}$ 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。最新のデータベースでは、約19,000年BPまでの換算が可能となっている。

暦年代の交点とは、補正 $^{14}\text{C}$ 年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1 $\sigma$  (68%確率)と2 $\sigma$  (95%確率)は、補正 $^{14}\text{C}$ 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の1 $\sigma$ ・2 $\sigma$ 値が表記される場合もある。

### 3 考察

放射性炭素年代測定の結果、No. 1 (SA-5, No.98)の炭化材(サカキ)では、1770 $\pm$ 60年BP (1 $\sigma$ の暦年代で西暦220~350年)の年代値が得られた。

### 文献

Stuiver, M., et. al., (1998), INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.

中村俊夫(1999)放射性炭素法, 考古学のための年代測定学入門. 古今書院, p.1-36.

## 黒仁田遺跡出土の黒曜石製遺物の原材産地分析

藁 科 哲 男

(京都大学原子炉実験所)

### はじめに

石器石材の産地を自然科学的手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光X線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石遺物の石材産地推定を行なっている(1, 2, 3)。石材移動を証明するには必要条件と十分条件を満たす必要がある。地質時代に自然の力で移動した岩石の出発露頭を元素分析で求めるとき、移動原石と露頭原石の組成が一致すれば必要条件を満たし、その露頭からの流れたルートを地形学などで証明できれば、他の露頭から原石が流れて来ないことが証明されて、十分条件を満たし、ただ一カ所の一致する露頭産地の調査のみで移動原石の産地が特定できる。遺物の産地分析では『石器とある産地の原石の成分が一致したからと言って、その産地のものと言い切れないことは、他の産地にも一致する可能性が推測されるからで、しかし一致しなかった場合その産地のものでないと言い切れる。』が大原則である。考古学では、人工品の様式が一致すると言う結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの人手が加わった調合素材があり一致すると言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、一致すると言うことは、古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する重要な意味をもつ結果である。石器の様式による分類ではなく、自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類では、例えば石材産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルート上に位置する、産地地方との交流を示す土器が出土しているなどを十分条件の代用にすると産地分析は中途半端な結果となり、遠距離伝播した石材を近くの産地と誤判定する可能性がある。人が移動させた石器の元素組成とA産地原石の組成が一致し、必要条件を満足しても、原材産地と出土遺跡の間に地質的関連性がないため、十分条件の移動ルートを自然の法則に従って地形学で証明できず、その石器原材がA産地の原石と決定することができない。従って、石器原材と産地原石が一致したことが、直ちに考古学の資料とならない、確かにA産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなったが、B、C、Dの産地でないと証拠がないために、A産地だと言い切れない。B産地と一致しなかった場合、結果は考古学の資料として非常に有用である。それは石器に関してはB産地と交流がなかったと言い切れる。ここで、十分条件として、可能なかぎり地球上の全ての原産地(A、B、C、D・・・)の原石群と比較して、A産地以外の産地とは一致しないことを十分条件として証明すれば、石器がA産地の原石と決定することができる。この十分条件を肉眼観察で求めることは分類基準が混乱し不可能であると思われる。また、自然科学的分析を用いても、全ての産地が区別できるかは、それぞれが使用している産地分析法によって、それぞれ異なり実際に行ってみなければ分からない。産地分析の結果の信頼性は何ヶ所の原材産地の原石と客観的に比較して得られたかにより、比較した産地が少なければ、信頼性の低い結果と言える。黒曜石、サヌカイトなどの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微

量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比して、各平均値からの離れ具合（マハラノビスの距離）を求める。次に、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地と異なる地点の可能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限の個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングのT<sup>2</sup>乗検定を行う。この検定を全ての産地について行い、ある原石遺物原材と同じ成分組成の原石はA産地では10個中に一個みられ、B産地では一万個中に一個、C産地では百万個中に一個、D産地では・・・一個と各産地毎に求められるような、客観的な検定結果からA産地の原石を使用した可能性が高いと同定する。即ち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。今回分析した遺物は宮崎県小林市に位置する黒仁田遺跡出土の黒曜石製遺物15個について産地分析の結果が得られたので報告する。

### 黒曜石原石

黒曜石原石の自然面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X分析装置によって元素分析を行なう。分析元素はAl、Si、K、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの12元素をそれぞれ分析し、塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。黒曜石は、Ca/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zrの比量を産地を区別する指標をしてそれぞれ用いる。黒曜石の原産地は黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州、の各地に黒曜石の原産地は分布する。調査を終えた原産地を図1に示す。黒曜石原産地のほとんどすべてがつかされ、元素組成によってこれら原石を分類して表1に示す。この原石群に原石産地が不明の遺物で作った遺物群を加えると228個の原石群になる。佐賀県の腰岳地域および大分県の姫島地域の観音崎、両瀬の両地区は黒曜石の有名な原産地で、姫島地域ではガラス質安山岩もみられ、これについても分析を行なった。隠岐島、壱岐島、青森県、和田峠の一部の黒曜石には、Srの含有量が非常に少なく、この特徴が産地分析を行う際に他の原産地と区別する、有用な指標となっている。九州西北地域の原産地で採取された原石は、相互に組成が似た原石がみられる(表2)。西北九州地域で似た組成を示す黒曜石の原石群は、腰岳、古里第一、松浦第一の各群(腰岳系と仮称する)および淀姫、中町第二、古里第三、松浦第四の各群(淀姫系と仮称する)などである。淀姫産原石の中で中町第一群に一致する原石は12%個で、一部は淀姫群に重なるが中町第一群に一致する遺物は中町系と分類した。また、古里第二群原石と肉眼的および成分的に似た原石は嬉野町椎葉川露頭で多量に採取でき、この原石は姫島産乳灰色黒曜石と同色調をしているが、組成によって姫島産の黒曜石と容易に区別できる。もし似た組成の原石で遺物が作られたとき、この遺物は複数の原産地に帰属され原石産地を特定できない場合がある。たとえ遺物の原石産地がこれら腰岳系、淀姫系の原石群の中の一群および古里第二群のみに帰属されても、この遺物の原石産地は腰岳

系、淀姫系および古里第二群の原石を産出する複数の地点を考えなければならない。角礫の黒曜石の原産地は腰岳および淀姫で、円礫は松浦(牟田、大石)、中町、古里(第二群は角礫)の各産地で産出していることから、似た組成の原石産地の区別は遺物の自然面から円礫か角礫かを判断すれば原石産地の判定に有用な情報となる。旧石器の遺物の組成に一致する原石を産出する川棚町大崎産地から北方4kmに位置する松岳産地があるが、現在、露頭からは8mm程度の小礫しか採取できない。また、佐賀県多久のサヌカイト原産地からは黒曜石の原石も採取され梅野群を作った。九州中部地域の塚瀬と小国の原産地は隣接し、黒曜石の生成マグマは同質と推測され両産地は区別できない。また、熊本県の南関、轟、冠ヶ岳の各産地の原石はローム化した阿蘇の火砕流の層の中に含まれる最大で親指大の黒曜石で、非常に広範囲な地域から採取される原石で、福岡県八女市の昭和溜池からも同質の黒曜石が採取され昭和池群を作った。従って南関等の産地に同定された遺物の原材産地を局所的に特定できない。桑の木津留原産地の原石は元素組成によって2個の群に区別することができる。桑の木津留第1群は道路切り通し面の露頭から採取できるが、桑の木津留第2群は転礫として採取でき、これら両者を肉眼的に区別はできない。また、間根ヶ平原産地では肉眼観察で淀姫黒曜石のような黒灰色不透明な黒曜石から桑ノ木津留に似た原石が採取され、これらについても原石群を確立し間根ヶ平原黒曜石を使用した遺物の産地分析を可能にした。遺物の産地分析によって桑の木津留第1群と第2群の使用頻度を遺跡毎に調査して比較することにより、遺跡相互で同じ比率であれば遺跡間の交易、交流が推測できるであろう。石炭様の黒曜石は大分県萩台地、熊本県滝室坂、箱石峠、長谷峠、五ヶ瀬川の各産地および大柿産、鹿児島県の樋脇町上牛鼻産および平木場産の黒曜石は似ていて、肉眼観察ではそれぞれ区別が困難であるが、大半は元素組成で区別ができるが、上牛鼻、平木場産の両原石については各元素比が似ているため区別はできない。これは両黒曜石を作ったマグマは同じで地下深くにあり、このマグマが地殻の割れ目を通して上牛鼻および平木場地区に吹きだしたときには、両者の原石の組成は似ると推定できる。従って、産地分析で上牛鼻群または平木場群のどちらかに同定されても、遺物の原石産地は上牛鼻系として上牛鼻または平木場地区を考える必要がある。出水産原石組成と同じ原石は日東、五女木の各原産地から産出していてこれらは相互に区別できず日東系とした。竜ヶ水産原石は桜島の対岸の竜ヶ水地区の海岸および海岸の段丘面から採取される原石で元素組成で他の産地の黒曜石と容易に弁別する。

## 結果と考察

遺跡から出土した黒曜石製石器、石片は風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。黒曜石製の石器で、水和層の影響を考慮するとすれば、軽い元素の分析ほど表面分析になるため、水和層の影響を受けやすいと考えられる。Ca/K、Ti/Kの両軽元素比量を除いて産地分析を行なった場合、また除かずに産地分析を行った場合、いずれの場合にも同定される産地は同じである。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやゝ不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。

今回分析した黒仁田遺跡出土の黒曜石製遺物の分析結果を表3に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためRr/Zrの一変量だけを考えると、表3の試料番号90926番の遺物ではRr/Zrの値は0.693で、五女木群の[平均値]±[標準偏差値]は、 $0.705 \pm 0.027$ である。遺物と原石群の差を標準偏差値( $\sigma$ )を基準にして考えると遺物は原石群から $0.5\sigma$ 離れている。ところで五女木群の原産地から100ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から $\pm 0.5\sigma$ のずれより大きいものが96個ある。すなわち、この遺物が、五女木群の原石から作られていたと仮定しても、 $0.4\sigma$ 以上離れる確率は96%であると言える。だから、五女木群の平均値から $0.4\sigma$ しか離れていないときには、この遺物が五女木群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を桑ノ木津留第1群に比較すると、桑ノ木津留第1群の平均値からの隔たりは、約 $8\sigma$ である。これを確率の言葉で表現すると、桑ノ木津留第1群の産地の原石を採ってきて分析したとき、平均値から $8\sigma$ 以上離れている確率は、一億分の一であると言える。このように、一億個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、桑ノ木津留第1群の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は五女木1群に96%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから五女木原石が使用されていると同定され、さらに五女木群に百万分の一の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%に満たないことから桑ノ木津留第1群の原石でないと同定される」。遺物が一ヶ所の産地(五女木産地)と一致したからと言って、例え五女木群と桑ノ木津留第1群の原石は成分が異なっても、分析している試料は原石でなく遺物で、さらに分析誤差が大きくなる不定形(非破壊分析)であることから、他の産地に一致しないとは言えない、同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地(五女木群)に一致し必要条件を満たしたと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表1の228個すべての原石群について行ない、十分条件である低い確率で帰属された原石群を消していくことにより、はじめて五女木産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はRr/Zrといった唯一ヶの変量だけでなく、前述した8ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならぬ。例えばA原産地のA群で、Ca元素とSr元素との間に相関があり、Caの量を計ればSrの量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Sr量も一致するはずである。もしSr量だけが少しずれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのT<sup>2</sup>乗検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて、産地を同定する<sup>4,5</sup>。産地の同定結果は1個の遺物に対して、黒曜石製では202個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略しているが、本研究ではこれら産地の可能性が非常に低いことを確認したという非常に重要な意味を含んでいる、すなわち、五女木産原石と判定された遺物について、台湾の台東山脈産原石、北朝鮮の会寧遺跡で使用された原石と同じ組成の原石

とか、信州和田峠、霧ヶ峰産の原石の可能性を考える必要がない結果で、高い確率で同定された産地のみを結果を表4に記入した。原石群を作った原石試料は直径3cm以上であるが、小さな遺物試料によって原石試料と同じ測定精度で元素含有量を求めるには、測定時間を長くしなければならない。しかし、多数の試料を処理するために、1個の遺物に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。また、検出された元素であっても、含有量の少ない元素では、得られた遺物の測定値には大きな誤差範囲が含まれ、原石群の元素組成のバラツキの範囲を越えて大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行なったときに、判定の信頼限界としている0.1%に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。この場合には、原石産地(確率)の欄の確率値に替えて、マハラノビスの距離D<sup>2</sup>乗の値を記した。この遺物については、記入されたD<sup>2</sup>乗の値が原石群の中で最も小さなD<sup>2</sup>乗値で、この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ているといえるため、推定確率は低いが、その原石産地と考えてほゞ間違いないと判断されたものである。

今回、分析した黒仁田遺跡出土の黒曜石製遺物15個の各産地別使用頻度は、桑ノ木津留第1群原石が27%(4個)で、桑ノ木津留第2群に同定された遺物は40%(6個)で、この中には桑ノ木津留産地では見られない、桐木遺跡などの遺物にみられる白い粉が付着した自然面をもつものがあり、この原石は成分組成は桑ノ木津留産地の桑ノ木津留第2群と一致するが、桑ノ木津留地区とは別の未発見の原石産地の可能性推測される。日東・五女木産が20%(3個)が使用され、また九州南部特に宮崎県内で多用されている、原石産地不明の内屋敷UT遺物群が13%(2個)使用されていた。これら使用頻度の高い原石産地地方とより活発な交流があり生活情報、文化情報を伝達、授受していたと推測しても産地分析の結果と矛盾しない。

## 参考文献

- 1) 藁科哲男・東村武信(1975), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(II)。考古学と自然科学, 8:61-69
- 2) 藁科哲男・東村武信・鎌木義昌(1977),(1978), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(III)。(IV)。考古学と自然科学, 10,11:53-81:33-47
- 3) 藁科哲男・東村武信(1983), 石器原材の産地分析。考古学と自然科学, 16:59-89
- 4) 東村武信(1976), 産地推定における統計的手法。考古学と自然科学, 9:77-90
- 5) 東村武信(1980), 考古学と物理化学。学生社



表1-1 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地原石群名	分析個数	元素比										
		Ca <sub>o</sub> /K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K	
北海道	名寄第一群	114	0.478±0.011	0.121±0.005	0.035±0.007	2.011±0.063	0.614±0.032	0.574±0.022	0.120±0.017	0.024±0.016	0.033±0.002	0.451±0.010
	名寄第二群	35	0.309±0.015	0.103±0.005	0.021±0.006	1.774±0.055	0.696±0.044	0.263±0.011	0.301±0.022	0.028±0.020	0.028±0.007	0.394±0.010
	赤石山	130	0.173±0.014	0.061±0.003	0.079±0.013	2.714±0.142	1.340±0.059	0.283±0.019	0.341±0.030	0.073±0.026	0.028±0.002	0.374±0.010
	白土沢	27	0.138±0.004	0.021±0.002	0.102±0.015	3.049±0.181	1.855±0.088	0.097±0.016	0.492±0.039	0.107±0.019	0.027±0.002	0.359±0.006
	八号沢	30	0.138±0.010	0.022±0.002	0.105±0.017	3.123±0.127	1.846±0.065	0.105±0.019	0.475±0.045	0.076±0.046	0.027±0.008	0.368±0.042
	蔵加沢	23	0.139±0.009	0.023±0.001	0.099±0.015	2.975±0.102	1.794±0.077	0.104±0.010	0.470±0.037	0.103±0.027	0.027±0.002	0.369±0.007
	あじさい滝	29	0.142±0.010	0.023±0.001	0.101±0.014	3.038±0.125	1.787±0.076	0.115±0.015	0.457±0.035	0.076±0.044	0.027±0.005	0.365±0.011
	近文台第一群	30	0.819±0.013	0.185±0.006	0.081±0.010	3.266±0.117	0.604±0.031	0.941±0.030	0.165±0.020	0.039±0.016	0.039±0.002	0.457±0.008
	近文台第二群	107	0.517±0.011	0.099±0.005	0.067±0.010	2.773±0.097	0.812±0.037	0.818±0.034	0.187±0.024	0.041±0.019	0.035±0.002	0.444±0.009
	近文台第三群	47	0.529±0.014	0.096±0.008	0.068±0.018	2.746±0.262	0.838±0.100	0.796±0.081	0.220±0.043	0.035±0.021	0.036±0.004	0.413±0.014
	台場第一群	50	1.076±0.052	0.142±0.005	0.072±0.011	2.912±0.117	0.291±0.020	0.678±0.035	0.126±0.022	0.022±0.012	0.049±0.005	0.517±0.014
	台場第二群	42	0.670±0.030	0.126±0.006	0.074±0.017	3.046±0.163	0.759±0.044	0.849±0.045	0.204±0.032	0.035±0.018	0.036±0.004	0.414±0.019
	秩父別第一群	51	0.249±0.017	0.122±0.006	0.078±0.011	1.614±0.068	0.995±0.037	0.458±0.023	0.235±0.024	0.023±0.021	0.022±0.004	0.334±0.013
	秩父別第二群	48	0.519±0.016	0.097±0.005	0.065±0.016	2.705±0.125	0.814±0.034	0.789±0.043	0.204±0.025	0.032±0.016	0.037±0.003	0.417±0.016
	滝川第一群	31	0.253±0.018	0.122±0.006	0.077±0.009	1.613±0.090	1.017±0.045	0.459±0.025	0.233±0.029	0.038±0.018	0.025±0.003	0.370±0.023
	滝川第二群	44	0.498±0.077	0.103±0.011	0.068±0.018	2.658±0.324	0.828±0.081	0.752±0.106	0.206±0.033	0.041±0.019	0.036±0.004	0.414±0.022
	置戸・所山	65	0.326±0.008	0.128±0.005	0.045±0.008	1.813±0.062	0.824±0.034	0.454±0.020	0.179±0.023	0.044±0.020	0.030±0.002	0.412±0.010
	置戸・置戸山	58	0.464±0.016	0.138±0.005	0.049±0.008	1.726±0.072	0.449±0.024	0.407±0.023	0.133±0.019	0.026±0.014	0.032±0.003	0.456±0.010
	北見・常呂川第2群	48	0.548±0.025	0.145±0.007	0.087±0.007	1.691±0.134	0.380±0.024	0.409±0.020	0.120±0.015	0.031±0.012	0.039±0.004	0.477±0.019
	北見・常呂川第3群	48	0.390±0.011	0.137±0.006	0.030±0.006	1.510±0.059	0.372±0.018	0.238±0.014	0.179±0.019	0.029±0.015	0.033±0.011	0.414±0.011
	北見・常呂川第4群	50	0.291±0.017	0.109±0.008	0.046±0.012	1.812±0.098	0.807±0.041	0.445±0.029	0.192±0.033	0.034±0.015	0.031±0.003	0.362±0.023
	ケシヨマツク第一群	68	0.575±0.056	0.110±0.011	0.051±0.011	2.555±0.086	0.595±0.058	0.636±0.027	0.167±0.027	0.037±0.020	0.030±0.003	0.397±0.013
	ケシヨマツク第二群	65	0.676±0.011	0.145±0.005	0.056±0.014	2.631±0.126	0.606±0.030	0.712±0.032	0.170±0.028	0.050±0.013	0.030±0.003	0.399±0.010
	十勝三股	60	0.256±0.018	0.074±0.005	0.068±0.010	2.281±0.087	1.097±0.055	0.434±0.023	0.334±0.029	0.064±0.025	0.029±0.002	0.396±0.013
	美達第一群	41	0.499±0.020	0.124±0.007	0.052±0.010	2.635±0.181	0.802±0.061	0.707±0.044	0.199±0.029	0.039±0.023	0.033±0.002	0.449±0.015
	美達第二群	28	0.593±0.036	0.144±0.012	0.056±0.010	3.028±0.251	0.762±0.040	0.764±0.051	0.197±0.026	0.038±0.022	0.034±0.002	0.449±0.009
	赤井川第一群	50	0.254±0.029	0.070±0.004	0.066±0.010	2.213±0.104	0.969±0.060	0.428±0.021	0.249±0.024	0.058±0.023	0.027±0.002	0.371±0.009
	赤井川第二群	30	0.258±0.065	0.072±0.002	0.080±0.010	2.207±0.083	0.970±0.045	0.436±0.026	0.245±0.021	0.021±0.029	0.025±0.007	0.371±0.007
	豊泉第一群	75	0.473±0.019	0.148±0.007	0.060±0.015	1.764±0.072	0.438±0.027	0.607±0.028	0.157±0.020	0.025±0.017	0.032±0.002	0.469±0.013
	豊泉第二群	40	0.377±0.009	0.133±0.006	0.055±0.008	1.723±0.066	0.516±0.019	0.513±0.018	0.177±0.016	0.007±0.015	0.030±0.005	0.431±0.010
	奥尻島・幌内川	58	0.285±0.026	0.087±0.005	0.193±0.032	1.834±0.182	2.043±0.224	1.475±0.207	0.269±0.068	0.085±0.031	0.031±0.004	0.347±0.011
	折腰内	35	0.190±0.015	0.075±0.003	0.040±0.008	1.575±0.066	1.241±0.046	0.318±0.014	0.141±0.033	0.076±0.021	0.024±0.002	0.348±0.010
	出来島	27	0.346±0.022	0.132±0.007	0.231±0.019	2.268±0.085	0.865±0.044	1.106±0.056	0.399±0.038	0.179±0.031	0.038±0.003	0.349±0.013
	六角沢	36	0.080±0.008	0.097±0.011	0.013±0.002	0.697±0.021	0.128±0.008	0.002±0.002	0.064±0.007	0.035±0.004	0.026±0.002	0.379±0.010
	八森山	41	0.077±0.005	0.098±0.003	0.013±0.002	0.701±0.018	0.134±0.005	0.002±0.002	0.070±0.005	0.034±0.006	0.027±0.005	0.384±0.009
戸門第一群	28	0.250±0.024	0.069±0.003	0.068±0.012	2.358±0.257	1.168±0.062	0.521±0.063	0.277±0.065	0.076±0.025	0.026±0.002	0.362±0.015	
戸門第二群	28	0.084±0.006	0.104±0.004	0.013±0.002	0.691±0.021	0.123±0.006	1.002±0.060	0.069±0.010	0.033±0.005	0.025±0.002	0.369±0.007	
鶴ヶ坂	33	0.344±0.017	0.132±0.007	0.232±0.023	2.261±0.143	0.861±0.052	0.821±0.052	0.390±0.039	0.186±0.037	0.037±0.002	0.496±0.018	
藤森山	47	0.252±0.017	0.068±0.009	0.079±0.033	2.548±0.131	1.149±0.069	0.568±0.108	0.298±0.037	0.049±0.036	0.028±0.005	0.383±0.018	
下湯川	36	9.673±0.479	2.703±0.149	3.267±0.217	21.648±1.500	0.990±0.021	1.708±0.102	0.155±0.015	0.169±0.031	0.053±0.004	0.858±0.088	
大釈迦	67	0.253±0.016	0.067±0.009	0.077±0.029	2.519±0.148	1.147±0.065	0.568±0.087	0.286±0.035	0.047±0.040	0.028±0.003	0.385±0.018	
黒石	41	8.905±0.243	2.484±0.055	0.161±0.018	7.570±0.336	0.088±0.014	1.621±0.063	0.244±0.022	0.027±0.014	0.124±0.014	1.409±0.044	
釜ヶ崎	43	0.294±0.009	0.087±0.004	0.220±0.018	1.644±0.081	1.493±0.081	0.930±0.043	0.287±0.049	0.098±0.040	0.029±0.002	0.368±0.008	
藤本	45	0.295±0.008	0.087±0.004	0.219±0.017	1.671±0.077	1.503±0.072	0.939±0.054	0.286±0.045	0.108±0.034	0.028±0.006	0.367±0.009	
月山	44	0.285±0.021	0.123±0.007	0.182±0.016	1.906±0.096	0.966±0.069	1.022±0.071	0.276±0.036	0.119±0.033	0.033±0.002	0.443±0.014	
寒河江	48	0.365±0.008	0.116±0.005	0.049±0.017	1.806±0.054	0.580±0.025	0.441±0.023	0.212±0.020	0.066±0.015	0.033±0.003	0.460±0.010	
磐石	25	0.636±0.033	0.187±0.012	0.052±0.007	1.764±0.061	0.305±0.016	0.431±0.021	0.209±0.016	0.045±0.014	0.041±0.003	0.594±0.014	
折尾	22	0.615±0.055	0.180±0.016	0.058±0.007	1.751±0.062	0.306±0.033	0.421±0.051	0.228±0.079	0.046±0.011	0.041±0.005	0.594±0.055	
花果	30	0.596±0.046	0.177±0.018	0.056±0.008	1.742±0.072	0.314±0.019	0.420±0.025	0.220±0.016	0.044±0.013	0.041±0.003	0.586±0.030	
湯倉	21	2.174±0.068	0.349±0.017	0.057±0.005	2.544±0.149	0.116±0.009	0.658±0.024	0.138±0.015	0.020±0.013	0.073±0.003	0.956±0.040	
塩釜	37	4.828±0.395	1.630±0.104	0.178±0.017	11.362±1.150	0.168±0.018	1.298±0.063	0.155±0.016	0.037±0.018	0.077±0.002	0.720±0.032	

表1-2 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地原石群名	分析 個数	元素比											
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K		
栃木県	高原山	0.738±0.067	0.200±0.010	0.044±0.007	2.016±0.110	0.381±0.025	0.502±0.028	0.190±0.017	0.023±0.014	0.036±0.002	0.516±0.012		
	神津島第一群	0.381±0.014	0.136±0.005	0.102±0.011	1.729±0.079	0.471±0.027	0.689±0.037	0.247±0.021	0.090±0.026	0.086±0.003	0.504±0.012		
	神津島第二群	0.317±0.016	0.120±0.008	0.114±0.014	1.833±0.069	0.615±0.039	0.656±0.050	0.303±0.034	0.107±0.026	0.033±0.002	0.471±0.009		
	長根	0.318±0.020	0.120±0.005	0.118±0.014	1.805±0.066	0.614±0.036	0.664±0.045	0.291±0.029	0.083±0.039	0.034±0.006	0.476±0.012		
神奈川県	箱根・第塚	6.765±0.254	2.219±0.057	0.228±0.019	9.282±0.622	0.048±0.017	1.757±0.061	0.252±0.017	0.262±0.019	0.140±0.008	1.528±0.046		
	箱根・畑宿	2.056±0.064	0.669±0.019	0.076±0.007	2.912±0.104	0.062±0.007	0.680±0.029	0.202±0.011	0.011±0.010	0.080±0.005	1.126±0.031		
	鎌倉屋	1.663±0.071	0.381±0.019	0.056±0.007	2.139±0.097	0.073±0.008	0.629±0.025	0.154±0.009	0.011±0.009	0.067±0.005	0.904±0.020		
	熱海峠	2.225±0.149	0.506±0.015	0.042±0.009	2.228±0.164	0.085±0.008	0.737±0.039	0.135±0.013	0.007±0.007	0.071±0.006	0.880±0.033		
静岡県	上多賀	1.329±0.078	0.294±0.018	0.041±0.006	1.699±0.167	0.087±0.009	0.551±0.023	0.138±0.011	0.010±0.009	0.059±0.004	0.856±0.018		
	柿崎西	1.213±0.164	0.314±0.028	0.031±0.004	1.699±0.167	0.113±0.007	0.391±0.022	0.547±0.054	0.009±0.009	0.047±0.004	0.663±0.020		
	小豆峠	0.110±0.008	0.052±0.004	0.297±0.038	3.211±0.319	0.829±0.089	0.154±0.030	0.190±0.029	0.077±0.033	0.025±0.014	0.429±0.016		
	魚津	0.278±0.012	0.113±0.006	0.040±0.008	1.720±0.080	0.740±0.052	0.685±0.029	0.121±0.026	0.047±0.031	0.015±0.014	0.392±0.018		
富山県	二上山第一群	0.710±0.017	0.202±0.008	0.054±0.011	1.994±0.152	0.413±0.028	0.840±0.050	0.118±0.025	0.051±0.031	0.020±0.020	0.399±0.024		
	二上山第二群	0.441±0.032	0.108±0.014	0.079±0.021	2.251±0.138	0.794±0.155	1.222±0.088	0.127±0.041	0.067±0.053	0.015±0.014	0.412±0.025		
	二上山第三群	0.156±0.010	0.068±0.003	0.101±0.018	1.331±0.070	1.052±0.051	0.360±0.030	0.275±0.039	0.090±0.035	0.029±0.003	0.346±0.011		
	霧ヶ峰	0.159±0.010	0.069±0.002	0.100±0.019	1.324±0.084	1.055±0.057	0.368±0.033	0.279±0.032	0.086±0.033	0.030±0.003	0.345±0.010		
長野県	観音沢	0.167±0.028	0.049±0.008	0.117±0.011	1.346±0.085	1.853±0.124	0.112±0.056	0.409±0.048	0.139±0.026	0.025±0.002	0.355±0.016		
	和田峠第一群	0.146±0.003	0.032±0.003	0.151±0.010	1.461±0.039	2.449±0.135	0.036±0.012	0.517±0.044	0.186±0.025	0.027±0.002	0.368±0.007		
	和田峠第二群	0.248±0.048	0.064±0.012	0.114±0.011	1.520±0.182	1.673±0.140	0.274±0.104	0.374±0.048	0.122±0.024	0.025±0.003	0.348±0.017		
	和田峠第三群	0.144±0.017	0.063±0.004	0.094±0.009	1.373±0.085	1.311±0.037	0.206±0.030	0.263±0.042	0.090±0.022	0.023±0.002	0.331±0.019		
長野県	和田峠第四群	0.176±0.019	0.075±0.010	0.095±0.012	1.282±0.086	1.053±0.196	0.275±0.058	0.184±0.042	0.066±0.023	0.021±0.002	0.306±0.013		
	和田峠第五群	0.156±0.011	0.055±0.005	0.073±0.011	1.333±0.064	1.523±0.093	0.134±0.031	0.279±0.039	0.010±0.017	0.031±0.002	0.313±0.012		
	藤山・和田	0.138±0.004	0.042±0.002	0.123±0.010	1.269±0.041	1.978±0.067	0.045±0.010	0.442±0.039	0.142±0.022	0.026±0.002	0.360±0.010		
	男女倉	0.223±0.026	0.102±0.010	0.059±0.008	1.169±0.081	0.701±0.109	0.409±0.052	0.128±0.024	0.053±0.017	0.026±0.002	0.354±0.009		
新潟県	うつき沢	0.222±0.014	0.099±0.006	0.058±0.008	1.189±0.060	0.748±0.075	0.392±0.031	0.140±0.022	0.046±0.021	0.025±0.005	0.340±0.008		
	立科	0.155±0.007	0.068±0.003	0.102±0.018	1.320±0.077	1.033±0.063	0.362±0.030	0.285±0.035	0.104±0.040	0.030±0.003	0.356±0.011		
	妻曇峠	0.274±0.017	0.136±0.010	0.051±0.012	1.397±0.099	0.542±0.058	0.736±0.044	0.110±0.024	0.043±0.017	0.031±0.003	0.383±0.013		
	双子池	0.252±0.027	0.129±0.007	0.039±0.010	1.630±0.179	0.669±0.052	0.802±0.058	0.111±0.024	0.087±0.032	0.027±0.007	0.401±0.011		
新潟県	冷山	0.267±0.011	0.134±0.006	0.048±0.013	1.382±0.066	0.546±0.034	0.727±0.036	0.109±0.024	0.045±0.022	0.031±0.004	0.381±0.011		
	大窪沢	1.481±0.117	0.466±0.021	0.042±0.006	2.005±0.135	0.182±0.011	0.841±0.044	0.105±0.010	0.009±0.008	0.033±0.005	0.459±0.012		
	樽川	3.047±0.066	1.071±0.025	0.115±0.015	7.380±0.366	0.158±0.016	0.833±0.040	0.186±0.015	0.023±0.012	0.045±0.005	0.513±0.021		
	佐渡第二群	0.228±0.013	0.078±0.006	0.020±0.005	1.492±0.079	0.821±0.047	0.288±0.018	0.142±0.018	0.049±0.017	0.024±0.004	0.338±0.013		
新潟県	佐渡第一群	0.263±0.032	0.097±0.018	0.020±0.006	1.501±0.053	0.717±0.106	0.326±0.029	0.091±0.022	0.046±0.015	0.026±0.002	0.338±0.009		
	上石川	0.321±0.007	0.070±0.003	0.089±0.011	2.051±0.070	0.981±0.042	0.773±0.034	0.182±0.023	0.038±0.027	0.026±0.007	0.359±0.009		
	板山	0.232±0.011	0.068±0.003	0.169±0.017	2.178±0.110	1.772±0.098	0.772±0.046	0.374±0.047	0.154±0.034	0.027±0.002	0.359±0.009		
	金津	0.569±0.012	0.142±0.007	0.033±0.005	1.608±0.049	0.261±0.012	0.332±0.011	0.150±0.015	0.033±0.011	0.036±0.003	0.491±0.014		
石川県	金津	0.331±0.011	0.097±0.037	0.030±0.007	1.711±0.066	0.618±0.027	0.283±0.012	0.181±0.016	0.085±0.018	0.027±0.009	0.402±0.012		
	羽根川	0.163±0.019	0.053±0.005	0.099±0.011	1.354±0.058	1.615±0.063	0.084±0.012	0.309±0.036	0.100±0.028	0.023±0.007	0.340±0.030		
	比那	0.370±0.014	0.087±0.004	0.060±0.009	2.699±0.167	0.639±0.028	0.534±0.023	0.172±0.028	0.052±0.018	0.032±0.002	0.396±0.017		
	女島	0.407±0.007	0.123±0.005	0.038±0.006	1.628±0.051	0.643±0.041	0.675±0.030	0.113±0.020	0.061±0.016	0.032±0.002	0.450±0.010		
福井県	三里山	0.350±0.018	0.123±0.008	0.036±0.006	1.561±0.081	0.608±0.031	0.798±0.039	0.069±0.020	0.062±0.013	0.028±0.002	0.381±0.008		
	香住第二群	0.216±0.005	0.062±0.002	0.045±0.007	1.828±0.056	0.883±0.034	0.265±0.012	0.097±0.021	0.139±0.018	0.024±0.007	0.366±0.008		
	雨滝(微粒集)	0.278±0.012	0.056±0.002	0.083±0.012	1.967±0.061	1.171±0.040	0.157±0.013	0.183±0.044	0.221±0.021	0.026±0.025	0.310±0.006		
	加茂	0.123±0.004	0.033±0.008	0.014±0.003	0.899±0.031	0.278±0.017	0.009±0.003	0.061±0.015	0.154±0.018	0.020±0.001	0.249±0.016		
鳥根県	津井	0.161±0.006	0.032±0.002	0.015±0.003	0.940±0.041	0.301±0.014	0.007±0.003	0.060±0.013	0.144±0.008	0.020±0.002	0.244±0.008		
	久見	0.145±0.008	0.061±0.003	0.021±0.004	0.980±0.023	0.386±0.011	0.015±0.005	0.109±0.013	0.148±0.011	0.023±0.002	0.315±0.006		
	久見	0.268±0.009	0.078±0.003	0.077±0.018	1.927±0.150	1.721±0.113	0.808±0.060	0.244±0.051	0.083±0.036	0.031±0.004	0.367±0.009		
	奥池第一群	1.202±0.077	0.141±0.010	0.032±0.008	3.126±0.170	0.686±0.065	1.350±0.082	0.026±0.026	0.065±0.019	0.041±0.004	0.507±0.011		
鳥根県	奥池第二群	1.585±0.126	0.194±0.018	0.035±0.007	2.860±0.160	0.423±0.058	1.044±0.077	0.024±0.019	0.042±0.013	0.045±0.004	0.507±0.013		

表1-3 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差

原産地原石群名	分析 個数	元素比										
		Ca <sub>0</sub> /K	Ti <sub>0</sub> /K	Mn <sub>0</sub> /Zr	Fe <sub>0</sub> /Zr	Rb <sub>0</sub> /Zr	Sr <sub>0</sub> /Zr	Y <sub>0</sub> /Zr	Nb <sub>0</sub> /Zr	Al <sub>0</sub> /K	Si <sub>0</sub> /K	
香川県	50	1.224±0.081	0.144±0.011	0.035±0.012	3.138±0.163	0.669±0.078	1.335±0.091	0.023±0.027	0.061±0.020	0.041±0.003	0.500±0.012	
	51	1.186±0.057	0.143±0.008	0.038±0.012	3.202±0.163	0.707±0.061	1.386±0.088	0.029±0.025	0.075±0.021	0.041±0.005	0.500±0.014	
	39	1.467±0.120	0.203±0.023	0.042±0.009	3.125±0.179	0.203±0.023	1.010±0.073	0.038±0.025	0.047±0.013	0.041±0.003	0.487±0.016	
	34	1.018±0.043	0.116±0.012	0.043±0.014	3.305±0.199	0.895±0.048	1.256±0.050	0.029±0.030	0.072±0.018	0.038±0.004	0.476±0.012	
福岡県	68	0.261±0.010	0.211±0.007	0.033±0.003	0.738±0.027	0.328±0.013	0.828±0.015	0.071±0.009	0.034±0.008	0.024±0.006	0.379±0.009	
	39	0.267±0.007	0.087±0.003	0.027±0.005	1.619±0.083	0.628±0.028	0.348±0.015	0.103±0.018	0.075±0.018	0.023±0.007	0.321±0.011	
	40	0.345±0.007	0.104±0.003	0.027±0.005	1.535±0.039	0.455±0.017	0.397±0.014	0.068±0.016	0.059±0.014	0.026±0.008	0.328±0.008	
	39	0.637±0.014	0.202±0.006	0.071±0.013	4.239±0.205	1.046±0.065	1.269±0.058	0.104±0.032	0.380±0.047	0.028±0.005	0.345±0.009	
佐賀県	44	0.211±0.009	0.031±0.005	0.075±0.019	2.572±0.212	1.600±0.086	0.414±0.042	0.311±0.046	0.256±0.043	0.025±0.002	0.335±0.008	
	59	0.414±0.069	0.071±0.003	0.101±0.017	2.947±0.142	1.253±0.081	2.015±0.099	0.147±0.035	0.255±0.040	0.030±0.007	0.388±0.008	
	40	0.600±0.067	0.153±0.029	0.125±0.018	4.692±0.369	1.170±0.114	2.023±0.122	0.171±0.032	0.259±0.037	0.032±0.003	0.376±0.008	
	40	0.953±0.027	0.307±0.010	0.126±0.013	6.666±0.342	0.856±0.070	1.307±0.119	0.147±0.029	0.194±0.028	0.033±0.008	0.383±0.010	
大分県	42	0.223±0.010	0.046±0.005	0.409±0.086	6.691±0.878	1.805±0.257	1.562±0.231	0.344±0.087	0.579±0.126	0.039±0.003	0.400±0.011	
	51	0.226±0.011	0.045±0.003	0.411±0.066	6.743±0.900	1.845±0.286	1.553±0.230	0.318±0.087	0.560±0.144	0.038±0.004	0.401±0.012	
	50	0.649±0.044	0.141±0.010	0.186±0.046	4.355±0.683	0.610±0.095	3.017±0.459	0.149±0.050	0.188±0.056	0.041±0.004	0.427±0.014	
	46	1.038±0.131	0.211±0.024	0.110±0.027	3.367±0.617	0.311±0.058	3.756±0.668	0.106±0.030	0.094±0.037	0.042±0.007	0.442±0.021	
	50	1.059±0.143	0.214±0.030	0.120±0.043	3.598±1.035	0.335±0.106	4.000±1.162	0.118±0.048	0.092±0.036	0.044±0.004	0.449±0.018	
	45	0.680±0.061	0.145±0.013	0.168±0.037	4.397±0.776	0.612±0.095	3.080±0.476	0.147±0.046	0.194±0.060	0.041±0.005	0.431±0.015	
	30	0.313±0.023	0.127±0.009	0.065±0.010	1.489±0.124	0.600±0.051	0.686±0.082	0.175±0.018	0.102±0.020	0.028±0.002	0.371±0.009	
	50	1.615±0.042	0.670±0.013	0.096±0.008	5.509±0.269	0.284±0.031	1.526±0.053	0.097±0.016	0.032±0.002	0.032±0.005	0.310±0.011	
	64	0.482±0.036	0.286±0.015	0.051±0.008	1.361±0.095	0.303±0.019	0.712±0.043	0.089±0.018	0.056±0.021	0.012±0.010	0.288±0.016	
	37	0.172±0.009	0.066±0.002	0.030±0.005	1.176±0.043	0.385±0.012	0.011±0.004	0.135±0.018	0.354±0.014	0.023±0.003	0.276±0.007	
	28	0.174±0.007	0.065±0.002	0.033±0.006	1.174±0.035	0.389±0.012	0.013±0.005	0.129±0.014	0.356±0.012	0.023±0.003	0.275±0.008	
	28	0.146±0.009	0.038±0.002	0.059±0.009	1.691±0.100	1.726±0.085	0.035±0.008	0.344±0.040	0.717±0.047	0.023±0.002	0.338±0.010	
長崎県	49	0.135±0.010	0.037±0.002	0.056±0.009	1.746±0.073	1.834±0.064	0.022±0.013	0.334±0.046	0.714±0.040	0.021±0.009	0.339±0.015	
	23	0.215±0.018	0.032±0.008	0.072±0.016	2.554±0.181	1.538±0.176	0.429±0.026	0.271±0.064	0.254±0.046	0.025±0.002	0.340±0.006	
	17	0.183±0.011	0.031±0.005	0.071±0.024	2.288±0.319	1.523±0.193	0.309±0.083	0.244±0.074	0.204±0.049	0.024±0.002	0.337±0.010	
	16	0.249±0.023	0.062±0.006	0.051±0.016	1.936±0.231	0.856±0.112	0.405±0.093	0.146±0.052	0.139±0.031	0.025±0.002	0.333±0.014	
	22	0.284±0.022	0.066±0.008	0.045±0.012	1.890±0.157	0.774±0.179	0.454±0.036	0.120±0.044	0.132±0.036	0.026±0.002	0.343±0.010	
	44	0.334±0.014	0.080±0.004	0.044±0.009	1.744±0.069	0.533±0.030	0.485±0.039	0.094±0.022	0.119±0.017	0.027±0.002	0.345±0.011	
	25	0.243±0.019	0.059±0.007	0.057±0.015	1.849±0.104	0.811±0.089	0.398±0.028	0.136±0.035	0.147±0.023	0.026±0.002	0.345±0.009	
	17	0.322±0.034	0.081±0.015	0.045±0.011	1.788±0.108	0.654±0.085	0.485±0.042	0.118±0.025	0.099±0.016	0.026±0.002	0.338±0.015	
	50	0.202±0.012	0.029±0.004	0.076±0.018	2.628±0.214	1.685±0.146	0.403±0.060	0.319±0.073	0.233±0.074	0.030±0.003	0.342±0.011	
	40	0.423±0.016	0.075±0.007	0.089±0.017	2.797±0.274	1.148±0.133	1.814±0.192	0.103±0.060	0.208±0.053	0.034±0.003	0.367±0.009	
松丘	41	0.265±0.032	0.064±0.009	0.046±0.010	1.931±0.143	0.799±0.110	0.433±0.049	0.122±0.041	0.119±0.044	0.031±0.003	0.347±0.010	
	43	0.194±0.009	0.054±0.005	0.040±0.008	1.686±0.114	0.833±0.058	0.251±0.025	0.192±0.032	0.124±0.039	0.018±0.011	0.331±0.017	
	74	0.176±0.012	0.053±0.002	0.041±0.012	1.710±0.081	0.912±0.036	0.181±0.022	0.202±0.029	0.133±0.024	0.023±0.002	0.319±0.010	

表1-4 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地原石群名	分析 個数	元素比										
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K	
熊本県	小国	30	0.317±0.023	0.127±0.005	0.063±0.007	1.441±0.070	0.611±0.032	0.703±0.044	0.175±0.233	0.097±0.017	0.023±0.002	0.320±0.007
	南関	30	0.261±0.016	0.214±0.007	0.034±0.003	0.788±0.033	0.326±0.012	0.278±0.015	0.069±0.012	0.031±0.009	0.021±0.002	0.243±0.008
	葦	44	0.258±0.009	0.214±0.006	0.033±0.005	0.794±0.078	0.329±0.017	0.275±0.010	0.063±0.011	0.033±0.009	0.020±0.003	0.243±0.008
	大市	53	1.534±0.139	0.665±0.035	0.075±0.008	4.494±0.460	0.247±0.014	1.236±0.092	0.041±0.012	0.030±0.003	0.030±0.003	0.293±0.010
	冠ヶ岳	21	0.261±0.012	0.211±0.008	0.032±0.003	0.780±0.038	0.324±0.011	0.279±0.017	0.064±0.011	0.037±0.006	0.025±0.002	0.277±0.009
	滝窪坂	57	1.599±0.107	0.722±0.046	0.085±0.011	6.205±0.305	0.256±0.018	1.154±0.055	0.103±0.014	0.047±0.004	0.027±0.004	0.247±0.016
	箱石峠	84	0.791±0.082	0.279±0.009	0.045±0.005	1.208±0.023	0.279±0.018	0.811±0.046	0.046±0.012	0.029±0.014	0.031±0.009	0.366±0.033
	長谷峠	53	1.668±0.165	0.694±0.036	0.080±0.010	4.977±0.587	0.253±0.015	1.335±0.104	0.098±0.016	0.040±0.008	0.031±0.003	0.296±0.012
	五ヶ瀬川	48	1.471±0.136	0.602±0.041	0.078±0.011	4.838±0.634	0.252±0.016	1.288±0.124	0.101±0.014	0.043±0.013	0.027±0.003	0.265±0.020
	御船	49	1.558±0.146	0.651±0.030	0.075±0.011	4.571±0.572	0.257±0.016	1.252±0.112	0.091±0.016	0.040±0.009	0.030±0.004	0.291±0.010
宮崎県	白浜	78	0.208±0.021	0.101±0.009	0.024±0.006	1.382±0.086	1.021±0.099	0.351±0.037	0.162±0.027	0.027±0.022	0.022±0.007	0.317±0.009
	桑ノ木津留第一群	47	0.207±0.015	0.094±0.006	0.070±0.009	1.521±0.075	1.080±0.048	0.418±0.020	0.266±0.034	0.063±0.024	0.020±0.003	0.314±0.011
	桑ノ木津留第二群	33	0.261±0.015	0.094±0.006	0.066±0.010	1.743±0.095	1.242±0.060	0.753±0.039	0.205±0.029	0.047±0.036	0.022±0.002	0.323±0.019
	霧島	36	35.158±1.118	5.001±0.175	0.041±0.002	0.038±0.002	0.009±0.004	0.155±0.005	0.035±0.019	0.000±0.000	0.035±0.019	0.446±0.022
	間根ノ平第一群	45	0.186±0.010	0.083±0.005	0.047±0.008	1.611±0.079	0.948±0.055	0.340±0.032	0.281±0.031	0.041±0.032	0.022±0.008	0.358±0.014
	間根ノ平第二群	45	0.247±0.018	0.106±0.006	0.047±0.008	1.488±0.074	0.768±0.034	0.428±0.049	0.235±0.020	0.039±0.027	0.024±0.008	0.378±0.013
	間根ノ平第三群	42	0.584±0.012	0.176±0.005	0.037±0.007	1.484±0.097	0.449±0.031	0.675±0.049	0.143±0.023	0.036±0.022	0.023±0.014	0.390±0.019
	日東	42	0.262±0.018	0.143±0.006	0.022±0.004	1.178±0.040	0.712±0.028	0.408±0.025	0.100±0.018	0.029±0.013	0.019±0.001	0.275±0.006
	五女木	37	0.266±0.021	0.140±0.006	0.019±0.003	1.170±0.064	0.705±0.027	0.405±0.021	0.108±0.015	0.028±0.013	0.019±0.001	0.275±0.006
	上牛鼻	41	1.629±0.098	0.804±0.037	0.053±0.006	3.342±0.215	0.188±0.013	1.105±0.056	0.087±0.009	0.022±0.009	0.036±0.002	0.391±0.011
鹿児島県	平木場	34	1.944±0.054	0.912±0.028	0.062±0.005	3.975±0.182	0.184±0.011	1.266±0.049	0.093±0.010	0.021±0.010	0.038±0.003	0.408±0.010
	霧ヶ水	48	0.533±0.029	0.167±0.006	0.061±0.013	1.494±0.093	0.611±0.039	0.688±0.052	0.127±0.023	0.069±0.022	0.033±0.003	0.494±0.011
	長谷	30	0.553±0.032	0.137±0.006	0.065±0.010	1.815±0.062	0.644±0.028	0.553±0.029	0.146±0.021	0.066±0.020	0.037±0.003	0.524±0.012
	台東山脈	37	0.510±0.010	0.198±0.007	0.038±0.007	1.862±0.079	0.353±0.019	0.519±0.017	0.123±0.012	0.024±0.017	0.029±0.007	0.407±0.010
	カムチャッカ	72	0.473±0.012	0.166±0.007	0.046±0.007	1.572±0.059	0.199±0.011	0.497±0.016	0.126±0.011	0.009±0.014	0.039±0.010	0.460±0.030
北朝鮮	50	0.154±0.009	0.067±0.003	0.018±0.003	1.081±0.028	0.530±0.013	0.081±0.008	0.151±0.015	0.338±0.012	0.027±0.003	0.306±0.008	

表1-5 黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地(原石群名)	分析 個数	元素比									
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
北海道	HS 1 遺物群	0.241±0.021	0.107±0.005	0.018±0.006	1.296±0.077	0.430±0.016	0.155±0.009	0.140±0.015	0.008±0.013	0.018±0.012	0.325±0.042
	HS 2 遺物群	0.463±0.011	0.135±0.008	0.041±0.008	1.765±0.075	0.448±0.021	0.419±0.019	0.130±0.015	0.019±0.019	0.034±0.010	0.500±0.015
	FR 1 遺物群	0.643±0.012	0.124±0.008	0.062±0.007	2.947±0.143	0.530±0.032	0.689±0.032	0.156±0.015	0.004±0.008	0.029±0.011	0.407±0.047
	FR 2 遺物群	0.535±0.061	0.106±0.012	0.065±0.009	2.545±0.138	0.557±0.051	0.655±0.029	0.165±0.021	0.017±0.009	0.027±0.009	0.373±0.043
	FR 3 遺物群	0.380±0.037	0.084±0.007	0.052±0.009	2.548±0.145	0.586±0.056	0.681±0.033	0.164±0.021	0.016±0.023	0.023±0.006	0.292±0.037
	FR 4 遺物群	0.261±0.043	0.074±0.010	0.051±0.008	2.500±0.117	0.639±0.057	0.679±0.032	0.159±0.021	0.009±0.008	0.018±0.008	0.258±0.036
	FH 1 遺物群	0.898±0.032	0.221±0.007	0.054±0.006	2.540±0.101	0.426±0.018	0.809±0.023	0.108±0.013	0.017±0.021	0.037±0.003	0.447±0.011
	KT 1 遺物群	1.103±0.050	0.146±0.007	0.081±0.008	2.842±0.133	0.514±0.053	0.775±0.062	0.133±0.016	0.019±0.021	0.043±0.007	0.516±0.015
	KT 2 遺物群	0.959±0.027	0.154±0.005	0.085±0.010	2.989±0.092	0.542±0.028	1.111±0.040	0.107±0.015	0.012±0.016	0.042±0.008	0.519±0.010
	KS 1 遺物群	0.275±0.007	0.107±0.005	0.047±0.010	1.751±0.051	0.836±0.038	0.469±0.021	0.180±0.019	0.023±0.028	0.025±0.007	0.345±0.010
青森県	KS 2 遺物群	0.244±0.011	0.070±0.004	0.056±0.013	1.749±0.168	1.080±0.108	0.424±0.036	0.327±0.042	0.037±0.031	0.023±0.011	0.379±0.011
	KS 3 遺物群	0.164±0.008	0.041±0.002	0.080±0.013	2.565±0.126	1.460±0.057	0.162±0.019	0.389±0.042	0.069±0.028	0.024±0.002	0.357±0.015
	KI 1 9 遺物群	0.185±0.007	0.049±0.003	0.081±0.013	2.162±0.122	1.031±0.041	0.435±0.025	0.263±0.028	0.059±0.019	0.023±0.002	0.260±0.009
	NI 2 9 遺物群	5.445±0.122	2.301±0.074	0.207±0.024	13.422±1.113	0.151±0.018	1.839±0.134	0.207±0.022	0.007±0.011	0.069±0.006	0.622±0.021
	HY 1 遺物群	0.238±0.011	0.131±0.006	0.048±0.008	1.636±0.066	0.418±0.028	1.441±0.015	0.282±0.024	0.029±0.028	0.020±0.015	0.481±0.068
	SN 1 遺物群	0.287±0.006	0.087±0.004	0.033±0.005	1.597±0.037	0.244±0.011	0.258±0.011	0.281±0.012	0.009±0.012	0.021±0.006	0.329±0.006
	SN 2 遺物群	0.209±0.006	0.116±0.006	0.076±0.008	1.571±0.082	0.716±0.035	0.292±0.017	0.261±0.029	0.028±0.030	0.023±0.009	0.383±0.015
	KN 1 遺物群	0.351±0.011	0.121±0.006	0.053±0.007	1.581±0.071	0.347±0.020	0.219±0.014	0.216±0.015	0.054±0.017	0.029±0.011	0.475±0.040
	TB 1 遺物群	0.252±0.014	0.113±0.007	0.124±0.015	1.805±0.088	0.875±0.056	0.669±0.038	0.272±0.029	0.083±0.037	0.026±0.008	0.378±0.021
	HR 1 遺物群	0.259±0.008	0.083±0.003	0.067±0.011	2.055±0.067	0.741±0.028	0.293±0.016	0.331±0.021	0.064±0.019	0.036±0.003	0.444±0.010
岩手県	AI 1 遺物群	1.519±0.026	0.277±0.010	0.075±0.006	2.849±0.073	0.167±0.010	0.526±0.017	0.251±0.013	0.009±0.012	0.058±0.017	0.929±0.024
	AI 2 遺物群	3.141±0.074	0.552±0.021	0.080±0.008	2.752±0.062	0.094±0.009	0.716±0.019	0.242±0.011	0.008±0.014	0.083±0.029	1.353±0.049
	AI 3 遺物群	0.950±0.013	0.215±0.004	0.117±0.009	4.306±0.100	0.114±0.008	0.909±0.028	0.248±0.012	0.014±0.016	0.028±0.006	0.360±0.009
	AI 4 遺物群	1.850±0.059	0.474±0.025	0.067±0.007	2.055±0.077	0.083±0.006	0.531±0.030	0.177±0.010	0.011±0.013	0.064±0.025	1.061±0.105
	AI 5 遺物群	3.167±0.092	0.696±0.027	0.101±0.009	3.787±0.108	0.114±0.010	0.892±0.026	0.241±0.012	0.006±0.012	0.091±0.020	1.234±0.052
	FS 1 遺物群	0.272±0.090	0.097±0.029	0.053±0.007	1.791±0.083	0.327±0.019	0.455±0.024	0.207±0.018	0.029±0.027	0.017±0.011	0.339±0.011
	SD 1 遺物群	2.900±0.050	0.741±0.016	0.118±0.010	3.922±0.077	0.117±0.012	0.906±0.026	0.246±0.013	0.008±0.017	0.083±0.013	1.195±0.029
	AC 1 遺物群	0.479±0.014	0.192±0.006	0.054±0.008	1.561±0.075	0.400±0.017	0.440±0.019	0.169±0.019	0.061±0.015	0.033±0.005	0.427±0.016
	AC 2 遺物群	0.251±0.007	0.081±0.003	0.112±0.013	2.081±0.076	0.904±0.035	0.406±0.020	0.409±0.024	0.108±0.023	0.036±0.003	0.419±0.007
	AC 3 遺物群	0.657±0.016	0.144±0.005	0.083±0.010	1.891±0.051	0.202±0.010	0.381±0.017	0.286±0.018	0.041±0.012	0.049±0.005	0.616±0.013
長野県	IN 1 遺物群	0.326±0.012	0.078±0.004	0.066±0.010	2.056±0.177	0.901±0.048	0.751±0.045	0.172±0.030	0.068±0.016	0.028±0.030	0.338±0.007
	IN 2 遺物群	0.745±0.013	0.110±0.004	0.140±0.015	3.176±0.212	0.728±0.039	1.582±0.080	0.104±0.030	0.038±0.013	0.036±0.003	0.396±0.010
	NK 1 遺物群	0.566±0.019	0.163±0.007	0.086±0.011	1.822±0.084	0.467±0.031	1.691±0.064	0.102±0.021	0.041±0.028	0.038±0.003	0.500±0.014
	UH 6 3 遺物群	0.308±0.018	0.118±0.005	0.040±0.010	1.646±0.100	0.811±0.039	0.562±0.030	0.138±0.031	0.057±0.020	0.036±0.005	0.426±0.022
	UH 6 6 遺物群	0.310±0.019	0.075±0.005	0.064±0.014	1.980±0.082	0.901±0.051	0.841±0.040	0.159±0.038	0.054±0.020	0.041±0.018	0.378±0.025
	YM 1 遺物群	0.381±0.016	0.138±0.005	0.038±0.012	1.611±0.102	0.721±0.039	0.497±0.026	0.126±0.022	0.047±0.016	0.023±0.003	0.331±0.013
	NM 1 遺物群	0.330±0.010	0.103±0.003	0.042±0.012	1.751±0.083	1.048±0.057	0.515±0.034	0.196±0.037	0.058±0.018	0.022±0.003	0.326±0.011
	MK-1 遺物群	0.087±0.008	0.059±0.002	0.010±0.003	0.677±0.023	0.370±0.057	0.006±0.004	0.125±0.012	0.292±0.010	0.022±0.002	0.337±0.010
	MK-2 遺物群	0.258±0.010	0.026±0.002	0.055±0.013	1.745±0.121	1.149±0.092	0.297±0.029	0.202±0.037	0.177±0.022	0.021±0.002	0.268±0.007



表2 九州西北地域原産地採取原石が各原石群に同定される割合の百分率(%)

原石群	九州西北地域原産地地区名(原石個数)							
	腰岳 (26)	淀姫 (44)	古里 陸地 (66)	古里 海岸 (21)	中町 (44)	牟田 (46)	大石 (39)	椎葉川 (59)
腰岳群	100		37			24	33	
淀姫群		100						
古里第一群	100		63	5		43	51	
第二群			11	57	2			100
第三群		95	25	33	88	50	26	
中町第一群		12	14	24	68	26	18	
第二群		98	14	24	57	39	28	
松浦第一群	88		32			24	33	
第二群	96		51	5	2	39	51	
第三群		57	24	33	91	54	49	
第四群		93	17	24	80	52	33	
椎葉川群			9	48	2			100

注：固定確立を1%以上に設定した。古里陸地で採取された原石1個(No.6)判定例  
 =古里第1群(62%)、松浦第1群(37%)、松浦第2群(23%)、腰岳(21%)が1%以上で同定され残りの125  
 個の原石群に対しては1%いかの同定確率であった。古里陸地(66個)の腰岳群37%は66個の中の37%個は66個  
 の中の37%個は腰岳群に1%以上の同定確率で帰属される。

表3 黒仁田遺跡出土黒曜石製遺物の元素比分析結果

分析号	元 素 比									
	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
90925	0.241	0.147	0.019	1.130	0.693	0.346	0.111	0.046	0.019	0.278
90926	0.206	0.094	0.076	1.586	1.185	0.450	0.273	0.093	0.019	0.300
90927	0.269	0.094	0.067	1.828	1.286	0.769	0.219	0.045	0.021	0.309
90928	0.212	0.095	0.071	1.480	1.032	0.411	0.278	0.099	0.021	0.323
90929	0.269	0.096	0.064	1.743	1.288	0.730	0.211	0.076	0.022	0.311
90930	0.245	0.133	0.016	0.969	0.733	0.356	0.096	0.020	0.016	0.227
90931	0.307	0.108	0.052	1.628	0.991	0.703	0.169	0.044	0.025	0.396
90932	0.265	0.097	0.060	1.606	1.182	0.729	0.225	0.025	0.022	0.317
90933	0.261	0.096	0.066	1.181	1.275	0.749	0.195	0.073	0.020	0.298
90934	0.224	0.091	0.067	1.507	1.055	0.466	0.269	0.077	0.020	0.302
90935	0.208	0.095	0.068	1.465	1.113	0.407	0.259	0.057	0.020	0.309
90936	0.268	0.094	0.068	1.765	1.230	0.763	0.209	0.008	0.023	0.332
90937	0.288	0.094	0.048	1.502	0.958	0.749	0.156	0.023	0.022	0.349
90938	0.269	0.097	0.063	1.703	1.230	0.737	0.170	0.055	0.022	0.309
90939	0.256	0.140	0.022	1.113	0.669	0.370	0.103	0.029	0.019	0.281
JG-1	0.781	0.209	0.075	3.741	0.968	1.262	0.311	0.046	0.030	0.315

JG-1: 標準試料-Ando,A.,Kurasawa,H.,Homori,T.&Takeda,E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal, Vol.8 175-192 (1974)



表4 黒仁田遺跡出土黒曜石製遺物の産地分析結果

分析番号	No.	出土地区	遺構名	出土層	取上ナンバー	取上日	ホテリングのT2検定結果	判定結果	備考
90925	1	1区(下) C-1	/	クロボク	No.220	011116	五女木(59%),日東(35%),白浜(1%)	日東・五女木	
90926	2	2区	/	表採	/	010618	桑ノ木津留第1群(14%)	桑ノ木津留	
90927	3	2区	/	攪乱層	/	010730	桑ノ木津留第2群(83%),内屋敷UT遺物群(3%)	桑ノ木津留	
90928	4	2区	/	クロボク	/	010712	桑ノ木津留第1群(32%)	桑ノ木津留	
90929	5	2区	/	クロボク	/	010712	桑ノ木津留第2群(16%)	桑ノ木津留	
90930	6	2区	/	クロボク	/	010808	五女木(3%)	日東・五女木	
90931	7	2区	/	クロボク	/	010904	内屋敷UT遺物群(80%)	内屋敷UT遺物群	SA-4上面
90932	8	2区	/	クロボク	/	/	桑ノ木津留第2群(43%),内屋敷UT遺物群(4%)	桑ノ木津留	
90933	9	3区 A-5	/	クロボク	No.5	011015	桑ノ木津留第2群(61%)	桑ノ木津留	
90934	10	3区 A-5	/	攪乱層	/	011012	桑ノ木津留第1群(6%)	桑ノ木津留	
90935	11	3区	/	クロボク	/	010917	桑ノ木津留第1群(53%)	桑ノ木津留	
90936	12	3区	/	クロボク(ⅢA層)	/	/	桑ノ木津留第2群(81%),内屋敷UT遺物群(5%)	桑ノ木津留	
90937	13	3区 B-4	/	クロボク	No.512	011019	内屋敷UT遺物群(4%)	内屋敷UT遺物群	
90938	14	3区	SA-9	クロボク埋土	No.81	011120	桑ノ木津留第2群(37%)	桑ノ木津留	花卉型住居跡出土
90939	15	3区	SA-9	クロボク埋土	No.165	011226	日東(70%),五女木(70%),白浜(9%)	日東・五女木	花卉型住居跡出土

注意：近年産地分析を行う所が多くなり、判定根拠が曖昧にも関わらず結果のみを報告される場合があります。本報告では日本における各遺跡の産地分析の判定基準を一定にして、産地分析を行っています。判定基準の異なる研究（土器様式の基準も研究方法で異なるように）にも関わらず、似た産地名のために同じ結果のように思われるが、全く関係（相互チェックなし）ありません。本研究結果に連続させるには本研究法で再分析が必要で、本報告の分析結果を考古学資料とする場合には常に同じ基準で判定されている結果で古代交流圏などを考察する必要があります。

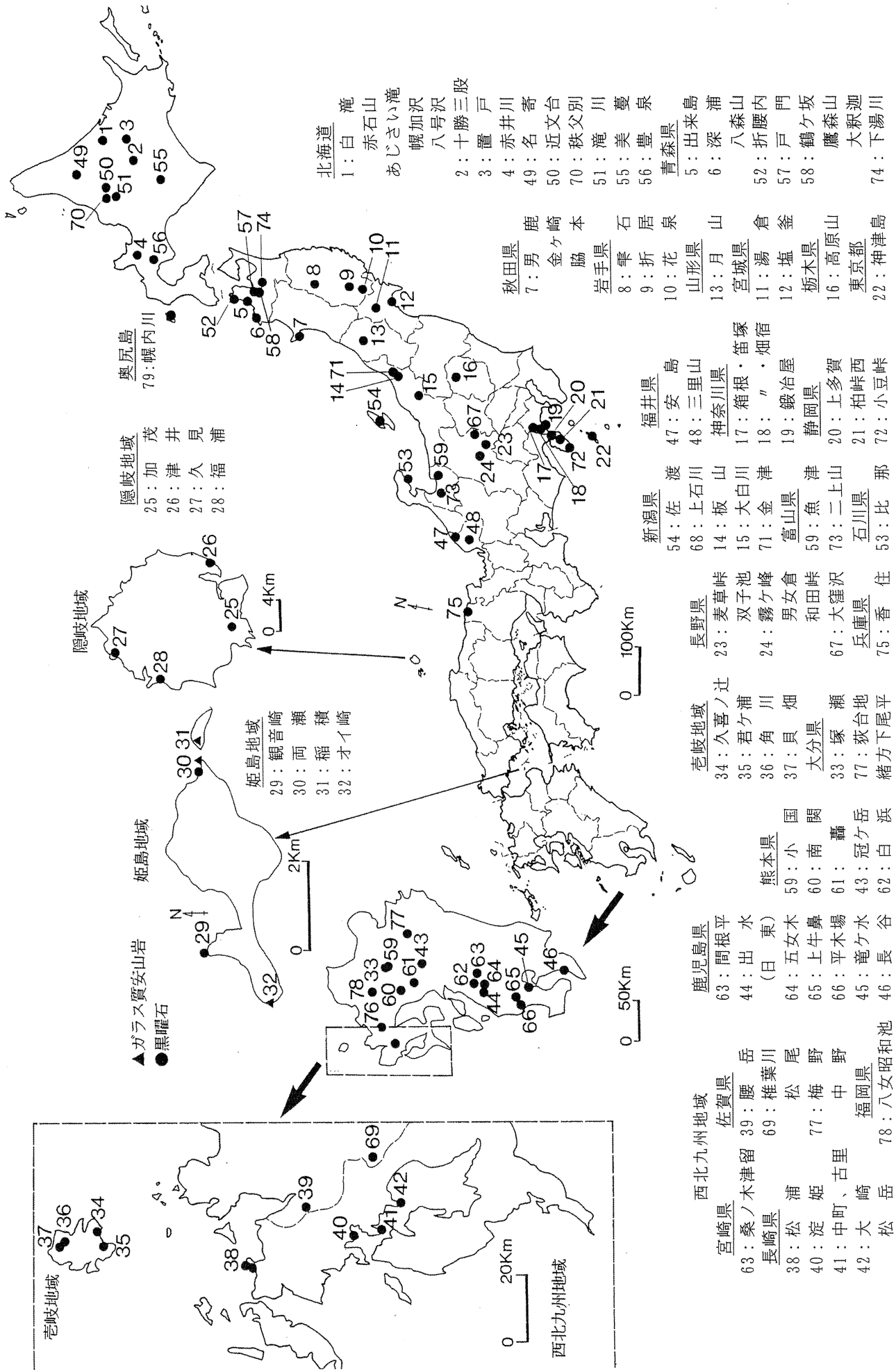


図1 黒曜石原産地

## 報告書抄録

ふりがな	くろにたいせき
書名	黒仁田遺跡
副書名	永久津地区運動広場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	小林市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第18集
編著者名	大久津 理絵
所在地	宮崎県小林市大字細野38番地1
発行年月日	2004年3月31日
所収遺跡名	黒仁田遺跡
遺跡所在地	宮崎県小林市大字北西方字黒仁田
調査期間	平成13年6月11日～平成14年1月29日
主な時代	縄文時代、弥生時代、古墳時代
主な遺構	隅丸方形住居跡、花卉形住居跡、土坑

小林市文化財調査報告書第18集

**黒 仁 田 遺 跡**

平成16年 3 月

編集・発行 宮崎県小林市教育委員会

宮崎県小林市大字細野300番地

印 刷 やかしろ印刷

